大崎上島町柿の浦住宅建替工事
（１期工事）

株式会社　Ｋ構造研究所

建築図リスト

図番	図面名称	縮尺
1A-01	建築工事特記仕様書1	–
1A-02	建築工事特記仕様書2	–
1A-03	建築工事特記仕様書3	–
1A-04	建築工事特記仕様書4	–
1A-05	建築工事特記仕様書5	–
1A-06	建築工事特記仕様書6	–
1A-07	建築工事特記仕様書7	–
1A-08	建築工事特記仕様書8	–
1A-09	建築工事特記仕様書9	–
1A-10	建築工事特記仕様書10	–
1A-11	配置図（全工事完了後）	1/300
1A-12	面積表1（建築基準法）（消防法）	1/100
1A-13	面積表2（公営法）	1/100
1A-14	面積表3（各住戸　各室面積）	1/100
1A-15	仕上表	–
1A-16	1階　平面図	1/100
1A-17	2階　平面図	1/100
1A-18	屋根伏図	1/100
1A-19	立面図1	1/100
1A-20	立面図2　断面図	1/100
1A-21	矩計図1	1/50
1A-22	矩計図2	1/50
1A-23	矩計図3	1/50
1A-24	矩計図4	1/50
1A-25	矩計図5	1/50
1A-26	1階　天井伏図	1/100
1A-27	2階　天井伏図	1/100
1A-28	1階平面詳細図	1/50
1A-29	1階　展開図1	1/50
1A-30	1階　展開図2	1/50
1A-31	1階　展開図3	1/50
1A-32	2階平面詳細図	1/50
1A-33	2階　展開図1	1/50
1A-34	2階　展開図2	1/50
1A-35	2階　展開図3	1/50
1A-36	共用部展開図	1/50
1A-37	1階　建具配置図	1/100
1A-38	2階　建具配置図	1/100
1A-39	建具リスト	1/100
1A-40	住戸内建具配置図　建具リスト	1/100
1A-41	内部パネル平面詳細図	1/15 1/40
1A-42	内部パネル断面詳細図1	1/15
1A-43	内部パネル断面詳細図2	1/15
1A-44	内部パネル仕様書	1/50
1A-45	部分詳細図1	1/20 1/30
1A-46	部分詳細図2	1/15 1/30
1A-47	部分詳細図3	1/15 1/20 1/30
1A-48	部分詳細図4	1/3 1/15 1/30
1A-49	部分詳細図5	1/5 1/100
1A-50	解体前　外構図	1/20 1/40 1/300
1A-51	解体後　外構図	1/20 1/40 1/50 1/100 1/300
エ1A-01	外構配置図（1期先行工事）	1/300
エ1A-02	外構配置図（1期新築工事）	1/300
エ2A-03	外構配置図（2期解体工事）	1/300
エ2A-04	外構配置図（2期新築工事）	1/300
エ3A-05	外構配置図（3期解体工事）	1/300
エ3A-06	外構配置図（3期外構工事）	1/300
1S-01	【共通】標準仕様書	–
1S-02	【共通】標準配筋図1	–
1S-03	【共通】標準配筋図2	–
1S-04	【共通】標準配筋図3	–
1S-05	【共通】鉄骨仕様書1	–
1S-06	【共通】鉄骨仕様書2	–
1S-07	【共通】鉄骨仕様書3	–
1S-08	【共通】鉄骨基準図1	–
1S-09	【共通】鉄骨基準図2	–
1S-10	【共通】鉄骨基準図3	–
1S-11	【共通】フラットデッキ標準図	–
1S-12	【共通】テノコラム特記仕様書	–
1S-13	【共通】調査位置平面図	–
1S-14	【共通】ボーリング柱状図	–
1S-15	【住宅1】柱状改良・基礎伏図	1/100
1S-16	【共通】1階柱壁・1階梁床伏図	1/100
1S-17	【共通】1階柱壁・2階梁床伏図	1/100
1S-18	【共通】2階柱壁・R階梁床伏図	1/100
1S-19	【共通】母屋伏図	1/100
1S-20	【共通】Y1通軸組図	1/100
1S-21	【共通】Y2通軸組図	1/100
1S-22	【共通】Y3通軸組図	1/100
1S-23	【共通】X1・2通軸組図	1/100
1S-24	【共通】X3・4通軸組図	1/100
1S-25	【共通】X5通軸組図	1/100
1S-26	【共通】RCリスト	1/100
1S-27	【共通】雑配筋図	1/30
1S-28	【共通】鉄骨リスト	1/100
1S-29	【共通】X4鉄骨詳細図	1/50
1S-30	【共通】鉄骨階段詳細図	1/50

設備図リスト

図番	図面名称	縮尺
1E-01	電気設備工事特記仕様書	–
1E-02	構内配電線路図・構内通信線路図	1/300
1E-03	盤結線図	–
1E-04	幹線　系統図	–
1E-05	幹線設備　1階平面図	1/100
1E-06	幹線設備　2階平面図	1/100
1E-07	照明器具姿図	–
1E-08	共用灯設備　系統図	–
1E-09	共用灯設備　1階平面図	1/100
1E-10	共用灯設備　2階平面図	1/100
1E-11	住戸詳細凡例	–
1E-12	住戸平面詳細図	1/50
1E-13	構内交換設備　系統図	–
1E-14	構内情報通信網設備　系統図	–
1E-15	テレビ共同受信設備　系統図	–
1E-16	インターホン設備　系統図、機器姿図	–
1E-17	弱電設備　1階平面図	1/100
1E-18	弱電設備　2階平面図	1/100
1E-19	浄化槽仮設電源工事	1/100
M-00	配置図（全工事完了後）・附近見取図	1/300
1M-01	特記仕様書（一般共通事項）	–
1M-02	特記仕様書（工種別事項）	–
1M-03	付近見取図、外構配置図	1/300
1M-04	外構配置図（1期先行工事）	1/300
1M-05	管種凡例	–
1M-06	衛生設備　機器表・器具表	–
1M-07	衛生設備　系統図	–
1M-08	衛生設備　桝リスト	–
1M-09	衛生設備　配管勾配図	–
1M-10	衛生設備　1階平面図	1/100
1M-11	衛生設備　2階平面図	1/100
1M-12	衛生設備　平面詳細図、MB廻り平面詳細図	1/20 1/50
1M-13	合併浄化槽設備 平面図・断面図・フローシート・浄化槽仕様書	1/60
1M-14	合併浄化槽設備　躯体・配筋図	1/60
1M-15	合併浄化槽設備　配管・電気配線図	1/50
1M-16	合併浄化槽設備　制御盤図・盤内結線図	–
1M-17	合併浄化槽設備　機械室平面・断面図	1/30
1M-18	撤去　既存浄化槽図（1）	1/100
1M-19	撤去　既存浄化槽図（2）	1/100
1M-20	撤去　既存浄化槽図（3）	1/100
1M-21	撤去　既存浄化槽図（4）	1/200
1M-22	換気設備　機器表・換気計算	–
1M-23	換気設備　1階平面図	1/100
1M-24	換気設備　2階平面図	1/100
1M-25	換気設備　ダクト平面詳細図	1/50
1M-26	換気設備　ダクト断面詳細図	1/50
1M-27	衛生設備　配管勾配図（1期先行工事）	–

Ⅰ．工　事　概　要　　仕　様　書

１．工事名称　：　大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

２．工事場所　：　広島県豊田郡大崎上島町木江

３．敷地面積　：　1280.17㎡

４．構造規模　：　鉄骨造　　2階建て

５．工事種目　：　新築

６．別途工事　：

７．調査協力について
本工事は工事中及び竣工後，次の調査を行うため，発注者より連絡があれば対応すること。
（１）公共事業労務費調査…工事中に実施（調査票等の記入提出，発注者の調査実施への協力等）
（２）契約不適合調査…建設工事請負契約約款第４６条の５に定める期間内
（３）公共建築物木材利用事例調査票…工事中に実施（調査票等の記入提出，発注者の調査実施への協力等）

８．公衆災害防止措置
（１）工事に際し工事関係者以外の第三者の生命・身体及び財産の危害並びに迷惑を防止するために必要な措置を執ること。
（２）上記について，「建設工事公衆災害防止対策要綱（平成５年１月１２日付け建設事務次官通達）」に基づき実施すること。

９．現状復旧
工事に際し隣接建築物等に損傷を与えた場合は，速やかに現状復旧を行うこと。

１０．主要資材
（１）この工事の施工に際し，やむを得ず工事の一部（主体的部分を除く）を第三者に請負わせようとする場合は，原則として広島県内に主たる営業所・本店を有する業者に発注するものとする。
（２）主要資材を購入しようとする場合は，極力広島県内に営業所・本店を有する業者に発注するものとし，予め購入先の名称・所在地及び資材名等を発注者に通知するものとする。
（３）当該工事に使用する砂については，海砂（県外産を含む）を使用しないこと。

Ⅱ．建築工事仕様

１．共通仕様
（１）図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は，国土交通省大臣官房官庁営繕部制定の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成３１年版」（以下「標準仕様書」という。）による。
図面、本特記仕様書及び標準仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成３１年版」（以下「改修標準仕様書」という。）による。
（２）建築基準法に基づく完了検査（中間検査含む）が必要な工事の場合，受注者は完了検査（中間検査含む）時には，官公署（建築主事等）が求める検査に必要な書類（報告書）等を用意する。

２．特記仕様
（１）項目は番号に◎印のついたものを適用する
（２）特記事項は◎印のついたものを適用する
◎印のつかない場合は、※印のついたものを適用する
◎印と　※　印のついた場合は共に適用する
（３）項目に記載［　　］の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（　　）の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
（４）関係法令の改正等により（条例を含む）、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応等について、監督職員と協議すること。
（５）材料及び製造所等の記載は順不同である

章		項　目	特　記　事　項
０　法規制	①	敷地の位置	・都市計画区域内（・市街化区域　・市街化調整区域）　◎都市計画区域外 用途地域　（　　） 防火地域　・防火　・準防火　◎指定無し その他の区域、地域、地区、街区　（土砂災害警戒区域　土砂災害特別警戒区域）
１　一般共通事項	①	適用基準等	※建築工事標準詳細図（最新版）国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（以下「標準詳細図」という） ※建築構造設計基準及び同解説　国土交通大臣官房官庁営繕部監修（最新版） ※建設工事公衆災害防止対策要綱　※建設副産物適正処理実施要領（広島県土木局制定） ※建築工事安全施工技術指針　※再生資源利用促進実施要領（広島県土木局制定） ※県産木材の利用促進に関する指針 図面、本特記仕様書、標準仕様書及び改修標準仕様書に記載のない事項は次による ・建築物解体工事共通仕様書　平成31年版　国土交通省大臣官房官庁営繕部
	②	工事実績情報の登録 （1．1．4）	受注者は，受注時又は変更時において請負金額が５００万円以上の工事について，工事実績情報サービス（ＣＯＲＩＮＳ）に基づき，受注，変更，竣工，訂正時に工事実績情報として「工事実績データ」を作成し監督職員の確認を受けた後に登録機関に登録申請し，登録機関発行の「登録内容確認書」を監督職員に提出しなければならない。また，途中変更時の登録が必要な場合とは，工期の変更，技術者の変更があった場合とする。
	③	電気保安技術者 （1．3．3）	※配置する
	④	発生材の処理等 （1．3．11）	・引き渡しを要するもの（　　） ・特別管理産業廃棄物（　　） ・現場において再利用を図るもの（　　） ◎再生資源化を図るもの ・コンクリート塊　◎アスファルトコンクリート塊　・建設発生木材 ・上記以外　１，３，８（ｂ）（３）及び監督職員との協議による。 １）本工事で発生した建設廃棄物は、広島県（環境県民局）及び保健所設置政令市等（広島市、呉市、福山市）が廃棄物処理法に基づき許可した適正な施設（許可対象とならない中間処理施設にあっては、廃棄物処理法に定められた基準に従った適正な施設）で処理すること。ただし、建設廃棄物が破砕等（選別を含む）により有用物となった場合，その用途に応じて適切に処理すること。（原則，県内処分） ２）本工事における再資源化に要する費用（運搬費を含む処分費）は，前記（１）に掲げる施設のうち受入れ条件が合うものの中から，運搬費と受入れ費（平日の受入れ費用）の合計が最も経済的になるものを見込んでいる。従って，正当な理由がある場合を除き，再資源化に要する費用（単価）は変更しない。 ３）本工事で発生する建設廃棄物のうち，広島県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については，広島県産業廃棄物埋立税が課税されるので適正に処理すること。なお，広島県産業廃棄物埋立税は見込んでいる。

⑤ 環境への配慮（１．４．１）

化学物質を放散させる建築材料等
本工事の建物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の１）から４）を満たすものとする。
１）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
２）接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する
３）接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシル等を含有しない難燥発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
４）１）の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒド放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは③又は④に該当する材料を指す。
ホルムアルデヒド放散量　規制対象外
①建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料
②建築基準法施行令第２０条の７第４項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
③建築基準法施行令第２０条の７第１項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
④建築基準法施行令第２０条の７第３項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律（平成１２年法律第１００号）に基づき制定された「広島県グリーン購入方針」に掲載されている品目については、他の特記事項及び図面表記の範囲内で、環境負荷を低減できる材料を優先的に選定するよう努めるものとする。

⑥ 材料の品質等（１．４．２）

材料・機材等の品質及び性能
１）本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。
２）備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
３）標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料の製造所の指定する工法とする。
４）本工事に使用する材料のうち、５）に指定する材料の製造業者等は、次の（１）～（６）の事項を満たすものとし、その証明となる資料（外部機関が発行する証明書の写し等）を監督職員に提出して承諾を受ける。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
（１）品質及び性能に関する試験データを整備していること
（２）生産施設及び品質の管理を適切に行っていること
（３）安定的な供給が可能であること
（４）法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること
（５）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
（６）販売、保守等の営業体制が整えていること
５）製造業者等に関する資料の提出を定める材料

床型枠用鋼製デッキプレート	オーバーヘッドドア
鉄骨柱下無収縮モルタル	防水剤
無収縮グラウト材	現場発泡断熱材
乾式保護材	フリーアクセスフロア
既調合モルタル	可動間仕切
ルーフドレン	移動間仕切
吸水調整材	トイレブース
クローザ類	天井点検口
自動扉機構	床点検口
自閉式上吊り引戸機構	グレーチング
重量シャッター	屋上緑化システム
軽量シャッター	トップライト
錠前類	ポリマーセメントモルタル
	既調合目地材
	錆鉄製ふた

⑦ 技能士（１．５．２）

技能士においては、積極的な活用を図ること。

工事種目	技能検定職種	技能検定作業
仮設工事	とび	とび作業
鉄筋工事	鉄筋施工	鉄筋組立て作業
コンクリート工事	型枠施工	型枠工事作業
	コンクリート圧送施工	コンクリート圧送工事作業
鉄骨工事		
	とび	とび作業
コンクリートブロック ＡＬＣパネル工事	ブロック建築	コンクリートブロック工事作業
	エーエルシーパネル施工	エーエルシーパネル工事作業
防水工事	防水施工	アスファルト防水工事作業 ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 アクリルゴム系塗膜防水工事作業 合成ゴム系シート防水工事作業 塩化ビニル系シート防水工事作業 セメント系防水工事作業 シーリング防水工事作業 改質アスファルトシートトーチ工法 防水工事作業 ＦＲＰ防水工事作業
石工事	石材施工	石張り作業
タイル工事	タイル張り	タイル張り作業
木工事	建築大工	大工工事作業
屋根及びとい工事	建築板金	内外装板金作業
金属工事	内装仕上施工	鋼製下地工事作業
	建築板金	内外装板金作業
左官工事	左官	左官作業
建具工事	サッシ施工	ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	ガラス工事作業
	自動ドア施工	自動ドア施工作業
	ガラス用フィルム施工	建築フィルム作業
カーテンウォール工事	カーテンウォール施工	金属製カーテンウォール工事作業
	サッシ施工	ビル用サッシ施工作業
	ガラス施工	ガラス工事作業
塗装工事	塗装	建築塗装作業
内装工事	内装仕上げ施工	プラスチック系床仕上げ工事作業 カーペット系床仕上げ作業 ボード仕上げ工事作業
	表装	壁装作業
排水工事	配管	建築配管作業
舗装工事	路面表示施工	溶融ペイントハンドマーカー工事作業 加熱ペイントマシンマーカー工事作業
植栽工事	造園	造園工事作業

⑧ 化学物質の濃度測定（1．5．9）

測定対象室及び測定箇所数は図示による。
１）ホルムアルデヒド、スチレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する。
パッシブ型採取機器を用いて測定を行う場合には、次の要領で測定及び分析を行う。
①３０分間換気
測定対象室のすべての窓及び扉（造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む）を開放し、３０分間換気する。
②５時間閉鎖
①の後、測定対象室すべての窓及び扉を５時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。
③測定
イ　②の状態のままで測定する。
ロ　測定時間は、原則として２４時間とする。ただし、工程等の都合により、２４時間測定が行えない場合は、８時間測定とする。なお、８時間測定の場合は、午後２時～３時が測定時間帯の中央となるよう、１０時３０分～１８時３０分までの時間帯で測定する。
ハ　測定回数は１回とし、複数回の測定は不要とする。
④分析
測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
⑤その他
監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受けること。
２）木材の防腐・防蟻処理剤は、クロルピリホス、ダイアノジン及びフェノブカルブを含有しない薬剤とし、加圧式防腐・防蟻処理等は工場で行い十分乾燥させた後現場に搬入する。
３）保温材、断熱材、緩衝材については、ホルムアルデヒドを発散しないか発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする
４）塗料、壁紙、仕上塗材、合板、接着剤等で屋内に面するものについては、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないＦ☆☆☆☆等級のものとする。
５）屋内に面して用いる材料は、上記２）～４）に適合した上で、揮発性有機化合物の発散が無いか若しくは極めて少ないものを選択するように努め、１）の規定を満たすこと。

⑨ 工事写真等

下記のものを監督職員に提出する。工事中写真及び完成写真の撮影は国土交通省大臣官房官庁営繕部策定の「営繕工事写真撮影要領」によるものとする。
（１）工程写真
工事の進捗に伴い工事全体状況及び主要工程の写真を期間別工事工程報告書に添付するものとする。

（２）工事中写真
水中又は地下に埋設される部分、その他完成後外部から検査・確認する事が出来なくなる部分、及びその他監督職員が指示する箇所は、適切に写真等を整備するものとする。

（３）完成写真
【撮影箇所】建物外観各方向、主要箇所、主要室内その他監督職員が指示する箇所
【規格・提出部数】※電子ファイル（PDF形式）により、１１電子納品に含めて提出
・
（４）その他の写真
隣接建物等に損傷のおそれがある場合は、施工前・施工後の写真を監督職員の指示により提出するものとする。
（５）保管
工事写真のデータ等は、受注者において工事完成後３年間保管すること。

⑩ 完成時の提出図書（1．7．1~3）

※提出を要する　完成図書：１部
（１）完成図
【完成図の種類】（※全て　・　　）
【作成方法】
①原則としてCADにて修正を行う。このとき、図面枠内の適当な位置に「完成図」と表示すること。
②施工図・保全に関する資料で、完成図として提出すべきものについては、監督職員の指示による。
【提出部数】二つ折製本（※３版　部　・Ａ２版　部）
（２）建物仕様に関する資料（保全マネジメントシステム）
監督職員が指定する様式で作成する。
※建物基本情報
※型式台帳

⑪ 電子納品

電子納品対象工事とし、「電子納品・電子検査事前チェックシート（営繕工事用）」により監督職員と事前に協議した対象書類について、電子媒体により提出する。電子成果品の作成については「営繕工事電子納品要領」による。
【提出部数】　２　部
（本業種が付帯の場合は、元請業種へ技術資料等を提供する。）

⑫ 工事中情報共有システム

（１）本工事は、受発注者間の情報を電子的に交換・共有することにより、業務の効率化を図る情報共有システムの対象である。なお、運用にあたっては「広島県工事中情報共有システム運用ガイドライン」に基づき実施すること。
（２）本工事で使用する情報共有システムは次とする。
広島県工事中情報共有システム（http://chotatsu.pref.hiroshima.lg.jp/asp/index.html）
（３）監督職員及び受注者が使用する情報共有システムのサービス提供者（以下「サービス提供者」という）との契約は、受注者が行い、利用料を支払うものとする。
（４）受注者は、監督職員 又はサービス提供者から技術上の問題点の把握、利用にあたっての評価を行うためのアンケート等が求められた場合、協力しなければならない。

⑬ 施工図及び施工計画書（1．2．2、3）

提出した施工図及び施工計画書の著作に係わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。

⑭ 設備工事との取り合い

（施工範囲）
※図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔
※図示した壁、天井の仕上げ材、下地材切り込み及び下地補強
※自動閉鎖装置設置箇所の切り込み及び補強

⑮ 施工中の安全確保

◎同一場所で別契約の関連工事が行われる場合は、労働安全衛生法第３０条第２項に基づき、当該工事について、同条第１項に規定する措置を講ずべき者として本工事現場代理人を指名する。
◎労働安全衛生法第１５条に基づく統括安全衛生責任者を選任したときは、本契約後直ちに「統括安全衛生責任者選任届出書」（任意様式）を提出すること。

⑯ 工程報告

別紙様式による期間別工事工程報告書を毎月２回１部提出すること。

⑰ 保証書

次の工事について保証書を提出すること。

工事区分	材料名	保証年限	備考
◎防水工事	・アスファルト防水	年	漏水の場合等
	・改質アスファルト防水	年	漏水の場合等
	・合成高分子ルーフィング防水	年	漏水の場合等
	◎塗膜防水	年	漏水の場合等
◎屋根工事	・長尺金属板葺き	年	漏水の場合等
	・折板葺き	年	漏水の場合等
	◎瓦葺き	年	漏水の場合等
・防錆工事		年	
・特殊床工事	・フローリング及び塗装	年	
・プール工事	・プール本体	年	・ｱﾙﾐ・ｽﾃﾝﾚｽ・FRP
	・塗装（通常塗装の場合）	年	
・植栽工事	・活着	年	枯死の場合

⑱ 中間検査

※行う（回数及び時期については監督職員の指示による）

２　仮設工事

① 足場その他（２．２．４）

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

② 監督職員事務所等（２．３．１）

※ 設ける
現場に設置する備品等は、現場説明書の施工条件明示による。

③ 工事用水　構内既存の施設　※ 利用できない　・ 利用できる（※ 有償　・ 無償）

④ 工事用電力　構内既存の施設　※ 利用できない　・ 利用できる（※ 有償　・ 無償）

⑤ 仮囲い等の安全施設　別紙設計図による

⑥ 工事現場の表示
現場の見えやすい位置に、監督職員が指示する次の表示板を設置する。
※工事名等の表示板（900mm×600mm）　・工事概要等の説明看板（900mm×600mm）
仕様等の詳細は営繕課HPの「現場掲示板について」を参照のこと。

⑦ 交通誘導員
※配置する　・本業種が付帯の場合は、元請業種で配置する
・別途工事で配置する（工事名：　　）
◎大型車両進入時　（２）人／日　・常時配置　（　　）人／日
・（　　）作業期間　（　　）人／日

⑧ 快適トイレ設置工事　現場説明書による。

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514 令和　8年　3月　日	株式会社Ｋ構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807	1級建築士事務所 ２２(1)第0689号 1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄	担当 1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 特記仕様書１	SCALE -	1A／01

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

3 土工事

① 埋戻し及び盛土

材料及び工法　（３．２．３）（表３．２．１）

※ 標準仕様書表3.2.1による種別

・Ａ種　適用場所（　　）

◎ Ｂ種　適用場所（ 敷地内全体 ）

・Ｃ種　適用場所（　　）土質（　　）　受渡場所（　　）

・Ｄ種　適用場所（　　）

（品質：細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。）

・（材料：　　工法：　　）

② 建設発生土の処理

※ 現場説明書の施工条件明示による　（３．２．５）

・構内指示場所に敷き均し

・構内指示場所に堆積

4 地業工事

5 鉄筋工事　6 コンクリート工事　7 鉄骨工事

特記仕様書（構造関係）による

⑧ コンクリートブロック・ＡＬＣパネル・押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造

ブロックの種類等　（８．２．２、３、５、７、８）

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ（mm）	モデュール呼び寸法（mm） 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・空洞ブロックC（16）		・400 ・200		・無 ・有		
・				・無 ・有		

モルタルの調合（容積比）

※ 標準仕様書表8.2.1による　・セメント（　　）：砂（　　）

各部の配筋　※ 図示

まぐさを受ける開口部両側のブロックのモルタル又はコンクリートで充填する範囲　※ 図示

目地仕上げ　・押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ

2 コンクリートブロック帳壁及び塀

ブロックの種類　（８．３．２～４）

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ（mm）	モデュール呼び寸法（mm） 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
・空洞ブロックC（16）				・無 ・有		
・型枠状ブロック20				・無 ・有		
・				・無 ・有		

モルタルの調合（容積比）

※ 標準仕様書表8.2.1による　・セメント（　　）：砂（　　）

塀に用いるブロックの正味厚さ（mm）

塀の高さが2m以下　・　※120

塀の高さが2m超え　・　※150

壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※ 図示　・

各部の配筋　※ 図示

3 ＡＬＣパネル　（８．４．２～５）

パネルの区分			単位荷重（N/m2）	厚さ（mm）	長さ（mm）	幅（mm）	耐火性能	構法の種別
・外壁パネル	・一般	・平		・100			有（１）時間	・Ａ種
	・コーナー	・意匠		・125				・Ｂ種
・間仕切壁パネル	・一般	・平		・100			・有（１）時間	・Ｃ種
	・コーナー	・意匠		・			・無	・Ｄ種
								・Ｅ種
・屋根パネル				・100			有（0.5）時間	Ｆ種
				・				
・床パネル				・100			・有（ ）時間	
				・			・無	

パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材

※ パネル製造所の仕様

外壁、屋根パネルの構法

1章　適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の耐風圧性能

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　※ 図示

外壁、間仕切パネルの出隅及び入隅のパネル接合部並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅（mm）※ 10～20　・

外壁、間仕切パネルの伸縮調整目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）　（８．５．２～５）

パネルの種類	形状	厚さ（mm）	幅（mm）	工法の種別	備考
◎ 外壁パネル	◎F（フラットパネル）	・50 ◎60	600	◎ Ａ種	
	◎D（デザインパネル）	・50 ◎60		・Ｂ種	
	・T（タイルベースパネル）	60			
◎ 間仕切壁パネル	◎F（フラットパネル）	・50 ◎60	600	・Ｂ種	
	・D（デザインパネル）	・50 ・60		◎ Ｃ種	
	・T（タイルベースパネル）	60			

外壁パネルの構法

1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の耐風圧性能

耐震性能

建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　※ 図示

パネル相互の目地幅（mm）　※ 長辺8、短辺15

出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅（mm）　※ 15　・

耐火構造以外の目地及び隙間の処理　※ パネル製造所の仕様　・

やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とし、欠損部分を考慮した強度を確認した資料を提出する。

		孔あけ及び欠き込みの大きさ	切断後のパネルの残り部分の幅
パネルに孔あけを設ける場合	短辺	パネル幅の1/2以下、かつ、300mm以下	150mm以上
	長辺	500mm以下	300mm以上
パネルに欠き込みを設ける場合	短辺	パネル幅の1/2以下、かつ、300mm以下	300mm以上
	長辺	500mm以下	300mm以上

9 防水工事

1 アスファルト防水

屋根保護防水　（９．２．２～５）（表９．２．３～９）

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護方法
・Ａ－１			※ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm以上又はフラットヤーンクロス 70ｇ/m2程度	※乾式保護材 ・コンクリート押え ・れんが押え ※JIS R 1250
・Ａ－２				
・Ａ－３				
・Ｂ－１				
・Ｂ－２				
・ＡＩ－１		（材質）JIS A 9521（建築用断熱材）に基づく押出法ポリスチレンフォーム断熱材３種ｂＡ（スキン層付き） （厚さ）（mm） ※25 ・50	※フラットヤーンクロス 70／m2程度 ・	
・ＡＩ－２				
・ＡＩ－３				
・ＢＩ－１				
・ＢＩ－２				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.2.3から表9.2.6による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.2.5から表9.2.6による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

立上り部への断熱材及び絶縁用シート

※設置しない　・設置する

平場の保護コンクリートの厚さ

こて仕上げ　※ 水下　80mm以上

床タイル張り　※ 水下　60mm以上

（品質・性能）

分類・規格		・ 窯業系パネル Ｉ類	・ 金属複合板
寸法（mm）	厚さ（mm）		
	幅（mm）		
寸法の許容差		厚さ：＋10%、－5%、幅：±1%	
出荷時の含水率		出荷時において10%以下	－
曲げ強さ・曲げモーメント（Ｎ・ｃｍ）（スパン40ｃｍにおける単位幅1ｃｍあたりの曲げモーメント）	標準時	550以上	300以上
	凍結融解完了時（試験サイクル数）	400以上（300）	250以上（300）
吸水率（%）		20以下	1以下
吸水による長さ変化率(%)		0.07以下	0.01以下
難燃性		不燃	表面材は不燃
耐凍結融解性能		３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。	３００サイクル後、著しい割れ、剥離がなく、外観上の異常がないこと。（明らかに吸水しないと認められるものは耐凍結融解試験を省略できる。）
耐衝撃性能		質量500ｇ（窯業系パネルＩ類は1,000ｇ）のなす形おもりを高さ1.0ｍから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。	質量500ｇのなす形おもりを高さ1.0ｍから試験体の弱点部に落としたとき、裏面に達する穴があかないこと。残留変形量1/100以下。
剛性（Ｅ×Ｉ）（スパン40ｃｍ幅30ｃｍの中央曲げ時に荷重720Ｎの時、たわみ4mm以下となる剛性）		－	80,000Ｎ・ｃｍ2以上

（試験方法）

（１）寸法の測定方法

（厚さ）供試体の周辺から20mm以上内側の四隅を0.05mmまで測定できる測定器で測り、4点の平均値を求めてパネルの厚さとする。

（幅）供試体を平らな台に置き、供試体のほぼ中央１箇所の幅寸法を、JIS Ｂ 7512「鋼製巻尺」に規定する目量が1mmの1級コンベックスルール又は、JIS Ｂ 7516「金属性直尺」に規定する目量が1mmの1級直尺を用いて測定する。

（２）曲げ強度試験は、JIS Ａ 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」による。試験体は3号試験体とする。幅及び厚さは製品寸法とし、支持スパン長さは400mmとする。試験方法は試験体の表面からスパン中央全幅に集中荷重を載荷し、試験体が破壊した時の最大荷重を測定する。同時に破壊時の中央部のたわみ量について、変位計を用いて測定する。測定項目については、凍結融解試験前、同試験100、200、300サイクル完了後の合計4項目に亘って測定する。

（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）なお、荷重を加える時の平均速度は、1～3分間で予想最大荷重に達する程度とする。

（３）吸水率試験は、JIS Ａ 5430「繊維強化セメント板」に準じて行う。

（４）難燃性試験は、JIS　Ａ 1321「建築物の内装材料及び工法の難燃性試験方法」に準じて行う。

（５）吸水による長さ変化率試験は、試験体（幅40mm×長さ160mm×素材厚さ）を乾燥機に入れ、その温度を60±3℃に保ち24時間経過した後取り出してJIS Ｋ 8123「塩化カルシウム（試薬）」に規定する塩化カルシウム又は JIS Ｋ 1464「工業用乾燥剤」に規定する品質に適合するシリカゲルで調湿したデシケータに入れ、常温まで冷却する。次に、試験片の標線間隔が140mmになるように標線を刻む。その後、1/150mm以上の精度をもつコンパレータを用いて標線間の長さを測定し、それを基準（Ｌ1）とする。次に試験片の長さ方向を水平にこば立てし、その上端が水平下約30mmとなるように保持して、常温の水中に浸せきする。

24時間経過した後、試験片を水中から取り出して湿布で表面に付着した水を拭き取り、再び標線間の長さ（Ｌ2）を測る。

吸水による長さ変化率（ΔＬ）は、次式によって求める。

（ΔＬ）＝（Ｌ2 － Ｌ1）／ Ｌ1×１００　　ΔＬ：吸水による長さ変化率（%）

Ｌ1：乾燥時の標線間の長さ（mm）　　Ｌ2：吸水時の標線間の長さ（mm）

（６）耐凍結融解性能試験は、JIS Ａ 5422「窯業系サイディング」の気中凍結水中融解法によって行う。100、200、300各サイクル完了時の曲げ強度測定及び外観の状態を観察する。（窯業系パネルⅡ類は200サイクルまでとする。）

凍結融解操作の試験条件は、試験片の切断小口面をあらかじめシールし、5～35℃の清水中20±3℃の水中で約1時間の融解を行う約3時間を1サイクルとする。

（７）耐衝撃性能試験は、JIS Ａ 1408「建築用ボード類の曲げ及び衝撃試験方法」の衝撃性試験に準じて行う。試験体の支持装置は、記号Ｓ２対辺単純支持方法による。

試験体の大きさは、4号（長さ400mm、幅300mm）とする。おもりは、鋼製のなす形おもりとし、記号（Ｗ１－1000）、質量1,000ｇとする。試験体を支持装置で支持して、竪固な床に水水平に置き、おもりを試験体のほぼ中央の鉛直上1.0mから試験体の弱点部に自然落下させ、裏面に達する穴の「有・無」を確認する。金属複合板の残留変形量は、最大くぼみ深さを測定する。

屋根露出防水　（表９．２．７～８）

防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水
・Ｄ－１		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 （厚さ）（mm） ※25 ・50	※アスファルトルーフィング製造所の仕様による ・	※アスファルトルーフィング製造所の仕様による ・	・適用する
・Ｄ－２					・適用する
・ＤＩ－１					・適用する
・ＤＩ－２					・適用する

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※標準仕様書表9.2.7から表9.2.8による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

絶縁断熱工法のルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

※ 図示

脱気装置の種類　※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・

脱気装置の設置数量　※ アスファルトルーフィング類の製造所の指定　・　（個）

屋内防水　（表９．２．９）

防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・Ｅ－１		・Ｅ－２	

Ｅ－１の場合で工程３を行う部位（ ※ 貯水槽、浴槽等常時水に接する部位　・　）

保護層　・設ける（※図示　・　）

防水層の下地の立上り

※ コンクリート打放し仕上げ　標準仕様書表6.2.4の種別Ｂ種

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※ アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度

防水層の下地のモルタル塗り

※適用しない　・適用する（施工範囲　※ 図示　・　）

屋上排水溝　※ 図示

2 改質アスファルトシート防水

屋根露出防水

防水層の種別　（９．３．２～３）（表９．３．１～３）

種別	施工箇所	断熱材	防湿用シート	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水
・AS－T1				※改質アスファルトシート製造所の仕様 ・	※改質アスファルトシート製造所の仕様 ・	・適用する
・AS－T2						・適用する
・AS－T3						・適用する
・AS－T4						・適用する
・AS－J1						・適用する
・ASI－T1		JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材(種類) ※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 ・ （厚さ）（mm） ※25 ・50	・設ける （改質アスファルトシートの製造所の仕様による） ・設けない			・適用する
・ASI－J1						・適用する

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.3.2から表9.3.3による

・JIS A 6013に基づく種類及び厚さ

用途による区分

材料構成による区分　※ R種

厚さ　（　　mm以上）

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法

※ アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度

脱気装置の種類　※ 改質アルファルトシートの製造所の指定　・

脱気装置の設置数量　※ 改質アルファルトシートの製造所の指定　・　（個）

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

屋根防水

防水層の種類　（９．４．２～４）（表９．４．１～３）

種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	高日射反射率防水
・Ｓ－Ｆ１			・	・ ※製造所の仕様による	・適用
・Ｓ－Ｆ２					・適用
・Ｓ－Ｍ１			・	・ ※製造所の仕様による	・適用
・Ｓ－Ｍ２					・適用
・ＳＩ－Ｆ１		標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)による（種類）※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 （厚さ）（mm） ※25	・	・ ※製造所の仕様による	・適用
・ＳＩ－Ｆ２					・適用
・ＳＩ－Ｍ１		標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)による（種類）※硬質ウレタンフォーム断熱材２種２号 （厚さ）（mm） ※25	・	・ ※製造所の仕様による	・適用
・ＳＩ－Ｍ２					・適用

ＳＩ－Ｍ１及びＳＩ－Ｍ２における防湿用フィルムの設置

※ 設置しない　・ 設置する

ＳＩ－Ｍ２のシートの可塑剤移行防止用シートの材種

・ 発泡ポリエチレンシート

Ｓ－Ｆ１、Ｓ－Ｍ１、Ｓ－Ｆ２、Ｓ－Ｍ２の仕様

※非歩行仕様　・軽歩行仕様

屋内防水

防水層の種別

種別	施工箇所	保護層 平場のモルタル塗り 塗厚（mm）	保護層 平場のモルタル塗り 工法	保護層 立上り部の保護モルタルの塗厚
・Ｓ－Ｃ１	・	・	・ 床塗り ・ 下地モルタル塗り ・	※ 7mm以下 ・

平場の保護モルタル床塗りにおける目地の目地割および種類

目地割

※目地割２㎡程度、最大目地間隔３ｍ程度　・

目地の種類　※押し目地　・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ

合成高分子系ルーフィングシートの種類及び厚さ

※ 標準仕様書表9.4.1から表9.4.3による

・JIS A 6008に基づく種類及び厚さ

種類

厚さ　（　　mm以上）

固定金具の材質及び寸法形状

※ 防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板又はそれらの鋼板の片面若しくは両面に樹脂を積層加工したもので、厚さ0.4mm以上のもの

接着工法の場合の脱気装置の種類　※ ルーフィングシートの製造所の仕様　・

接着工法の場合の脱気装置の設置数量　※ ルーフィングシートの製造所の仕様　・　（個）

プレキャストコンクリート部材下地の目地処理（接着工法の場合）

・ 行う（※図示　・　）　・ 行わない

プレキャストコンクリート部材の入隅部の増張り（種別S-FI、SI-FIの場合）

・ 行う（※図示　・　）　・ 行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け

1章 15 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

4 塗膜防水

防水層の種類　（９．５．３）（表９．５．１、２）

種別	施工箇所	仕上塗料 種類	仕上塗料 使用量	保護層	高日射反射率防水
・Ｘ－１		※２成分形アクリルウレタン樹脂系 ・ふっ素樹脂系 ・アクリルシリコン樹脂系 ・	・ ※製造所の仕様による		・適用する
◎Ｘ－２			・ ※製造所の仕様による		・適用する
・Ｙ－１	※地下外壁防水 ・				
・Ｙ－２	※屋内防水 ・			・適用する ・適用しない	

Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の種類　※ 主材料の製造所の仕様　・

Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の設置数量　※ 主材料の製造所の仕様　・　（個）

5 ケイ酸質系塗布防水　（９．６．１、３、４）

壁及び天井部の防水層の下地

※ コンクリート打放し仕上げ（標準仕様書表6.2.4の種別Ｂ種）

コンクリートの打継ぎ箇所の下地処理

※ 打継ぎ部分には、幅30mm及び深さ30mm程度の目地棒を用いる。目地棒の除去後、水洗い清掃し、ケイ酸質系塗布防水材の製造所の仕様により、ポリマーセメントモルタルを充填する。

標準仕様書 9.7.3(2)の(ｲ)、(ｳ)以外の下地処理

※ 図示

6 シーリング　（９．７．２、３）（表９．７．１）

下表以外は、標準仕様書表 9.7.1による

ただし、外壁タイル接着剤張り目地の場合のシーリングは１１章に、カーテンウォールの場合のシーリングは１７章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
MS-2	鉄骨母屋外壁貫通部　金属取合部

仕上げを行わない施工箇所（・図示による　・　）

シーリング材の目地寸法　※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による　・

接着性試験　※ 簡易接着性試験　・ 引張接着性試験

工事名称　大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４　令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄
担当　1級建築士 第363328号 今田 雄貴

図面名称　特記仕様書２

SCALE　-　1A　02

縮小率　Ａ３版１００％　Ａ１版２００％

１０ 石工事

1 施工

石材の割付け　※ 図示　（１０．１．３）

2 石材等

天然石　（１０．２．１、３）（表１０．２．１、２）

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法（mm）	厚さ（mm）	表面仕上げの種類	備考
※ 床		※ ２等品	※ 正方形に近い矩形（１枚の面積0.8m2以下）・			

ジェットバーナー仕上げのバフ仕上げの有無　・ あり　・ なし

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ（mm）	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法（mm）	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石・ 花こう岩	※ 1.5～12	・ 平もの・ 役もの	・ 片面・ 両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ（mm）	寸法による区分	表面仕上げの種類	備考
	※ 大理石・ 花こう岩	※ 1.5～12・	・ 300型・ 400型		

取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料　※ 専門工事業者の指定する製品　・

3 外壁湿式工法

受金物　材質　※ SUS304　（１０．２．２、３）（１０．３．２、３）
形状及び寸法　・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ150mm

アンカーの材質及び寸法　※ SS400　M12　・
あと施工アンカーの材質及び寸法等（　　）
ドレンパイプの材質　・ 樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ

石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない
裏打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない
下地ごしらえ　※ 流し筋工法
・ あと施工アンカー工法
・ あと施工アンカー・横筋流し工法
目地　一般目地　目地幅　※ 6mm以上
シーリング材　・ 適用する　・ 適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 標準仕様書表11.1.1による　・ 図示
シーリング材の目地寸法　※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による　・ 図示

4 内壁空積工法

受金物　材質　※ SUS304　（１０．２．２）（１０．４．２、３）
形状及び寸法　・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ100mm
・ L-75×75×6(mm)の加工　長さ150mm
・
アンカーの材質及び寸法　※ SS400　M12　・
あと施工アンカーの材質、寸法等（　　）
石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない
裏打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない
下地ごしらえ　※ あと施工アンカー・横筋流し工法　・ あと施工アンカー工法
目地　一般目地　目地幅　※ 6mm以上
シーリング材　・ 適用する　・ 適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 6m程度ごと　・ 図示
シーリング材の目地寸法　※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による　・ 図示

5 外壁乾式工法

（１０．２．２）（１０．５．２、３）（表１０．２．４）
金物の種類、形状、寸法等　※ 標準仕様書表10.2.4による
（方式：・ スライド方式　・ ロッキング方式）
アンカーの材質及び寸法　※ ステンレス（SUS304）　M10
あと施工アンカーの材質、寸法等（　　）
だぼ用の穴の位置　※ 標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による　・ 図示

裏打ち処理　・ 適用する　・ 適用しない
工法
1章 適用区分による風圧力の（・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地　目地幅　※ 8mm以上
シーリング材　※ 標準仕様書9.7.1による　・ 図示

6 床及び階段の石張り

床石張りの浸透性吸水防水剤　※ 適用する　・ 適用しない　（１０．６．２、３）
床石張りの石裏面処理　※ 適用する　・ 適用しない
床石張りの裏打ち処理　※ 適用する　・ 適用しない
階段張りの石裏面処理　※ 適用する　・ 適用しない
シーリング材　・ 適用する　・ 適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 床面積30m2程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他の部材と取り合う箇所
・ 図示
シーリング材の目地寸法　※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による　・ 図示

7 笠木、甲板等の石張り

（１０．２．２）（１０．７．１、３）
取付け工法　・ 湿式工法　・ 乾式工法
特殊部位用金物
材質　※SUS304
寸法等　引金物、だぼ及びかすがい　※標準仕様書表10.2.3による
受金物　※標準仕様書10.2.2(1)(ｲ)による

ファスナー　※ 標準仕様書表10.2.4のスライド方式に準ずる　・ ロッキング方式
あと施工アンカーの材質、寸法　・
石裏面処理　・ 適用する　・ 適用しない
乾式工法の場合の取付け代　※ 標準仕様書10.5.3(2)による
石材の裏面の補強用モルタル　・ 適用する　・ 適用しない

目地
外壁湿式工法の場合
一般目地　目地幅　※ 6mm以上
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地
位置　※ 標準仕様書表11.1.1による　・ 図示
シーリング材の目地寸法　※ 標準仕様書9.7.3(1)(ｳ)による　・図示
乾式工法の場合
目地幅　※ 8mm以上
シーリング材　※標準仕様書9.7.1による　・図示

１１ タイル工事

1 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

（１１．１．３）（表１１．１．１）
位置　※ 標準仕様書表11.1.1による　・ 図示

2 見本抜き

見本抜き　・ 行う　※ 行わない
試験張り　・ 行う　※ 行わない

3 セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等　（１１．２．２、７）

施工箇所	種類	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
手洗 手洗足底	モザイクタイル	５０角	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

耐滑り性：JISA1509-12（セラミックタイル試験方法―第12部：耐滑り性試験方法）で規定するC.S.R値は0.4～1.0とする。
標準的な曲がりの役物は一体成形とする
下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の下地処理の方法
※ 目荒し工法（高圧水洗処理）　・ ＭＣＲ工法
壁タイル張りの工法
内外装タイル　・ 密着張り　・ 改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・ マスク張り　・ モザイクタイル張り
既調合モルタル
既調合モルタルの製造所の仕様による

（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	70.0%以上	長さ変化率	0.20%以下
単位容積質量	1.80ｋ/Ｌ以上	曲げ強さ	4.0N/mm2以上
接着強さ 標準時	0.60N/mm2以上		
温冷繰り返し後	0.40N/mm2以上		

（試験方法）
（１）試料の調製
練り混ぜは、JIS Ｒ5201「セメントの物理試験方法」の10.2に規定する練り混ぜ機を使用し、製造業者の定める、正味質量と標準練り上がり量より換算して、所定量の試料を練り上げるのに要する材料と練り混ぜ水を計算して用意する。
練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し、3分間練り混ぜて試料とする。
（２）保水率の試験方法
JIS Ｒ3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦150mm、横150mm、厚さ5mm）の上にJIS Ｐ3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径11ｃｍ）をのせ、その中央部に真ちゅう製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（１）で調製した試料を平滑に詰込む。
その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当てて上下を逆さまにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。 60分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて、１mmの単位まで測定する。
試験は３回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率＝50／平均値×100　（注） 50：リング型わくの内径　mm
（３）単位容積質量の試験方法
JIS Ａ 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」に準ずる。
（４）接着強さ（標準時）の試験方法
イ）適用タイルが「モザイクタイル」の場合
（試験体の作製）JIS Ａ5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板Ｎ－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で調製した試料を厚さ5mmになるように塗付ける。直ちにJIS Ａ 5209「セラミックタイル」に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「50角ユニットタイル（外のりサ法約300mm×300mm）」を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）JIS Ａ6909「建築用仕上塗材」の7.10付着強さ試験に準じて行う。試験体をダイヤモンドカッターを用いて、タイル周辺に沿って下地板に達するまで切り込みを入れ、シ樹脂接着剤で鋼製アタッチメントを接着し、引張試験機を用いて接着強さエポキ試験を行う。なお、接着強さの測定箇所は、試験体の中からまんべんなく5箇所を選び抜き取る。
（全てが0.6Ｎ/mm2以上を確保していること）
また、試験後の部材破断位置の表示を下記の中から選び明記する。
Ｔ　：タイルの母材破断
ＴＭ：既調合モルタルとタイルの界面破断
Ｍ　：既調合モルタルの母材破断
ＭＧ：既調合モルタルと下地板に界面破断
Ｇ　：下地板の母材破断

ロ）適用タイルが「小口タイル・二丁掛けタイル」の場合
（試験体の作製）JIS Ａ5371「プレキャスト無筋コンクリート製品」に規定する普通平板Ｎ－300を下地板とし、表面をサンドペーパーを用いて軽く研磨した後、水湿しを行い直ちに（１）で 調製した試料を厚さ7mmになるよう塗付ける。直ちに JIS Ａ 5209「セラミックタイル」 に規定するタイルで押出し又はプレス成形による施ゆうの「小口タイル108mm×60mm×12mm」を4枚2列、計8枚を圧着する。その後、28日間、温度20±2℃、湿度80%以上の状態で湿空養生を行い、これを試験体とする。
（試験方法）「モザイクタイル」の場合と同様に行う。
（５）接着強さ（温冷繰返し後）の試験方法
（試験体の作製）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々（４）接着強さ（標準時）の試験方法の「試験体」と同様とする。
（温冷繰返し試験）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々JIS A6909「建築用仕上塗材」に規定する7.11温冷繰返し試験に準じて行う。
試験の手順は、試験体を20±2℃の水中に18時間浸せきした後、直ちに－20±2℃の恒温器中で3時間冷却し、次いで50±3℃の別の恒温器中で3時間加温し、この24時間を１サイクルとする操作を10回繰返した後、試験室に2時間静置し、ひび割れ及び膨れの有無を目視によって調べる。
（温冷繰返し後の接着強さ試験方法）「モザイクタイル」及び「小口タイル・二丁掛タイル」とも、各々温冷繰返し試験完了後の試験体を標準状態で2日間静置養生した後、標準時の接着強さ試験方法と同様に行う。（全てが0.4Ｎ/mm2以上を確保していること）
（６）長さ変化率の試験方法
JIS Ａ6203「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」9.9 長さ変化率に準ずる。
（７）曲げ強さの試験方法
JIS Ａ6916「建築用下地調整塗材」の7.11 曲げ強さ試験に準ずる。
試験室の状態：試験室は温度20±2℃、湿度65±10%とする。

4 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状、寸法等　（１１．３．２～５）

施工箇所	種類	形状/寸法（mm）	再生材料の適用	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
内装タイル接着剤張りの有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆
目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ ポリウレタン系シーリング材
ひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系シーリング材
伸縮調整目地　※ 変成シリコーン系シーリング材
その他の目地　※ 変成シリコーン系シーリング材
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の下地処理
※ 目荒し工法（高圧水洗処理）　・ ＭＣＲ工法
外装タイルの目地詰め　・ 行う　・ 行わない

１２ 木工事

① 製材

（１２．１．４）（１２．２．１）（１２．４．１）（１２．５．１）
（１２．６．１）（１２．７．１）
ホルムアルデヒド放射量　※Ｆ☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)(b)による

・ JAS 1083-5 製材-第５部に基づく下地用製材

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			※２級・		※Ａ種 ・Ｂ種・		・
			※２級・		※Ａ種 ・Ｂ種・		

・ JAS 1083-2 製材-第２部に基づく造作用製材

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
見え掛り面			※上小節・		※Ａ種 ・Ｂ種・		・
見え掛り面以外			※小節以上・		※Ａ種 ・Ｂ種・		・

・ JAS 1083-6 製材-第６部に基づく広葉樹製材

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	等級	形状	含水率	保存処理	間伐材等の適用
			※１等・		※10%以下 ・Ａ種・Ｂ種 ・		・
			※１等・		※10%以下 ・Ａ種・Ｂ種 ・		・

・ JAS 1083（製材）以外の製材

施工箇所	樹　種	寸法（mm）	材質の品質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
			（　　）造作材の場合（※Ａ種 ・Ｂ種）	・適用する・適用しない	※Ａ種・Ｂ種・	・

既調合目地材
（品質・性能）

項目	品質・性能	項目	品質・性能
保水率	30.0%以上	吸水量	50g以下
長さ変化率	0.2%以下（収縮）	単位容積質量	1.80ｋg/Ｌ以上

（試験方法）
（１）試験の条件
試験室は、温度20±2℃、湿度65±5% RHの標準状態とする。また、試験に使用する材料、器具などを、あらかじめ24時間以上標準状態に置いた後使用する。
（２）試料の調整
正味質量と標準練り上がり量より、1.0～1.2Ｌの試料を練り上げるのに要する材料に相当する量を計算して用意し、さらに標準加水量より用意した材料に相当する量の練り混ぜ水を計算して用意する。 練り混ぜは、JIS Ｒ 5201「セメントの物理試験方法」11.2に規定する練り混ぜ機を使用し、練りばちに用意した水を入れ、撹拌しながら30秒間に材料を投入し3分間練り混ぜて試料とする。
（３）保水性（ろ紙法）
JIS Ｒ 3202「フロート板ガラス及び磨き板ガラス」に規定する磨き板ガラス（縦200mm、横200mm、厚さ5mm）の上にJIS Ｐ 3801「ろ紙（化学分析用）」に規定する5 Aろ紙（直径18.5ｃｍ）をのせ、その中央部に真鍮製リング型わく（内径50mm、高さ10mm、厚さ3mm）を設置し、（２）で練り混ぜた試料を金べらで平滑に詰め込む。その後、直ちにリング型わく上部にガラス板を当て上下を逆さにし、ろ紙部分が上部になるようにして静置する。
10分後にろ紙へにじみ出した水分の広がりが最大と認められた方向とこれに直角な方向の長さをノギスを用いて１mmまで測定する。 試験は3回実施し、その平均値を用いて次式により保水率を求める。
保水率（%）＝50／平均値×100 注）50：リング型わくの内径（mm）
（４）単位容積質量
（２）で練り混ぜた試料を、JIS Ａ 1171「ポリマーセメントモルタルの試験方法」の6.4に規定する方法で求める。
（５）長さ変化率
（２）で調整した試料を用いてJIS Ａ 1171の7.8長さ変化率試験に従って行う。
（６）吸水量
（２）で調整した試料を用いてJIS Ａ 1404「建築用セメント防水剤の試験方法」7.5に規定する方法で24時間の吸水量を求める。試験体数は3個とし、その平均値とする。

2 造作用集成材

（１２．２．１）
ホルムアルデヒド放射量　※Ｆ☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)(b)による
・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
				※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面数	見付け材面の品質	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※１等・２等	・
	化粧薄板：芯材：					・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15% 以下	・
				※15% 以下	・
				※15% 以下	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法（mm）	化粧薄板の厚さ（mm）	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
	化粧薄板：芯材：				※15%以下・	
	化粧薄板：芯材：				※15%以下・	

3 造作用単板積層材

（１２．２．１）

ホルムアルデヒド放射量　※Ｆ☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)(b)による

JAS 0701に基づく造作用単板積層材

施工箇所	厚さ（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
		・有り（加工：・天然木化粧加工　・塗装加工） ・無し（等級：　　）	・適用する ・適用しない	・

JAS 0701以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ（mm）	表面の化粧加工	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・有り （加工：・天然木化粧加工　・塗装加工） ・無し（　　）	・適用する ・適用しない	※14%以下 ・	・

・JAS 3079に基づく直交集成材

施工箇所	品名	強度等級	種別	接着性能（使用環境）	樹種名	寸法（mm）	間伐材等の適用

4 合板等

（１２．２．１）

ホルムアルデヒド放射量　※Ｆ☆☆☆☆又は標準仕様書12.2.1(1)(ｳ)(b)による

◎ 普通合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
図示	※5.5 ◎12		◎1類 ◎2類	広葉樹 ※2等以上　・1等 針葉樹 ※C-D以上	・適用する ◎適用しない	・

・構造用合板

施工箇所	等級	単板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ（mm）	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
	※2級以上 ・1級		※１類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する （　　） ・適用しない	

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板

施工箇所	厚さ（mm）	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※１類　・特類	・適用する ・適用しない	

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板

施工箇所	化粧板に使用する単板の樹種名	厚さ（mm）	接着の程度	防虫処理	間伐材等の適用
			※１類　・２類	・適用する ・適用しない	

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板

施工箇所	厚さ（mm）	接着の程度	表面性能	化粧加工の方法	防虫処理	間伐材等の適用
		※１類　・２類			・適用する ・適用しない	

◎ パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ（mm）
図示		※13タイプ ・	※Ｐ又はM ・		※15 ◎20

・ JAS 0360に基づく構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ（mm）
	・１級　・２級　・３級　・４級	

・ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）

施工箇所	厚さ（mm）	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	間伐材等の適用

5 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち　（１２．２．２）

※隠し釘打ち
・釘頭埋め木
・つぶし頭釘打ち
・釘頭現し

諸金物
※かすがい、座金、箱金物、短冊金物
（標準仕様書　表12.2.3～5に示す程度の市販品　表14.2.2のF種程度）
・（形状：　　寸法：　　材質：　　）

6 接着剤

（１２．２．２、３）

接着剤は、可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていないものとする。
ホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・

7 防腐・防蟻処理

・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材　（１２．３．１、２）
適用部位：（　　）

・薬剤の加圧注入による防腐防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・Ｋ２　※Ｋ３　・Ｋ４
	・Ｋ２　※Ｋ３　・Ｋ４
	・Ｋ２　※Ｋ３　・Ｋ４

・薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
	※ 薬剤の製造所の仕様による ・	※ＪＩＳ　Ｋ　１５７１に適合又は同等品

・薬剤の接着材への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　　）
・合板等の加圧注入処理の適用
適用部位（　　）

8 内部間仕切軸及び床組み

・間仕切軸組に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合）　（１２．４．１）
※杉又は松
・床組みに用いる木材の樹種名（製材を用いる場合）
※杉又は松

9 窓、出入口その他

・窓、出入口その他に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合）　（１２．５．１）
※吊元枠、水掛りの下枠及び敷居はひのき、その他は杉又は松

10 床板張り

・縁甲板及び上がりこまちに用いる木材の樹木名（製材を用いる場合）　（１２．６．１）
※ひのき

11 壁及び天井下地

・壁胴縁、野縁受桟、野縁及び吊木に用いる木材の樹木名（製材を用いる場合）（１２．７．１）
※杉又は松

１３ 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺

（１３．２．２、３）

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類、めっき付着量	厚さ（mm）	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用コイル ・			・心木なし瓦棒葺 ・立平葺　・繕掛葺 ・横葺　・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（　・一般タイプ　・複層基材タイプ　・粘着層付タイプ）
横葺の場合のけらば納め
・つかみ込み納め　・けらば包み納め
工法　1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
雪止め　・設置する（施工箇所　・図示　・　　）

2 折板葺

（１３．２．２）（１３．３．２、３）（表１３．２．１）

施工箇所	形式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ（mm）	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 ・はぜ締め形 ・かん合形	166	500	（　）種	※鋼板製 ・アルミニウム合金板製		・有り ・無し	・30分 ・無し

材料　板及びコイルの種類（　　）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
タイトフレームにJIS G 3302以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理　※ 標準仕様書14.2.2のＦ種
軒先面戸板　・適用する　・適用しない
断熱材張り　・行う（断熱材の種別：　　厚さ：　mm　防火性能：　時間）
・行わない
耐雪性能に対応した工法の適用
・適用する　・適用しない
工法　1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
折板のけらば納め　※ けらば包みによる方法

3 粘土瓦葺

（１３．４．２、３）

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
図示							・適用する ◎適用しない
							・適用する ・適用しない

JIS A 5208に基づく凍害試験等　・行う　・行わない
瓦桟木　材質（※ 杉　・　　）　寸法（※ 幅21×高さ15（mm）以上　・　）
横桟強用心材　材質（※ 杉　・　　）　寸法（※ 幅40×高さ30（mm）以上　・　）
瓦緊結用釘又はねじ
種類（　　）　径（　　）　長さ（　　）
棟桟強等に使用する金物等　材質　※ ステンレス製又は溶融亜鉛めっき処理を行った鋼製
形状、寸法及び留付け方法　※ 図示

4 とい

工法
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
風圧力又は地震力に対応した瓦の緊結方法等　※ 図示による
瓦桟木の留付け工法　※ 図示　・
棟の工法　・ 7寸丸伏せ棟又はＦ形用冠瓦伏せ棟　・ のし積み棟
面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部に仕上げを施す場合
・ モルタル　・ 瓦葺き用しっくい　（１３．５．２、３）（表１３．５．４）
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示　・
といその他の材種
・ 配管用鋼管　◎ 硬質ポリ塩化ビニル管
・ ルーフドレン　・ 表面処理鋼板（表面及び裏面の塗膜の種類）
とい受け金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔
※ 標準仕様書表13.5.2による（溶融亜鉛めっきを行ったもの）
多雪地域　・ 適用する　◎ 適用しない
防露材のホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆
鋼管製といの防露巻き　・ 適用する（工法：※ 標準仕様書表13.5.4による　・　）
・ 適用しない

ルーフドレン

種別		呼び	種別
・ろく屋根用縦形Ｉ型	※ねじ込み式	・ 80　・ 100　・ 125　・ 150	
・ろく屋根用横形Ｉ型	※ねじ込み式	・ 80　・ 100　・ 125　・ 150	
◎ バルコニー中継用	・ねじ込み式	・ 50　・ 80　・ 100	
	◎差し込み式	・ 50　◎ 75　・ 100	
・ バルコニー用	・ねじ込み式	・ 50　・ 80　・ 100	
	・ 差し込み式	・ 50　・ 75　・ 100	

１４ 金属工事

1 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

（１４．２．１）（表１４．２．１）

種別	色合等	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
	※標準色（　　）・特注色（　　）	
	※標準色（　　）・特注色（　　）	
	無着色	

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色

2 鉄鋼の亜鉛めっき

（１４．２．２）（表１４．２．２）

表面処理方法	種　別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・Ａ種	
	・Ｂ種	
	・Ｃ種	
電気亜鉛めっき	・Ｄ種	
	・Ｅ種	
	・Ｆ種	

3 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類　（１４．４．２～４）（表１４．４．１）
屋外（※ 25形　・　　）　屋内（※ 19形　・ 25形）
・ 屋外の軒天井、ピロティ天井等
工法　1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
屋外の形状及び寸法
野縁受、つりボルト及びインサートの間隔　・図示　◎ @1080mm程度
周辺部の端からの間隔　・ 図示　・
野縁の間隔　・ 図示　◎ @360mm以内
・ つりボルトの間隔が900mmを超える場合
補強方法　※ 図示　・
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
補強方法　※ 図示　・
・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　※ 高さが６ｍを超える天井　・図示　・
補強方法　※「特定天井及び特定天井の構造耐力上安全な構造方法を定める件」（平成25年国土交通省告示第771号）第３第２項第二号に適合させる。
・ 図示

4 軽量鉄骨壁下地

耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
スタッド、ランナの種類　（１４．５．３）（表１４．５．１）
※ 標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・ 図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合　※ 図示
出入口及びこれに準ずる開口部の補強　※ 標準仕様書14.5.4.(5)による

5 金属成形板張り

（１４．６．２、３）（表１４．２．１）

種別	製法	形状	板幅（mm）	板厚（mm）	表面処理（標準仕様書表14.2.1による） 種別	色合等
・アルミニウム	・押出し ・ロール ・プレス ・	スパン ドレル形 パネル形				※ 標準色（　　） ・特注色（　　）
						無着色
・ SUS	・ロール			2		

取付け用下地　※ 標準仕様書14.4による　・ 図示
伸縮調整継手　・ 設ける（施工箇所　・ 図示　・　　）　・ 設けない
屋外の軒天井、ピロティ天井の工法
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

6 アルミニウム製笠木

（１４．７．２、３）（表１４．２．１）（表１４．７．１）
種類　・ 250形　・ 300形　・ 350形　・ 図示
表面処理　種別（ BB-2 ）種
色合等　※ 標準色（　　）　・特注色（　　）
笠木の固定金具の工法等
1章 適用区分による風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法

１５ 左官工事

1 モルタル塗り

（１５．３．２、５）

モルタル　※ 現場調合材料　・ 既調合材料（材料　　）
既製目地材　・ 設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　　）
・ 設けない
床の目地　・ 設ける（目地割り　※ ２m2程度（最大目地間隔３m程度　・　　）
（種類　※ 押し目地　・　　）
・ 設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験
・ 適用する　・ 適用しない

建具回り等の充填モルタルに使用する防水剤
（品質・性能）
（試験方法）JIS A1404「建築用セメント防水剤の試験方法」による

項目	品質・性能
防水剤の種別	建築用のモルタルに用いるセメント防水剤
混合割合	セメント重量の5%以下
凝結及び安定性	（凝結時間）始発：1時間以上　終結：10時間以内 （安定性）収縮性、膨張性のひび割れ及びそりの有無について確認する。
曲げ及び圧縮強度比	防水剤を混入したもの、しないものの曲げ強度比及び圧縮強度比 70%以上
吸水比	防水剤を混入したもの、しないものの吸水比 95%以下
透水比	防水剤を混入したもの、しないものの透水比 80%以下 ただし、透水試験における水圧は、3.0×10^{5}Ｐａとし1時間行う

2 ラス系下地

（１５．２．４）

ラス系下地の種類及び材料
・ 二層下地通気構法（材料　・波形ラス(W700)　・こぶラス(K800)　・力骨付きラス(BP700)
換気口部の措置　※ 木造標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)による
・ 単層下地通気構法（材料　・リブラスＣ(RC800)に裏打ち材と一体化したラス　）
・ 直張り工法ラスモルタル下地（材料　・　　）
・ 直張りラスシートモルタル下地（材料　・　　）
建築基準法に基づく耐力壁、防火構造、準耐火構造等の指定（　　）

3 床コンクリート直均し仕上げ

（１５．４．２）（６．２．５）

仕上げの平たんさは、図示及び標準仕様書15.4.2(7)(ｲ)以外は下記による

標準仕様書表6.2.5による平たんさの種別	施工箇所
ａ種	合成樹脂塗床、ビニル系床材張り、床コンクリート直均し仕上げ、フリーアクセスフロア（置敷式）（　　）
ｂ種	カーペット張り、防水下地、セルフレベリング材塗り（　　）
ｃ種	タイル張り、モルタル塗り、フリーアクセスフロア（支柱調整式）（　　）

4 セルフレベリング材塗り

標準塗厚（mm）　※ 10mm程度　（１５．５．２）（表１５．５．１）

5 仕上塗材仕上げ

建物内部に使用する塗材のホルムアルデヒド放散量　（１５．６．２）
※ Ｆ☆☆☆☆　・
仕上塗材の種類
・ 薄付け仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	防火材料
※ 外装薄塗材Ｅ				・
・			・ 適用する	・

・ 厚付け仕上げ塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	吸放湿性	上塗り材	防火材料
			・ 適用する	・ 適用する	・
			・ 適用する	・ 適用する	・

・ 複層仕上塗材

呼び名	仕上げの形状	工法	上塗り材の種類	防火材料
※ 複層塗材Ｅ ・ 複層塗材Ｓｉ			溶媒 ※水系　・弱溶媒系　・溶媒系 樹脂 ※アクリル系(耐候性３種) ・ポリウレタン系(耐候性２種) ・アクリルシリコン系(耐候性１種) ・ふっ素系(耐候性１種) 外観　※つやあり　・つやなし	・

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料
	・
	・

6 マスチック塗材塗り

（１５．７．２）

種別　・ Ａ種　・ Ｂ種

7 ロックウール吹付け

（１５．１２．２、３）

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆　・
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆　・
仕上げ吹付け厚さ　・ 図示　・ 25mm

8 しっくい塗り

（１５．１０．２、３）

材料
・ 既調合しっくい（種類等　　）
色しっくい　・ 適用する　・ 適用しない
・ 現場調合しっくい
下地
・ せっこうボード　・ せっこうラスボード　・ モルタル塗り　・ 木ずり
・ こまい　・ 下塗りをせっこうプラスターとし上塗りに使用する場合
・
既調合しっくいの場合
・ せっこうボード下地　※標準仕様書表15.10.1　・
・ モルタル塗り下地　※標準仕様書表15.10.2　・
・ せっこうラスボード下地　※製造所の仕様による　・
現場調合しっくいの調合及び各層の塗厚
・ 木ずり下地　※標準仕様書表15.10.3　・
・ せっこうプラスター下地、こまい下地　※標準仕様書表15.10.4　・
既調合しっくいの上塗り仕上げ工法
・ なで切り仕上げ　・ パターン仕上げ

9 こまい壁塗り

（１５．１１．２～５、７、８）

のりの種類
土壁用ののり　※ つのまた　・ ふのり　・ ぎんなんそう　・ 粉末海藻　・
砂壁用ののり　※ ふのり　・ つのまた　・ こんにゃくのり　・ にかわ
・ 合成高分子系混和剤　・
色土の種類
土物仕上げに用いる色土
大津仕上げに用いる色土
色砂の種類
・ 天然砂と岩石の砕砂　・ 人工的に着色・製造したもの
下塗りの調合　※ 標準仕様書表15.11.2による
塗厚
※ 標準仕様書表15.11.8による
・ 建築基準法に基づく耐力壁の指定がある場合（　　）
こまい壁塗りの工程種別　※ Ａ種　・ Ｂ種
土物仕上げの工法の種類　・ 土物仕上げ工法
・ 水ごね土物１工法　・ 水ごね土物２工法
・ のりさし土物工法　・ のりごね土物工法
・ 砂壁仕上げ工法
・ 切り替え仕上げ工法
大津仕上げの工法の種類　・ 普通大津仕上げ工法　・ 大津みがき仕上げ工法
ちけじゃくり　※図示による

１６ 建具工事

1 防火戸

◎ 適用する　指定箇所（※ 建具表による　・　）　（１６．１．３）

2 見本の製作等

建具見本の製作　・ 行う（建具符号：　　）　・ 行わない　（１６．１．４）
特殊な建具の仮組　・ 行う（建具符号：　　）　・ 行わない

3 防犯建物部品

・ 適用する　適用箇所（※ 建具表による　・　）　（１６．１．６）

4 アルミニウム製建具

性能値等　（１６．２．２～５）（表１４．２．１）（表１６．２．１、２）
・ 耐風圧性の等級（　　）、気密性の等級（　　）、水密性の等級（　　）
※ 標準仕様書表16.2.1による種別
外部に面する建具の種別（コンクリート下地及び鉄骨下地）
・ Ａ種（建具符号：　全て　・ 建具表による　・　）
◎ Ｂ種（建具符号：◎ 全て　・ 建具表による　・　）
・ Ｃ種（建具符号：　全て　・ 建具表による　・　）
外部に面する建具の種別（木下地）
・ Ｄ種（建具符号：　全て　・ 建具表による　・　）
・ Ｅ種（建具符号：　全て　・ 建具表による　・　）
防音ドア、防音サッシ　遮音性の等級（　　）
（建具符号：　・ 建具表による　・　）
断熱ドア、断熱サッシ　断熱性の等級（　　）
（建具符号：　・ 建具表による　・　）
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
くつずりの仕上げ　ステンレス鋼板を用いる場合　※ ＨＬ以上
形状及び仕上げ
枠の見込み寸法　※ 建具表による　・
表面処理
外部に面する建具　種別　◎ BB-1種　・ BB-2種　・
色合等　※ 標準色（　　）　・特注色（　　）
屋内の建具　種別　・ BC-1種　・ BC-2種　・
色合等　※ 標準色（　　）　・特注色（　　）
結露水の処理方法　※ 図示　・
取付工法
水切り板、ぜん板　※ 図示　・
木下地の場合の内付け建具　・ 適用しない　・ 適用する

5 網戸等

（１６．２．３）

種類	材質	線径	網目
◎ 防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス（SUS316）製	※ 0.25mm以上 ・	※ 16～18メッシュ ・
・ 防鳥網	ステンレス（SUS304）線材	1.5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具

（１６．２．５）（１６．３．２～５）（表１６．３．１～４）
性能値等
・ 耐風圧性の等級（　　）、気密性の等級（　　）、水密性の等級（　　）
※ 標準仕様書表16.3.1による種別
外部に面する建具の種別（コンクリート下地及び鉄骨下地）
・Ａ種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
・Ｂ種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
・Ｃ種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
外部に面する建具の種別（木下地）
・ Ｄ種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
・ Ｅ種（建具符号：・全て　・建具表による　・　）
防音ドア、防音サッシの遮音性の等級　・Ｔ－１　・Ｔ－２
（建具符号：・建具表による　・　）
断熱ドア、断熱サッシ　の断熱性の等級
・Ｈ－４　・Ｈ－５　・Ｈ－６　・Ｈ－７　・Ｈ－８
（**建具符号：・建具表による**　・　）
外部に面する建具の日射熱取得性の等級　・
ガラス　※ 建具表による
形状及び仕上げ
枠の見込み寸法　※ 建具表による
表面色　※ 標準色　・特注色
取付工法
水切り板、ぜん板　※ 図示
木下地の場合の内付け建具　・ 適用しない　・ 適用する

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

⑦ 鋼製建具

（１６．２．２）（１６．４．２～４．６）（表１６．４．２）

性能値等（建具符号：⊙ 建具表による　・　　）
　簡易気密型ドアセット　気密性の等級　・Ａ－３　　水密性の等級　・Ｗ－１
　外部に面する建具の耐風圧性　　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
　防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　　断熱性の等級（　　）
　耐震性能
　　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
くつずりの仕上げ　　ステンレス鋼板を用いる場合　※ＨＬ以上
形状及び仕上げ
　鋼板類の厚さ　※ 標準仕様書表16.4.2による　　・
標準型鋼製建具の形式及び寸法　　※ 建具表による

8 鋼製軽量建具

（１６．２．２）（１６．５．２～４．６）（表１６．５．１）

性能値等（建具符号：　・ 建具表による　　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・適用する
　防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　　断熱性の等級（　　）
耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
鋼板の材料　※ 亜鉛めっき鋼板　・ピニル被覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1
くつずりの仕上げ　　ステンレス製鋼板を用いる場合　※ＨＬ以上
形状及び仕上げ
　鋼板類の厚さ　※ 標準仕様書表16.5.1による
召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板
標準型鋼製軽量建具の形状及び寸法　　※建具表による

9 ステンレス製建具

（１６．２．２）（１６．４．２）（１６．６．２～５）

性能値等（建具符号：　・ 建具表による　　・　　）
　簡易気密型ドアセット　・適用する
　外部に面する建具の耐風圧性　　・Ｓ－４　・Ｓ－５　・Ｓ－６
　防音ドア、防音サッシ　　遮音性の等級（　　）
　断熱ドア、断熱サッシ　　断熱性の等級（　　）
耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
ステンレス鋼板の材料　　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　　・
くつずりの仕上げ　　ステンレス製鋼板を用いる場合　※ＨＬ以上
形状及び仕上げ
　表面仕上げ　※ＨＬ　・錵面仕上げ　・
工法
　ステンレス鋼板の曲げ加工　※ 普通曲げ　・角出し曲げ（・ａ角　・ｂ角　・ｃ角）

⑩ 木製建具

（１６．７．２～４）

建具材の加工、組立時の含水率　※ Ａ種　　・
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※ Ｆ☆☆☆☆　・

⊙ フラッシュ戸
　表面材のホルムアルデヒド放散量等
　　※標準仕様書16.7.2(2)(4)(a)による
　表面材の品質等

合板の種類	規格等	備考
⊙ 普通合板	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （ ※ ラワン合板程度　・　　） 不透明塗料塗り （ ※ しな合板程度　・　　） 板面の品質（※ 広葉樹1等　・　　） 接着の程度（ ・ 1類　・ 2類 ）	
・ 天然木化粧合板	樹種名（　　） 接着の程度（ ・ 1類　・ 2類 ）	
・ 特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 （ ・オーバーレイ　・プリント　・塗装） 表面性能（　　）タイプ 接着の程度（ ・ 1類　・ 2類 ）	
・ ミディアムデンシティファイバーボード（ＭＤＦ）	表裏面の状態による区分（　　） 曲げ強さによる区分（　　） 接着剤による区分（　　） 難燃性による区分（　　）	

　表面板の厚さ　※標準仕様書表16.7.6による　・
　引戸の召合せかまちのいんろう付きの適用　　・適用する　・適用しない
　・ かまち戸
　　かまち樹種（　　）　錵板樹種（　　）
　　見込み寸法　※建具表による　　・
　⊙ ふすま
　　張りの種別（ ・ Ⅰ型　・Ⅱ型）
　　上張り（押入等の裏側以外）　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
　　縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
　　見込み寸法　※ 建具表による　・
　⊙ 戸ぶすま　見込み寸法　※ 建具表による　・
　・ 紙張り障子　　見込み寸法　※ 建具表による　・
　枠の材料　※ 木製枠（１２章木工事による）
　　・鋼製枠（※亜鉛めっき鋼板　・ピニル被覆鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板）
　くつずりの材料　※ ステンレス鋼板

⑪ 建具用金物

（１６．８．２、３）（表１６．８．１～５）

金物の種類及び見え掛り部の材質等
　※ 標準仕様書表16.8.1により適用は建具表による　・
金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表16.8.2による
樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表16.8.3による　・
木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ　※ 標準仕様書表16.8.4による
木製建具に使用する戸車及びレール　※ 標準仕様書表16.8.5による　・
握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置　※ 建具表による　・
錠前類
　【シリンダ箱錠及びシリンダ本締まり錠】
　（品質）
　　デッドボルトの出寸法は17mm以上とする。 鍵付きのものはマスターキー、グランドマスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
　（性能）
　<使用頻度による性能>
　　1)（シリンダ箱錠のみ）ラッチボルトの開閉繰り返し試験（40万回）を行った後、ハンドルでの開閉操作力及びラッチング力が試験前の2倍未満であり、かつ、ハンドルでの開扉操作及びラッチング動作に支障がない。

　　2)キーによるデッドボルトの施解錠繰り返し試験（10万回）を行った後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がなく、かつ、確実に施錠状態が維持されている。
　　錠繰り返しの評価は、シリンダ だけの回転トルクが10Ｎ・ｃｍ以下とする。
　　3)キーによる施錠機構の施解錠繰り返し試験（10万回）を行なった後、 試験前の回転トルクの2倍未満であり、施解錠操作に支障がない。
　　4)キーの抜き差し繰り返し試験（10万回）を行なった後、キーの抜き差しに要する荷重は

　　10Ｎ以下である。また、未使用の合鍵でシリンダが回転でき、かつ、1箇所1段差浅い刻みをもつ異なるキーでは、シリンダが回転しないこと。(キーに加えるトルクは、150Ｎ・ｃｍとする)
　<外力に対する性能 >
　　1)デッドボルトの押込み強度試験（10ＫＮ）を行なった後、荷重を除い ときのデッドボルトの出寸法は8mm以上であること。
　　2)デッドボルトの側圧強度試験（10ＫＮ）を行なった際、加圧板がデッドボルトを通過しない。
　　3)デッドボルトの押込み強度（衝撃荷重）試験（58.8Ｊ）の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（デッドボルトの突出量が8mm未満）にならないこと。
　　4)デッドボルトの側圧強度（衝撃荷重）試験(58.5Ｊ)の衝撃荷重を加えたとき、解錠状態（加圧板がデッドボルトを通過した状態）にならないこと。
　　5)（シリンダ本締り錠はグレード3以上の彫込錠の場合）ストライクプレートの厚さ1.5mm以上のステンレス鋼製とし、トロヨケは厚さ1.6mm以上の鋼製の一体絞りとする。又はストライクの強度と同等以上の強度をもつものとする。
　<使用扉の質量に対する性能>
　（シリンダ箱錠のみ）
　　ラッチボルトの側圧強度試験（4ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル操作及びラッチングに支障がない。
　<ハンドルの強度（シリンダ箱錠のみ）>
　　1)レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　　2)握り玉のねじり強度試験（3ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、握り玉が正常に作動していること。また、施錠時握り玉が固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　　3)ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作。に支障がない。
　　4)ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がない。
　<鍵違い>
　　1)鍵違い数は、1.5万以上とする。ただし、異なるキーウェイ形状であっても、共通のキーセクションが存在する場合は、有効かぎ（鍵）違い数とみなさないものとする。
　　2)同一タンブラーの使用数は、60%以下とする。また、６本タンブラーにおいては、キーの同一刻みは、最大2連続までとしていること。
　　試験方法は、JIS Ａ 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。
　【レバーハンドル】
　（性能）
　<ねじり強度>
　　レバーハンドルのねじり強度試験（3.5ＫＮ・ｃｍ）を行なった後、トルクを除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
　<引張り強度>
　　ハンドルの引張強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドル が正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、 施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障がないこと。
　<垂直荷重強度>
　　ハンドルの垂直荷重強度試験（2ＫＮ）を行い、荷重を除いたとき、ハンドルが正常に作動していること。また、施錠時ハンドルが固定される錠は、施錠状態が維持され、かつ、施解錠操作に支障が ないこと。
　試験方法は、JIS Ａ 1541-1（建築金物－錠－第１部：試験方法）による。
　クローザー類
　（品質・性能）

性能試験項目＼区分			① ドアクローザー		② ヒンジクローザー		③ フロアヒンジ	
初期値（注）「閉じ」及び「効率」による区分	Grade2	番手	閉じモーメント（Ｎ・ｍ）	効率（%）	閉じモーメント（Ｎ・ｍ）	効率（%）	閉じモーメント（Ｎ・ｍ）	効率（%）
		1	5以上	30以上	5以上	30以上	5以上	30以上
		2	10以上	30以上	10以上	30以上	10以上	30以上
		3	15以上	35以上	15以上	35以上	15以上	35以上
		4	25以上	40以上	25以上	40以上	25以上	40以上
		5	35以上	45以上	35以上	45以上	35以上	45以上
		6	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上	45以上
閉じ速度（秒）			常温（5～35℃）無風状態において、開扉（70°）から全閉（0°）までの時間を5～8秒に調整できるきること。					
温度依存性（℃）			緩衝油の流動点は、JIS Ｋ 2269(原油及び石油製品の流動点並びに石油製品曇り点試験方法）により測定し、−15℃以下であること。					
ストップ力	ストップ入力		60Ｎ・ｍ以下 但し、コンシールド型は200Ｎ・ｍ以下		100Ｎ・ｍ以下		100Ｎ・ｍ以下	
	ストップ解除力		8Ｎ・ｍ以上		3Ｎ・ｍ以上		10Ｎ・ｍ以上	
バックチェック性能（秒）（バックチェック機能を有する機種のみ適用）			ドア開扉方向に荷重60Ｎ/m2を開扉50°から負荷する。バックチェック開始角度（70～85°）から更に20°まで開く間の時間は0.8秒以上としていること。		—		—	
ディレードアクション性能（秒）ディレード アクション解除角度（60～75°）（ディレードアクション機能を有する機種のみ適用）			開扉90°の位置からディレードアクション解除角度までの時間が10秒以上確保でき、また、その時間の調整が可能であること。		—		—	
戸の閉鎖位置（中心吊り込み両自由のみに適用）			—		—		±3mm以内	

区分＼性能試験項目			① ドアクローザー	② ヒンジクローザー	③ フロアヒンジ
耐久性	繰返し開閉後の閉じモーメント（Ｎ・ｍ）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。
	繰返し開閉後の効率（%）	Grade2	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。	耐久試験後も上記初期値を満足していること。
	繰返し開閉後の閉じ速度（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。		
	繰返し開閉後のバックチェック性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	—	—
	繰返し開閉後のディレードアクション性能（秒）		耐久試験後も上記初期値を満足していること。	—	—
	繰り返し開閉後の戸閉鎖位置（mm）		—	—	耐久試験後±6mm以内
耐久性の試験回数（繰り返し開閉回数）		Grade2	20万回	10万回	30万回

　注1.パラレル取付けは、右記の閉じモーメントの70%程度までとする。
　注2.コンシールド型は右記の閉じモーメントの50%程度までとする。
　Grade1を選定する場合は、図示による。
　（試験方法）
　　1）性能試験は、JIS Ａ 1510-3（建築用ドア金物の試験方法－第３部：フロアヒンジ、ドアクローザ及びヒンジクローザ）に規定する試験方法による。
　　2）試験ドアの質量は、1番手は25kg、2番手は40kg、3番手は60kg、4番手は80kg、5番手は100kg、6番手は120kgとする。

⑫ 鍵

（１６．８．４）

マスターキー　⊙ 製作する（　２　組）　・製作しない　・既存に組込む
鍵の製作本数　※各室３本１組（室名札付き）
鍵箱　　・設けける（　　個用 １組）　・設けない

13 自動ドア開閉装置

（表１６．９．１）（表１６．９．２）（１６．９．２、３）

引き戸用駆動装置
　性能
　　※ 標準仕様書表16.9.1による
　　種類　・SSLD-1　・SSLD-2　・DSLD-1　・DSLD-2
・車椅子使用者用便房出入り口引き戸用駆動装置
　性能
　　※ 標準仕様書表16.9.2による
引き戸用検出装置
　性能
　　※標準仕様書表16.9.3による
　種類　・光線（反射）センサー　・熱線センサー　・音波センサー　・光電センサー
　　・電波センサー　・タッチスイッチ　・押しボタンスイッチ
　　タッチスイッチの種類
　　・ 無線式タッチスイッチ　・ 光線式タッチスイッチ
　　車椅子使用者用便房スイッチの種類
　　・ 大形（開・閉）押しボタンスイッチ　・ 非接触スイッチ

　戸の開閉方式　※ 建具表による
　防錆　・適用する　・適用しない
　凍結防止措置　・適用する　・適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置

（１６．１０．３）

性能等　※ 標準仕様書表16.10.1による
（試験方法）
（１）耐久性（開閉繰り返し）試験
　閉については外力によらず、試験体の自閉装置及び制御装置のみにより戸を開端位置から閉端位置までの作動を確認できる試験を行う。同試験に用いる試験体は片引戸とし、開口内法有効高さ2,000mm、幅は最大寸法とする。適用戸総質量の区分毎に試験を行う。自閉装置、制御装置は10万回以上の時点で1回のみ調整を行えるものとし、また、その他の制御装置についてはメーカーの耐久性能試験成績書において2万回以上の耐久性能を確認することで、試験に代えることができるものとする。
（２）耐衝撃性試験
　落下高さ17ｃｍにて、ドアの中央部にドアが外れる方向に衝撃を与える。
　耐衝撃性試験に用いる試験体は片引戸、開口内法有効寸法は高さ2,000mm、幅900mmとする。
　適用戸総質量の区分毎に試験を行う。
（３）気密性能試験
　JIS Ａ 1516「建具の気密性試験方法」による。

15 重量シャッター

（１６．１１．２、３）

シャッターの種類　・管理用シャッター
　・外壁用防火シャッター
　・屋内用防火シャッター
　・防煙シャッター
外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度（　　）Pa
開閉方式の種類　※ 電動式（手動併用）　・手動式
安全装置
　急降下制動装置、急降下停止装置を設けた電動式シャッターの設置箇所
　　※ 図示
　障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所　※ 図示　・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構の設置箇所
　※ 「防火区画に用いる防火設備等の構造方法を定める件」（昭和48年12月28日建設省告示第2563号）に定める基準に適合するもの

管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
　鋼板の種類　※ JIS Ｇ 3302（溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯）
　　・ JIS Ｇ 3312（塗装溶融亜鉛めっき及び鋼帯）
　めっきの付着量　※ Z12又はF12を満足するもの
ガイドレール、まぐさ、雨掛りに用いる座板及び座板のカバー、雨掛りに用いるスイッチボックス類のふたの材質
　ステンレス鋼板の材料　※ SUS304、SUS430J1L又はSUS443J1　・

16 軽量シャッター

（１６．１２．２～４）

　開閉方式の種類　※ 手動式　・ 電動式（手動併用）
　耐風圧強度　（　　）Ｎ／m2
　安全装置
　　障害物感知装置を設けた電動式シャッターの設置箇所
　　※ 図示
　スラットの材質の種類
　　※ JIS Ｇ 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼板）
　　めっきの付着量（ ※ Z06 又はF06を満足するもの　・　　）
　　・ JIS Ｇ 3322（塗装溶融５５％アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板及び鋼板）
　　めっきの付着量（ ※ AZ90を満足するもの　・　　）
　スラットの種類　※ インターロッキング形　・ オーバーラッピング形
　シャッターケース　※ 設ける　・ 設けない
　ガイドレール（中柱共）の材質　※ ステンレス鋼板（SUS304）　厚さ1.0mm

　座板の材質（屋外の場合）　※ ステンレス製既製品　・

17 オーバーヘッドドア

（１６．１３．２、３）

セクション材料による区分	風圧力による強さの区分	開閉方式による区分	収納方式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・ 125 ・ 100 ・ 75 ・ 50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

　電動式タイプで障害物感知装置を設ける箇所　※ 図示　・

18 ガラス

（９．７）（１６．１４．２～４）（図１６．１４．１）

　下記のガラス以外の品種、厚さの呼びによる種類等
　　※ 建具表による
　合わせガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類　※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスの種類、組合せ	落球衝撃ほど離特性並びにショットバック衝撃特性による種類
・ フロート板、フロート板合わせガラス	・ Ⅰ類　・ Ⅱ－１類 ・ Ⅱ－２類　・ Ⅲ類

　強化ガラスの形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特性による種類
　　※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類による名称	材料板ガラス	破片の状態及びにショットバック衝撃特性による種類
・ フロート強化ガラス	・ フロート板ガラス ・ ・	・ Ⅰ類　・ Ⅲ類

　熱線吸収板ガラスの板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類
　　※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類	性能による種類	色　調
・ 熱線吸収フロート板ガラス ・ 熱線吸収網入り磨き板ガラス	・ １種　・２ 種	・ グリーン

　複層ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに複層ガラスの厚さ
　　※ 下記以外は建具表による

断熱性による区分	・Ｔ１　・Ｔ２　・Ｔ３　・Ｔ４　・Ｔ５　・Ｔ６
乾燥気体の種類	・ 空気　・ アルゴン
日射取得性、日射遮蔽性による区分	・Ｇ　・Ｓ

　熱線反射ガラスの材料板ガラスの種類及び厚さによる種類
　　※ 下記以外は建具表による

材料板ガラスによる種類	日射熱遮蔽性による区分	耐久性による区分
色調（ ・ブルー　・ グレー　・　　）	・ １種	Ａ類
	・ ２種	・ Ａ類　・ Ｂ類
	・ ３種	Ｂ類

　反射皮膜面　・内面　・外面

　ガラスの留め材及び溝の大きさ　（１６．１４．２）（９．７）

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ（mm）
アルミニウム製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	※ シーリング材 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・
樹脂製	※ シーリング材 ・ ガスケット ・ グレイジングチャンネル形 ・	※ 建具の製造所の仕様による ・

　耐震性能
　　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

19 ガラスブロック積み

（１６．１４．５）

表面形状	呼び寸法（mm）	厚さ（mm）	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地位置(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※標準仕様書16.14.5(2)(ｲ)(a)② ・ 内側 ※標準仕様書16.14.5(2)(ｲ)(a)② ・	※6mm以下ごとに幅10～25 ・図示 ・	※無し ・有り
	・160×160	95 125	・	・				
	・200×200	95 125	・	・				
	・320×320	95	・	・				
・長方形	・250×125	80	・	・				
	・320×160	95	・	・				

17 カーテンウォール工事

20 ガラス用フィルム

壁用金属枠及び補強材の材質・形状　※ 図示
力骨　材質　※ ステンレス鋼（SUS304）
　　寸法　※ 径5.5mm
　　形状　※ はしご形状複筋及び単筋
化粧目地モルタルの色（　　）
シーリングの種類　（　　）
金属製化粧カバー　材質　・ ステンレス製　・ アルミニウム製
　　寸法　※ 図示
　　形状　※ 図示
木下地の場合のアンカー等の取付け間隔　・ 図示による
工法　1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
　※ ガラスブロック製造所の仕様による　・ 図示

種　類	記号 内張り用	記号 外張り用	その他性能等
・ 日射調整フィルム	・ ＳＣ－１	・ ＳＣ－２	日射遮へい性能による区分 ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ
・ 低放射フィルム	ＬＥ		熱還流率による区分 ・Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ
・ 衝撃破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ ＧＩ－１	・ ＧＩ－２	
・ 相関変位破壊対応ガラス飛散防止フィルム	・ ＧＤ－１	・ ＧＤ－２	
・ ガラス貫通防止フィルム	ＳＦ		ガラスの貫通防止性能による区分 ・Ａ　・Ｂ

品質　ＪＩＳ　Ａ５７５９による

1 取付方法、性能等

（１７．１．３）
取付方法　・ 層間方式　・ 柱、梁方式　・ 方立方式　・ スパンドレル方式
性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性	耐温度差性（℃）
				・ 30分 ・ 1時間	・ 80 ・ 70 ・ 60

耐風圧性
　1章 適用区分による風圧力の（ ・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離（h）	耐風圧性能
4m以下	・ たわみ量が±（1/150）×hかつ絶対量20mm以下であること
4mを超える	・

耐震性能
　建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による
性能の確認及び判定方法
　※ 性能の確認及び判定方法が確認できる適切な資料により、監督職員の承諾を受ける

2 メタルカーテンウォール

シーリング材　（１７．２．２、３、５、６）
下表以外は標準仕様書 9.7.1 による

被着体の組合せ		シーリング材の種別 記号	シーリング材の種別 主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガスケット
・ 適用する　（施工箇所　・ 図示　・　　）
　材質　・ クロロプレン系　・ EPDM系　・ シリコーン系
　形状　・ H型　・ Y型　・ C型
　寸法（mm）　ガラス板厚（　）、支持枠の厚さ（　）、ウェブの寸法（　）
・ 適用しない
断熱材
　種類（　　）
　厚さ（mm）（　　）
　施工箇所　・ 図示　・
製品の見え掛り部分の仕上げ
・ JIS H 8601（陽極酸化皮膜）
・ JIS H 8602（陽極酸化皮膜複合被膜）
・ 塗膜（・ アクリル系　・ ウレタン系　・ ふっ素系）
ガラス溝の寸法、形状等
　※ カーテンウォールの製造所の仕様

耐火材料

施工部位	種別	規格等
・ ファスナー部		
・ 取付けブラケット		
・ パネル目地部		
・ 層間ふさぎ		
・		

カーテンウォールの材料

金属系材料の種類	規格等	表面処理	映像調整
※ アルミニウム材	※ 標準仕様書 16.2.3による	種別（　　）種 色合等　・ 標準色（　　） ・ 特注色（　　）	・ 行わない ・ 行う
	・		

製品及び取付け位置の寸法許容差　※ 標準仕様書表17.2.1～3による
ガラス溝の寸法、形状等　※ カーテンウォールの製造所の仕様による　・

3 ＰＣカーテンウォール

（１７．３．２～６）（表１７．３．１、２）
カーテンウォールの材料
　コンクリート　※ 標準仕様書17.3.2(1)(ｱ)～(ｳ)による
　鉄筋　※ SD295A（ ・D13　・D10 ）
　補強鉄線の径（mm）　※ 3.2　・ 4.0　・ 5.0　・ 6.0
　配筋　※ 図示
先付けの材料　・ 建具枠　・ ゴンドラ用ガイドレール
表面仕上材　・ タイル
　・ 石材（ ・ 花こう岩　・ 大理石　・　　）
　・
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差（mm）
　・ 深さ（h）=1～+2、溝幅及び底幅（W1及びW2）=±1
製品及び取付位置の寸法許容差　※標準仕様書表17.3.1～2による　・

18 塗装工事

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　（１８．１．３）
　※ Ｆ☆☆☆☆　・
防火材料　※ 屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。
　・ 次の箇所を除き防火材料とする。（箇所：　　）

② 素地ごしらえ

（１８．２．２～７）

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ Ａ種　・ Ｂ種
	透明塗料塗りの場合	※ Ｂ種　・ Ａ種
鉄鋼面（ＤＰ以外）		※ Ｃ種　・ Ａ種　・ Ｂ種
鉄鋼面（ＤＰ）		※ Ｂ種　・ Ａ種　・ Ｃ種
亜鉛めっき鋼面		・ Ａ種　・ Ｂ種
モルタル面及びせっこうプラスター面		※ Ｂ種　・ Ａ種
コンクリート面（ＤＰ以外）及びＡＬＣパネル面		※ Ｂ種　・ Ａ種
押出成形セメント板面及びコンクリート面（ＤＰ）		・ Ａ種　・ Ｂ種
せっこうボード面及び	目地：継目処理工法	※ Ａ種　・ Ｂ種
その他ボード面	目地：継目処理工法以外	※ Ｂ種　・ Ａ種

③ 錆止め塗料塗り

（１８．３．２、３）

下地面	塗料の種別	錆止め塗料の種別	錆止め塗料塗りの工程
鉄鋼面	ＳＯＰ	Ａ種	見え掛り：Ａ種 見え隠れ：Ｂ種
	ＤＰ	Ｃ種及びＤ種	表18.3.4
	ＥＰ－Ｇ	・ Ａ種　※ Ｂ種	見え掛り：Ａ種 見え隠れ：Ｂ種
亜鉛めっき鋼面	ＳＯＰ	※ Ａ種　・ Ｂ種	鋼製建具等：Ａ種 上記以外：Ｂ種
	ＤＰ	Ｂ種	表18.3.6
	ＥＰ－Ｇ	Ｃ種	鋼製建具等：Ｃ種 上記以外：Ｂ種

④ 塗料

（１８．４．１～１８．１２．２）

塗装		種別	塗料の種類	高日射反射率塗料
・合成樹脂調合ペイント塗り（ＳＯＰ）	木部屋外	※Ａ種　・Ｂ種	※ １種　・ ２種	
	木部屋内	※Ｂ種　・Ａ種	※ １種　・ ２種	
	鉄鋼面	※Ｂ種　・Ａ種	※ １種　・ ２種	・適用
	亜鉛めっき鋼面		※ １種　・ ２種	・適用
・クリヤラッカー塗り（ＣＬ）		※Ｂ種　・Ａ種	・透明　・不透明	
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り（ＮＡＤ）		※Ｂ種　・Ａ種		
・耐候性塗料塗り（ＤＰ）	鉄鋼面		上塗り等級（　）級	・適用
	亜鉛めっき鋼面		上塗り等級（　）級	
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・Ａ種	上塗り等級１級	
		・Ｂ種	上塗り等級２級	
		・Ｃ種	上塗り等級３級	
⊙つや有合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ－Ｇ）	コンクリート面、モルタル面、せっこうプラスター面、せっこうボード面その他ボード面等	※Ｂ種　・Ａ種		
	屋内の鉄鋼面	※Ｂ種　・Ａ種		
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り（ＥＰ）		※Ｂ種　・Ａ種		
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り（ＥＰ－Ｔ）		※Ｂ種　・Ａ種		
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り（ＵＣ）		※Ｂ種　・Ａ種	・透明　・不透明	
・ステイン塗り		・ピグメントステイン塗り ・オイルステイン塗り（OS）		
⊙木材保護塗料塗り（ＷＰ）		※Ｂ種　・Ａ種	・透明　・不透明	

高日射反射率塗料　を適用する場合の適用箇所は屋上、屋根面の金属面とする
クリアラッカー塗りＡ種の工程２の着色
　・適用しない　・適用する（着色剤：・溶剤形着色剤　・油性染色着色剤）
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程１の着色
　⊙適用しない　・適用する（着色剤：・油性顔料着色剤　・溶剤形顔料着色剤）
オイルステイン塗りの工程等　・

19 内装工事

① 接着剤

（１９．２．２）
ビニル床シート、ビニル床タイル、ゴム床タイル用接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※ Ｆ☆☆☆☆　・
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていないものとする
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
　・ 図示　・

② 下地の工法

標準仕様書19.2.3(1)(ｱ)～(ｳ)以外の下地の工法　（１９．２．３）
　・ 図示による

③ ビニル床シート

（１９．２．２、３）

種類の記号	色柄	厚さ（mm）	備考
※ ＦＳ ・	・ 無地 ・ マーブル柄 ・ 柄物	※ 2.0 ・	

※ 目地処理（工法　※ 熱溶接工法　・　　）・ 突付け（施工箇所：　　）

4 ビニル床タイル

（１９．２．２）

種類の記号	色柄	寸法	厚さ（mm）	備考
※ ＫＴ ・ ＴＴ　・ ＦＴ	・ 無地 ・ 柄物	※ 300×300 ・ 450×450 ・ 500×500	※ 2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	
・ ＦＯＡ　・ ＦＯＢ				

⑤ 特殊機能床材

（１９．２．２）

シート種別	厚さ、形状、寸法		種類
・帯電防止床シート	（mm）		
・帯電防止床タイル	－　（mm）		
・視覚障害者用床タイル	（mm）	視覚障害者誘導ブロック等の突起の形状・寸法及びその配列はJIS T 9251による	
・耐動荷重性床シート	（mm）		
⊙耐滑性床シート	2.5　（mm）		
・防滑性床タイル	－　（mm）		

6 ビニル幅木

材質の種類　※ 軟質　・ 硬質　（１９．２．２）
高さ（mm）　※ 60　・ 75　・ 100
厚さ（mm）　※ 1.5以上　・

7 ゴム床タイル

（１９．２．２）
種類　・ 単層品　・ 複層品
色柄　（　　）
厚さ（mm）・ 3.0　・ 4.5　・ 6.0　・ 9.0
寸法（mm）（　　）

8 カーペット敷き

（１９．３．２、３）（表１９．３．１）
・ 織じゅうたん

織り方	パイルの形状	帯電性	備考
・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アキスミンターカーペット	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ 適用する ・ 適用しない	

色柄
　※模様のない無地
パイル糸の種類等
　※標準仕様書表19.3.1による種別（・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種）
織じゅうたんの接合方法
　※ ヒートボンド工法　・ つづり縫い

・ タフテッドカーペット

パイルの形状	パイル長さ（mm）	工法	帯電性	備考
・ カットパイル	・ 5~7　・	※ 全面接着工法	・ 適用する	
・ ループパイル	・ 4~6　・	・ グリッパー工法	・ 適用しない	
・ カット、ループ併用	・			

タフテッドカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※Ｆ☆☆☆☆

・ タイルカーペット

パイルの形状	種類	施工箇所	寸法（mm）	総厚さ（mm）	備　考
※ ループパイル	※ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カットパイル	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	
・ カット、ループ併用	・ 第一種 ・ 第二種		※ 500×500	※ 6.5	

タイルカーペット用接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※Ｆ☆☆☆☆
タイルカーペットの敷き方　平　場　※ 市松敷き　・ 模様流し　・
　階段部分　※ 模様流し　・ 市松敷き　・

下敷き材　※ 反毛フェルト（JIS L 3204）の第2種2号　呼び厚さ 8mm　・
見切り、押え金物の材質、種類及び形状　※ 図示　・

9 合成樹脂塗床

（１９．４．２、３）（表１９．４．４、５）

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・ 厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床			※ 平滑仕上げ　・ 防滑仕上げ ・ つや消し仕上げ
・ 厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床		・ 薄膜流しのべ工法 ・ 厚膜流しのべ工法 ・ 樹脂モルタル工法	・ 平滑仕上げ ・ 防滑仕上げ
・ 薄膜型塗床材			※ 平滑仕上げ

塗料のホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆

10 フローリング張り

（１９．５．２～５）（表１９．５．１～６）
単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ（mm）	間伐材等の適用
・ フローリングボード１等	・ 釘留め工法（根太張り）	・ なら　・	15	・
	・ 釘留め工法（直張り）	・ なら　・	・ 12	・
	・ 接着工法	・ なら　・	・ 8	・
・ フローリングブロック１等	・ 接着工法	・ なら　・	15	・

フローリングボードの大きさ　※ 標準仕様書表19.5.1、3、5による

複合フローリング

種類	工法	樹種	種別	厚さ（mm）	間伐材等の適用
・ 天然木化粧複合フローリング	・ 釘留め工法(根太張り)	・ なら ・	・ Ａ種	・ 15	・
	・ 釘留め工法(直張り)		・ Ｂ種	・ 12	
			※ Ｃ種	・ 12	
	・ 接着工法	・ なら ・	・ Ａ種	・ 12	・
			・ Ｂ種	・ 12	
			※ Ｃ種	・ 12	

フローリングの大きさ　※ 標準仕様書表19.5.2、4、6による
フローリングのホルムアルデヒドの放散量等　※標準仕様書19.5.2(2)による　・
各工法に使用する接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※Ｆ☆☆☆☆
接着工法の場合の裏面緩衝材　※ 合成樹脂発泡シート

⑪ 畳敷き

（１９．６．２）（表１９．６．１）
種別　・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　※Ｄ種（畳床：・KT-Ⅰ　・KT-Ⅱ ※KT-Ⅲ　・KT-K　・KT-N）
下地の種類　・ 標準仕様書表12.6.1による床組
　・ ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン）
　⊙ 接着剤のホルムアルデヒドの放散量　※Ｆ☆☆☆☆
畳表及び畳床にはホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

・衝撃緩和型畳　畳表　・Ｃ１　・Ｃ２

⑫ せっこうボードその他のボード及び合板張り

（１９．７．２、３）（表１９．７．１）
ＭＤＦ、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※Ｆ☆☆☆☆　・
合板のホルムアルデヒド放散量　※Ｆ☆☆☆☆　・
　※標準仕様書19.7.2(2)(ｲ)の(a)～(d)のいずれか

種　類	JISの記号	厚さ（mm）、規格等
⊙ 硬質木毛セメント板	HW	・ 15　・ 20　⊙ 25　・
・ 中質木毛セメント板	MW	・ 15　・ 20　・ 25　・
・ 普通木毛セメント板	NW	・ 15　・ 20　・ 25　・
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12　・ 15　・ 18　・ 21　・
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30　・
⊙ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2（無石綿）⊙ 6　・ 8
・ 化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2（無石綿）・ 6　・ 8 表面への化粧張り等の加工　・ アクリル樹脂系焼付け　・
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ（・ 9(不燃) ⊙ 12(不燃)　・　） ・ 凹凸タイプ（・ 12(不燃) ・ 15(不燃) ・　）
・ ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・ 25　・
・ グラスウール吸音ボード32K	GW-B	・ 25(ガラスクロス包)　・
⊙ せっこうボード	GB-R	※ 12.5（不燃）　・ 15（不燃）
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5（不燃）化粧無（下地張り用） 化粧有（トラバーチン模様）
・ シージングせっこうボード	GB-S	12.5（※不燃　・準不燃）
・ 強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5（不燃）　・ 15（不燃）
・ せっこうラスボード	GB-L	9.5
・ 化粧せっこうボード（トラバーチン模様）	GB-D	9.5（準不燃）
・ 普通合板		表板の樹種名 生地、透明塗料塗り （※ ラワン程度　・　　） 不透明塗料塗り （※ しな程度　・　　） 板面の品質（　　） 厚さ（mm）（　　） 接着の程度（・ 1類　・ 2類　　） 防虫処理（・ 行う　・ 行わない）
・ 天然木化粧合板		樹種名（　　） 接着の程度（・ 1類　・ 2類 ） 厚さ（mm）（　　） 化粧加工の方法（・オーバーレイ・プリント・塗装） 防虫処理（・ 行う　・ 行わない）
・ 特殊加工化粧合板		表面性能（　　）タイプ 接着の程度（・1類　・ 2類 ） 厚さ（mm）（　　） 防虫処理（・ 行う　・ 行わない）
・ メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による厚さ　（※ 1.2　・　）
・ ポリエステル樹脂化粧板		
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3　・ 7　・ 9　・ 12　・
・ 単板張りパーティクルボード		・ 無研磨板　ＶＮ　・ 研磨板ＶＳ ・ 10　・ 12　・ 15　・ 18　・
・ 化粧パーティクルボード		・ 単板オーバーレイ　ＤＶ ・ プラスチックオーバーレイ　ＤＯ ・ 塗装　ＤＣ ・ 10（難燃）　・ 12（難燃）　・
・ ハードボード（素地）	HB	・ 無研磨板（・ スタンダード ・ テンパード ＲＮ） ・ 研磨板　（・ スタンダード ・ テンパード ＲＳ）
・ ハードボード（化粧）		・ 内装用Ｄ Ⅰ　・ 外装用Ｄ Ｅ ・ 2.5　・ 3.5　・ 5　・ 7　・
・ インシュレーションボード	IB	A級（・ 天井仕上げ　・ 内装仕上げ ・　） ・ 9　・ 12　・ 15　・ 18　・

天井のボード類（ロックウール吸音板を除く）の重ね張りを行う場合
　※ 図示による
合板の張付け　・ A種　・ B種
せっこうボードの目地加工法　※ 仕上表による　・

⑬ 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　※ Ｆ☆☆☆☆　（１９．８．２、３）

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	塩化ビニル	プラスチック	無機質	その他	防火性能	備考
	・	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・ 不燃　・ 準不燃	

モルタル及びせっこうプラスター面の素地ごしらえの種別　※ Ｂ種　・ Ａ種
コンクリート面の素地ごしらえの種別　※ Ｂ種　・ Ａ種
せっこうボード面の素地ごしらえの種別　※ Ｂ種　・ Ａ種

⑭ 断熱材

（１９．９．２、３）
フェノールフォームを使用した断熱材、保温材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
　※ Ｆ☆☆☆☆　・

・ 断熱材打込み工法

種類		厚さ（mm）	施工箇所
・ ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材		・ 25	・
⊗ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材（スキン層なし）	※ ２種ｂＡ ・	※ 25	※ 外壁 ・
	⊗ ３種ｂＡ ・	※ 25	※ スラブ ・
⊙ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・Ａ種１Ｈ	⊙ 25	・
・ フェノールフォーム断熱材		・ 25	・

施工箇所の詳細は、仕上表及び図示による

⊙ 断熱材現場発泡工法
　断熱材の種類　※ Ａ種１　・ Ａ種１Ｈ
　吹付け厚さ（mm）⊙ 25　・ 30　・ 20
　施工箇所　※ 窓回り等の断熱材補修部分、ルーフドレン回りの床版下等、部分的に後張りとしなければならない箇所
　⊙ 図示

⊙ ２階天井全て　グラスウール　室内側防湿層（0.015mm以上のフィルム）を設ける
　※室内側防湿層（0.015mm以上のフィルム）の透湿抵抗の値は0.029m2・s・Pa/ng程度

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４
令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807
1級建築士事務所 ２２(1)第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄

担当　1級建築士 第363328号 今田 雄貴

図面名称
特記仕様書６

SCALE　－

1A / 06

縮小率　Ａ３版１００％
　　Ａ１版２００％

現場発泡断熱材
（品質・性能）

項目	品質・性能
難燃性	下記のいずれかによっていること （１）JIS A 1321「建築物の内装材及び工法の難燃性試験方法」による難燃2級表面加熱試験又は難燃3級表面加熱試験に適合していること。 （２）法定準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している発熱性試験（コーンカロリー試験）に適合していること。
発熱性	準不燃材料試験の加熱時間は10分、難燃材料試験の加熱時間は5分において次の （１）～（３）に適合していること。 （１）総発熱量が8MJ／m2以下であること。 （２）防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴がないこと。 （３）最高発熱速度が、10秒以上継続して200ＫＷ／m2を超えないこと。

（試験方法）
（１）原液試験（原液粘度試験）
JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」に規定する6.1による。

（２）発泡品試験
１）試料の作製は、JIS A 9526「建築物断熱用吹付け硬質ウレタンフォーム」の6.2.1による。
２）試料の状態調節は、JIS A 9526の6.2.2による。また、試験片の作製はJIS A 9526の6.2.3による。
３）試験場所は、JIS A 9526の6.2.4による。
４）圧縮強さ試験は、JIS A 9526の6.2.5による。
５）熱伝導率試験は、JIS A 9526の6.2.6による。
６）接着強さ試験は、JIS A 9526の6.2.7による。
７）透湿率試験は、JIS A 9526の6.2.8による。

（３）難燃性の試験は、下記のJIS A 1321に規定する表面試験及び発熱性試験による。
１）難燃性の試験については、JIS A 1321に規定する試験方法に準じる。
２）発熱性試験は、建築基準法に基づく指定性能評価機関が準不燃材料、難燃材料の評価方法に使用している試験方法に準じる。

1　フリーアクセスフロア

（２０．２．２）

構法	・置敷式	・支柱調整式
所定荷重	※ 3,000Ｎ　・ 5,000Ｎ	※ 3,000Ｎ　・ 5,000Ｎ
耐震性能	・ 1.0Ｇ　・ 0.6Ｇ	・ 1.0Ｇ　・ 0.6Ｇ
パネル寸法（mm）		
高さ（mm）		
表面仕上材	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル	※ タイルカーペット ・ 帯電防止床タイル
施工箇所	※ 図示	※ 図示

寸法精度
※ 標準仕様書20.2.2(2)(ｵ)(a)～(c)による

スロープ及びボーダー　※ 製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　※製造所の仕様による　・20～30パーセント
配線取り出し開口　※ 製造所の仕様による
・ パネル枚につき、40mm×80mm程度の開口１箇所以上

空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・ なし　・ あり（形式、施工箇所：※ 図示　・　　）

（性能）
（１）耐荷重性能　変形5.0mm以下　残留変形3.0mm以下
（２）耐衝撃性能　残留変形3.0mm以下及び損傷がないこと
（３）ローリングロード性能
所定荷重1,000Ｎ（5,000Ｎの積載荷重は1,000Ｎ以上で任意）による繰り返し試験後、残留変形3.0mm以下
（４）耐震性能

イ）固定台試験による耐震性能

項目	性能
①ベースプレート又はアンカーが耐力に達したとき又はコンクリート接着面が剥離したとき	水平荷重の1/2が下記の＜適用地震時水平力＞以上
②上記①以外の部分が耐力に達したとき	水平荷重の1/1.5が下記の＜適用地震時水平力＞以上
③適用地震時水平力を加力した時の支柱頂部の変位	構造床面からの高さの1/50以下

＜適用地震時水平力＞
3,000Ｎ 0.6Ｇタイプ 支柱一本が負担する床加重
［（m2当り自重＋3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数］×0.6
3,000Ｎ 1.0Ｇタイプ 支柱一本が負担する床加重
［（m2当り自重＋3,000Ｎ）/m2当りの支柱本数］×1.0
5,000Ｎ 0.6Ｇタイプ 支柱一本が負担する床加重
［（m2当り自重＋5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数］×0.6
5,000Ｎ 1.0Ｇタイプ 支柱一本が負担する床加重
［（m2当り自重＋5,000Ｎ）/m2当りの支柱本数］×1.0

ロ）振動台試験による耐震性能（設計床高さ≦300mmの場合のみ）
振動台試験において、パネルの脱落や使用上又は機能上支障をきたす損傷、せり上がり、隙間及び水平移動がない。
（５）耐燃焼性能
建築基準法第２条第９号の規定に基づく不燃材料又は燃焼終了後の残炎時間が0秒
（６）帯電防止性能評価値（Ｕ）
0.6以上
（７）感電防止性能
漏えい抵抗(R)≧$1\times10^{6}\Omega$
（８）歩行感
通常の歩行において空洞音やがたつきがなく、歩行感に違和感がない
（９）メンテナンス性
交換が必要な部品については交換できるよう設計されている。
（試験方法）
（１）耐震性能
１）設計床高さ≦300mmの場合
試験体ユニット1000mm×2500mm程度
所定の重りの質量　3000Ｎ：200ｋｇ　5000Ｎ：350ｋｇ
加振　0.6：所定加速度600ｃｍ／S2　1.0：所定加速度1000ｃｍ／S2
２）300mm＜設計床高さ≦600mmの場合
①固定台による耐震性能試験
イ、支柱調整式－支柱分離型・支柱固定タイプの全てのタイプ共、下記の試験方法－１又は、試験方法－２による。
ロ、原則として、試験方法－１はパネル単体設置（Ａタイプ）に適用し、試験方法－２はパネル連結設置（Ｂタイプ）に適用するものとする。

②試験方法－１
イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品 種類：N300）に接着した支柱の頂部に対し、水平方向に適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。
ロ、加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。試験体数は、３個とする。

2　可動間仕切

（２０．２．３）

構造形式による種類	構成基材の種類 スタッド	構成基材の種類 パネル	総厚さ（mm）	表面仕上げ材 材質	表面仕上げ材 パネル表面仕上げ	遮音性（dB/500Hz）	防火性能
※スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・スタッドパネル式 ・パネル式				※鋼板 ・	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・	・0 ・15程度 ・30程度 ・36以上	・不燃

パネル内に取付ける建具　・ あり（ ※ 図示　・　　） ・ なし
ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落とし は、標準仕様書16章8節の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※JIS A 6512によりＦ☆☆☆☆以上

3　移動間仕切

（２０．２．４）

走行方向	操作方法による種類	圧接装置の操作方法	総厚さ（mm）	表面仕上げ材 材質	表面仕上げ材 パネル表面仕上げ	遮音性（dB/500Hz）
・平行方向移動式 ・二方向移動式	※手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式		※鋼板 ・	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上	

表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hz帯音についての透過損失とする
ハンガーレールの取付け下地の補強
※ 取付け金重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・ 図示
パネルをランナーに取り付ける部品
※ ランナーに加わる重量の５倍以上の荷重に耐えられるもの
・
ハンガーレール及びランナー
※ パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナー数で除した値に対し て、耐力及び変形量が使用上支障のないものとする。
・ 図示
（品質・性能及び試験方法）
（１）パネル（表面材、心材、フレーム材、幅木、笠木及び補強材）及びハンガーレールは、JIS A 6512「可動間仕切」の表9又はこれらと同等以上の品質性能を有し、かつ、腰触腐食をおこさないもの又は防食処理を施したものとする。
（２）吊りボルト
JIS B 1051「炭素鋼及び合金鋼製締結用部品の機械的性質－第一部：ボルト、ネジ及び植込みボルト」による。
（３）パネルの外観
JIS A 6512「可動間仕切」の5.a）～ c）による。
（４）ホルムアルデヒド等
JIS等の材料規定において放散量が規定されているものについては、Ｆ☆☆☆☆とする。
（５）パネルの操作性
パネル操作の初動力は98N以下とする。
（６）耐衝撃性
質量50Kgにおける衝撃試験において構造部材の折れ、曲りの異常がなく表面の、割れ、はがれがないものとする。また、接点・接床部が外れないこと及び多少のずれがあっても圧接装置の調整で元に戻せるものとする。
（７）遮音性能
JIS A 6512に規定する透過損失単位に基づく区分ごとに、500Hzの音について透過損失の既定値に適合すること。遮音性能試験は、JIS A 1416「実験室における建築部材の空気音遮断性能の測定方法」に規定する試験方法又はJIS A 1441-1「音響－音響インテンシティ法による建築物及び建築部材の空気音遮断性能の測定方法-第1部：実験室における測定」による。
（８）パネル圧接装置の耐久性
パネル圧接装置の固定・解除は、7,500回の繰返し耐久試験実施後、質量50kg衝撃試験で異常のないものとする。
（９）レールの耐久性
レールは普通パネルで、吊り車の通過回数が30,000回以上で異常がないものとする。
（１０）吊り車の耐久性
吊り車は、走行距離60ｋｍで操作性に異常がなく、レールに大きな変形がないものとする。
（１１）吊りボルトの引張強度
一本にかかる荷重の15倍以上の引張強度があるものとする。
（１２）ランナーの引張強度
引張試験を実施し、普通パネル重量の５倍の荷重を、パネル１枚に使用するランナーの数で除した値以上の強度があるものとする。

4　トイレブース

（２０．２．５）

表面材の材料	脚部 形状	ドアエッジ 材質
※ メラミン樹脂系化粧板 ・ ポリエステル樹脂系化粧板	※ 幅木タイプ ・	※ 製造所の仕様による

（品質・性能）
（１）パネル

項目	品質・性能
表面材	メラミン樹脂系、ポリエステル樹脂系化粧板又はメラミン樹脂系単一材とする。
裏打材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、防食処理及び防錆処理を施した材料とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
心材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質とする。ただし、メラミン樹脂系単一材の場合は適用しない。
枠材	JIS A 6512「可動間仕切」の表9に対応する材質のうち、鋼材については、亜鉛めっき
エッジ材	処理を施した材料とする。
小口	防水処理を施す。

③試験方法－２
イ、試験は、コンクリート（JIS A 5371プレキャスト無筋コンクリート製品　種類：N300）に接着した数ユニットの支柱の頂部に対し、水平方向に数ユニット分相当の、適用地震時水平力及び水平最大耐力まで加力し、各測定点における水平力、支柱頂部の変形量を測定する。加力方向は、支柱要素に対して最も不利な方向とする。
ロ、最終的に水平力を支持する支柱の本数で除した値を、支柱１本当たりの水平力とする。又、800mm×800mmに荷重板1,900Ｎ（3,000Ｎ／１m2 相当）を１箇所設ける。試験体数は、１セットとする。
④零点補正及び測定記録
試験体と試験機の隙間等を除去するため、始めに適用地震時水平力の1／2程度の水平力を加力した後、速やかに除荷して「０」にした状態を零点とする。又、水平力による各測定点の荷重及び変形曲線を測定し記録する。

３）共通事項
試験に使用する表面仕上げ材
種類：タイルカーペット　　繊維素材：ナイロン100 %
パイル携帯：ループパイル
パイル長：3.0mm～4.0mm　　パッキング素材：塩化ビニル樹脂
全厚：6.0mm～7.0mm　　単位質量：4.0ｋg/m2～6.0ｋg/m2
人体耐電圧：２KV以下

5　手すり

（２）構造金物

項目	品質・性能
脚部 （脚長、幅木）	JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1とし、仕上げはHL程度とする。

（３）付属金物

項目	品質・性能
ヒンジ	耐蝕性のあるものとする。
ラッチセット	
戸当り	腐蝕の恐れのある材料には防錆処理を施してあるものとする。 戸当り部のゴムは、使用に十分耐える材質であるものとする。

（４）外観は、JIS A 6512「可動間仕切」の5.b）による。

（５）パネル表面材の耐薬品性・耐汚染性・耐ひっかき性・開閉耐久性

項目	品質・性能 耐薬品性及び耐汚染性	耐引っかき性
メラミン樹脂系化粧板及びメラミン樹脂系単一材	JIS K 6903(2008)「熱硬化性樹脂高圧化粧板」の表８品質による耐汚染性（Ｂ法）の規定を満足していること。	－
低圧メラミン樹脂系化粧板	ポリエステル樹脂系加工化粧合板、ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ、ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボードのいずれかの品質に適合していること。	
ポリエステル樹脂系加工化粧合板	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐汚染性Ｂ試験において、試験片の表面に色が残らないこと。	JAS「合板の日本農林規格」第９条特殊加工化粧合板に示された耐引っかき性Ｂ試験において、きずの深さの平均値が10μm以内であること。
ポリエステル樹脂系化粧ＭＤＦ	JIS A 5905「繊維板」の表18の規定に適合していること。	
ポリエステル樹脂系化粧パーティクルボード	JIS A 5908「パーティクルボード」の表11の規定に適合していること。	

（試験方法）
（１）ヒンジは、JIS A 1510-2「建築用ドア金物の試験方法－第2部：ドア用金物」に規定する試験による。
（２）戸当りの衝撃試験は、JIS A 1510-2に規定する試験による。
パネル材料のホルムアルデヒド放散量　※ JIS A 6512によりＦ☆☆☆☆以上

材料の種類及び仕上げ　（２０．２．６）
・SUS304（表面処理　※ＨＬ程度　・　　）
◉鋼製　表面処理　溶融亜鉛めっき
（※標準仕様書１４．２．２による種別（・　　種））
◉アルミニウム　表面処理
標準仕様書　表14.2.1による種別　（　　）種
色合等　・標準色（　　）　・特注色（　　）
手すりの握り部分

材種	幅（mm）	直径（mm）	取付箇所	備考
・集成材（材種：　　）	・クリアラッカー ・	・３５程度 ・４５程度		
◉ビニル製	・クリアラッカー	◉３５程度 ・４５程度		

6　階段滑り止め

（２０．２．７）

種類	幅（mm）	取付け方法	端部フラットエンド	
※ ステンレス製（SUS304） ビニルタイヤ入り	※ 約35 ・	※ 接着工法 ・ 埋込み工法	※ あり ・ なし	・ ビニル製 ・ ステンレス製 －

7　黒板及びホワイトボード

（２０．２．９）

種類		寸法（mm）	色彩	形式	
・ 鋼製黒板 ・ ほうろう黒板	※ 焼付け ・		※ 緑 ・ 黒	・ 平面 ・ 曲面	・ スクリーン付き引分け ・
・ ホワイトボード	ほうろう		白		※ スクリーン付き引分け ・

8　鏡

（２０．２．１０）
取付箇所　・ 図示　・
寸法（mm）　・ 図示　・
厚さ（mm）　※ ５　・

9　表示

（２０．２．１１）
衝突防止表示
・ 設置する
形状・寸法（・ 30Φ　・　　）
材質　（・ ステンレス製　　）
・ 設置しない
案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示　※ 消防法に適合する市販品　・
室名札、ピクトグラフ、案内板等の形状、寸法、材質、色、書体、印刷等の種別、取付け形式等
※ 図示

10　タラップ

（２０．２．１２）
材料及び仕上げ
・ ステンレス製　SUS304（表面処理 ※ 研磨なし）
・ 鋼製　（表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき 種別Ｃ種）

11　煙突ライニング

（２０．２．１３）
適用安全使用温度
・ 400℃まで　・ 650℃まで
工法
・
煙突用成形ライニング材
（品質・性能）

種類	・
適用安全使用温度（上限温度）	・ 400℃　・ 650℃
適用安全使用温度（下限温度）	・
加熱線収縮率	2.0%以下
曲げ強度	0.8Ｎ／mm2以上
圧縮強度	1.0Ｎ／mm2以上
スポーリング性	試験体に亀裂の発生、剥離あるいは脱落等がないものとする。
透水性	試験体裏面に水滴が生じないものとする。
耐酸性	試験体に形状変化が見られず、崩壊する危険性がないものとする。
石綿	使用不可。
ライニング材とコンクリートの境界温度	100℃以下とする。

加熱線収縮率、曲げ強度、圧縮強度の確認は、社内試験成績書によることができる。

12　ブラインド

（２０．２．１４）

形式	操作方法	種類	スラットの材質	スラット幅（mm）	ボックスレールの材種	幅・高さ 取付箇所
・横形	※手動	※ギア式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製	※ 25 ・	※鋼製 ・	※図示 ・
	・電動	－				
・縦形	※手動	※２本操作コード式 ・１本操作コード式	※アルミスラット ・クロススラット	・ 80 ・ 100	アルミニウム合金製	※図示 ・
	・電動	－				

アルミスラットの材質　焼付け塗装仕上げ
クロススラットの材質　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工

13　ロールスクリーン

（２０．２．１５）

材種	操作方式	遮光性能	寸法（mm）	取付箇所	備考
・ ガラス繊維製 ・ 合成・天然繊維製 ・ 木製 ・	・ 電動式 ・ スプリング式 ※ チェーン式	・ １級 ・ ２級 ・ ３級 ・	※ 図示 ・	※ 図示 ・	

巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
※ 製造所の仕様

14　カーテン

（２０．２．１６）

形式		開閉操作	ひだの種類	生地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ （三つ山ひだ、二つ山ひだ） ・箱ひだ、片ひだ ・プレーンひだ		※図示 ・	
						（暗幕）

暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※ 300mm以上
カーテン用付属金物
フック（ひるかん）
※ 鋼製　・ 樹脂性

15　カーテンレール

（２０．２．１６）
材料による区分　※ アルミニウム又はアルミニウム合金の押出し成型材
・ ステンレス製
強さによる区分　※ 10-90
仕上げ　※ アルマイト
形状　※ 角形

16　ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝幅×深さ（mm）　・ 90×150　・ 120×80　・ 120×150　・ 150×80　・ 図示
材質　・ 集成材（樹種等は１２章木工事による　仕上げは、仕上表又は図示による）
※ アルミニウム製　押出し型材（市販品）
表面処理　・ BC-1種　・ BC-2種（※ 標準色（　　）　・特注色（　　））
・ 鋼製（仕上げは、仕上表又は図示による）

17　天井点検口

材種	寸法（mm）	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製	※ 450×450 ・ 600×600	※ 一般形	・ 屋内外用 ※ 屋内用	※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ	※ 額縁タイプ ・ 目地タイプ
・	・	・ 気密形			

（品質・性能）
内外枠の材質　アルミニウム製
JIS H 4100 A6063S-S又は同等の性能を有するもの
表面処理　陽極酸化皮膜JIS H 8601(AA6)又は同等の性能を有するもの
（外部に用いる場合は、JIS H 8602の8種又は同等以上の性能を有するもの）
内枠及び外枠のコーナーピース
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
外枠の取付け金物
鋼板に亜鉛めっき等の防錆処理を行ったもの又は同等の性能を有するもの
内枠の仕上げ材留付金物
アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材、亜鉛めっき鋼板又は同等の性能を有するもの
耐久性能（繰り返し開閉試験）
（１）300回の繰返し開閉試験後、内蓋の垂れ下がりが、0.5mm以内とする。
（２）開閉試験後、使用上支障をきたす異常がないこと。
枠の寸法許容差　±0.5mm以内
外枠と内枠のクリアランス　片側2.0mm以内
（試験方法）
内蓋（内枠）の繰り返し開閉試験
（１）試験体は、一般事務用とし、枠見込み40mm程度のものとする。
吊り金物は、外枠を天井下地取付用補強材に直接留付ける方式（天井ボードなどの仕上材を挟んで固定しない方式）とする。標準仕様書14章4節により製作した試験体固定用天井下地開口補強に試験体の天井点検口450mm×450mmを吊り金具4箇所にて各メーカー仕様に従い取付ける。なお、野縁の種類は、19形とし仕上げ材は、せっこうボード厚さ9.5mm（JIS A 6901「せっこうボード製品」のGB－Rの難燃2級又は発熱性２級以上）二重張りとする。
（２）試験は、内蓋を閉じた状態から自由開放状態にする動作を繰り返し行う。
（３）測定は、上記繰り返し試験を300回行い、内蓋の垂れ下がり寸法を測定する。

18　床点検口

材種	寸法（mm）	形式		備考
◉ アルミニウム製 ・ ステンレス製 ・ 鋼製	◉ 450×450 ◉ 600×600 ・	◉ 一般形 ・ 密閉形	◉ 屋内外用 ◉ 屋内用	◉ 鍵付き

密閉形とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄
担当
1級建築士 第363328号 今田 雄貴

（品質・性能）

項目		材質等
受け枠材および蓋枠材	屋内外用	【アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材の場合】
		材質：JIS H 4100「アルミニウム及びアルミニウム合金の押出形材」に規定するA6063S-T5、またはこれと同等の性能を有するもの。
		表面処理：JIS H 8602「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被膜」の8又はJIS H 8601「アルミニウム及びアルミニウム合金の陽極酸化被膜」に規定するAA15、もしくはこれらと同等の性能を有するもの。
		【ステンレス鋼板の場合】
		材質：JIS G 4305「冷間圧延ステンレス鋼板及び鋼帯」に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1またはこれらと同等の性能を有するもの。
	屋内用	【アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材の場合】
		材質：屋内外用に同じ。ただし、その他の構成材（底板、補強材、コーナーピース等）は、屋内用の材質のものとする。
		表面処理：屋内外用に同じ。
		【ステンレス鋼板の場合】
		材質：屋内外用に同じ。
		【鋼板の場合】
		材質：鋼板又はJIS G 3313「電気亜鉛めっき鋼板及び鋼帯」に規定する鋼板にメラミン樹脂焼付塗装等の防錆処理を行ったもの。
		防錆処理：JIS G 3313又は鋼板等に標準仕様書表18.3.1及び表18.3.2の錆止め塗料塗り等の防錆処理を行ったもの。
	二重蓋の場合の中蓋用	【アルミニウム及びアルミニウム合金押出形材の場合】
		材質：屋内外用又は屋内用に同じ。
		表面処理：屋内外用又は屋内用に同じ。
		【ステンレス鋼板の場合】
		材質：屋内外用又は屋内用に同じ。
		【鋼板の場合】
		材質：屋内用に同じ。
		表面処理：屋内用に同じ。
		【鋳鉄製の場合】
		材質：JIS G 5501「ねずみ鋳鉄品」に規定するFC150、FC200。
		【上記以外の場合】
		材質：塩化ビニル樹脂製等
目地材		【黄銅製の場合】
		材質：JIS H 3100「銅及び銅合金の板及び条」に規定するC2600、C2720、C2801又はJIS H 3250「銅及び銅合金の棒」に規定するC3602、C3604もしくはこれらと同等の性能を有するもの。
		【ステンレス鋼板の場合】
		材質：JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1またはJIS G 4308「ステンレス鋼線材」に規定するSUS304もしくはこれらと同等の性能を有するもの。
底板材、受け枠材、蓋枠材のコーナーピース、底板補強材	屋内外用	【ステンレス鋼板の場合】
		材質：JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1L、SUS443J1またはJIS G 4308に規定するSUS304もしくはこれらと同等の性能を有するもの。
		【アルミニウム板の場合】
		材質：JIS H 4000「アルミニウム及びアルミニウム合金の板及び及び条」に規定するA1100P-H24または同等の性能を有するもの。
		表面処理：JIS H 8602に規定するBまたはJIS H 8601に規定するAA15もしくはこれらと同等の性能を有するもの。
		【ステンレス鋼板またはアルミニウム板以外の場合】
		充填用は、補強材及びコーナーピースの窓がモルタル内に埋め込まれる場合は、鋼板も可とする。
	屋内用	【ステンレス鋼板の場合】
		材質：JIS G 4305に規定するSUS304、SUS430J1LまたはSUS443J1もしくは同等の性能を有するもの。
		【鋼板の場合】
		材質：鋼板はJIS G 3313に規定する鋼板にメラミン樹脂焼付塗装等の防錆処理を行ったもの。またはこれと同等の性能を有するもの。
		防錆処理：JIS G 3313または鋼板等に標準仕様書表18.3.1および表18.3.2の錆止め塗料塗等の防錆処理を行ったもの。もしくはこれらと同等の性能を有するもの。
パッキン材		塩化ビニル系ゴム、軟質塩化ビニル、クロロプレン、スポンジラバー、エチレンプロピレン等外枠と蓋枠の材質、形状に適する弾力性及び密着性を有するもの。
アンカー材		鋼板に電気亜鉛めっき又は防錆塗装を行ったもの。または同等の防錆性能を有するもの。
取手		黄銅鋳物製、黄銅製、アルミニウム押出形材・合金鋳物製、ステンレス鋼鋳鋼品、ステンレス鋼材製等の堅牢な材質のもの。ステンレス鋼材、アルミニウム押出形材等で被覆した合成樹脂製のものは、衝撃による変形・割れが生じない構造のもの。
錠		黄銅製、ステンレス鋼製、亜鉛合金製（クロムめっき）の類。

品質

項目	品質等
構造	1．加工は、受け枠・蓋枠とも四隅の接続部に目違い・ずれ・隙間等がない構造であること。 2．組立は、受け枠・蓋枠とも四隅の接続部を溶接接合および留付補強材等により留付けた堅牢な構造であること。 3．開閉状態において蓋枠と受け枠に面外の目違いのない構造であること。又蓋と受け枠の接触部は、歪みがなく歩行等に際してがたつきその他の支障が生じない構造であること。 4．錠付きの場合の施錠・開錠は、鍵または開閉用ハンドル式とする。 5．アンカーは、四周均等かつ竪固に固定できる位置にあること。
許容差	製品の許容差 受け枠基準寸法　600mm角程度まで 受け枠寸法の許容差　±0.5mm 蓋枠寸法の許容差　±0.5mm 受け枠と蓋枠のクリアランス　片側2.0mm以内

性能
蓋の耐荷重性能
イ）加圧する加重値Pn=1.000N
ロ）蓋中央部の残留たわみが点検口の有効径の0.08%以内
ハ）受け枠・蓋その他に使用上の支障がないこと
ニ）破壊荷重が、加圧荷重値Pnの２倍以上

（試験方法）
耐荷重試験
（１）試験体
試験体は、受け枠・蓋枠ともアルミニウム製を含む場合は、アルミニウム製（目地材にステンレス製等を使用したもの可）を優先する。また、仕上げ材を張付けないもの（底板面）とする。
イ）貼物用とし、600mm角程度とする。
ロ）枠見込みは40mm以下とし、蓋の底板は単層の製品で、補強材は各製品のうち断面係数が小さいものとする。また、材質、厚さ、形状及び位置は、常時生産品とする。
（２）試験
イ）試験は、蓋枠の四周を支持させ、蓋の中央部に∅50mmの加圧板を設置し、加圧する。
ロ）本試験前に200Nを加圧した後、本試験を行う。
ハ）本試験は、1,000Nで加圧、荷重除去を３回繰り返し行った後、その後試験体が破壊する（終局荷重）まで加圧する。

19 耐震スリット

方向	幅	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直	・２５・	・完全（全貫通型）	・耐火型	・有り	
・水平	・２５・		・非耐火型	・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材（見え掛かり部のみ）・	・シーリング材（見え掛かり部のみ） ・シーリング材（内外共）
目地寸法（mm）	・幅20 ×深さ10 ・	・幅20 ×深さ10 ・

20 止水板
シーリング材の種類は標準仕様書表9.7.1による
形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
材質　・塩化ビニル製（種類　　）　・非加硫ブチルゴム製　・
寸法（ｍｍ）
施工箇所　・図示　・

㉑ エキスパンションジョイント金物
耐震性能
建築非構造部材の耐震性能に係る特記事項による

22 旗竿

材種	形式	高さ（mm）	操作方法	固定方法	備考
※ アルミニウム合金製・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・ハンド式	

23 旗竿受金物　材種　※ ステンレス製（SUS 304）　・
24 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚（mm）	高さ（mm）
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製		

25 フェンス
フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス　・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス　・アルミフェンス
高さ　※ 図示　・

26 プレキャストコンクリート　（２０．３．３、４）
コンクリートの設計基準強度
※ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300ｋｇ/m3を満足する調合強度
・図示
配筋
※ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法
※ 図示

27 間知石及びコンクリート間知ブロック積み　（２０．４．２、３）

材種		種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート間知ブロック	―		・Ａ　・Ｂ	

積み方　※ 谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮調整目地　材種　・図示
厚さ　・図示

28 鋼製書架、物品棚及び移動式書架

種　類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・１種　・２種　・３種
・鋼製物品棚	JIS S 1039 の規格による	・４種　・５種　・６種
・移動式書架	形状等は図示による	

29 屋内掲示板
枠の材質　※ アルミニウム製
表面の材質　※ 塩ビ発泡シート張り
形状寸法　※ 図示による　・

30 洗面カウンター
材　種　※ メラミン樹脂化粧板張り（心材：集成材）　・人工大理石
奥行き（mm）　・約 450　・約 600
・固定式

材　質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備　考
※ 網入り磨き板ガラス ・線入り磨き板ガラス	※ 6.8	※ 500	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ(mm)	備　考
・垂直降下式（巻取り型）	※ 不燃布（不燃認定品）	※ 500 ・ 800	ガイドレール ※ 固定式（壁埋込型） ・ 可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・ 800	表面仕上げ ※ 天井材張り

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

㉜ 収納家具
材質、形状、寸法　※ 図示
合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※ Ｆ☆☆☆☆　・
33 屋外掲示板
本体材質　※ ステンレス製　・
照明器具　・有り　・無し
掲示板面材質　・
施錠装置　※ 有り　・無し
形状寸法　※ 図示による　・

34 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼（SUS304）製 ・	・ステンレス鋼（SUS304） ・硬質アルミニウム合金製 ・	

35 階段手すり（金属工事以外）

材質	表面仕上げ	直径（mm）	取付箇所
※ 集成材	・クリアラッカー　・	・35　・45　・	
・ビニル製ハンドレール			

㊱ 天井見切り縁等
壁及び下がり壁と天井の取合いの見切縁（天井見切縁、下がり壁見切縁）の材種
・アルミニウム既製品　◎ ビニル既製品
・見切り縁兼用タイプ　・
移動フック　　ヶ/m　安全荷重　※ 15ｋｇ以上　・

37 ピクチャーレール
38 視覚障害者用床タイル（視覚障害者誘導用ブロック）　（１１．２．２、１９．２．２）

施工箇所	種類	寸法（mm）	厚さ（mm）
屋内	・塩化ビニル製	※ 300×300　・	・7.0　・
	・セラミックタイル	※ 300×300　・	・
	・レジンコンクリート製	※ 300×300　・	・
	・コンクリート製		
屋外	・セラミックタイル	※ 300×300　・	・
	・レジンコンクリート製	※ 300×300　・	・
	・コンクリート製		

突起の形状、配列及び寸法は JIS T 9251による

㊴ 流し台ユニット

種類	寸法（mm） W	D	H	備考
◎ 流し台	・1200 ◎ 1500 ・1800	・550 ◎ 600 ・650	◎ 800 ・850	市販品（木製扉・木製キャビネット） 仕上げ：※ 化粧パーティクルボード トラップ付き 天板ステンレス製
◎ コンロ台	◎ 600	・550 ◎ 600 ・650	◎ 620 ・670	市販品（木製扉・木製キャビネット） 仕上げ：※ 化粧パーティクルボード バックガード有り 天板ステンレス製
◎ つり戸棚	・1200 ◎ 900	◎ 450	◎ 500 ・700	市販品（木製扉・木製キャビネット） 仕上げ：※ 化粧パーティクルボード
◎ 水切り	・1200 ◎ 900 ・600	―	―	市販品 ステンレス製 ・１段式

（品質・性能）
（１）外観は、JIS A 4420「キッチン設備の構成材」の4.1による。
（２）構成材は、JIS A 4420の8に試験を行ったとき、表1の規定による。
形状　※ 図示　・

２１ 排水工事

① 屋外雨水排水
材料　（２１．２．１、２）（表２１．２．１、２）

材種	種類・記号	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※ 外圧管（１種）	・Ｂ形管	※ 図 示	
◎ 硬質ポリ塩化ビニル管	・ＲＦ－ＶＰ		※ 図示　・	
	・ＲＳ－ＶＵ		※ 図示　・	
	◎ ＶＰ		※ 図示　・	
	・ＶＵ		※ 図示　・	

基床の厚さ及び種類　※ 図示
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※ 接着剤
側塊の形状及び寸法　※ 図示
排水桝の種類　※ 図示
砂地業に用いる材料　※ シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
砂利地業に用いる材料　※ 再生クラッシャラン
・切込砂利又は切込砕石
現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度　※ 18Ｎ／ｍｍ2
スランプ　※ １５ｃｍ又は18ｃｍ　◎構造図土間スラブ　材料による
現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度　※ 18Ｎ／ｍｍ2　◎構造図土間スラブ　材料による
スランプ　※ １５ｃｍ又は18ｃｍ　◎構造図土間スラブ　材料による
現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※ SD295A
排水桝が現場打ちの場合の足掛け金物
材料　※ ステンレス製　・鋼製　・合成樹脂被覆加工を行った足掛け金物
凍上抑制層に用いる材料
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

② 排水桝ふた　（２１．２．１）

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
鋳鉄製マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形（パッキン式） ・密閉形（テーパ・パッキン式） ・中ふた付き密閉形（テーパ・パッキン式）	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は（公社）空気調和衛生工学会 SHASE-S209による
塩ビ製	・ＲＳ－ＶＵ			

③ グレーチング　（２１．２．１）
材料（鋼製、ステンレス製）、用途（溝ふた【横断用、側溝用】、桝ふた用、U字溝用）、適用荷重（歩行用、Ｔ－２、Ｔ－６、Ｔ－１４、Ｔ－２０）、形式（受枠付きボルト固定の有無）、メインバーピッチ（細目、普通目）、上面形状（凹凸形、平形）は、図示による
（品質・性能等）
＜鋼製グレーチング＞

項目	品質・性能
メインバー、サイドバー及びエンドプレート	JIS G 3101　SS400 またはこれと同等の性能を有すること
クロスバー	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3505 「軟鋼線材」SWRM またはこれと同等の性能を有すること
受け枠用アングル材	JIS G 3101 SS400及びJIS G 3132 「鋼管用熱間圧延炭素鋼鋼帯」SPH 塗装仕上げとする場合は、樹脂系塗料
溶融亜鉛めっきの付着量	JIS H 8641「溶融亜鉛めっき」による試験において溶融亜鉛めっきの膜厚がHDZT56以上又は、HDZT70以上
アンカー	間隔　側溝の場合500mm内外
ふた	幅及び長さの許容差　±3.0mm
荷重性能	設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

＜ステンレス製グレーチング＞

項目	品質・性能
メインバー	JIS G 4303、JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4308、もしくはJIS G 4318に基づくSUS304又はJIS G 4304、もしくはJIS G 4305に基づくSUS430JIL
クロスバー	JIS G 4303、JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4308、もしくはJIS G 4318に基づくSUS304又はJIS G 4304、もしくはJIS G 4305に基づくSUS430JIL
エンドバー、サイドバー	メインバー及びクロスバーの材質並びにJIS G 4317「熱間成形ステンレス鋼形鋼」もしくは、JIS G 4320「冷間成形ステンレス鋼形鋼」に基づく規定するSUS304又はJIS G 4304、JIS G 4305に基づく規定するSUS430JIL
受け枠用アングル材	JIS G 4304、JIS G 4305、JIS G 4317、JIS G 4320のSUS304又はJIS G 4304、JIS G 4305のSUS430JIL
アンカー	JIS G 3101 SS400 、塩害の多い地区は塩害に対する防錆処理を行う 間隔　側溝の場合500mm内外
表面仕上げ	2B程度
ふた	幅及び長さの許容差　±3.0mm
荷重性能	設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないものとする

（荷重試験方法）
（１）荷重条件
イ）横断溝用の設計荷重は、下表に示す衝撃を考慮した荷重とする。
ロ）側溝用の設計荷重は、下表に示す後輪一輪荷重とする。

歩車道区分	荷重種別	後輪一輪荷重（ＫＮ）	衝撃を考慮した荷重（ＫＮ）	後輪設置面積（ｃｍ）
車道	T-20	78.5	109.8	20×50
	T-14	54.9	76.9	20×50
	T-6	23.5	33.0	20×24
	T-2	7.8	11.0	20×16
歩道	4,903N/m2の等分布荷重			

（２）許容曲げ応力度
許容曲げ応力度は、実施する試験体のメインバー材と同じ材で行った材料強度試験体力N/mm2（kgf/cm2）データにより設定する。
（３）荷重試験
試験方法　試験体への加力
イ）設計荷重を基準として一方向に繰返し加力を行う。加力速度は、原則として4903N/s（0.5tf/秒）とする。
ロ）繰り返し加力は、３回行った後、残留ひずみがないか確認する。
ハ）上記ロ）を行った後、設計荷重の1.5倍まで加力し、溶接部のはずれ等の異常について確認する。
性能基準
イ）設計荷重等の３回繰返し荷重後のひずみ度の判定基準は、「（２）許容曲げ応力度」より定める。（この時のヤング係数は、鋼材…206KN/mm2（2.1×10^6kgf/cm2）、ステンレス鋼材…212KN/mm2（2.16×10^6kgf/cm2）を用いる）
ロ）設計荷重の1.5倍までの加力に対して、溶接部のはずれ等その他の異常がないこと。
（４）試験体
溝ふた、U字溝ふたとし、下記の種類ごとに強度計算における応力度が最大となる製品について試験を行う。
イ）溝ふた　横断用　T-20～T-2のうち1体
歩道用　1体
側溝用　T-20～T-2のうち1体
ロ）U字溝用　側溝用　T-14～T-2のうち1体
歩道用　1体
（５）材料強度試験について
グレーチングの荷重耐力試験に先立ち、グレーチングの試験体に用いたメインバー材の体力を確認するため、下記のイ）の試験またはロ）の試験データを提出する。
イ）試験供試体に使用したものと同材のグレーチングの荷重耐力試験に先立ち、下記により材料強度試験を行う。
材料試験供試体：試験片はJIS Z 2241「金属材料引張試験方法」による。また、試験片数は各３本とする。
試験方法：JIS Z 2241に基づく耐力及び引張り強さとする。ただし、ステンレス材の耐力は、JIS Z 2241に示すオフセット法で算出した0.2%耐力とする。
ロ）試験供試体に使用したものと同材の試験を上記（１）と同様の試験を行ったデータがある場合は、そのデータを提出する。
（６）グレーチング荷重試験の試験供試体の大きさについて
溝幅に直交方向の寸法は、原則として1m程度とする。

4 街きょ、縁石及び側溝　（２１．３．１、２）（表２１．３．１）

種類	形状、寸法
◎ 縁石	※ 図示　・
・Ｌ形側溝	※ 図示　・
・Ｕ形側溝	※ 図示　・
・Ｕ形側溝ふた	※ 図示　・

砂地業に用いる材料　※ シルト、有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂
砂利地業に用いる材料　※ 再生クラッシャラン
・切込砂利又は切込砕石
現場打ちの場合のコンクリート材料
設計基準強度　※ 18Ｎ／ｍｍ2
スランプ　※ １５ｃｍ又は18ｃｍ
砂利地業の厚さ　※ 100mm　・図示
現場打ちの場合の鉄筋
種類の記号　※ SD295
凍上抑制層に用いる材料
砂を用いる場合の粒度試験　・行う　・行わない

⑤ 埋戻し土　※ Ｂ種　（２１．２．１）

２２ 舗装工事

1 路床　（２２．２．２、３）（表２２．２．１）

種別	材料	厚さ（mm）
・盛土	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 ・建設汚泥から再生した処理土	※ 図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン　・クラッシャラン ・切込み砂利　・砂	※ 図示 ・
・フィルター層	・標準仕様書22.2.3(3)による ・	※ 図示 ・

凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験
・行う　・行わない
路床安定処理の方法
・添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・１号）　・消石灰（・特号　・１号）
添加量　・　ｋｇ／m3（目標ＣＢＲ　・3以上　・　）
目標ＣＢＲを満足する添加量の確認方法
・安定処理土のＣＢＲ試験
・ジオテキスタイル
単位面積質量　・60ｇ／m2以上　・
厚さ（mm）　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98Ｎ／５ｃｍ（10ｋｇｆ／５ｃｍ）以上　・
透水係数　・1.5×10^{-1}ｃｍ／ｓｅｃ以上　・
試験
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う　・行わない

② 路盤　（２２．３．２、３、５）（表２２．３．１）
路盤の厚さ　※ 図示　・
路盤材料の種別
・クラッシャラン
・粒度調整砕石
※ 再生クラッシャラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシャラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ
路盤締固め度の試験　※ 行う　・行わない

③ アスファルト舗装　アスファルト舗装の構成及び厚さ　※ 図示　・　（２２．４．２～６）（表２２．４．４）
材料
アスファルト　※ 再生アスファルト　（種類 ※ 60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
※ アスファルトコンクリート再生骨材
加熱アスファルト混合物等の種類
・密粒度アスファルト混合物（13）
・細粒度アスファルト混合物（13）
・密粒度アスファルト混合物（13Ｆ）
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

4 コンクリート舗装　コンクリート舗装の構成及び厚さ　（２２．５．２～４、６）（表２２．５．１、３）

舗装の種類	部位	構成	厚さ（mm）
コンクリート舗装	車路及び駐車場	図示	図示
	歩行者用通路	図示	※　７０

寒冷地の縁部立下り寸法等　・図示
材料
コンクリート　※ 標準仕様書表22.5.1による　・
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※ 低弾性タイプ　・高弾性タイプ
目地
種類、間隔、構造　※ 標準仕様書表22.5.3及び図22.5.1による　・図示
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

工事名称　大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４
令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 ２２（１）第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄
担当　1級建築士 第363328号 今田 雄貴

図面名称　特記仕様書８

SCALE　－　1A　08

縮小率　Ａ３版１００%
Ａ１版２００%

5 カラー舗装

・ 加熱系カラー舗装 （２２．６．２～４）
構成・厚さ ※ 図示
加熱系混合物の結合材 ・ アスファルト混合物
・ 石油樹脂系混合物 顔料の添加量（ %）
着色骨材（ ）、自然石（ ）
・ 常温系カラー舗装
工法 ・ ニート工法 ・ 塗布工法
着色部の下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装

舗装の平たん性 ※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

6 透水性アスファルト舗装

舗装の構成 ・ 図示 （２２．７．２、３、６）
材料
骨材 ・ 道路用砕石
・ アスファルトコンクリート再生骨材
試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない
砂の粒度試験 ・ 行う（適用場所 ・ フィルター層 ・ 砂を用いる場合の凍上抑制層）
・ 行わない
舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの

⑦ ブロック系舗装

・ コンクリート平板舗装 （２２．８．２、３）

種類	寸法（mm）	厚さ(mm)	目地材	備考
※ 普通平板(N) ・ 透水平板(P) ・ 保水性平板(M)	※ 300角	※ 60 ・	※ 砂 ・ モルタル	表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し

仕上り面の平たん性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。

⊙ インターロッキングブロック舗装

種類	部位	形状 寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N／mm2)	備考
※ 普通ブロック（N） ・ 透水性ブロック（P） ・ 保水性ブロック（M）	歩行者用通路	⊙ 図示 ・	※ 80 ・	※ 5.0 ・	表面加工 ・ 標準品
※ 普通ブロック（N） ・ 透水性ブロック（P） ・ 保水性ブロック（M）		・ 図示 ・	※ 60 ・	※ 3.0 ・	
・					

クッション材
・ 砂 ・ 空練りモルタル
仕上り面の平たん性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、インターロッキングブロック間の段差は3mm以内とする。

・ 舗石舗装

種類	形状・寸法(mm)	厚さ (mm)	施工方法	基層	基層の厚さ (mm)
※ 花こう岩 ・	・ 割石 ・ 図示	・	・ うろこ張り	・ コンクリート版 ・ アスファルト混合物	※ 70 ※ 50

仕上り面の平たん性 ※ 歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm以内とする
・
・ ジオテキスタイル
単位面積質量 ・ 60g／m2以上 ・
厚さ(mm) ・ 0.5～1.0 ・
引張強さ ・ 98N／5cm（10kgf／5cm）以上
透水係数 ・ 1.5×10^{-1} cm／sec以上 ・

8 砂利敷き

種別 （２２．９．２）
・ A種（施工範囲： ・ 図示 ・ 通路 ・ ）
・ B種（施工範囲： ・ 図示 ・ 建物周囲その他 ・ ）

9 路面標示用塗料

路面標示用塗料はJIS K 5665による。

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)	適用部位
※ 3種1号	溶融	粉体状	⊙ 白	⊙ 120	⊙ 1.0	⊙ 白線
・ 1種	常温	液状	・	⊙ 450	・	⊙ 車椅子駐車場ライン、マーク
・ 2種	加熱					・

低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

① 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度指数（pH）試験 ・ 行う ⊙ 行わない （２３．１．３）
電気伝導度（EC）の試験 ・ 行う ⊙ 行わない

② 植栽基盤の整備 （２３．２．２、４）

植栽	工法	有効土層の厚さ（cm）	整備範囲	土壌改良材
樹木	※ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種	樹高12m以上 （ ※ 100 ・ 120 ・ 150） 樹高7m以上～12m未満 （ ※ 80 ・ 100） 樹高3m以上～7m未満 （ ※ 60 ・ 80） 樹高3m未満 （ ※ 50 ・ 60）	・ 葉張り部分 ・ 植栽部分 ・ 図示 ・	・ 適用する ・ 適用しない
芝、地被類	※ B種 ・	※20	⊙ 植栽部分 ・ 図示 ・	⊙ 適用する ・ 適用しない

植栽基盤の排水設備 ・ 設ける（ ※ 図示 ・ ） ・ 設けない

③ 植込み用土

・ 現場発生土の良質土 ⊙ 客土 （２３．２．３）

4 土壌改良材

種別及び指定量等 （２３．２．３）
⊙ バーク堆肥
施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示
使用量 植栽基盤面積1m2あたり （ ・ 50L ・ ）
・ 汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）
施工箇所 ※ 植栽範囲 ・ 図示
使用量 植栽基盤面積1m2あたり （ ・ 10L ・ ）

材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする

5 樹木

樹種、寸法、株立数等 ※ 図示 （２３．３．２）

6 支柱

支柱材 ※ 丸太（間伐材） ・ 真竹 （２３．３．２、３）
防腐処理方法 ※ 加圧式防腐処理丸太材
形式 ・ 図示

7 幹巻き用材料

材料 （２３．３．２）
※ 幹巻き用テープ ・ わら及びこも

8 芝

種類 ※ コウライシバ ・ ノシバ （２３．４．２、３）
芝張りの工法
平地 ※ 目地張り ・ べた張り
法面 ・ 目地張り ※ べた張り

9 吹付けは種 （２３．４．２）

種子の種類	発芽率	種子の量（g/m2）	備考
※洋芝類（採取後２年以内）	※発芽率80%以上		

10 地被類 （２３．４．２）

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

⑪ 新植、芝等の枯補償 （２３．３．４、６）（２３．４．７）（２３．５．３）

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※ 引渡しの日から１年 ・ 無し

12 移植樹木の枯損処置

移植樹木の枯損処置を行う期間 （２３．３．６）
※ 引渡しの日から１年 ・ 無し ・

13 屋上緑化

植栽基盤及び材料 （２３．５．２～４）
・ 屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・ 図示 ・
排水層 ・ 軽量骨材（層の厚さ： ） ・ 板状成形品
植込み用土 ※ 改良土 ・ 人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種又は種類、寸法、株立数等 ※ 図示
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示

（品質・性能）

項目	品質・性能
透水フィルターの材質及び透水性能	材質は、合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるもの。透水性能はその週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できること。
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で対腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240Ｌ／m2・ｈ以上
耐荷重性能（排水層の許容圧縮強度）	最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍以上、かつ、一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。3×10^{5} Ｎ／m2の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。（保水層を有する場合は保水層共）
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（１）透水フィルタの透水性能
（イ）JIS A 1218「土の透水試験方法」の定水位透水試験に準じたインターロッキングブロックの透水性試験装置の下部に試験体（透水フィルタ）をセットし、その上に砂（JIS A5308「レディミクストコンクリート」付属書Ａに規定する砂）及びシルト#250を容積比9：1の割合で混合し、高さ80mmの試験容器に加圧せずに均一に充填する。（試験体１体）
（ロ）常温で１日置いた後、上部より給水する。給水5日間連続後取り出して自然水切り2日とした給水サイクルを繰り返す。週2回を下回らない測定回数で圧力差の水頭差110mmを保持したまま、１分間の透水量を計量し、透水係数を算出する。なお、乾燥工程の試験室は室温20±3℃湿度60±5%とする。
（ハ）水切り工程は、試験体の入った試験装置を取り出し、試験室内に水が切れる状態で保管する。
（ニ）各サイクルごとの透水係数の推移をグラフ化し、6週間を過ぎるまでにその週の数値が直前の週の数値より高い値を維持し、透水係数の上昇傾向を確認できれば目詰まりが解消方向にあると判断し、合格とする。
（ホ）試験開始後6週間、流水時間合計が30日を越えた時点で透水係数がまだ上昇に転じない場合は、その後も透水量が増加する方向へ向かうまで流水時間を延長して確認することも可とする。
（２）排水層の耐荷重性能
（イ）最大土壌層厚の単位面積当たりの重量の1.5倍かつ3×10^{5} Ｎ/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。又その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。加圧速度は10mm/ｍｉｎ以下とする。

・ 屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立本数等 ※ 図示
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※ 図示
（品質・性能）

項目	品質・性能
透水、排水層等構成材の主要材質	合成樹脂等で耐腐食性及び耐久性のあるものであること。（保水層を有する場合は、保水層共）
透水層	目詰まりにより植物の生育に支障を生じることがなく、植え込み用土を流出させない構造であること。
排水層	植物の生育に必要な排水性能を持ち、通気性及び植込み土壌を支え、流出しない構造をもつこと。
排水層の鉛直方向の排水性能	240Ｌ／m2・ｈ以上
耐荷重性能（排水層の許容圧縮強度）	一般メンテナンス時の上部歩行に際し破壊しないこと。 3×10^{5} Ｎ／m2以上の載荷重で破損・有害なひずみなど異常のないこと。 （保水層を有する場合は保水層共）
耐根層	重ね合わせ部を含め、クマザサ等の地下茎伸長力の強い植物に対して３年以上の耐根性能を有し、かつ、耐腐食性及び耐久性のあるものであること。
耐根層保護層	材質は、合成樹脂等とし、耐腐食性及び耐久性を有し、かつ、施工中及び施工後の耐根層を保護するものであること。ただし、耐根層を保護コンクリート（絶縁シートも含む）の下に設ける場合は省略することができるものとする。

（試験方法）
（１）排水基盤の耐荷重性能
（イ）3×10^{5} Ｎ/m2の等分布荷重による加圧試験を行ない、排水層及び耐根層等に有害な変形・破壊の起きないことを確認する。また、その時の圧縮応力に対する歪み（%）を測定する。（保水層を有する場合は保水層も対象とする。）
（ロ）試験体は耐根層から透水層までを通常使用状態にセットした3体とする。
加圧速度は10mm／ｍｉｎ以下とする。

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（ ・ 1 ・ 1.15 ・ 1.3）倍の風圧力に対応した工法
支柱 ・ 設置する（形式 ・ 図示 ・ ）
かん水装置 ・ 設置する（種類 ・ ）

建築非構造部材の耐震性能に係る標準的な特記事項

建築設計基準	項目		特記事項
外壁	帳壁	CW（メタルPCa）	CW工事 取付方法、性能等 地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度（K_H） ※１．０ ・ 設計用鉛直震度（K_V） ※０．５ ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
・１／１００ ・１／２００ ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

層間変形角１／３００に対して、ほとんど補修の必要がなく、継続使用に耐えること。

		ＡＬＣパネル	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度（K_H） ※１．０ ・ 設計用鉛直震度（K_V） ※０．５ ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
・１／１００ ・１／２００ ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

		押出成形ｾﾒﾝﾄ板（ＥＣＰ）	外壁パネルの耐震性 地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度（K_H） ※１．０ ・ 設計用鉛直震度（K_V） ※０．５ ・	地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
・１／１００ ・１／２００ ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

外壁	仕上げ	石工事	—
扉	特定室等及び避難経路の扉 重量がある扉	ＡＤ ＳＤ ＬＤ ＳＳＤ	ＲＣ壁に設置する特定室等及び避難経路の扉 ・耐震ドア　面内変形追随性の等級（・　） （建具符号：※建具表による　・　）

重量がある扉
以下の設計用震度の地震力に対して、脱落が生じないものとする。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
設計用水平震度（K_H）　※１．０
設計用鉛直震度（K_V）　※０．５
（建具符号：※建具表による　・　）

ガラス	ガラス	ガラス	構造体の層間変形に対する追従性 以下の構造体の層間変形角に対して、破損、脱落が生じないよう取り付けられているものとする。 構造体の層間変形角　・１／１００ ・１／２００ ・／
天井	特定天井	軽量鉄骨天井下地（特定天井）	範囲　※図示 特定天井の設計用震度及びクリアランスは以下による。 特定天井告示（平成２５年国土交通省告示第７７１号）による特定天井の設計用震度 検証ルート（　）

室名	階	設計用水平震度（K_H）	設計用鉛直震度（K_V）	クリアランス（mm）
		・	・	・
		・		

天井	特定天井以外の在来工法による吊り天井のうち天井材の落下により著しい影響がある室のもの	軽量鉄骨天井下地（緊結吊天井）	範囲　※図示 標準仕様書１４．４．１～１４．４．４に加えて、天井下地材における耐震性を考慮した補強は、以下の１）～４）のとおりとする。 １）野縁受けは、相互にジョイントを差し込んだ上でねじ留め。 ２）野縁や野縁受けの隅り合うジョイントの位置は、互いに１ｍ以上離し、千鳥状に配置。 ３）野縁受けと吊りボルトの接合に用いるハンガーは、ねじ留め等の措置（開き止め）を講じる。 ４）野縁と野縁受けの接合に用いるクリップは、特定天井告示（平成２５年国土交通省告示第７７１号）第３第３項に適合する天井に用いられるもの又は耐風圧クリップ相当の緊結度合を「新たな特定天井の技術基準（天井と周囲の壁等との間に隙間を設けない仕様の追加）の解説（平成２８年７月版）」（国土交通省国土技術政策総合研究所他）の「付録１クリップの接合部の衝撃試験」により確認されたものを使用する。なお、当該クリップは、ＪＩＳＡ６５１７によらなくてもよいものとする。

天井	在来工法の吊り天井	軽量鉄骨天井下地	—
天井	システム天井	システム天井	※グリッドタイプ　・システム天井 範囲　※図示 耐震性 以下の設計用震度の地震力及び構造体の層間変形角に対して、脱落しないものとする。 なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 設計用水平震度（K_H）　※１．０ 設計用鉛直震度（K_V）　※０．５ 構造体の層間変形角　・１／１００ ・１／２００ ・／
間仕切り	間仕切り	ＡＬＣパネル	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度（K_H） ※１．０ ・ 設計用鉛直震度（K_V） ※０．５ ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
・１／１００ ・１／２００ ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

		押出成形ｾﾒﾝﾄ板（ＥＣＰ）	間仕切りパネルの耐震性 地震力に対する安全性

設計用震度	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
設計用水平震度（K_H） ※１．０ ・ 設計用鉛直震度（K_V） ※０．５ ・	設計用震度の地震力に対して、部材に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないこと。ただし、所定の応力度以内にあることの確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。 所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値とする。

構造体の層間変形に対する追従性

層間変形角	帳壁（仕上面及び構造体から仕上面までの接合部材）の性能
・１／１００ ・１／２００ ・	左記の層間変形角に対して、脱落しないこと

		軽量鉄骨壁下地	—
その他の建築非構造部材	フリーアクセスフロア	フリーアクセスフロア	20章　フリーアクセスフロアの特記事項による
	エキスパンションジョイント金物	エキスパンションジョイント金物	

材質	階区分	建築物間のクリアランス（mm）	変位追従量（mm）	耐火性能	断熱性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	（　）階 ～（　）階	・５０ ・１００ ・１５０ ・	（避難経路の床等） ・　以上 （その他） ・　以上	・有り （　） ・無し	・有り （　） ・無し	
・アルミニウム製 ・ステンレス製	（　）階 ～（　）階	・５０ ・１００ ・１５０ ・	（避難経路の床等） ・　以上 （その他） ・　以上	・有り （　） ・無し	・有り （　） ・無し	

外部に設置するものは、防水型とする。
エキスパンションジョイントカバーには、脱落防止措置を講じる。

家具、門扉・囲障その他の工作物	壁等に固定する家具	壁等に固定する家具	固定方法　・壁固定（図示） ・床固定（図示）

以下の設計用震度の地震による引抜き力に対して固定金具に生じる応力度が所定の応力度以内にあり、有害な残留ひずみが生じないものとする。ただし、所定の応力度以内にあたる事の確認が困難な場合は、試験等により設計用震度の地震による引抜き力に対して有害な残留ひずみが生じないことを確認する。なお、水平方向の地震力に対する確認は面内方向及び面外方向について行う。
所定の応力度は、短期許容応力度とし、短期許容応力度が定められていない材料については、関連基規準（製造者等により構成される協会等が定める指針等を含む。）が定める値による。

設計用水平震度（K_H）　※１．０
設計用鉛直震度（K_V）　※０．５

家具名称	設置場所	備考
・	・	・
・	・	・
・	・	・
・	・	・

・軽量鉄骨壁下地等への補強　（　※図示　・　）
※収納物の散乱防止措置（ラッチ機構、ロック機構等）を講ずる。

工事区分表　（一般関係）

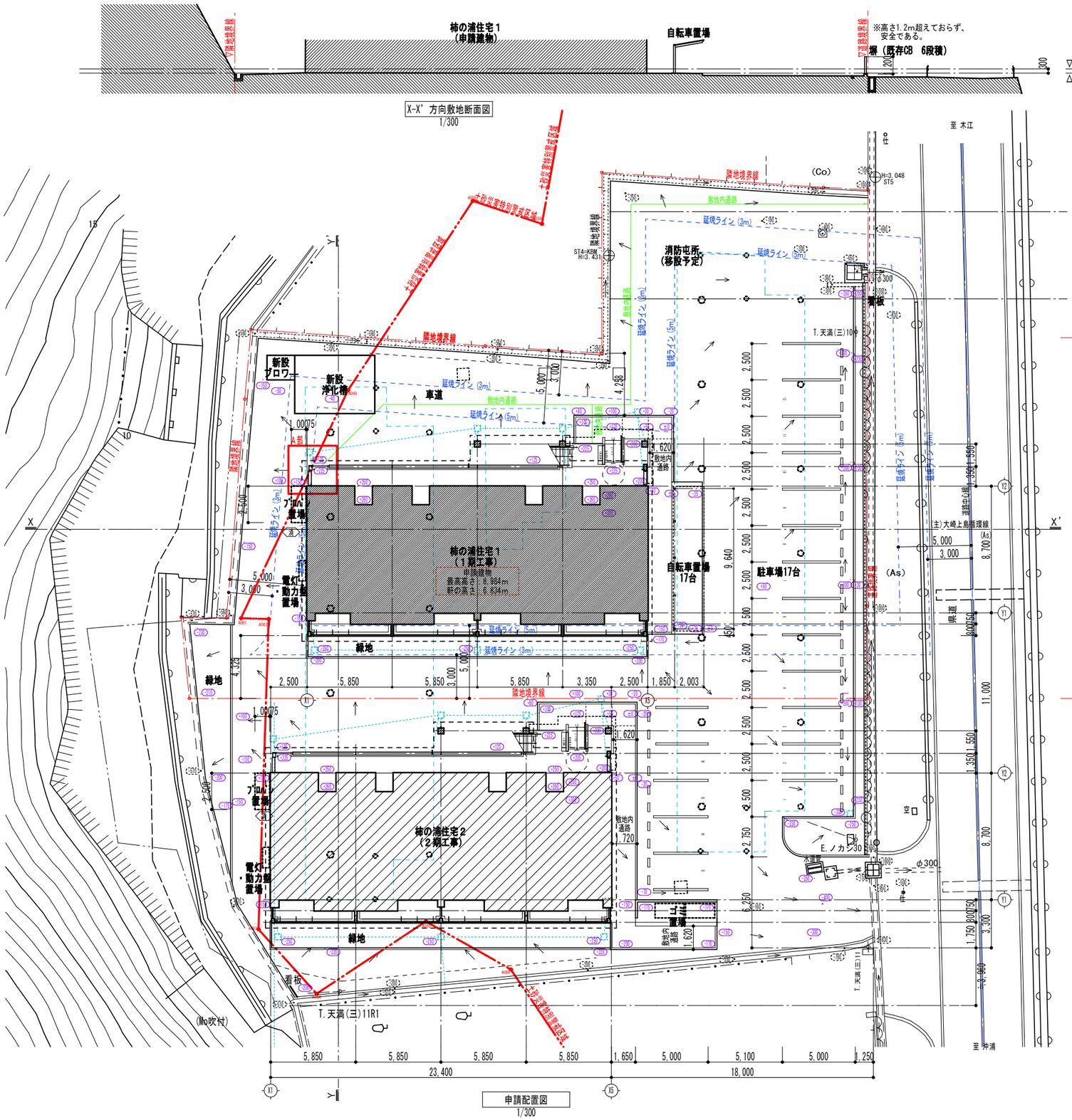
工事区分	工事内容	建築	電気	機械		備考
1　スリーブ、 仮枠補強	(1)　基礎梁　梁壁床等を貫通する鋼管スリーブ（将来用共）		●	●		
	(2)　上記以外の基礎梁　梁壁床等の貫通スリーブ（将来用共）					
	(3)　1,2,　の項目の貫通部分の鉄筋補強	●				
	(4)　発電気煙導用ボイラー煙導用スリーブ	●				
	(5)　盤及びボックス類の仮枠		●			
	(6)　4,5,　の項目の開口部分の補強	●				
	(7)　天井埋込照明器具類取付用切込及び補強	●				
	(8)　吹出口　吸込口等取込用切込及び補強	●				
	(9)　7,8,　のスミ出し		●	●		
	(10)　スリーブ穴モルタル詰め補強	●	●	●		
	(11)　7,8,　のスミ出し	●	●	●		
	(12)　昇降機、機械室床　穴あけ工事（スミ出し共）					
2　ピットシャフト トレンチ点検口	(1)　配管配線用のトレンチ蓋	●				
	(2)　ＰＳ，ＥＰＳ，ＤＳ	●				
	(3)　床、壁、天井シャフトピットの点検口	●				
	(4)　油管用トレンチ					
3　コンクリート基礎 （モルタル仕上げ共）	(1)　高架水槽　受水槽					
	(2)　給水ポンプ、消火ポンプ					
	(3)　空調機　パッケージ屋外ユニット					
	(4)　テレビアンテナ、避雷針					
	(5)　自立盤					
	(6)　発電設備（基礎）					
	(7)　受電設備（フェンス工事）					
	(8)　機器類のアンカー打込		●	●		
	(9)　プロパンガス集合装置			●		
	(10)　冷温水、冷却水ポンプ					
4　給水、電気、 電話、ガス引込 下水本管接続	(1)　給水引込工事	工事用		●		
	(2)　水道施設整備納付金					
	(3)　電話引込工事及び負担金（工事用は除く）		●（配管のみ）			
	(4)　電力引込及び負担金	工事用	●	引込工事		
5　排水設備	(1)　屋内屋外雨水排水工事（ルーフドレン、竪樋共）	●		●（Ｇｌ横引きより）		
	(2)　屋内屋外排水設備工事（雑排水、汚水、雨水）			●		
	(3)　グリーストラップ					
	(4)　マット排水及び排水金物					
6　衛生器具、流し台、 調理台、実験室	(1)　湯沸器			●		
	(2)　便所内手摺（洋風大便器、小便器、洗面器）					
	(3)　既製品流し台、ステンレス製流し台	●		●		
	(4)　同上排水トラップ					
	(5)　洗面化粧台	●				
	(6)　洗濯機パン（排水トラップ、周囲コーキング、止め金具）	●				
	(7)　洗面器、大形鏡					
	(8)　調理台、実験室					
	(9)　同じ給水栓、コンセント		●	●		
	(10)　同じガスコック					
	(11)　同じ排水トラップ					

工事区分	工事内容	建築	電気	機械		備考
7　換気設備	(1)　天井扇		給電	●		
	(2)　換気扇（受枠）		給電	●		
	(3)　全熱交換器付換気扇		給電	●		
	(4)　ダクト接続ファン 放送室用ダクトファン		給電	●		
	(5)　湯沸室等のタレ壁フードダクト（給食場用）		給電	●		
	(6)　同じフード	●				
	(7)　同じ吊下げ用補強材			●		
	(8)　昇降機機械室用換気扇					
8　ガラリ	(1)　外壁ガラリ（合フランジ共）			●		
	(2)　換気扇用外壁ガラリ			●		
	(3)　排気塔ガラリ（合フランジ共）					
	(4)　換気、空調用吸込吸出ガラリ（合フランジ共）			●		
	(5)　ドア取付又はこれに準ずるもの	●				
	(6)　換気扇用ベントキャップ			●		
9　その他	(1)　消火器（建物にかかるもの）	●				
	(2)　消火器（設備にかかるもの）	●				
	(3)　防火戸、防煙シャッター					
	(4)　同上感知器及び配管配線工事		●			
	(5)　吊戸棚下に湯沸器、コンロ台を設置する場合の不燃材取付					
	(6)　カス漏れ警報器		●			
	(7)　設備配管用天井及び床仕上げ材の穴明		●	●		
	(8)　関係官庁諸届出	●	●	●		
	(9)　浴槽と外釜（バランス釜）					
	(10)　実験台、調理台の設備配管配線用の穴明及び加工					
	(11)　避難器具	●				
	(12)　昇降機、機械用搬入口設備塞ぎ工事					
	(13)　吊フック（３ｔ用）					
	(14)　昇降機出入口３方枠					
	(15)　〃　周囲モルタル塗り					
	(16)　昇降機ピット内防水及、金物工事					
	(17)　天井点検口、床下点検口	●				
	(18)　IHヒーター					
	(19)　防災無線用空配管					

● ：本工事範囲を示す。

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807 1級建築士事務所 22(1)第0689号 1級建築士　229916号　豊田隆雄
担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称	特記仕様書１０
SCALE	-	1A／10	

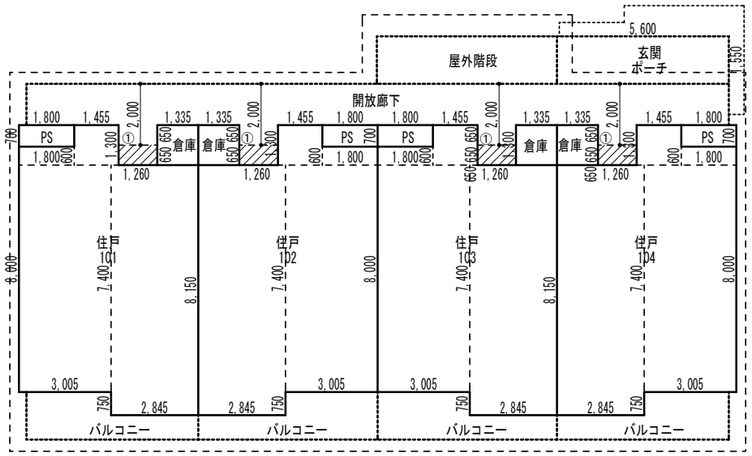
縮小率　A3版100%
A1版200%



敷地求積表		
記号	計算式(m)	面積(㎡)
1	6.09 × 2.85 ÷ 2	8.67825
2	16.91 × 4.57 ÷ 2	38.63935
3	19.01 × 9.95 ÷ 2	94.57475
4	25.78 × 9.44 ÷ 2	121.68160
5	28.90 × 3.03 ÷ 2	43.78350
6	28.90 × 16.32 ÷ 2	235.82400
7	31.53 × 5.03 ÷ 2	79.29750
8	29.93 × 3.83 ÷ 2	57.31595
9	44.40 × 21.24 ÷ 2	471.52800
10	46.60 × 5.53 ÷ 2	128.84900
		1,280.17235
合計面積		≒1,280.17

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所	担当	図面名称	SCALE	1A
		令和　8年　3月　日	広島市南区金屋町２−１５ TEL(082)−569−8808 FAX(082)569−8807		配置図（全工事完了後）	1/300	11
			1級建築士事務所　22(1)第0689号 1級建築士　229916号　豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田　雄貴			

縮小率　A３版１００％
A１版２００％



容積率算定室内対象部分
容積率算定対象部分（上記以外）

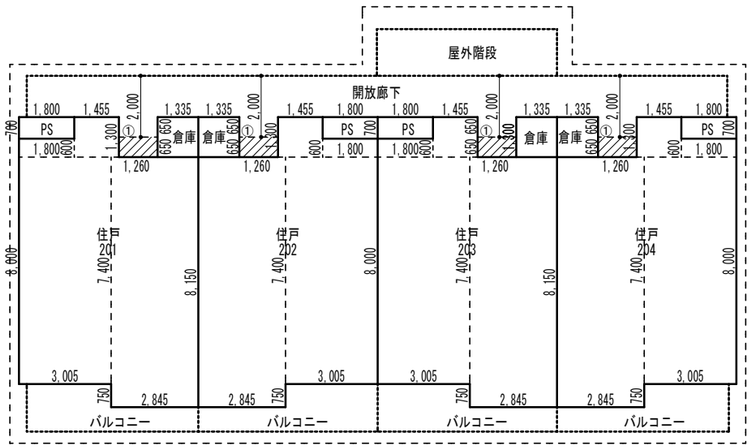
建築基準法
1階　面積求積図
1/200

開放廊下型共同住宅として申請

建築基準法　各面積求積表　（㎡）　（㎡）

延べ面積求積表

階数	計算	容積率算定面積	各階延べ床面積
1階　室内部分			
住戸101	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
住戸102	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
住戸103	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
住戸104	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
小計（室内部分面積）		205.563000	205.563000
1階　室外部分			
①	1.260*0.650*4		3.276000
小計（室外部分面積）		0.000000	3.276000
合計		205.563000	208.839000
1階　床面積		205.56 ㎡	208.83 ㎡



容積率算定室内対象部分
容積率算定対象部分（上記以外）

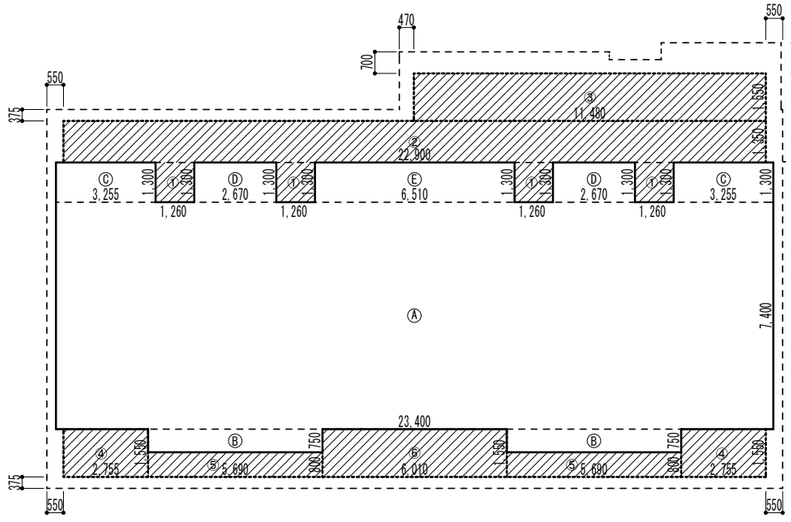
建築基準法
2階　面積求積図
1/200

開放廊下型共同住宅として申請

建築基準法　各面積求積表　（㎡）　（㎡）

延べ面積求積表

階数	計算	容積率算定面積	各階延べ床面積
2階　室内部分			
住戸201	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
住戸202	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
住戸203	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
住戸204	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	48.395250
倉庫	1.335*1.300	1.735500	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000	1.260000
小計（室内部分面積）		205.563000	205.563000
2階　室外部分			
①	1.260*0.650*4		3.276000
小計（室外部分面積）		0.000000	3.276000
合計		205.563000	208.839000
2階　床面積		205.56 ㎡	208.83 ㎡



建築面積室内対象部分
建築面積対象部分（上記以外）

建築基準法
建築面積求積図
1/200

建築基準法　各面積求積表　（㎡）

建築面積求積表

階数	計算	各面積
1階　室内部分		
Ⓐ	23.400*7.400	173.160000
Ⓑ	5.690*0.750*2	8.535000
Ⓒ	3.255*1.300*2	8.463000
Ⓓ	2.670*1.300*2	6.942000
Ⓔ	6.510*1.300	8.463000
小計（室内部分面積）		205.563000
1階　室外部分		
①	1.260*1.300*4	6.552000
②	22.900*1.350	30.915000
③	11.480*1.550	17.794000
④	2.755*1.550*2	8.540500
⑤	5.690*0.800*2	9.104000
⑥	6.010*1.550	9.315500
小計（室外部分面積）		82.221000
建築面積		287.784000

消防法・・・耐火建築物　政令区分５項ロ　居室あり

消防法　消防活動上有効な開口部の計算消防法施行令１０条－１－５　消防法施行規則５条の５－１

必要面積	対象建具符号	計算	合計	判定
1/30*208.83=6.961㎡	AW-1 AW-2	1.700*1.885/2*3=4.8067㎡ +1.700*1.235*2=4.1990㎡	9.0067㎡	OK

消火器設置基準　（延床面積４１７．６６㎡＞１５０㎡）

技術基準 防火対象物（５）ロ	必要能力単位	必要消火器数※
417.66/100	5	5/3≒1.6（本）

※設置はＡＢＣ10型消火器（能力単位 3）とする。

建築基準法　２８条（居室の採光及び換気）の検討

１項・・・・居室の採光チェック（法３５条・３５条の３、令１１１条、令１１６条の２、の採光無窓チェックも併用）　（単位：㎡）

階数	室　名	各室面積（各室面積表より）	採光 必要開口面積計算式	必要開口面積	対象建具符号	d（余裕をみたす法）	採光補正係数（Ａ＝ｄ／ｈ×１０－１．０）［ｄ及びｈ寸法は不利側で寸法まとめ］	有効開口面積計算式	有効開口面積	判定
1	ＤＫ	15.120000	15.120000*1/7	2.160000000	AW-1	3.95m以上	3.95/4.90*10-1 ＝ 7.061　Ａ≧3なので3とする	1.70*1.885*3*0.7	6.7294500	ＯＫ
	和室６帖	10.233750	10.233750*1/7	1.461964286	AW-2	3.95m以上	上記より（垂もれが大きくなるはき出し窓で検討済）　Ａ≧3なので3とする	1.70*1.235*3*0.7	4.4089500	ＯＫ
	洋室	8.235000	8.235000*1/7	1.176428571	AW-3	5.0m以上	5.00/1.25*10-1 ＝39.000　Ａ≧3なので3とする	1.10*1.085*3*0.7	2.5063500	ＯＫ
2	ＤＫ	15.120000	15.120000*1/7	2.160000000	AW-1	3.95m以上	3.95/1.55*10-1 ＝24.483　Ａ≧3なので3とする	1.70*1.885*3*0.7	6.7294500	ＯＫ
	和室６帖	10.233750	10.233750*1/7	1.461964286	AW-2	3.95m以上	上記より（垂もれが大きくなるはき出し窓で検討済）　Ａ≧3なので3とする	1.70*1.235*3*0.7	4.4089500	ＯＫ
	洋室	8.235000	8.235000*1/7	1.176428571	AW-3	5.0m以上	5.00/0.40*10-1 ＝124.00　Ａ≧3なので3とする	1.10*1.085*3*0.7	2.5063500	ＯＫ

２、３項・・居室、火気使用室の換気チェック（令１２６条の２排煙無窓チェックも併用）　（単位：㎡）

階数	室　名	各室面積（各室面積表より）	換気 必要開口面積計算式	必要開口面積	対象建具符号	有効開口面積計算式	有効開口面積	判定	排煙 必要開口面積計算式	必要開口面積	対象建具符号	有効開口面積計算式	有効開口面積	判定
1	ＤＫ	15.120000	15.120000*1/10	1.512000	AW-1	1.70*1.885/2	1.6022500	ＯＫ	15.120000*1/50	0.3024000	AW-1	1.70*0.235/2	0.1997500	ただし書き1号～6号
	和室６帖	10.233750	10.233750*1/20	0.511687 5	AW-2	1.70*1.235/2	1.0497500	ＯＫ	10.233750*1/50	0.2046750	AW-2	1.70*0.235/2	0.1997500	ただし書き1号～6号
	洋室	8.235000	8.235000*1/20	0.4117500	AW-3	1.10*1.085/2	0.5967500	ＯＫ	8.235000*1/50	0.1647000	AW-3	1.10*0.235/2	0.1292500	ただし書き1号～6号
２階は建具及び室面積が１階と同様のため、上記にて検討済み。								ＯＫ						

建築基準法　第２７条（耐火建築物又は準耐火建築物としなければならない特殊建築物）	
１項・・・・［別表１（２）項　共同住宅］階数、面積上不要であるが。任意にて耐火建築物とする。	ＯＫ
建築基準法　３０条　長屋又は共同住宅の各戸の境界　遮音性（認定番号））（S01-9070）　ノザワ　アスロック　同等品以上使用	ＯＫ
建築基準法　３３条　避雷設備　令１２９条の１４（２０ｍを超ない）	ＯＫ
建築基準法　３５条　避難チェック　令１１９条［廊下幅　住戸の床面積合計２００㎡超え　両側１．６ｍ以上　片側１．２ｍ以上］　廊下幅１．２ｍ	ＯＫ
建築基準法　３５条　避難チェック　令１２０条［階段歩行距離５０ｍ以下、重複距離２５ｍ以下］	ＯＫ
建築基準法　３５条　避難チェック　令１２１［１項五号より居室の床面積の合計が２００㎡以下のため　２以上の直通階段の設置は不用］	ＯＫ
建築基準法　令１１２条（防火区画）	
１項・・・・面積より１５００㎡以内の防火区画不要	ＯＫ
２～９項・・該当なし	ＯＫ
１２項・・・区域外及び用途により該当なし	ＯＫ
１３項・・・用途により該当なし	ＯＫ
建築基準法　令１１４条建築基準法　令１１４条（間仕切り壁及び隔壁）耐火性（認定番号）（FP060NP－9240）　ノザワ　アスロック　同等品以上使用	ＯＫ
建築基準法　令１２２条（避難階段または特別避難階段の設置）　階数より不要	ＯＫ
建築基準法　令１２６条の２（排煙設備）　（居室以外）延べ面積５００㎡以下のため不要　（居室）但し書き１項一号より　２００㎡区画により不要	ＯＫ
建築基準法　令１２６条　（屋上広場等の周囲は、高さ１．１ｍ以上の手摺壁、さく又は金網を設ける）　手摺壁１．１８５ｍ	ＯＫ
建築基準法　令１２６条の４（非常用照明設置［特殊建築物の居室及び廊下・階段］）一号・但書きより居室不要　※十分な開放性を有するため廊下不要	ＯＫ
建築基準法　令１２６条の６（非常用代替侵入口）　階数より不要	ＯＫ
建築基準法　令１２８条（令１２５条の出口から道に通ずる通路の幅員は１．５ｍ以上）	ＯＫ

耐火建築物リスト

	建築物の部分	非損傷性		判定
間仕切壁	耐力壁	１時間	該当なし	ＯＫ
	非耐力壁	１時間	押出成型セメント板<60>縦張り アスロック（FP060NP－9240）同等品	ＯＫ
外壁	耐力壁（延焼部分）	１時間	該当なし	ＯＫ
	非耐力壁（延焼部分）	１時間	押出成形セメント板<60>縦張り アスロック（FP060NE-9035）同等品	ＯＫ
	非耐力壁（延焼外部分）	30分	押出成形セメント板<60>縦張り アスロック（FP060NE-9035）同等品	ＯＫ
柱		１時間	鉄骨柱　吹付けロックウール被覆耐火構造<25>（FP060CN-9460）その他　仕上表参照（柱・梁）	ＯＫ
床		１時間	鉄筋コンクリート（鉄筋被り3cm以上）	ＯＫ
梁		１時間	鉄骨梁　吹付けロックウール被覆耐火構造<25>（FP060BM-9408）その他　仕上表参照（柱・梁）	ＯＫ
屋根		30分	瓦屋根　裸貫木毛セメント複合板<40>（FP030RF-0099-2）	ＯＫ
階段		30分	鉄骨造不燃	ＯＫ

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４
令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807

１級建築士事務所　２２（１）第０６８９号
１級建築士　２２９９１６号　豊田隆雄

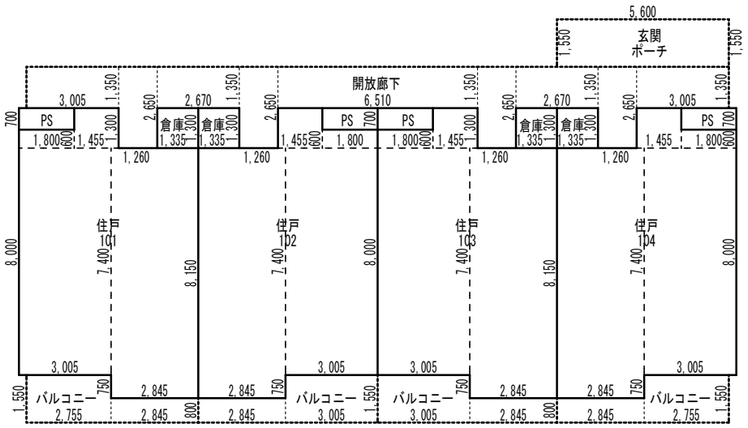
担当
１級建築士
第363328号
今田　雄貴

図面名称
面積表１（建築基準法）（消防法）

SCALE 1/200

1A / 12

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



公営法

1階　面積求積図

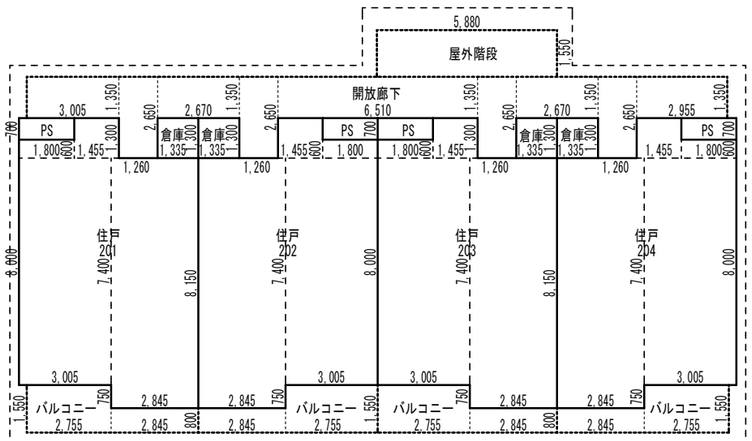
1/200

開放廊下型共同住宅として申請

建築基準法　各面積求積表　　(㎡)　　(㎡)

延べ面積求積表

階数	計算	専用部分	共用部分
1階　室内部分			
玄関ポーチ	5.600*1.550		8.680000
住戸101	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
住戸102	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
住戸103	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
住戸104	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
開放廊下	3.005*1.350*2+1.260*2.650*4 +2.670*1.350*2+6.510*1.350		37.467000
バルコニー	(2.755*1.550+2.845*0.800)*2 (3.005*1.550+2.845*0.800)*2 *1/3	8.986666	
1階　小計		209.509666	51.187000
1階　床面積			260.696666



公営法

2階　面積求積図

1/200

開放廊下型共同住宅として申請

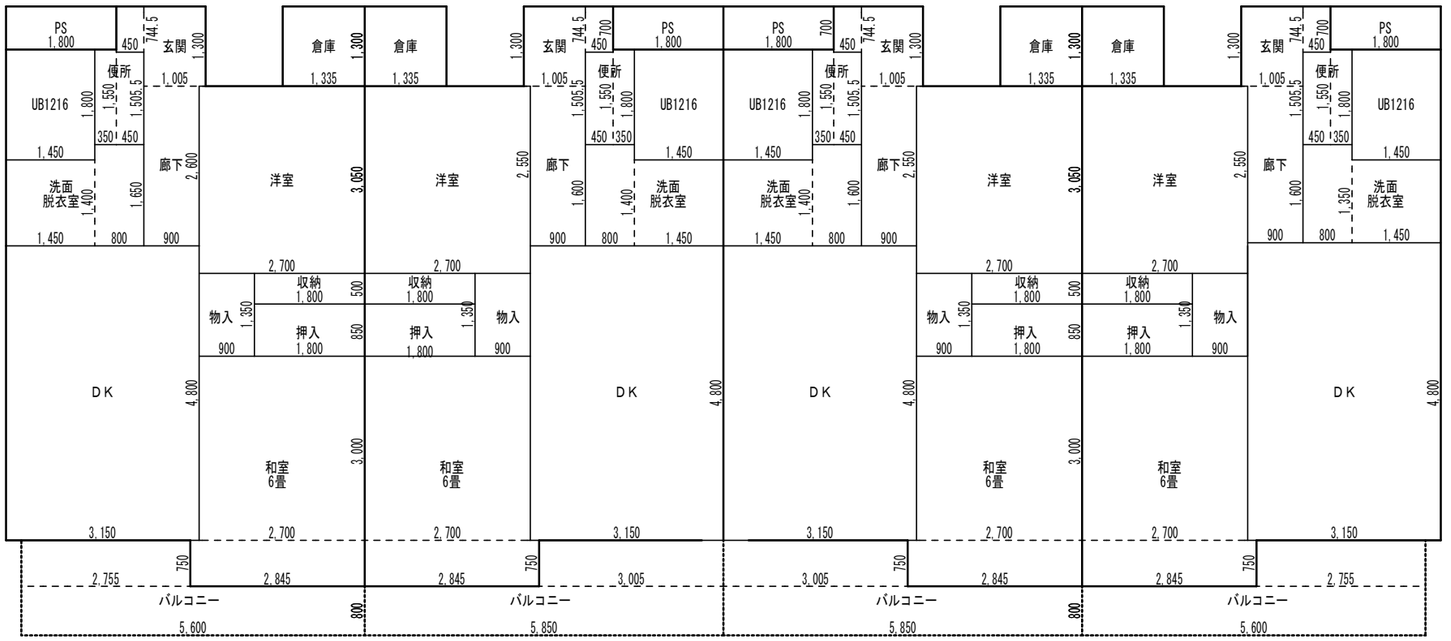
建築基準法　各面積求積表　　(㎡)　　(㎡)

延べ面積求積表

階数	計算	専用部分	共用部分
2階　室内部分			
住戸201	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
住戸202	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
住戸203	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
住戸204	1.455*1.300+1.800*0.600		
	3.005*7.400+2.845*8.150	48.395250	
倉庫	1.335*1.300	1.735500	
PS	1.800*0.700		1.260000
屋外階段	5.880*1.550		9.114000
開放廊下	3.005*1.350+1.260*2.650*4 +2.670*1.350*2+6.510*1.350 +2.955*1.350		37.399500
バルコニー	(2.755*1.550+2.845*0.800)*2 (3.005*1.550+2.845*0.800)*2 *1/3	8.986666	
2階　小計		209.509666	51.553500
2階　床面積			261.063166

収納率チェック表

タイプ	室名	部位		居室容積計算式	居室容積	部位	収納容積計算式	収納容積	収納率		タイプ	室名	部位		居室容積計算式	居室容積	部位	収納容積計算式	収納容積	収納率	
2DK (福祉対応) 中央部 (102・103)	洋室	居室		2.5600*2.8775*2.45000	18.04768000000		1.6600*0.440*2.300	1.679920			2DK (福祉対応) 妻側 (101・104)	洋室	居室		2.5600*2.8775*2.45000	18.04768000000		1.6600*0.440*2.300	1.679920		
		梁	▲	-2.8775*0.1200*0.0200	-0.00690600000								梁	▲	-2.8775*0.1200*0.0200	-0.00690600000					
		梁																			
		合計			18.04077400000								合計			18.04077400000					
	DK	居室		3.0100*4.6275*2.4500	34.12549875000		0.8400*1.2900*2.3000	2.492280				DK	居室		2.9950*4.6275*2.4500	33.95543812500		0.8400*1.2900*2.3000	2.492280		
		梁	▲	-4.6275*0.1200*0.0200	-0.01110600000								梁	▲	-4.6275*0.1200*0.0200	-0.01548400000					
		合計			34.11439275000								合計			33.79995412500					
	和室（6帖）	居室		2.5600*2.9950*2.450 +2.4425*0.5825*2.450	22.27039281250		1.6600*0.8400*2.3000	3.207120	居室容積 74.4169735625 収納容積 7.3793200			和室（6帖）	居室		2.5600*2.9950*2.450 +2.4425*0.5825*2.450	22.27039281250		1.6600*0.8400*2.3000	3.207120	居室容積 74.10253493750 収納容積 7.3793200	
		梁	▲	-3.5775*0.1200*0.0200	-0.00858600000								梁	▲	-3.5775*0.1200*0.0200	-0.00858600000					
		合計			22.26180681250				7.3793200/ 74.417693250	0.099*100>9%			合計			22.26180681250				7.3793200/ 74.10253493750	0.09*100>9%
2DK (最上階) 中央部 (202・203)	洋室	居室		2.5600*2.8775*2.45000	18.04768000000		1.6600*0.440*2.300	1.679920			2DK (最上階) 妻側 (201・204)	洋室	居室		2.5600*2.8775*2.45000	18.04768000000		1.6600*0.440*2.300	1.679920		
					18.04768000000											18.04768000000					
	DK	居室		3.0100*4.6275*2.4500	34.12549875000		0.8400*1.2900*2.3000	2.492280				DK	居室		2.9950*4.6275*2.4500	33.95543812500		0.8400*1.2900*2.3000	2.492280		
					34.12549875000											33.95543812500					
	和室（6帖）	居室		2.5600*2.9950*2.450 +2.4425*0.5825*2.450	22.27039281250		1.6600*0.8400*2.3000	3.207120	居室容積 74.43498556250 収納容積 7.3793200			和室（6帖）	居室		2.5600*2.9950*2.450 +2.4425*0.5825*2.450	22.27039281250		1.6600*0.8400*2.3000	3.207120	居室容積 74.43498556250 収納容積 7.3793200	
		梁	▲	-3.5775*0.1200*0.0200	-0.00858600000								梁		-3.5775*0.1200*0.0200	-0.00858600000					
					22.26180681250				7.3793200/ 74.43498556250	0.099*100>9%						22.26180681250				7.3793200/ 74.43498556250	0.09*100>9%



各室　面積求積表		(㎡)
延べ面積求積表		
室名	計算	各階 延べ床面積
玄関・廊下	0.450*0.745+1.005*1.300+0.900*2.600	3.981750
便所	0.350*1.550+0.450*1.506	1.220200
洗面脱衣室	1.450*1.400+0.800*1.650	3.350000
UB	1.450*1.800	2.610000
洋室	2.700*3.050	8.235000 (居室床面積)
ＤＫ	3.150*4.800	15.120000 8.235+15.120+10.23375
和室6帖	2.700*3.000+2.845*0.750	10.233750 = 33.58875
収納	1.800*0.500	0.900000
物入	0.900*1.350	1.215000
押入	1.800*0.850	1.530000
住宅専用		48.395700
バルコニー(中央)	3.005*0.750+5.850*0.800	6.933750
バルコニー(妻面)	2.755*0.750+5.600*0.800	6.546250
倉庫	1.335*1.300	1.735500
PS	1.800*0.700	1.260000
共用部分		2.995500

建築基準法・公営法

住戸　面積求積図

1/100

建築基準法　延べ床面積合計

延べ床面積		戸数	室内部分 住戸面積(1戸当たり) 住宅専用	倉庫	ＰＳ	1戸当り小計	住戸面積小計(各階)	室外部分 開放廊下(玄関前)	各階合計
2階	201・204　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡	1.26㎡	51.39㎡	205.56㎡	3.27㎡	208.83㎡
	202・203　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡	1.26㎡	51.39㎡			
1階	101・104　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡	1.26㎡	51.39㎡	205.56㎡	3.27㎡	208.83㎡
	102・103　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡	1.26㎡	51.39㎡			
合計									417.660000㎡

公営法　床面積合計

公営面積		戸数	専用 住宅専用	倉庫	バルコニー	専用各階合計	共用1 ＰＳ	共用2 玄関ポーチ	屋外階段	開放廊下	共用各階合計	各階合計
2階	201・204　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡	8.99㎡	209.51㎡	1.26㎡		9.11㎡	37.40㎡	51.55㎡	261.06㎡
	202・203　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡			1.26㎡					
1階	101・104　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡	8.99㎡	209.51㎡	1.26㎡	8.68㎡		37.46㎡	51.18㎡	260.69㎡
	102・103　2ＤＫ	2戸	48.39㎡	1.74㎡			1.26㎡					
合計												522.75㎡

205.56*2=411.12

3.27*2=6.54

自転車 プロパン
共同住宅（１号棟）置場　置場
(205.56*2+3.27*2) +19.86　+2.50=440.02

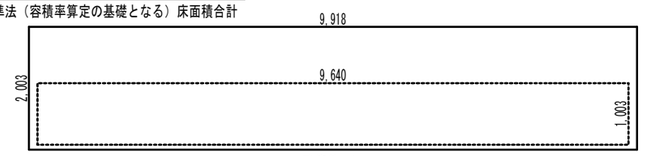
建築基準法　床面積合計

床面積　共同住宅
合計　開放廊下
440.02−3.27*2=433.48

建築基準法（容積率算定の基礎となる）床面積合計

建築基準法　建築面積合計

建築面積	室内部分	室外部分	各棟合計
１号棟	205.56㎡	82.22㎡	287.78㎡
自転車置場		9.66㎡	9.66㎡
プロパン置場		2.50㎡	2.50㎡
合計			299.94㎡



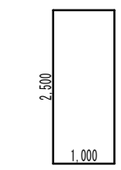
建築基準法

自転車置場　面積求積図

1/100

番号　3（申請外）
自転車置場
延床面積（㎡）　9.918*2.003　19.865754

番号　3（申請外）
自転車置場
建築面積（㎡）　9.640*1.003　9.668920



建築基準法

プロパン置場　面積求積図

1/100

番号　4（申請外）
プロパン置場
延床面積（㎡）　1.000*2.500　2.500000

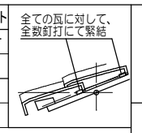
番号　4（申請外）
プロパン置場
建築面積（㎡）　1.000*2.500　2.500000

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ａｐ−２５５１４ 令和　８年　３月　日	株式会社Ｋ構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) −569−8808 FAX (082) 569−8807	1級建築士事務所 ２２（１）第０６８９号 1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称	面積表３（各住戸　各室面積）	SCALE 1/100	1Ａ／１４

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

A　外部下地

土間	土間仕様1：砕石＜60＞　捨てコンクリート＜60＞　ポリエチレンフィルム＜0.15＞　断熱ボリスチレンフォーム＜25＞　土間コンクリート	
屋根	屋根仕様1：硬質木毛セメント複合板＜43＞　ゴムアスファルトルーフィング９４０＜1＞　Ｊ形瓦（防災機能付）（屋根勾配4/10)役物同材	
	↑（硬質木片セメント板18mm＋高性能フェノールフォーム25mm　ニチハ　だんねつくん　同等品）	
外壁	外壁仕様1：押出成型セメント板＜60＞の上　水性アクリル樹脂仕上げ	
	外壁仕様2：押出成型セメント板リブ付き＜60＞	
	外壁仕様3：コンクリート打ち放し補修（B種）の上　水性アクリル樹脂仕上げ	
	外壁仕様4：鉄骨胴縁（100）@606　透湿防水シート　木胴縁（33）@500　防火サイディング（14）の上　水性アクリル樹脂仕上げ	
	根廻仕様：コンクリート打ち放し補修　吸水防止材塗り	
軒裏	軒裏仕様1：コンクリート打ち放し補修（B種）の上　外装薄塗材E吹付	
	軒裏仕様2：LGS＜25＞下地FK（6）の上　EP塗り（廻り縁　目透かし）　※２階軒裏　樹脂製軒天換気用見切縁　W1800×D60程度　８ヶ所	
	軒裏仕様3：LGS＜25＞下地GB－S＜9.5＞軒天用ロックウール吸音板＜１２＞	
屋外階段	屋外階段仕様：踏面　蹴上　防水モルタル下地外部用ノンスリップビニル床シートｔ＝2.5貼り　：排水溝　防水モルタル（W＝100）	
	：段鼻　ステンレスノンスリップ　：落下防止手摺　鉄骨下地の上DP塗　：補助手摺　樹脂被覆アルミ手摺	
竪樋：	竪樋仕様：カラーVP75φ　ステンレス掴み金物　@1200	
	軒樋仕様：前高130　カラー硬質塩ビVP幅150　ステンレス製樋受金物	



バルコニー：	バルコニー仕様：床　防水モルタルこて押えの上防滑塗床　：排水溝　防水モルタル（W＝100）の上ウレタン塗膜防水塗（X2）	
	：立上　防水モルタルこて押えの上ウレタン塗膜防水塗（X2）とする　錆鉄製バルコニードレン　75φ	
	：手摺　アルミ手摺　：隔て板　枠アルミ製　FK　上段＜5＞　下段＜3＞　EP-G塗り　片面避難用ステッカー貼り	
	：物干し金物（メーカー仕様）　：吊下げはしご	
開放廊下：	開放廊下仕様　：床　防水モルタル下地　外部用ノンスリップビニル床シートｔ＝2.5貼り：手摺　アルミ手摺　：ピット点検口	
	：排水溝　防水モルタル（W＝100）　の上ウレタン塗膜防水塗（X2）　錆鉄製バルコニードレン　75φ	
	：立上　ウレタン塗膜防水塗（X2）	
	：手摺壁　内部　コンクリート打ち放し補修水性アクリル樹脂仕上げ　：補助手摺　樹脂被覆アルミ手摺	
玄関ポーチ：	1Fポーチ仕様：床　ノンスリップビニル床シート	
	：郵便受け（メーカー仕様）	
スロープ：	スロープ仕様：床　磁器質タイル　300角　：立上り　コンクリート打ち放し補修	
	：スロープ手摺　アルミ手摺（既成品）	
鼻隠し	破風：繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板＜18＞H＝180	
	付柱：繊維混入セメントけい酸カルシウム押出成形板＜16＞H＝150　H＝115	

耐火仕様

外壁：押出成形セメント板＜60＞縦張り　アスロック（FP060NE-9035）同等品　鉄骨柱（軒裏）：吹付けロックウール被覆耐火構造＜25＞（FP060CN-9460）　鉄骨柱（独立柱）：吹付けロックウール被覆耐火構造＜25＞（FP060CN-9460）　鉄骨柱（外壁廻り）：押出成形セメント板＜60＞+吹付けロックウール厚み25mm（FP060CN-0538-2）

鉄骨梁（軒裏）：吹付けロックウール被覆耐火構造＜25＞（FP060BM-9408）　鉄骨梁（外壁廻り）：押出成形セメント板＜60＞+吹付けロックウール厚み25mm（FP060BM-0366-3）

B　内部下地

下地符号	床	下地符号	巾木　壁	下地符号	天　井
①	コンクリート直こて押え下地	①	LGS胴縁＜25＞下地GB-R＜12.5＞張り	①	コンクリート打ち放し補修下地
③	ユニット床A下地+合板　＜12＞（捨貼り）下地	②	耐火システム（防火区画部分：PS⇔住宅内部間）	②	LGS天井下地ケイカル板＜6＞下貼り
④	ユニット床B下地+合板　＜12＞（捨貼り）下地	③	壁パネル下地GB―R＜9.5＞（火器使用室不燃）	③	LGS天井下地GB―R＜9.5＞下貼り（火器使用室不燃）
⑤	床パネル＜35＞下地	④	LGS下がり壁下地GB―R＜12.5＞下貼り（火器使用室不燃）	④	LGS下がり壁下地GB―R＜9.5＞下貼り（火器使用室不燃）
		⑤	壁パネル下地合板＜4＞	⑤	LGS天井下地ケイカル板＜9.5＞捨貼りプリント合板＜4＞貼り
	※床パネル・・・内装パネル詳細図参照	⑦	LGS下地ケイカル板＜8＞張り	⑥	天井パネル＜15＞下地
		⑧	間仕切壁工法（防火上主要な間仕切り部分：各戸の界壁　）		
		⑨	LGS＜65＞下地GB-R＜12.5＞張り		※仕上材は準不燃以上と
現場発砲ウレタン：硬質ウレタンフォーム断熱材A種1H以上		⑩	LGS＜50＞下地GB-R＜12.5＞張り		※住戸（内部）内天井はグラスウール＜100＞敷詰とする。　する。ただし、押入、
断熱ボリスチレンフォーム：押出法ボリスチレンフォーム断熱材3種bA以上		⑪	押出成型セメント板＜60＞（※妻面リブ付き）		※2階はふところ1.5m以上となるので天井下地補強を施す。　物置、クローゼットは
グラスウール：密度24ｋｇ/m3以上		⑫	LGS胴縁＜25＞下地GB-R＜12.5＞ニ重張り		※天井パネル・・・内装パネル詳細図参照　除く。
			※壁パネル・・・内装パネル詳細図参照		
			※仕上材は準不燃以上とする。ただし、押入、物置、クローゼットは除く。		
			※外部廻り（桁行方向）現場発泡ウレタン＜25＞吹付、（妻方向）現場発泡ウレタン＜50＞吹付		

備　考

・ノンスリップビニル床シート・・・ビュージスタ（タジマ）同等品
・ユニット床A下地・・・CP（フクビ同等品）
・ユニット床B下地・・・CPR-SE（フクビ同等品）
・発砲複層ビニル床シート・・・ACフロア 28 木目（タジマ）同等品 JISA5705
・クッションフロアーシート・・・LHS81114（リリカラ）同等品
・防カビ・ビニルクロス・・・LV6530（リリカラ）同等品
・表札・・・KS-N21AS（ナスタ）同等品
・バルコニー手摺、開放廊下手摺・・・アルミ手すり　ウィルライン　杉田エース同等品
・耐火システム・・・吉野石膏　Sウォールワン　同等品 FP060NP－0497（強化石膏ボード＜21+21＞（両面）張り）ＧＷ24Ｋ＜50＞充填
・間仕切壁工法・・・ノザワ　アスロック　同等品（耐火）FP060NP－9240 の上LGS＜50＞下地　GB-R＜12.5＞ニ重張り ＧＷ24Ｋ＜50＞張り）（遮音）令和2年2月27日国土交通省告示第200号第二号ニ　ロ（2）

C　略記号	
▽GL　：設計グランドライン	PS　：パイプシャフト　(WPS機械　EPS電気)
▽FL　：床ライン	VP　：硬質ポリ塩化ビニル管
CB ＜＞：コンクリートブロック＜正味の厚さ＞	SOP　：合成樹脂調合ペイント（屋外A種　屋内B種）
ALC＜＞：軽量気泡コンクリートパネル＜厚さ＞	CL　：クリヤラッカー　（　・A種　※B種　）
LGS＜＞：軽量鉄骨下地＜種類＞（天井壁共通）	NAD　：アクリル樹脂系非水分散系塗料（・A　※B）
EXP. J：エキスパンションジョイント	DP-1：耐候性塗料　(◎鉄鋼面　・亜鉛めっき鋼面)
GB　：石膏ボード　(GB-R)	DP-2：耐候性塗料　(RC面　◎A種・B種※C種)
GB-P：吸音用孔あき石膏ボード（スクエアトーン等）	EP-G：艶有り合成樹脂エマルジョン　（・A　※B）
GB-S：耐水石膏ボード	UC-1：ウレタン樹脂ワニス　（1液　※A種・B種）
GB-W：化粧石膏ボード　(木目模様杉正等)	UC-2：ウレタン樹脂ワニス　（2液　・A種※B種）
GB-N：不燃積層石膏ボード　(GB-NC)	WP　：木材保護塗料　（　※A種　・B種　）
GB-F：強化石膏ボード	OPEN：開口
GB-H：硬質普通石膏ボード	Fix　：ハメ殺し
FK　：けい酸カルシウム板	＜＞　：材厚・仕上厚
FK-D：化粧けい酸カルシウム板	／　：仕上見切位置
	／°　：コーキング位置
吊下げはしご：タスカールSPCタイプ（ナカエ業）同等品	物干金物：スカイクリーンPKS500B（杉田エース）同等品
	スロープ手摺：エトランポU型（三協アルミ）
集合連絡板：EA922　1200×800（杉田エース）同等品	防火サイディング：モエン（ニチハ）同等品
郵便受け　：PKS－DL－2812（杉田エース）同等品	（認定番号QF045BE-9226）
隔て板：エースアルミ隔て板：色S（杉田エース）同等品	PU-2　：ポリウレタン系外部打継・誘発目地
補助手摺　：ハンドレールグラフレックス　GSK3FG	MS-2　：変成シリコン系外部建具・金属回り
（杉田エース）同等品	
水性アクリル樹脂仕上げ：ジョリパッド玉石エンシェント	
ブリック　同等品（アイカエ業）	

特記事項

・図中記載寸法は、木材を含め全て仕上げ寸法を示す。
・図中モルタルとあるは、モルタル金ごて押えを示す。
◎天井、壁当たりは、特記なき限り、塩ビ製ジョイナーとする。
◎コンクリート打増し部の厚みは、外部：　25 ㎜、内部：　20 ㎜とし、仕上材（吹付を除く）が表面にある場合は　10 ㎜とする。また柱梁壁等出隅部分は特記無き限り、外部：　25 ㎜、　角面取り（壁天端のみ）、内部：　20 ㎜、角面取りとする。
◎目地切見付は、図示 ㎜、深さは、図示 ㎜、ピッチは立面図等図示に依る。
◎間仕切軸組含め、内装材はF☆☆☆☆以上とする。

B　内部下地

階数	室　名	下地符号	床	巾　木	H	下地符号	壁	下地符号	天　井	廻縁	天井高	木部塗装	備　考
住戸（内部）	玄関	①	←防水モルタル金ごて押え下地	木巾木（1F）	60-80	①②③	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り	③	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り	塩ビ（突付）	2320(1F)	EP-G	上框、下足付収納
			ノンスリップビニル床シートｔ＝2.5貼り	木巾木（2F）	60-80-105						2425(2F)		表札
	廊下	③	←下地　発砲複層ビニル床シートｔ＝2.8貼り	木巾木	60	③⑩	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り	③	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り	塩ビ（突付）	2300	EP-G	
	洗面脱衣室	③	←下地　クッションフロアーシートｔ＝1.8貼り	木巾木	60	①③	←下地（準不燃以上）　防カビ・ビニルクロス貼り	③	←下地（準不燃以上）　防カビ・ビニルクロス貼り	塩ビ（突付）	2300	EP-G	（タオル掛け、洗面化粧台、洗濯機パン）設備工事
												UC（面台）	
	トイレ	③	←下地　クッションフロアーシートｔ＝1.8貼り	木巾木	60	②③	←下地（準不燃以上）　防カビ・ビニルクロス貼り	③	←下地（準不燃以上）　防カビ・ビニルクロス貼り	塩ビ（突付）	2300	EP-G	L型手摺（1階）
							防カビ・ビニルクロス貼り						
	洋室	③	←下地（1F）　発砲複層ビニル床シートｔ＝2.8貼り	木巾木	60	③⑧⑩	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り	③	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り	塩ビ（突付）	2450	EP-G	カーテンレール（w）、空調用スリーブ
		④	←下地（2F）　発砲複層ビニル床シートｔ＝2.8貼り			④	←下地（不燃）（1F）　ビニルクロス貼り						給気ガラリ
	ＤＫ	③	←下地（1F）　発砲複層ビニル床シートｔ＝2.8貼り	木巾木	60	①③⑩	←下地（不燃）　ビニルクロス貼り	③	←下地（不燃）　ビニルクロス貼り	塩ビ（突付）	2450	WP	ステンレス流し台等一式（※コンロは持込みとする）(レンジフード)
		④	←下地（2F）　発砲複層ビニル床シートｔ＝2.8貼り			①③	←下地（不燃）　キッチンパネル貼り（不燃番号：NM-2744同等品）						カーテンレール（w）、空調用スリーブ、給気レジスター
						④	←下地（不燃）（1F）　ビニルクロス貼り						※給気レジスターは住戸201のみダンパー付き）
	和室	③	←下地（1F）　畳敷き	畳寄	—	③⑧⑩⑫	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り（色変え）	③	←下地（準不燃以上）　ビニルクロス貼り（色変え）	木製	2450	WP	カーテンレール（w）、空調用スリーブ、給気レジスター
		④	←下地（2F）　畳敷き			④	←下地（準不燃以上）（1F）　ビニルクロス貼り（色変え）						付鴨居
	押入	⑤	←仕上　床パネル＜35＞	雑巾摺	—	⑤⑧	←仕上　合板＜4＞	⑥	←仕上　天井パネル＜15＞	木製	2300		棚板、中板
	物入	⑤	←仕上　床パネル＜35＞	雑巾摺	—	⑤	←仕上　合板＜4＞	⑥	←仕上　天井パネル＜15＞	木製	2300		棚板、中板
									※天井仕上は現場調整により決定（天井⑤とするのも可）				天井点検口（天井⑤とする場合）
	収納	⑤	←仕上　床パネル＜35＞	雑巾摺	—	⑤⑧	←仕上　合板＜4＞	⑥	←仕上　天井パネル＜15＞	木製	2300		棚板、ハンガーパイプ
	UB1216		ＵＢ				ＵＢ		ＵＢ				手摺
住戸（外部）	PS	①	←仕上　コンクリート直こて押え			①	←仕上（不燃）　押出成型セメント板（不燃）	②	←下地　素地				
						②	←仕上（不燃）　素地						
	倉庫	①	←下地　防水モルタルこて押え			⑦	←下地（不燃）　ＥＰ－Ｇ塗り	②	←下地　ＥＰ塗り		2390(1F)		
						⑪	←仕上（不燃）　押出成型セメント板（不燃）				2450(2F)		
共用													1F郵便受、集合連絡板、（電灯動力分電盤）設備工事

◎特記なき限り　左官塗厚は下表に依る。（図中モルタルとあるは、モルタル金ごて押えを示す。）

部位	外部床	内部床
塗厚	※30　・25	※30　・25

・特記なき限り　タイル部分仕上厚は下表に依る。

部位	床タイル等	壁陶器タイル等
内部	※50	※20　・
外部	※50	・　・

材種・規格	厚さ（mm）等
◎石膏ボード JIS A 6901規格品	◎9.5（準不燃認定品）準不燃 QM－9828 ◎9.5（不燃認定品）不燃NM－0441 ・12.5（不燃認定品）不燃　NM－8619 ・15（不燃認定品）不燃　NM－8619
・化粧石膏ボード（トラバーチン模様）JIS A 6901［図中GB－T表記］	※9.5（準不燃認定品）準不燃 QM－9824 ・9.5（不燃認定品）不燃　NM－0441、0296
・化粧石膏ボード（杉板目プリント）JIS A 6901規格品［図中GB－W表記］	※9.5（準不燃認定品）準不燃 QM－9824 下地メーカー仕様による ・12.5（不燃認定品）不燃　NM－0127
・吸音用穴あき石膏ボード JIS A 6901	・9.5（準不燃認定品）準不燃 QM－9827 不燃性原紙裏打ち
・化粧石膏吸音ボード	・9.5（準不燃認定品）準不燃 QM－9822
・ロックウール化粧吸音板 JIS A 6301規格品	・9（不燃認定品） ・12（不燃認定品） ・15（不燃認定品） NM－8599
・ロックウール吸音材 JIS A 6301規格品	※25（不燃認定品） ロックウール吸音ベルト１号
・グラスウール吸音材 JIS A 6306規格品	※25（不燃認定品） ・50・100 グラスウール吸音ボード2号32K
◎粘石繊セメント けい酸カルシウム板 JIS A 5418	◎・6　・10　・12（不燃認定品）NM－9029
◎普通硬質石膏ボード　吉野石膏　普通硬質石膏ボード　12．5　NM－9645　同等品　9．5	
◎強化石膏ボード　吉野石膏　強化石膏ボード　12．5　NM－8615　同等品　21	
◎耐水石膏ボード　吉野石膏　タイガー不燃耐水ボード　12．5　NM－9639　同等品　9．5	

材料名	防火種別	下地種別	防火性能
・紙製壁紙		・不燃下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
		・不燃GBT地	・準不燃QM－＊＊＊＊
		・準不燃下地	・難燃 RM－＊＊＊＊
		・金属下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
・繊維製壁紙		・不燃下地	・不燃 NM－＊＊＊＊（NM－0326等）
		・不燃GBT地	・準不燃QM－＊＊＊＊
		・準不燃下地	・難燃 RM－＊＊＊＊
		・金属下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
・プラスチック製壁紙 塩化ビニル		◎不燃下地	◎不燃 NM－＊＊＊＊
		◎不燃GBT地	◎不燃QM－＊＊＊＊
		◎準不燃下地	・難燃 RM－＊＊＊＊
		・金属下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
・プラスチック製壁紙 その他プラスチック	1－6 1－3	・不燃下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
		・不燃GBT地	・準不燃QM－＊＊＊＊
		・準不燃下地	・難燃 RM－＊＊＊＊
		・金属下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
・無機質壁紙		・不燃下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
		・不燃GBT地	・準不燃QM－＊＊＊＊
		・準不燃下地	・難燃 RM－＊＊＊＊
		・金属下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
・その他		・不燃下地	・不燃 NM－＊＊＊＊
		・不燃GBT地	・準不燃QM－＊＊＊＊
		・準不燃下地	・難燃 RM－＊＊＊＊
		・金属下地	・不燃 NM－＊＊＊＊

工事名称　大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４　令和　8年　3月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082)－569－8808 FAX (082) 569－8807
1級建築士事務所　２２（１）第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号　豊田隆雄

担当　1級建築士 第363328号 今田　雄貴

図面名称　仕上表

SCALE　－　1A　15

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

住宅性能評価

住宅性能表示　4－1　維持管理対策等級（専用配管）
自己評価等級　等級3

・コンクリート内埋込配管の有無
→無

・地中埋没管上でのコンクリート打設の有無
→無

・専用配管が他住戸などの専用部分に設置されていないこと。
→無

・専用配管の内面が平滑で、たわみ、抜け等が生じないように設置されていること
→設置している

・排水管における掃除口または清掃可能な措置が講じられたトラップの有無
→有（詰まりが発生した場合は取り外し可能）

・給水管のバルブ、ヘッダー、給湯管のバルブ、ヘッダーにおける点検または清掃可能な開口の有無
→有（床下点検口　４５０角）

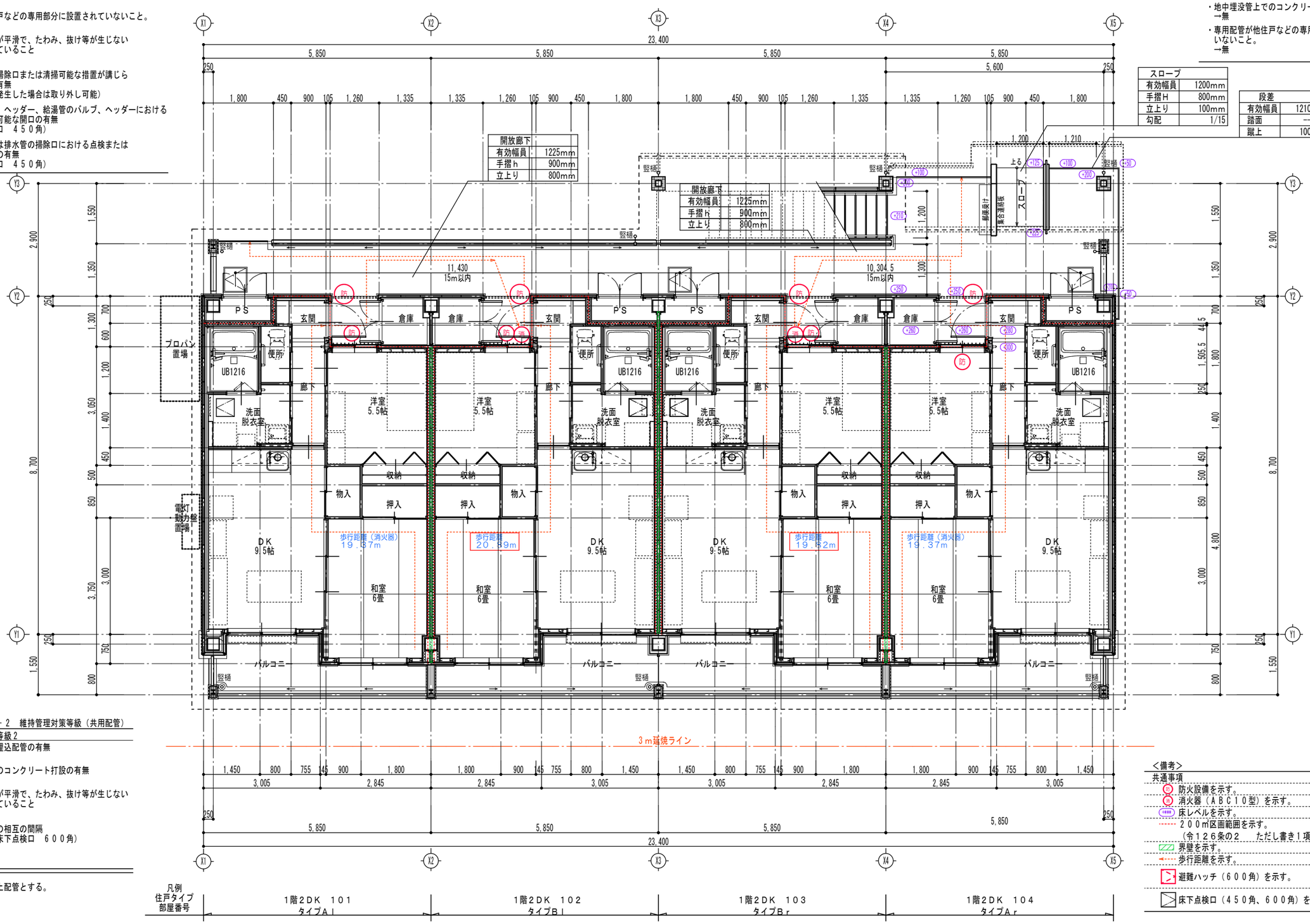
・主要接合部または排水管の掃除口における点検または清掃可能な開口の有無
→有（床下点検口　４５０角）

住宅性能表示　4－3　維持管理対策等級（共用配水管）
自己評価等級　等級2

・コンクリート内埋込配管の有無
→無

・地中埋没管上でのコンクリート打設の有無
→無

・専用配管が他住戸などの専用部分に設置されていないこと。
→無



住宅性能表示　4－2　維持管理対策等級（共用配管）
自己評価等級　等級2

・コンクリート内埋込配管の有無
→無

・地中埋没管上でのコンクリート打設の有無
→無

・共用配管の内面が平滑で、たわみ、抜け等が生じないように設置されていること
→設置いている

・横主管の掃除口の相互の間隔
→１５ｍ以内（床下点検口　６００角）

・人通口等の有無
→有

※流し台はスラブ上配管とする。

＜備考＞
共通事項
- 防火設備を示す。
- 消火器（ＡＢＣ１０型）を示す。
- 床レベルを示す。
- ２００㎡区画範囲を示す。（令１２６条の２　ただし書き１項一号）
- 界壁を示す。
- 歩行距離を示す。
- 避難ハッチ（６００角）を示す。
- 床下点検口（４５０角、６００角）を示す。

真北
Y軸：0° 25′ 20″
S=1:100
-方位-

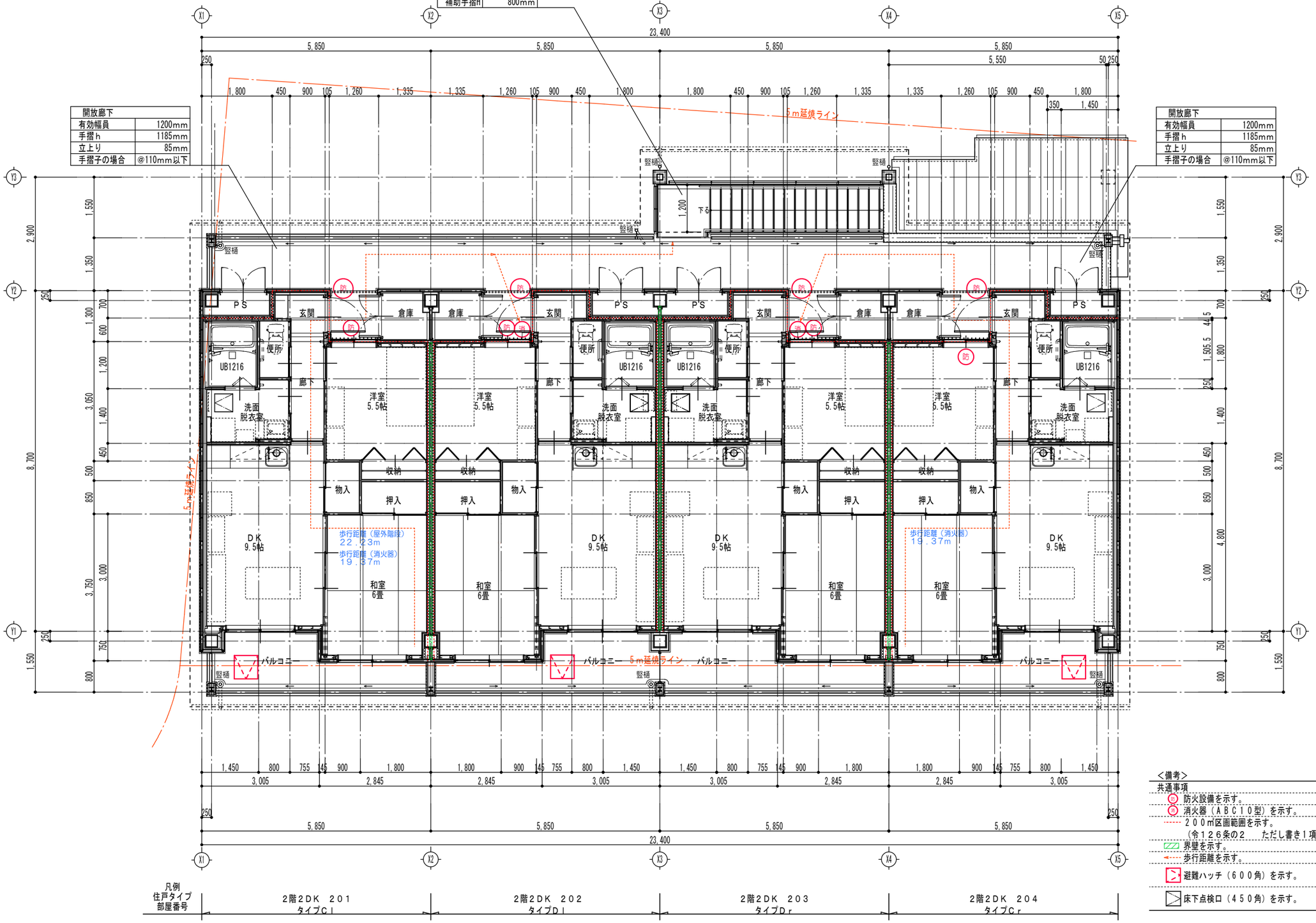
工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号 1級建築士　２２９９１６号　豊田隆雄	担当 1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 １階平面図	SCALE 1/100 1A／16

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

屋外階段	
有効幅員	1200mm
踏面	270mm
蹴上	180mm
勾配	T+2R=630mm
立上り	1100mm
補助手摺H	800mm

開放廊下	
有効幅員	1200mm
手摺h	1185mm
立上り	85mm
手摺子の場合	@110mm以下

開放廊下	
有効幅員	1200mm
手摺h	1185mm
立上り	85mm
手摺子の場合	@110mm以下



凡例
住戸タイプ
部屋番号

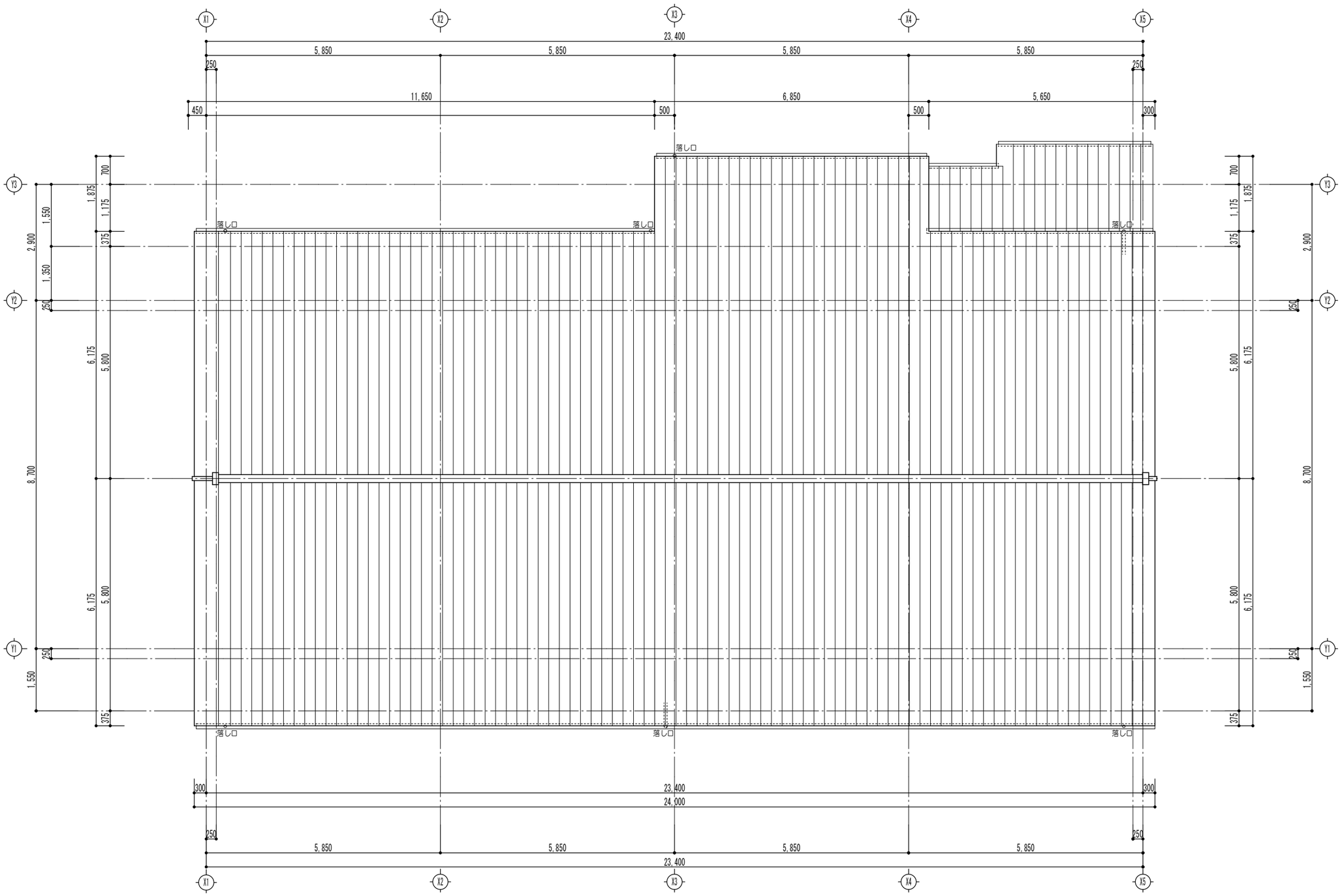
2階2DK 201	2階2DK 202	2階2DK 203	2階2DK 204
タイプCl	タイプDl	タイプDr	タイプCr

<備考>
共通事項
- 防火設備を示す。
- 消火器（ABC10型）を示す。
- 200m区画範囲を示す。（令126条の2　ただし書き1項一号）
- 界壁を示す。
- 歩行距離を示す。
- 避難ハッチ（600角）を示す。
- 床下点検口（450角）を示す。

真北
Y軸：0° 25′ 20″
S=1:100
-方位-

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（1期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所	担当	図面名称	SCALE	1A
		令和 8年 3月 日	広島市南区金屋町2−15 TEL(082)−569−8808 FAX(082)569−8807	1級建築士事務所 22(1)第0689号 1級建築士 229916号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	2階平面図	1/100	17

縮小率　A3版100%
A1版200%



真北

Y軸：0° 25′ 20″

S=1:100

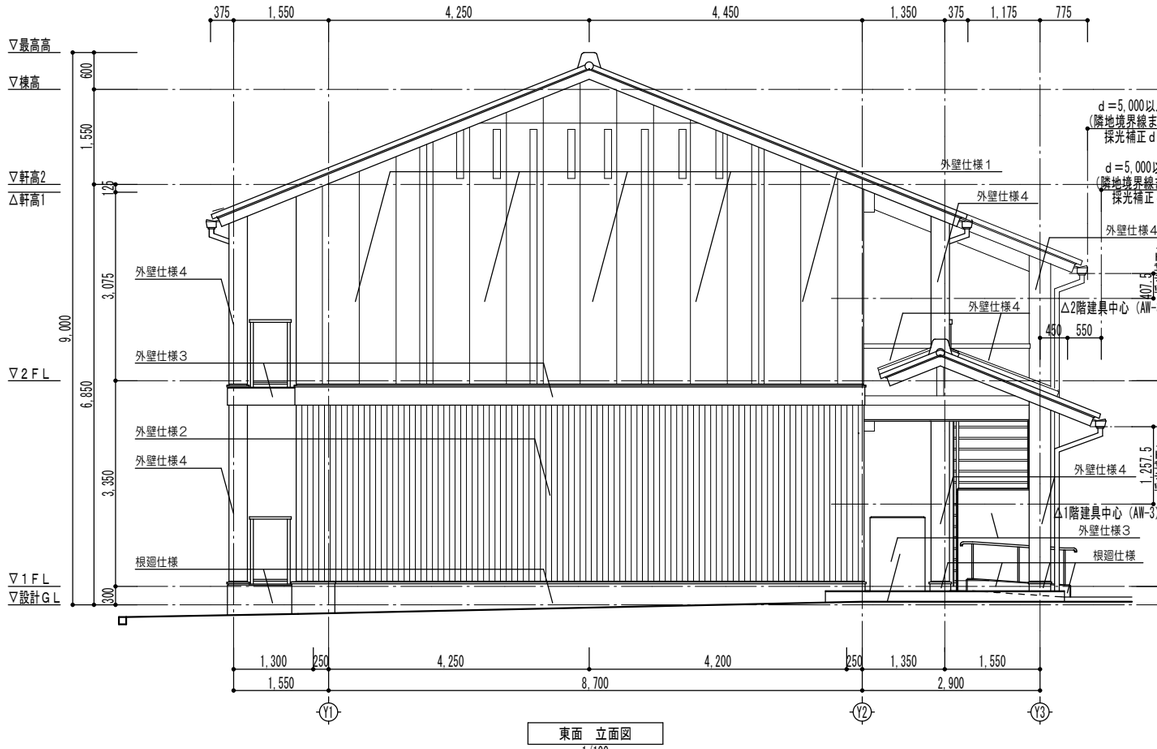
-方位-

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514 令和8年 3月	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 22(1)第0689号 1級建築士 229916号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	図面名称 屋根伏図

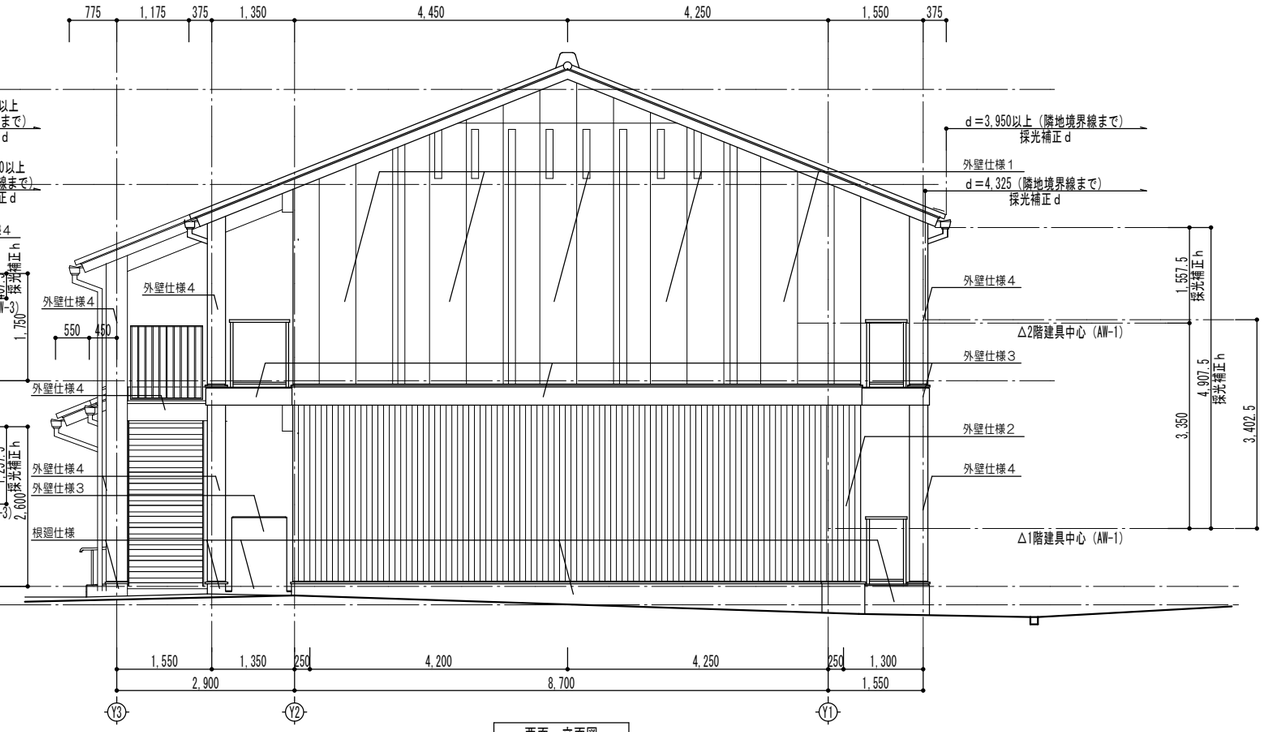
SCALE 1/100

1A / 18

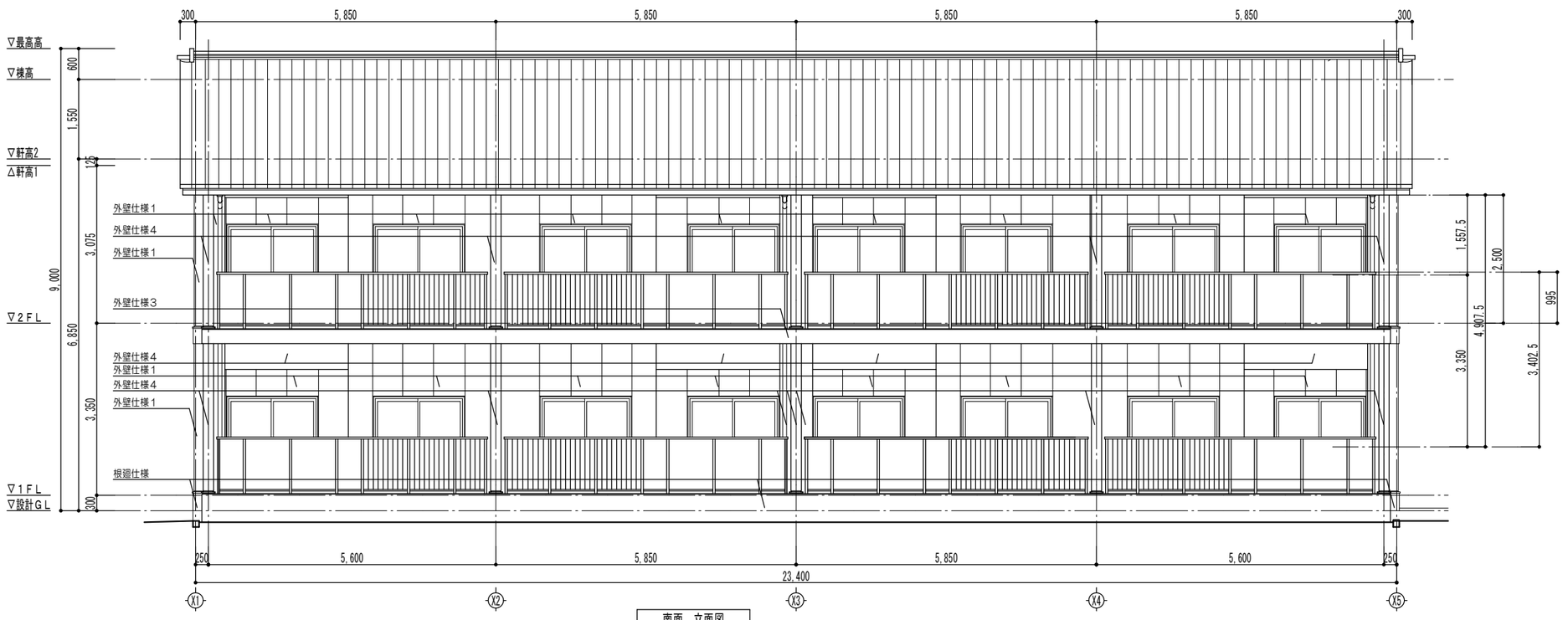
縮小率 A3版100%
A1版200%



東面　立面図
1/100



西面　立面図
1/100



南面　立面図
1/100

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所　２２（1）第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号　豊田隆雄

担当
1級建築士 第363328号 今田 雄貴

図面名称
立面図１

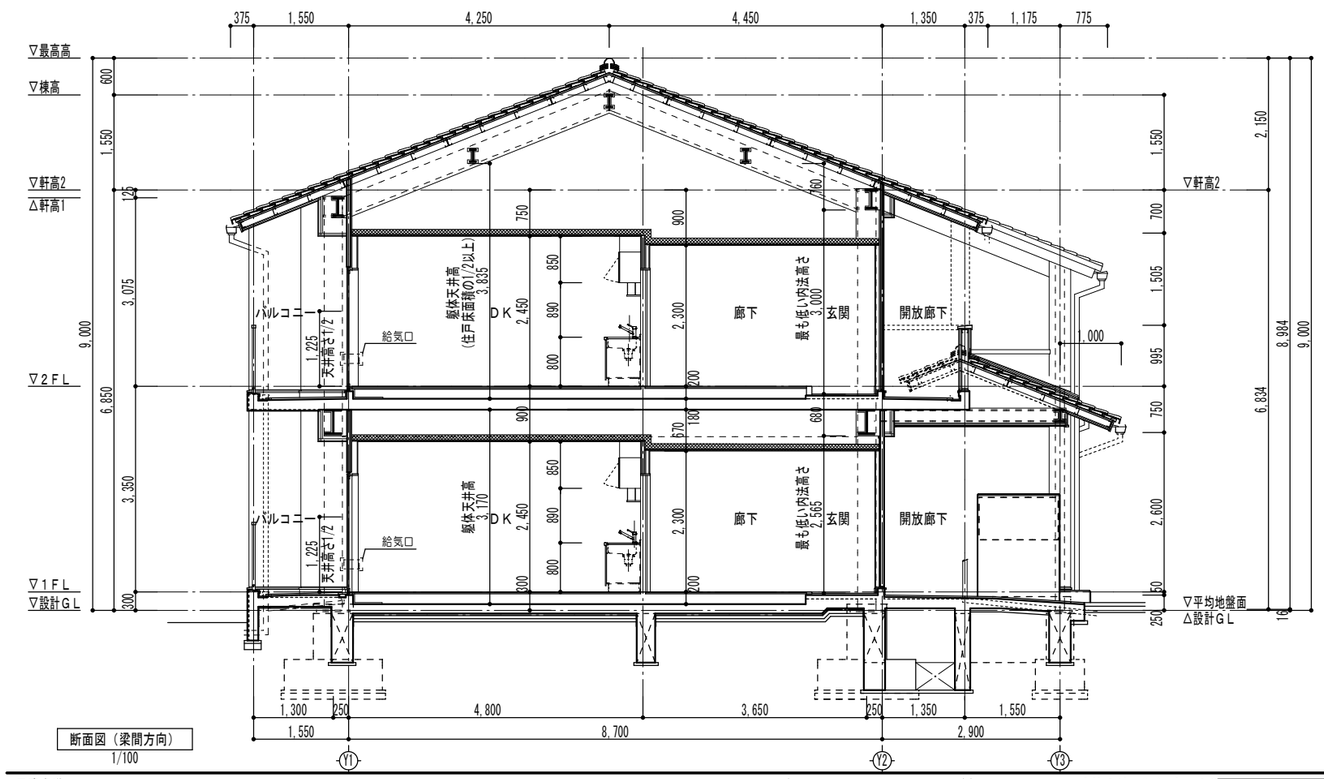
SCALE 1/100

1A / 19

縮小率　A３版１００％
A１版２００％



北面　立面図
1/100

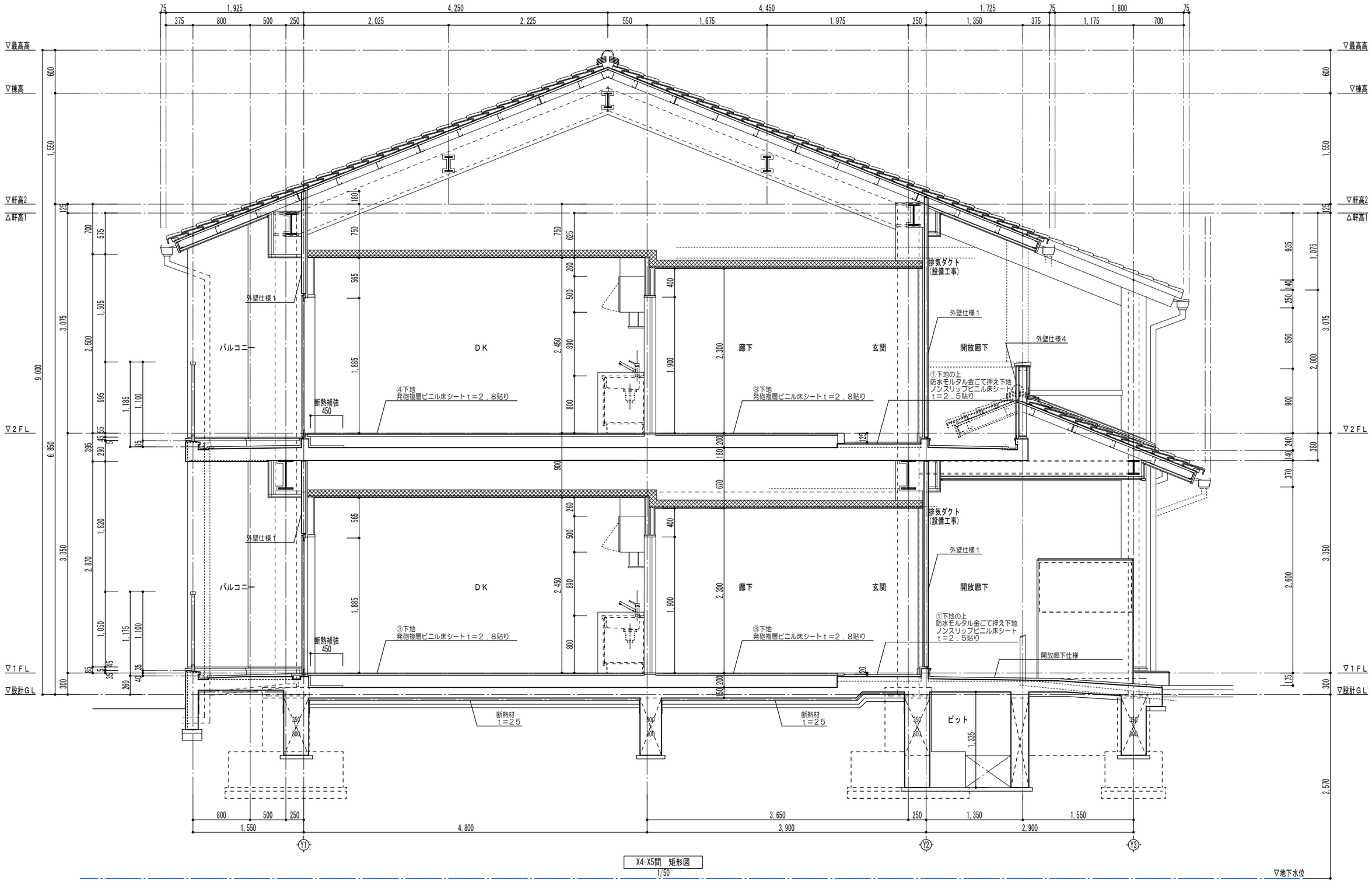


断面図（梁間方向）
1/100

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所	1級建築士事務所 22(1)第0689号	担当	図面名称	SCALE
		令和 8年 3月 日	広島市南区金屋町2−15	1級建築士 229916号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	立面図2 断面図	1/100

1A / 20

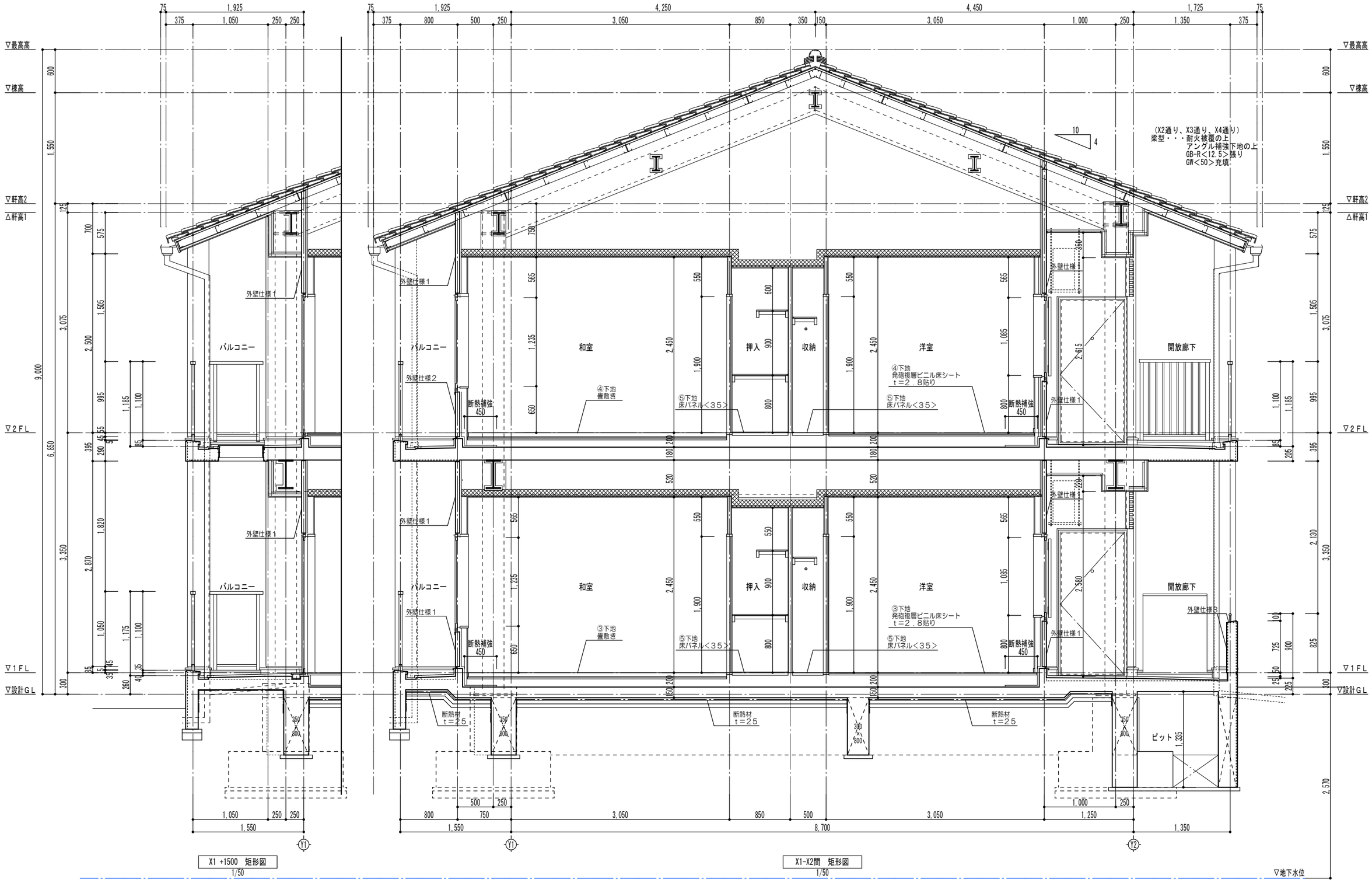
縮小率　A3版100%
A1版200%



X4-X5間　矩形図
1/50

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ａｐ－２５５１４	株式会社Ｋ構造研究所	担当	図面名称	SCALE	1A
		令和　８年　３月　日	広島市南区金屋町２－１５ TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	矩計図１	1/50	21
			1級建築士事務所　２２（１）第０６８９号 1級建築士　２２９１６号　豊田隆雄				

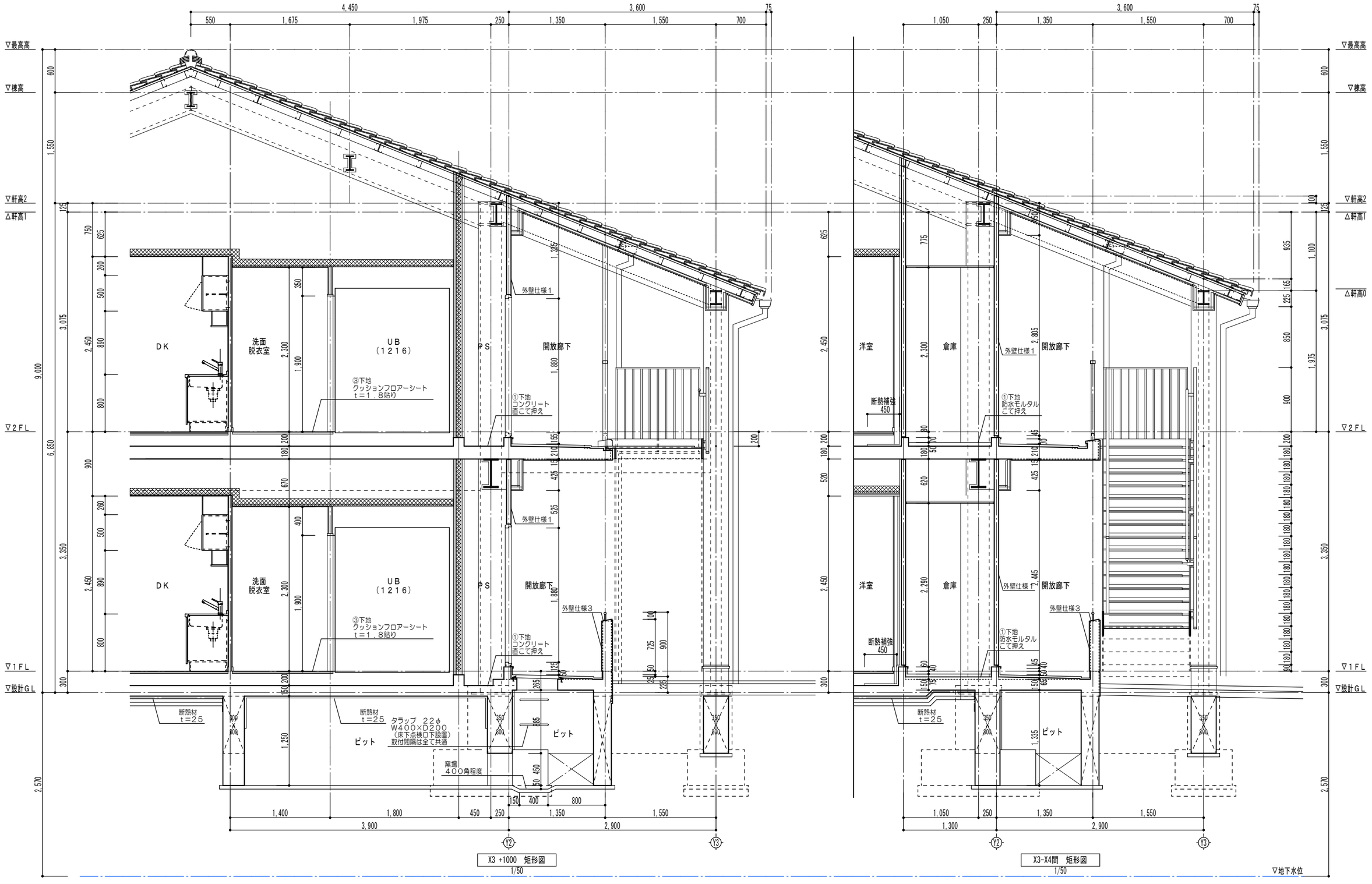
縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 22(1)第0689号 1級建築士 229916号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	図面名称 矩計図2
		令和 8年 3月 日					SCALE 1/50

1A / 22

縮小率 A3版100% A1版200%

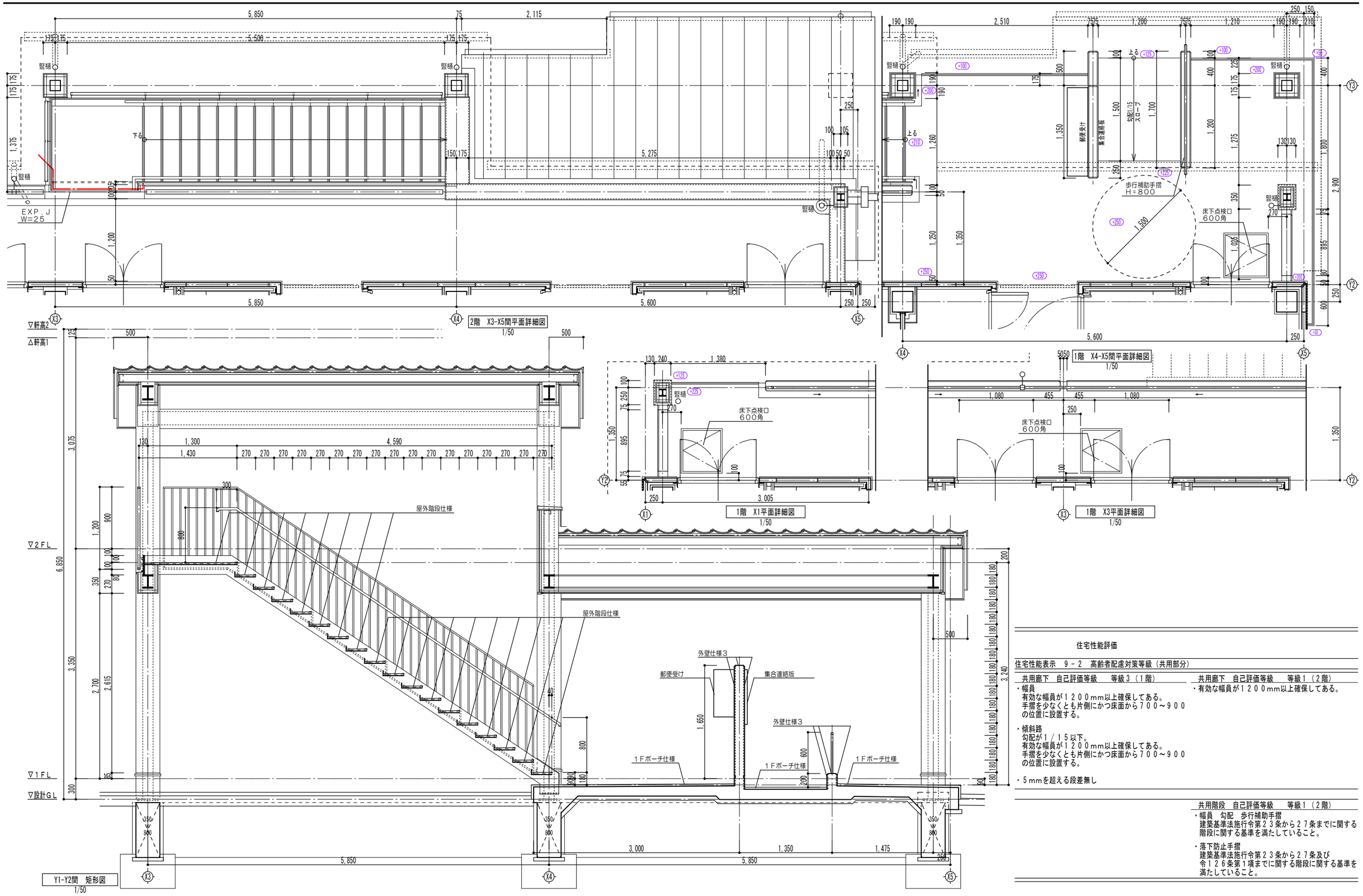


X3 +1000 矩形図
1/50

X3-X4間 矩形図
1/50

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所	担当	図面名称	SCALE	1A
		令和 8年 3月 日	広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士	矩計図 3	1/50	23
			1級建築士事務所 22（1）第0689号 1級建築士 229916号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴			

縮小率 A3版100%
A1版200%



住宅性能評価

住宅性能表示　９－２　高齢者配慮対策等級（共用部分）

共用廊下　自己評価等級　　等級３（１階）

・幅員
有効な幅員が１２００mm以上確保してある。
手摺を少なくとも片側にかつ床面から７００～９００の位置に設置する。

・傾斜路
勾配が１／１５以下。
有効な幅員が１２００mm以上確保してある。
手摺を少なくとも片側にかつ床面から７００～９００の位置に設置する。

・５mmを超える段差無し

共用廊下　自己評価等級　　等級１（２階）

・有効な幅員が１２００mm以上確保してある。

共用階段　自己評価等級　　等級１（２階）

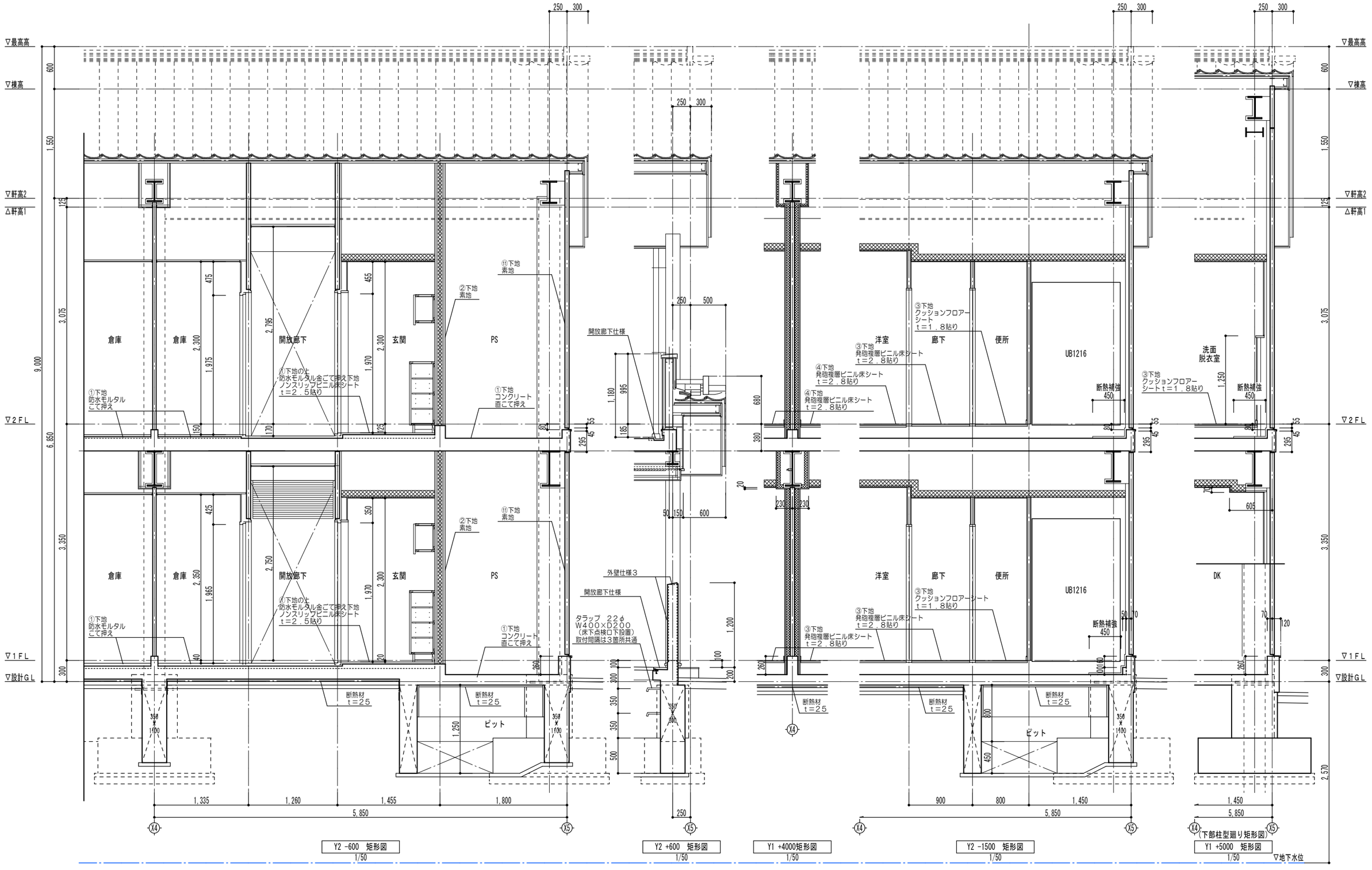
・幅員　勾配　歩行補助手摺
建築基準法施行令第２３条から２７条までに関する階段に関する基準を満たしていること。

・落下防止手摺
建築基準法施行令第２３条から２７条及び令１２６条第１項までに関する階段に関する基準を満たしていること。

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 22(1)第0689号 1級建築士 229916号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	図面名称 矩計図４
		令和 8年 3月 日					SCALE 1/50

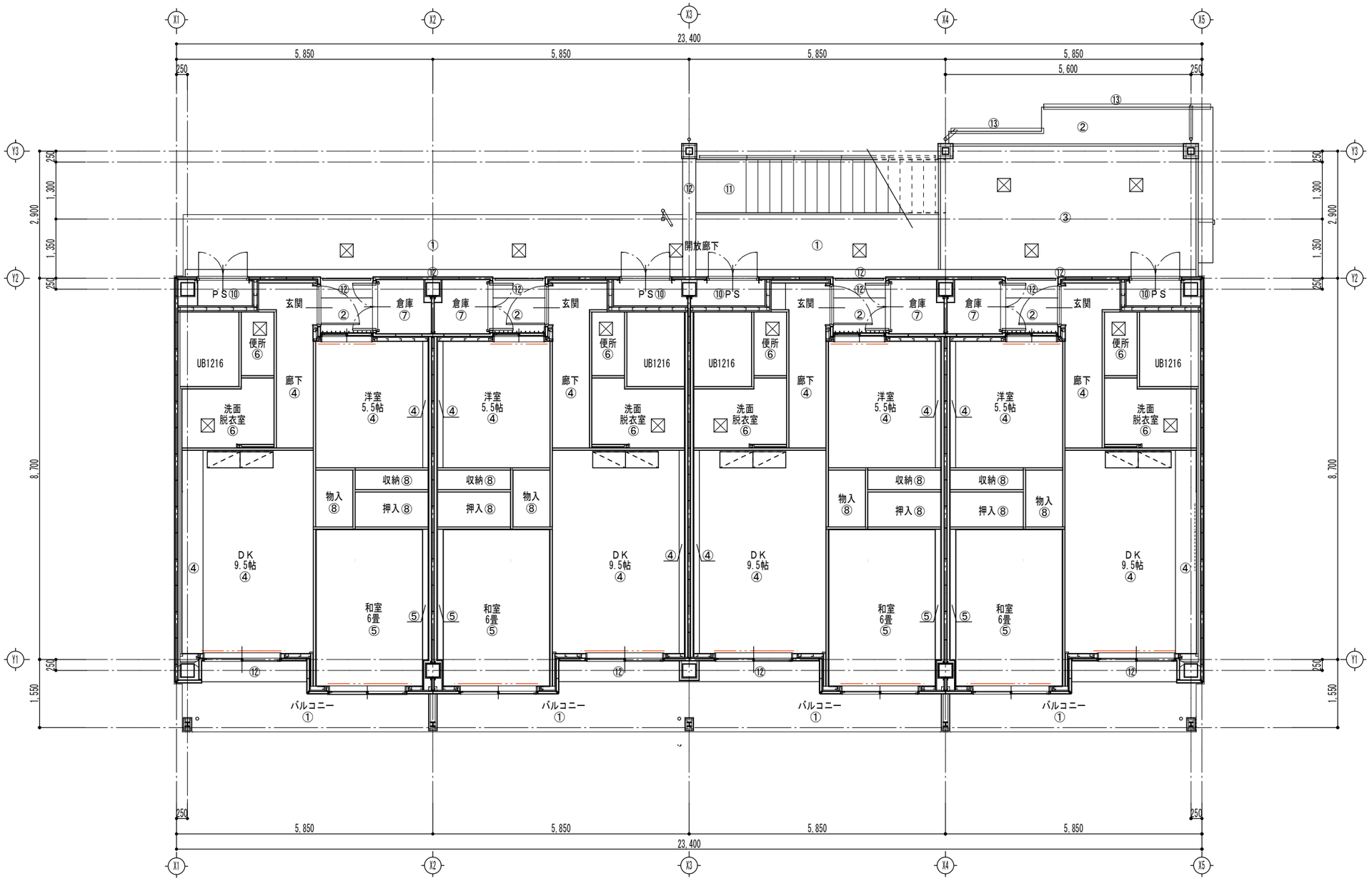
1A
24

縮小率　A３版１００％
A１版２００％



工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所	1級建築士事務所 22（1）第0689号	担当	図面名称	SCALE 1/50
		令和 8年 3月 日	広島市南区金屋町２−１５ TEL(082)−569−8808 FAX(082)569−8807	1級建築士 229916号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	矩計図 5	1A / 25

縮小率 A3版100% A1版200%



凡例

①	軒裏仕様１
②	軒裏仕様２
③	軒裏仕様３
④	ビニルクロス貼り
⑤	ビニルクロス貼り（色替え）
⑥	防カビ・ビニルクロス貼り
⑦	FK<6>の上EP-G塗り
⑧	天井パネル<15>
⑨	FK<6>　素地
⑩	コンクリート打ち放し補修
⑪	DP塗り
⑫	外壁仕様４
⑬	軒樋
┄┄	カーテンレール(アルミ製)
☒	開口補強300角程度

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄

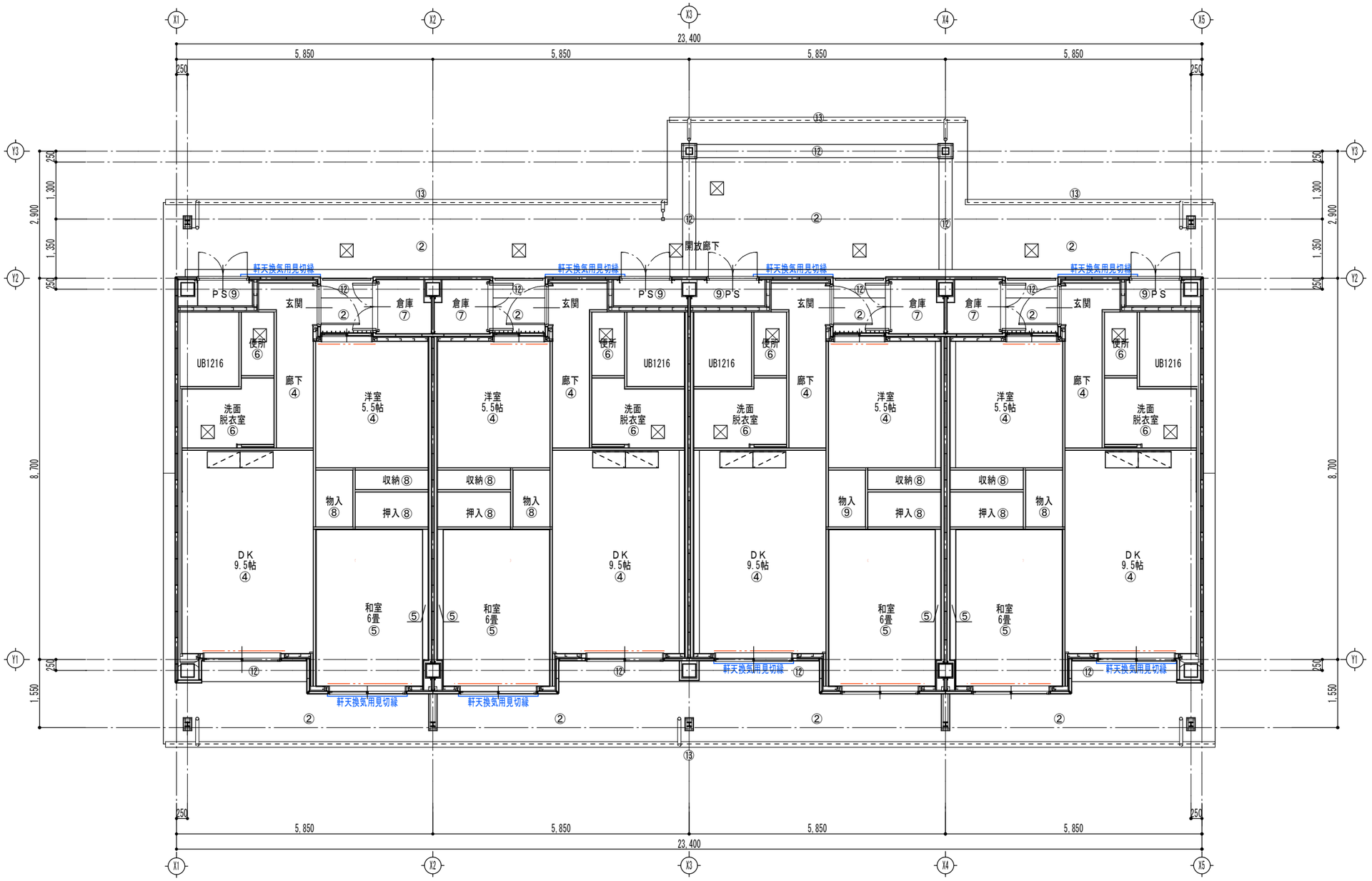
担当
1級建築士
第363328号
今田　雄貴

図面名称
１階天井伏図

SCALE
1/100

1A
26

縮小率　A３版１００％
A１版２００％



凡例

①	軒裏仕様１
②	軒裏仕様２
③	軒裏仕様３
④	ビニルクロス貼り
⑤	ビニルクロス貼り（色替え）
⑥	防カビ・ビニルクロス貼り
⑦	FK<6>の上EP-G塗り
⑧	天井パネル<15>
⑨	FK<6>　素地
⑩	外装薄塗材E吹付
⑪	DP塗り
⑫	外壁仕様４
⑬	軒樋
┈┈	カーテンレール(アルミ製)
☒	開口補強300角程度

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄

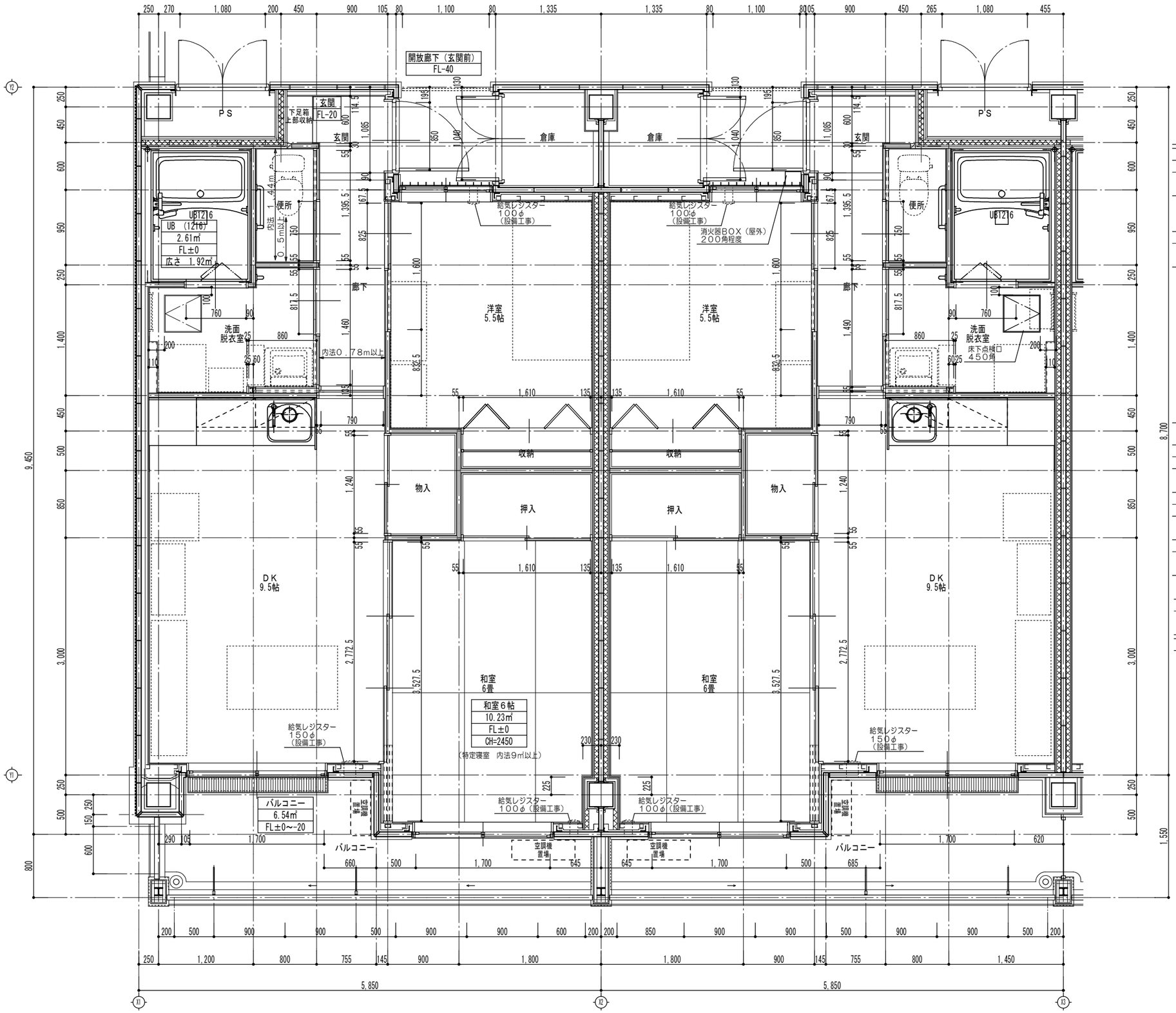
担当
1級建築士
第363328号
今田 雄貴

図面名称
２階天井伏図

SCALE
1/100

1A
27

縮小率　A３版１００％
A１版２００％



住宅性能評価

住宅性能表示　9－1　高齢者配慮対策等級（専用部分）

出入口の幅員　自己評価等級　　等級3

・出入口幅は（浴室を除き）７５０mm以上を確保。

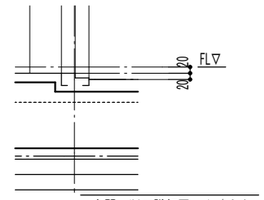
・浴室の出入口幅６００mm以上を確保。

※トイレ等出入口は工事を伴わない建具撤去により７５０mm確保できる。

玄関　自己評価等級　　等級3

・沓摺と玄関外側の高低差２０mm以下とする。

・沓摺と玄関土間の高低差５mm以下とする。



玄関　断面詳細図　１／２０

通路　自己評価等級　　等級3

・有効幅員７８０mm以上を確保。

寝室　自己評価等級　　等級3

・特定寝室の内法寸法９㎡以上を確保。

便所　自己評価等級　　等級3

・長辺方向１３００mm以上を確保。

・便器と壁の距離５００mm以上を確保。

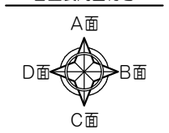
浴室　自己評価等級　　等級3

・短辺方向１２００mm以上を確保。

・内法寸法１．８㎡以上を確保。

福祉対応住戸　自己評価等級　　等級3

各室展開図符号



工事名称

大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４

令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号
1級建築士　２２９１６号 豊田隆雄

担当

1級建築士 第363328号 今田 雄貴

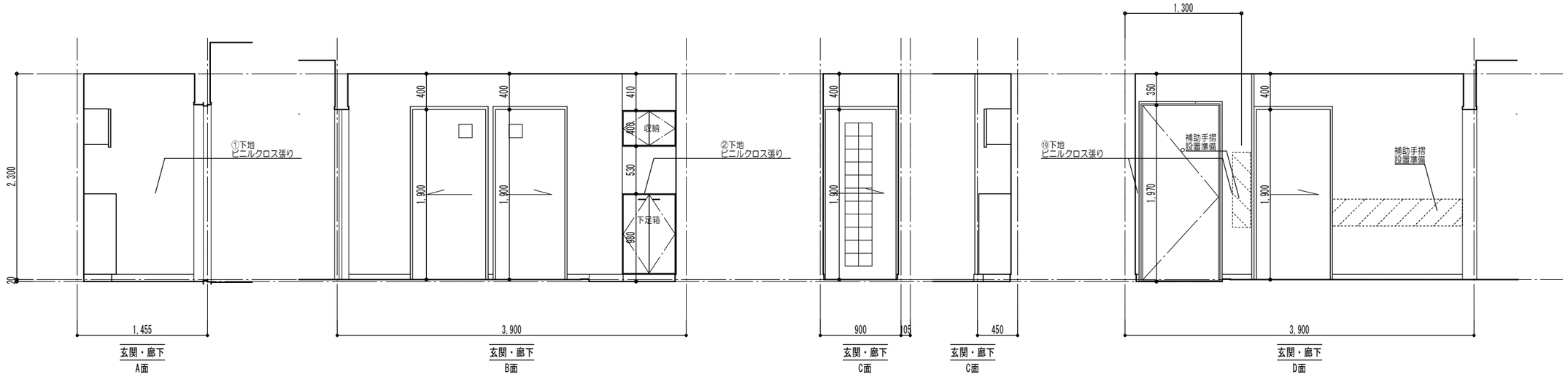
図面名称

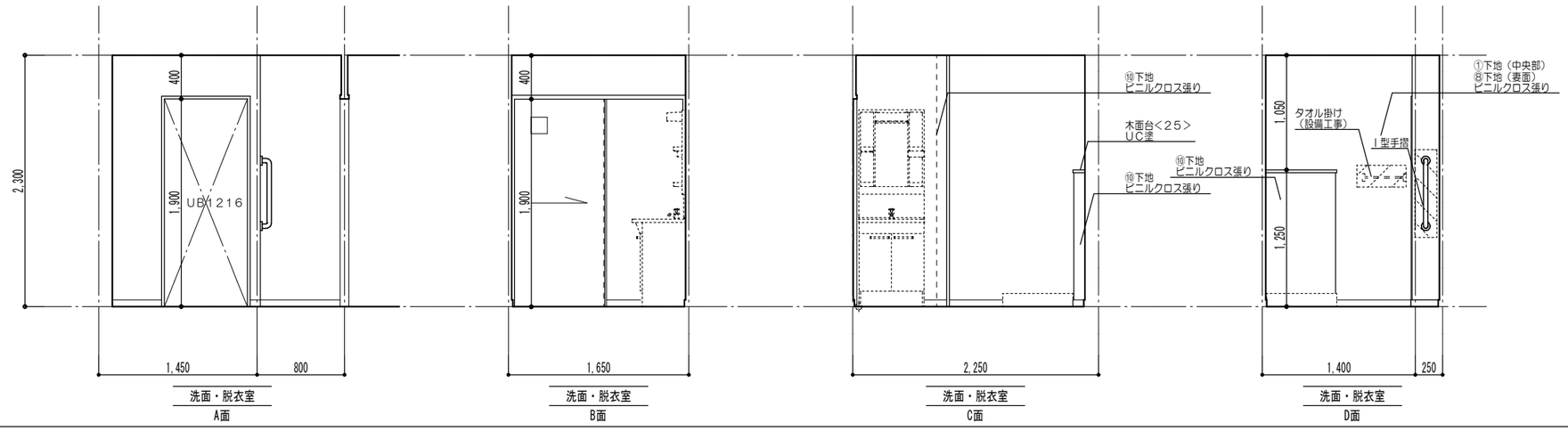
住戸１階平面詳細図

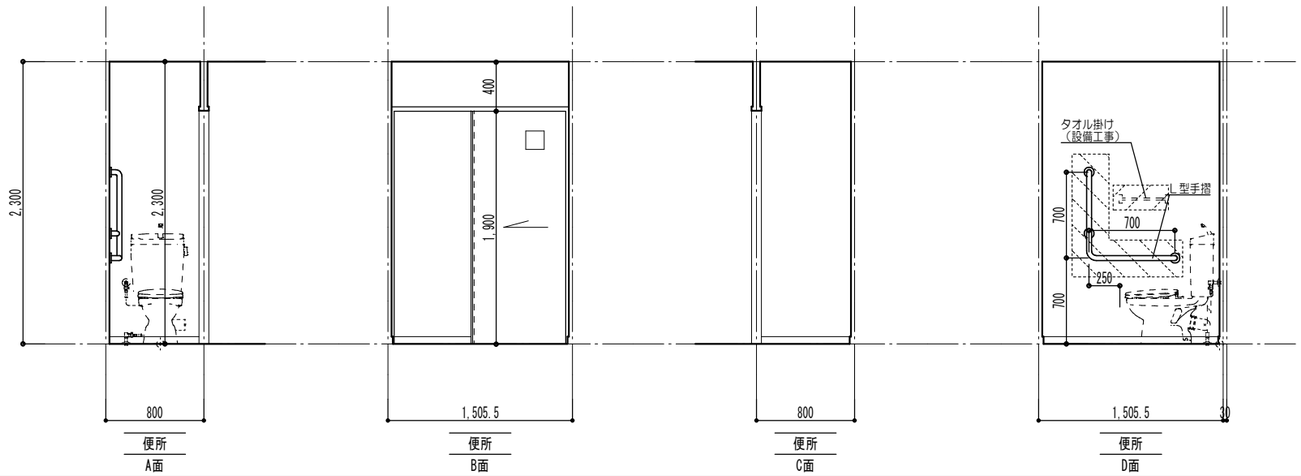
SCALE 1/50

1A / 28

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％







洗面・脱衣室　ユニット仕様

洗面化粧台（設備工事）
・・・LDBA060BAGDS1A ＋ LMBA060B1GDC1G（TOTO）同等品
タオル掛け（設備工事）・・・TS113A1R（TOTO）同等品
Ｉ型手摺・・・TM3533-S7-B（ウッドワン）同等品

便所　ユニット仕様

タオル掛け（設備工事）・・・TS113A1R（TOTO）同等品
Ｌ型手摺・・・TM3534-S7-B（ウッドワン）同等品

UB1216　ユニット仕様

UB（1216）
・・・RJV1216UW（TOTO）同等品

凡例

・・・パネル・ボード
補強位置を示す。

※仕上げ特記内場合、
壁パネル、木巾木とする

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄

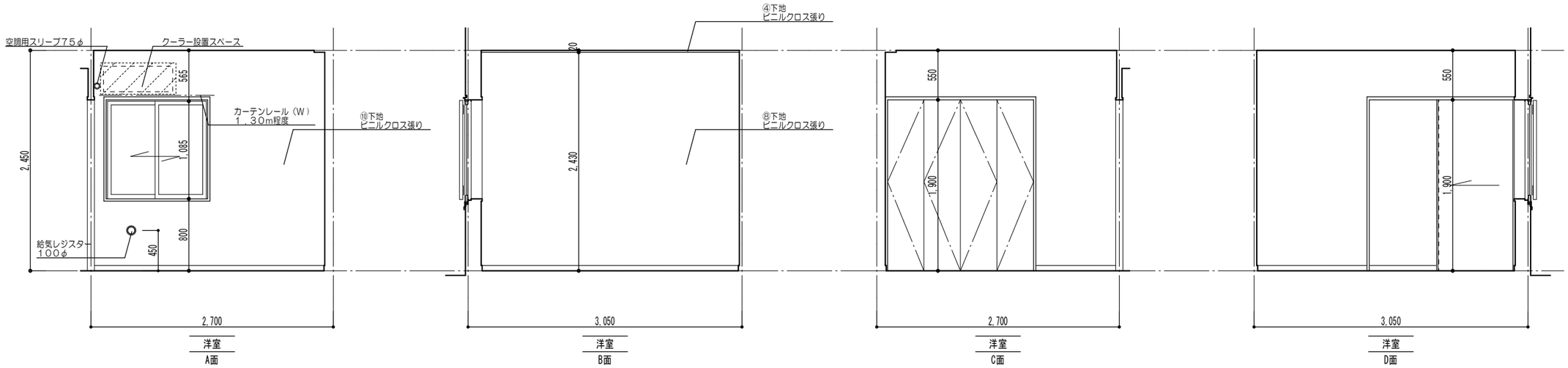
担当
1級建築士
第363328号
今田 雄貴

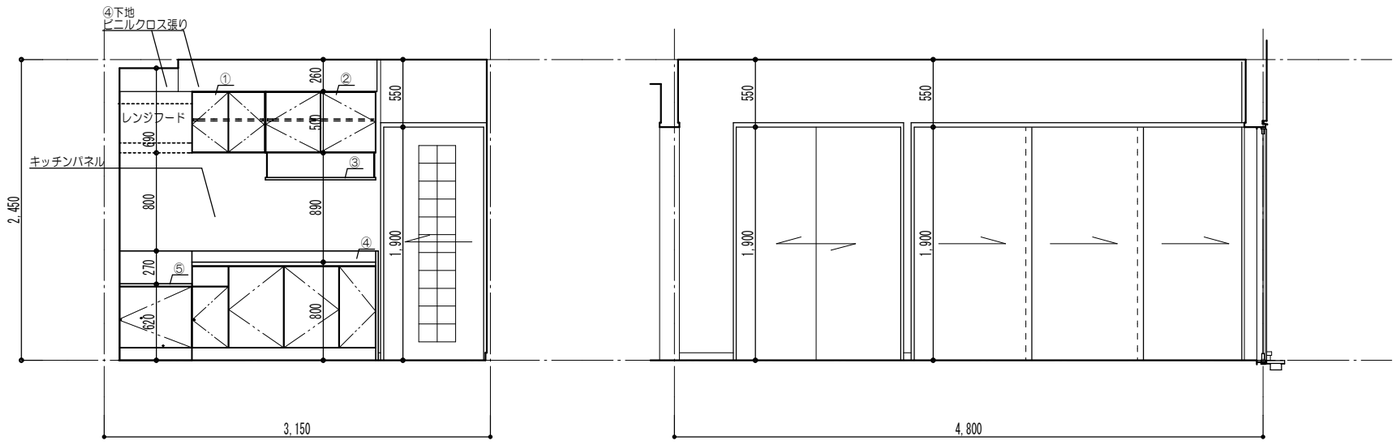
図面名称
１階展開図１

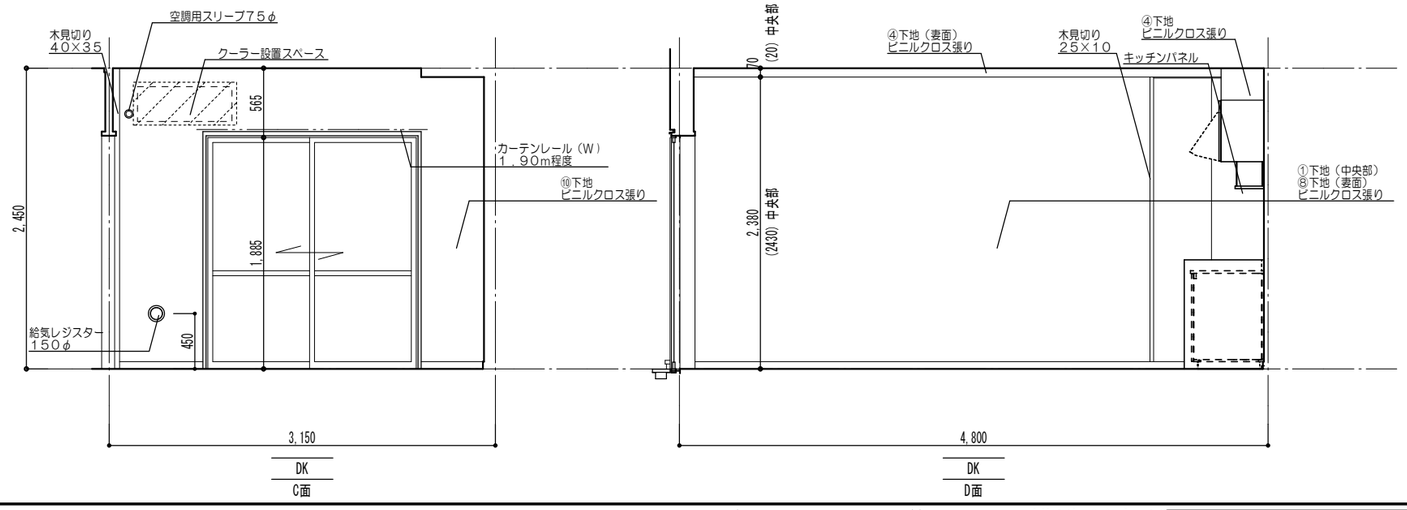
SCALE
1/50

1A
29

縮小率　A3版100%
A1版200%







DK　ユニット仕様

①上吊り棚A　600＊500＊360・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

②上吊り棚B　900＊500＊360・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

③水切り棚　W900・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

③流し台　1500＊800＊660・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品
サイドパネル付

④コンロ台　600＊625＊660・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

レンジフード・・・VUS-605（タカラスタンダード）同等品

給気レジスター　100φ・・・設備工事による

給気レジスター　150φ・・・設備工事による

凡例

・・・パネル・ボード
補強位置を示す。

※仕上げ特記ない場合、
壁パネル、木巾木とする

大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514

令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町2－15
TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所　22（1）第0689号
1級建築士　229916号　豊田隆雄
担当
1級建築士
第363328号
今田　雄貴

図面名称

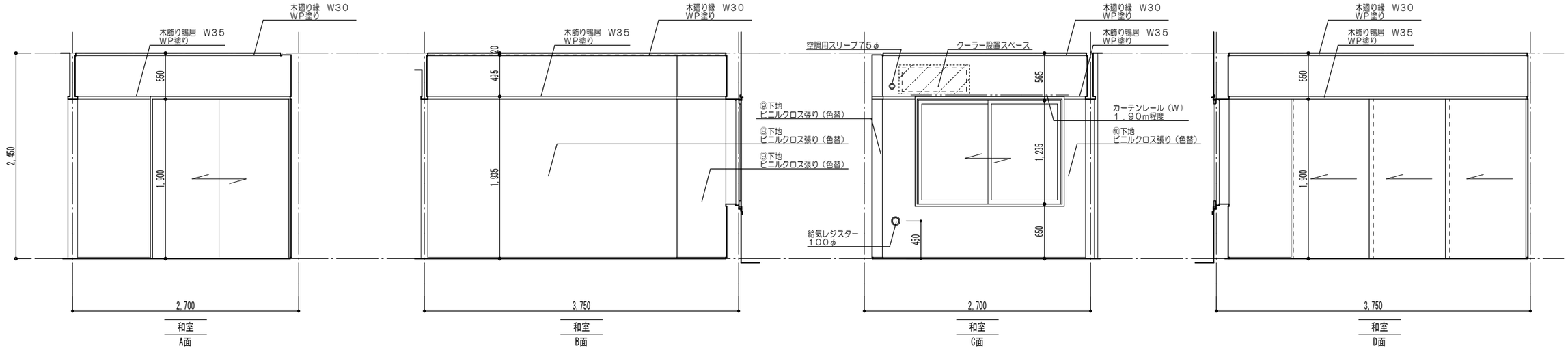
1階展開図2

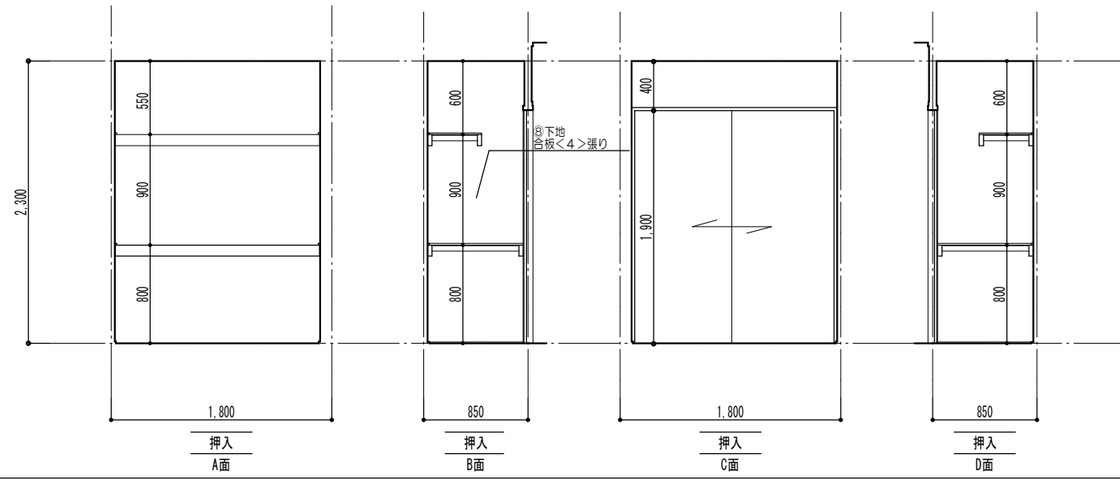
SCALE

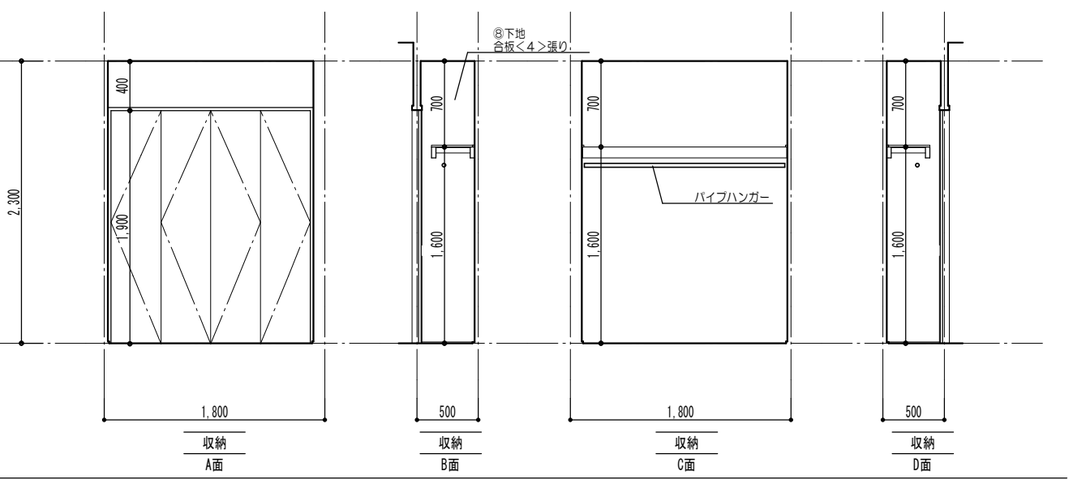
1/50

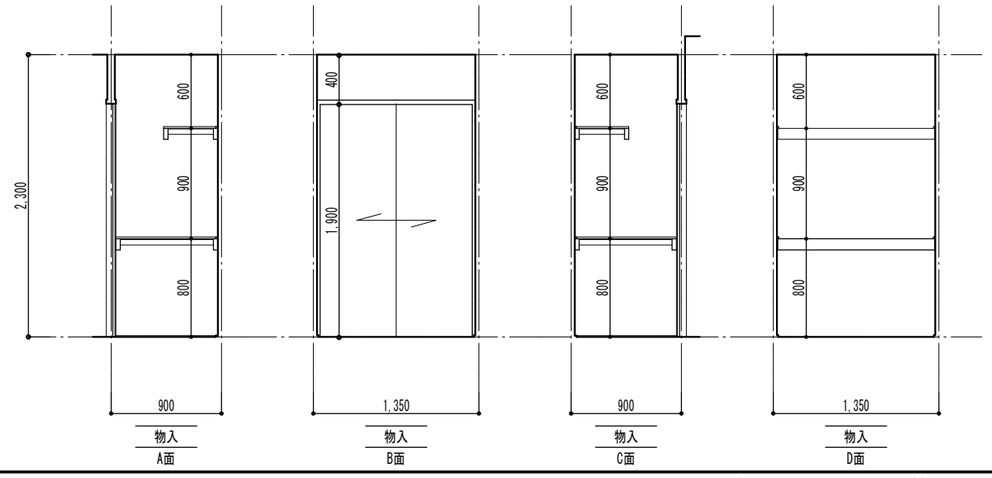
1A / 30

縮小率　A3版100%
A1版200%









収納　ユニット仕様

ハンガーパイプ（L＝1675）・・・SUS化粧丸パイプφ25（杉田エース）同等品
ソケット2個付（SUSソケット（杉田エース）同等品）
給気レジスター　100φ・・・設備工事による

凡例

・・・パネル・ボード
補強位置を示す。

※仕上げ特記ない場合、
壁パネル、雑巾摺とする

大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄

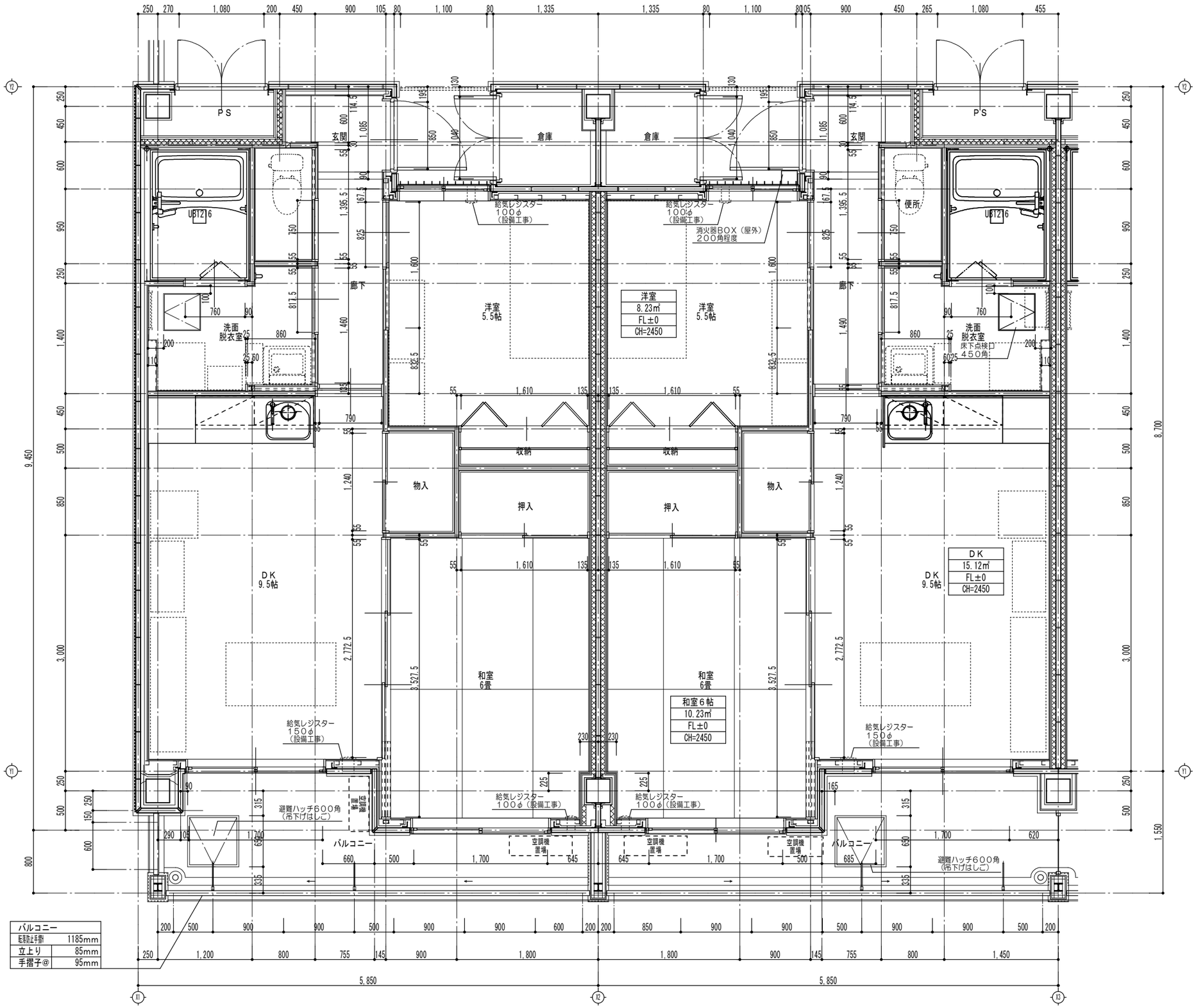
担当　1級建築士 第363328号 今田 雄貴

図面名称
1階展開図3

SCALE
1/50

1A
31

縮小率　A3版100%
A1版200%



住宅性能評価

住宅性能表示　8－1　重量床衝撃対策	
部位	等級
洋室（上下階界床）	1
ＤＫ（上下階界床）	1
和室（上下階界床）	1

バルコニー	
転落防止手摺	1185mm
立上り	85mm
手摺子@	95mm

各室展開図符号

A面
D面　B面
C面

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４
令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄

担当

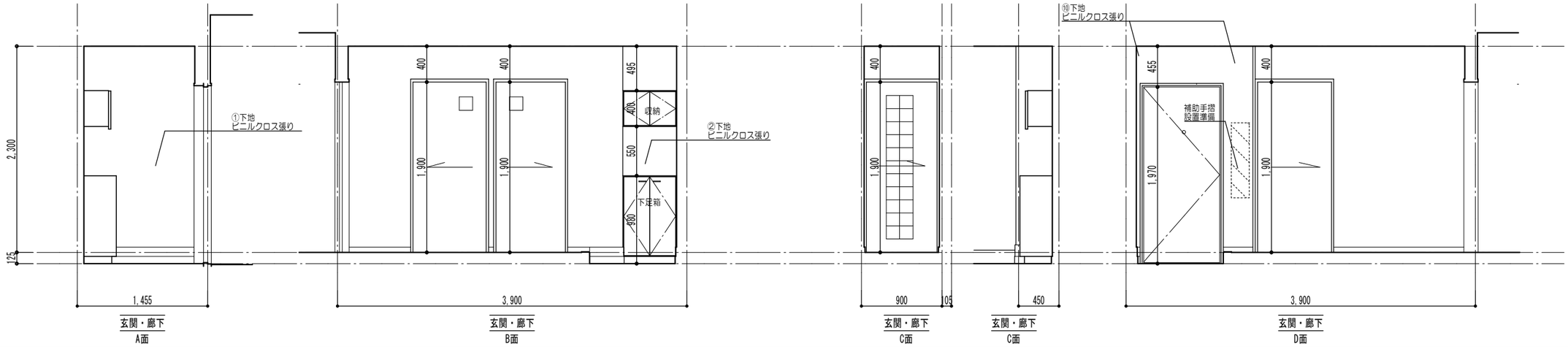
1級建築士
第363328号
今田　雄貴

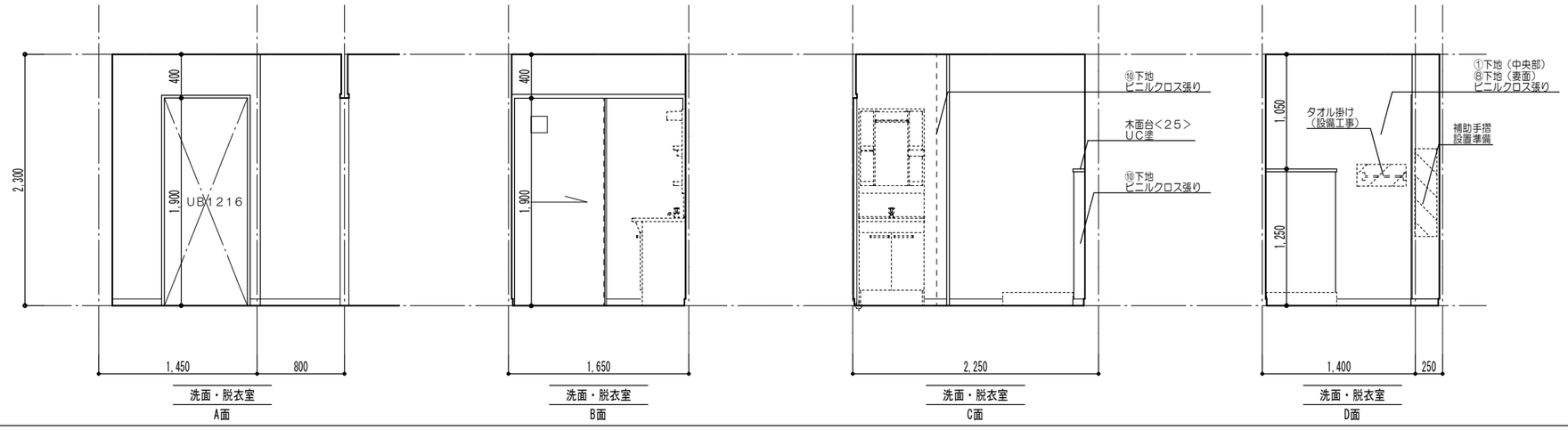
図面名称
住戸２階平面詳細図

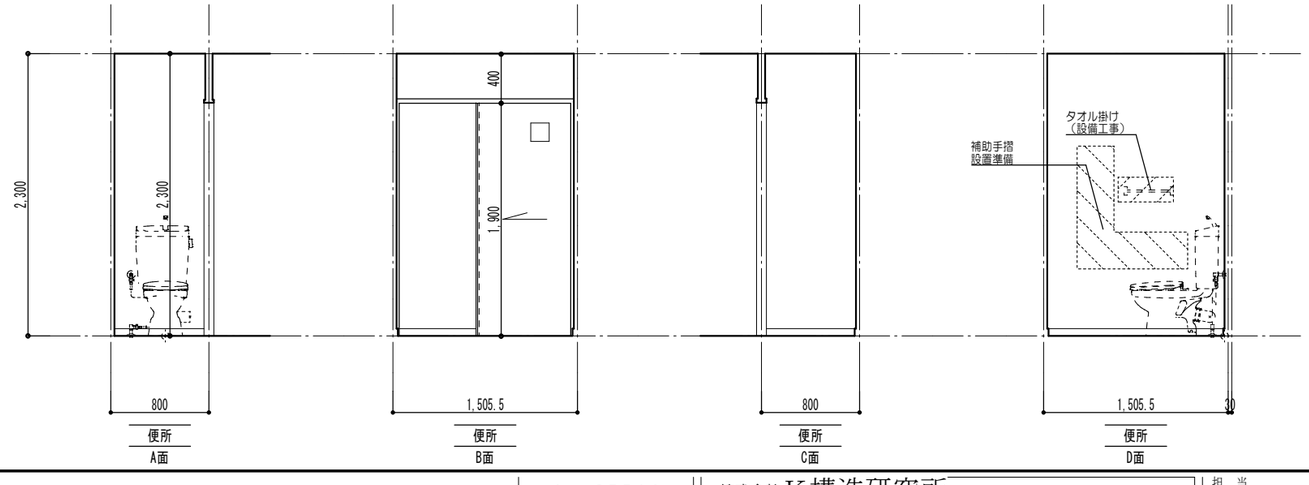
SCALE
1/50

1A
32

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％







洗面・脱衣室　ユニット仕様

洗面化粧台（設備工事）
・・・LDBA060BAGDS1A　＋　LMBA060B1GDC1G（TOTO）同等品
タオル掛け（設備工事）・・・TS113A1R（TOTO）同等品

便所　ユニット仕様

タオル掛け（設備工事）・・・TS113A1R（TOTO）同等品

UB1216　ユニット仕様

UB（1216）
・・・RJV1216UW（TOTO）同等品

凡例

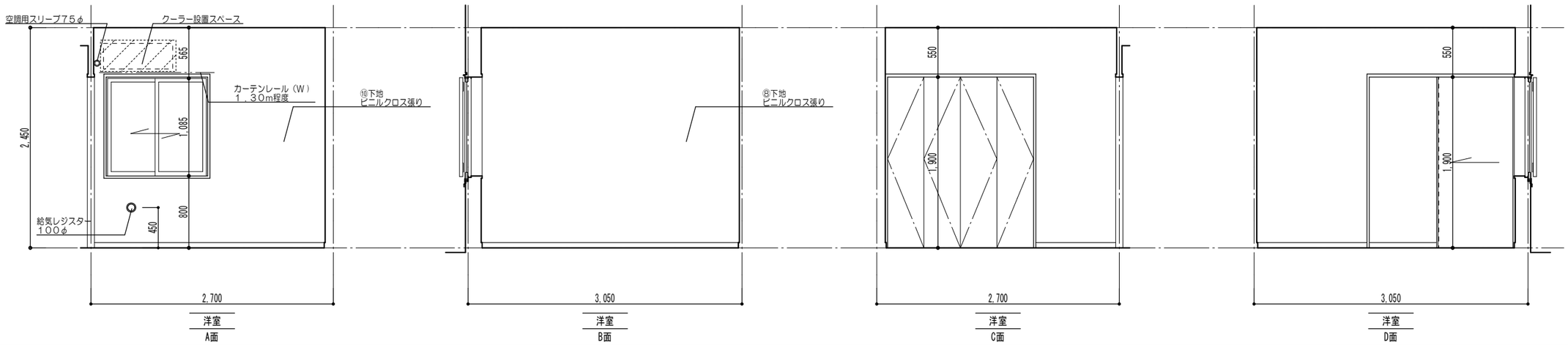
・・・パネル・ボード
補強位置を示す。

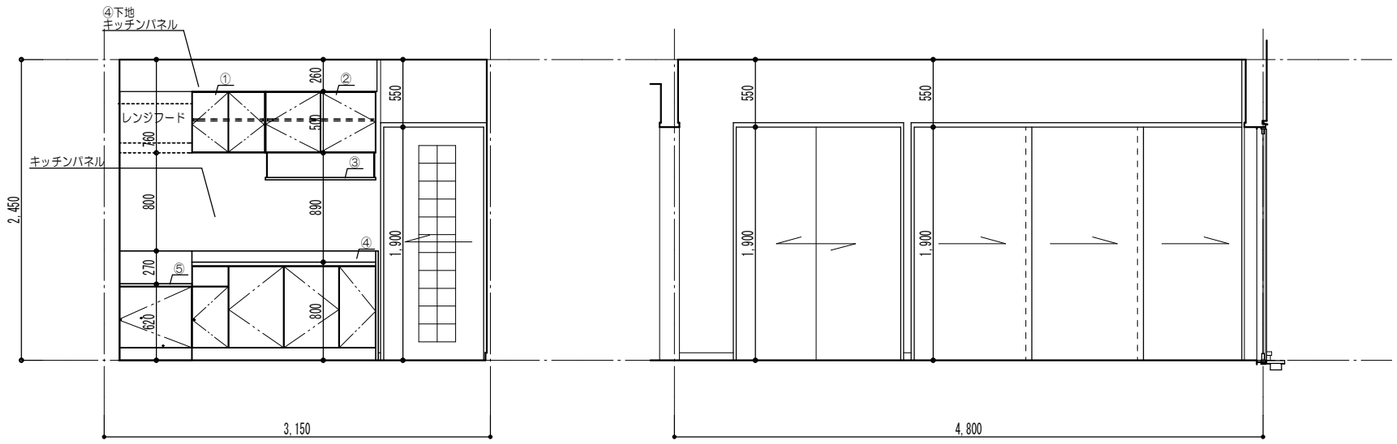
※仕上げ特記ない場合、
壁パネル、木巾木とする

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所	1級建築士事務所 22（1）第0689号	担当	図面名称	SCALE
		令和 8年 3月 日	広島市南区金屋町２−１５ TEL (082)−569−8808 FAX (082) 569−8807	1級建築士 229916号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	2階展開図1	1/50

1A / 33

縮小率　A3版100%
A1版200%





DK　ユニット仕様

①上吊り棚A　600＊500＊360・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

②上吊り棚B　900＊500＊360・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

③水切り棚　W900・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

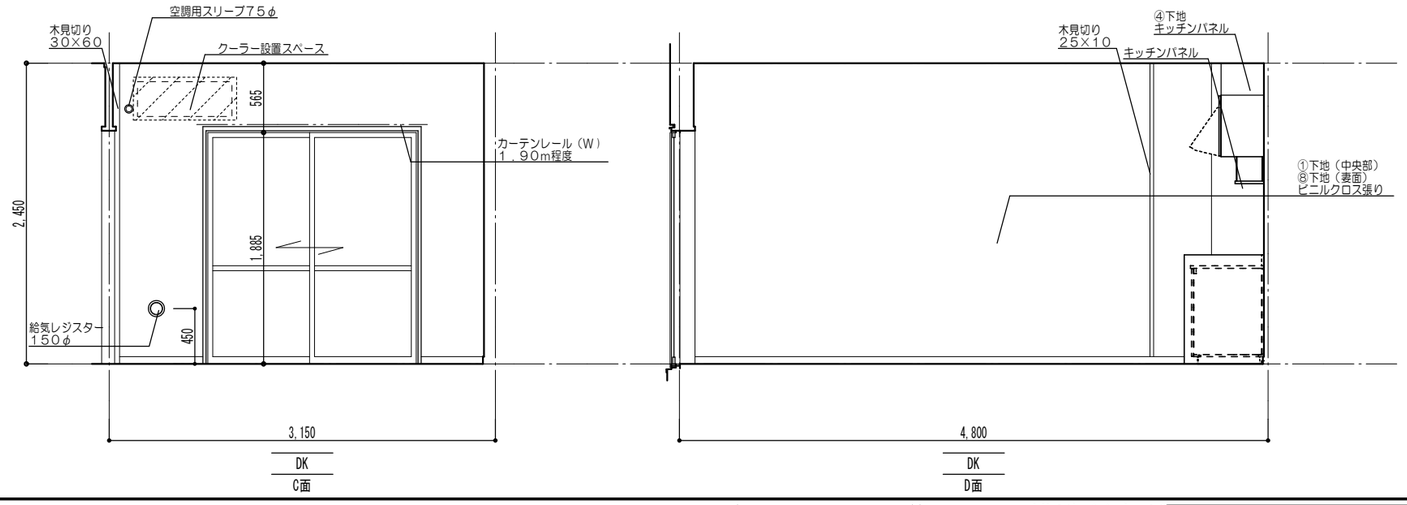
③流し台　1500＊800＊660・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品
サイドパネル付

④コンロ台　600＊625＊660・・・BL認定セクショナルキッチン　M型（タカラスタンダード）同等品

レンジフード・・・VUS-605（タカラスタンダード）同等品

給気レジスター　100φ・・・設備工事による

給気レジスター　150φ・・・設備工事による



凡例

・・・パネル・ボード
補強位置を示す。

※仕上げ特記内場合、
壁パネル、木巾木とする

大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514

令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町2－15
TEL (082)-569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所　22（1）第0689号
1級建築士　229916号　豊田隆雄

担当

1級建築士
第363328号
今田　雄貴

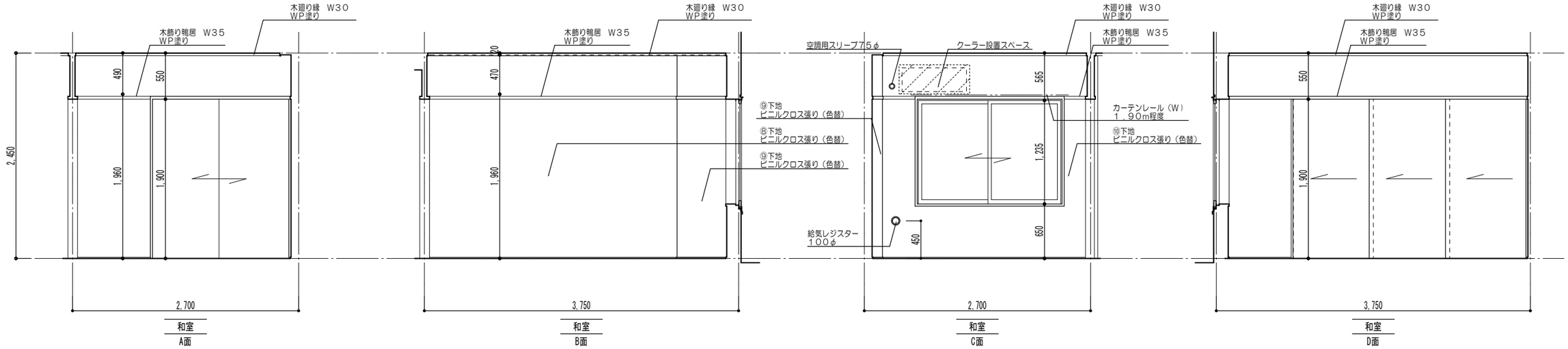
図面名称

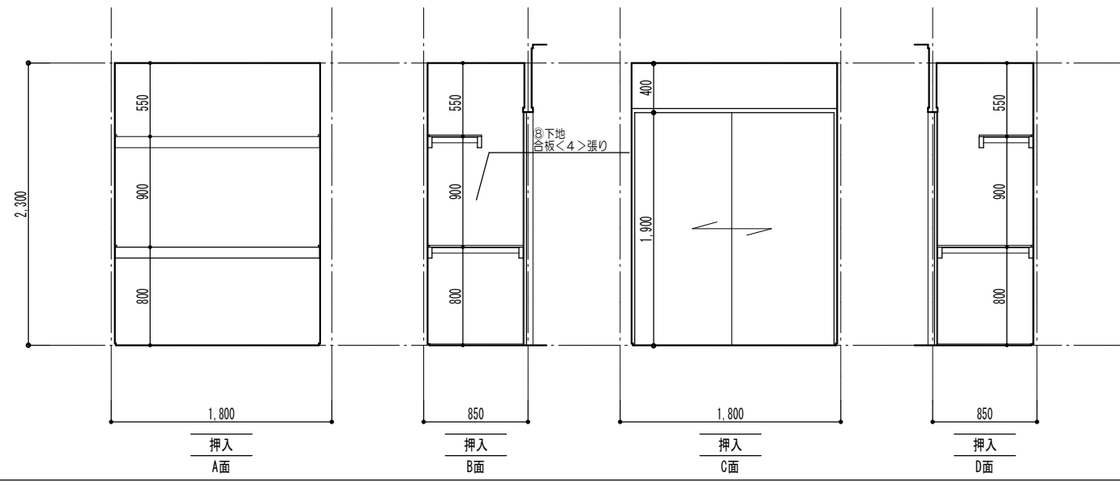
2階展開図2

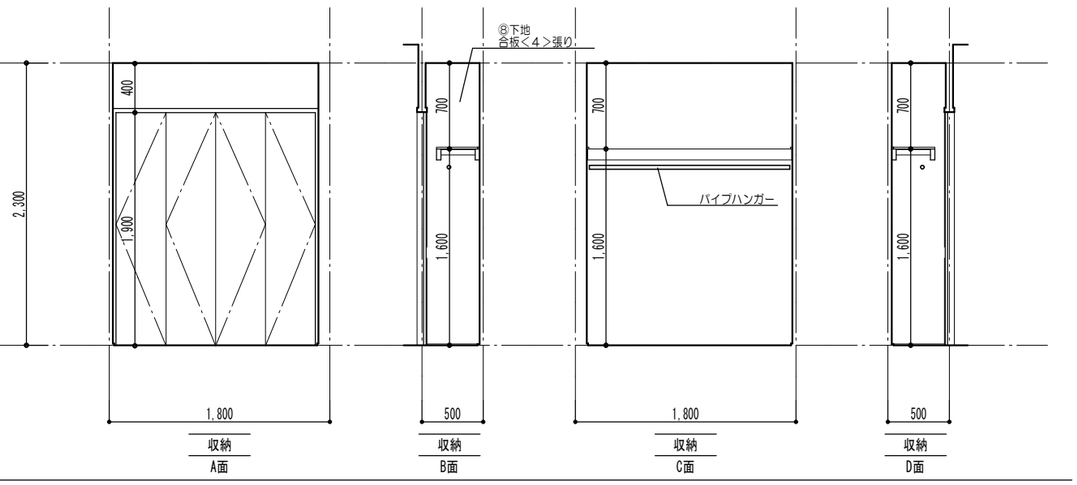
SCALE
1/50

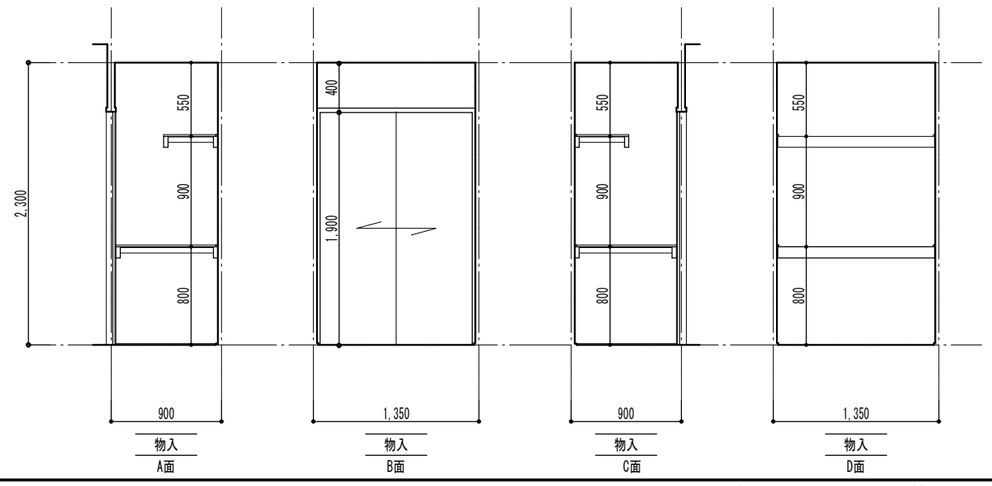
1A
34

縮小率　A3版100％
A1版200％









収納　ユニット仕様

ハンガーパイプ（L＝1677）・・・SUS化粧丸パイプφ25（杉田エース）同等品
ソケット2個付（SUSソケット（杉田エース）同等品）

和室　ユニット仕様

給気レジスター　100φ・・・設備工事による

凡例

・・・パネル・ボード
補強位置を示す。

※仕上げ特記内場合、
壁パネル、雑巾摺とする

大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap－25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄

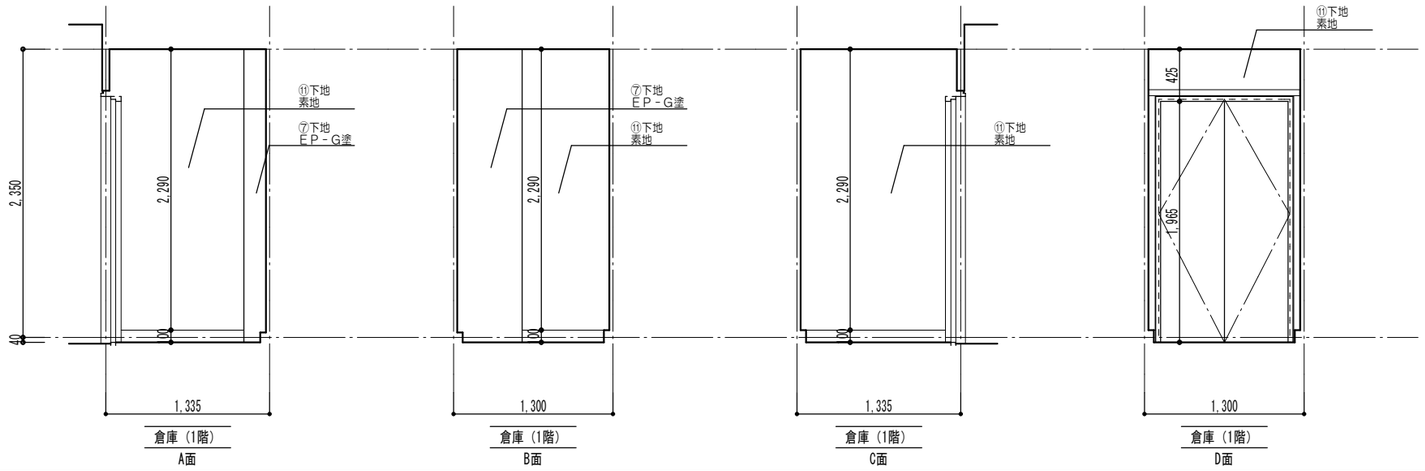
担当　1級建築士 第363328号 今田 雄貴

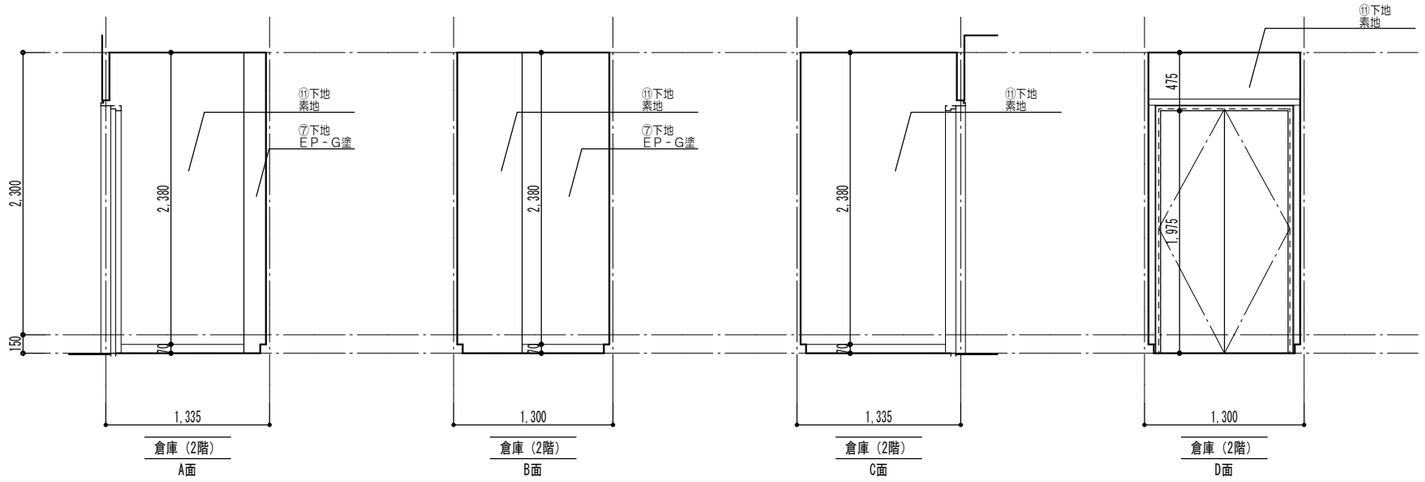
図面名称
２階展開図３

SCALE
1/100

1A
35

縮小率　A3版100%
A1版200%





大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４

令和　８年　３月　　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807
1級建築士事務所　２２（1）第０６８９号
1級建築士　　２２９９１６号　豊田隆雄

担　当

1級建築士
第363328号
今田　雄貴

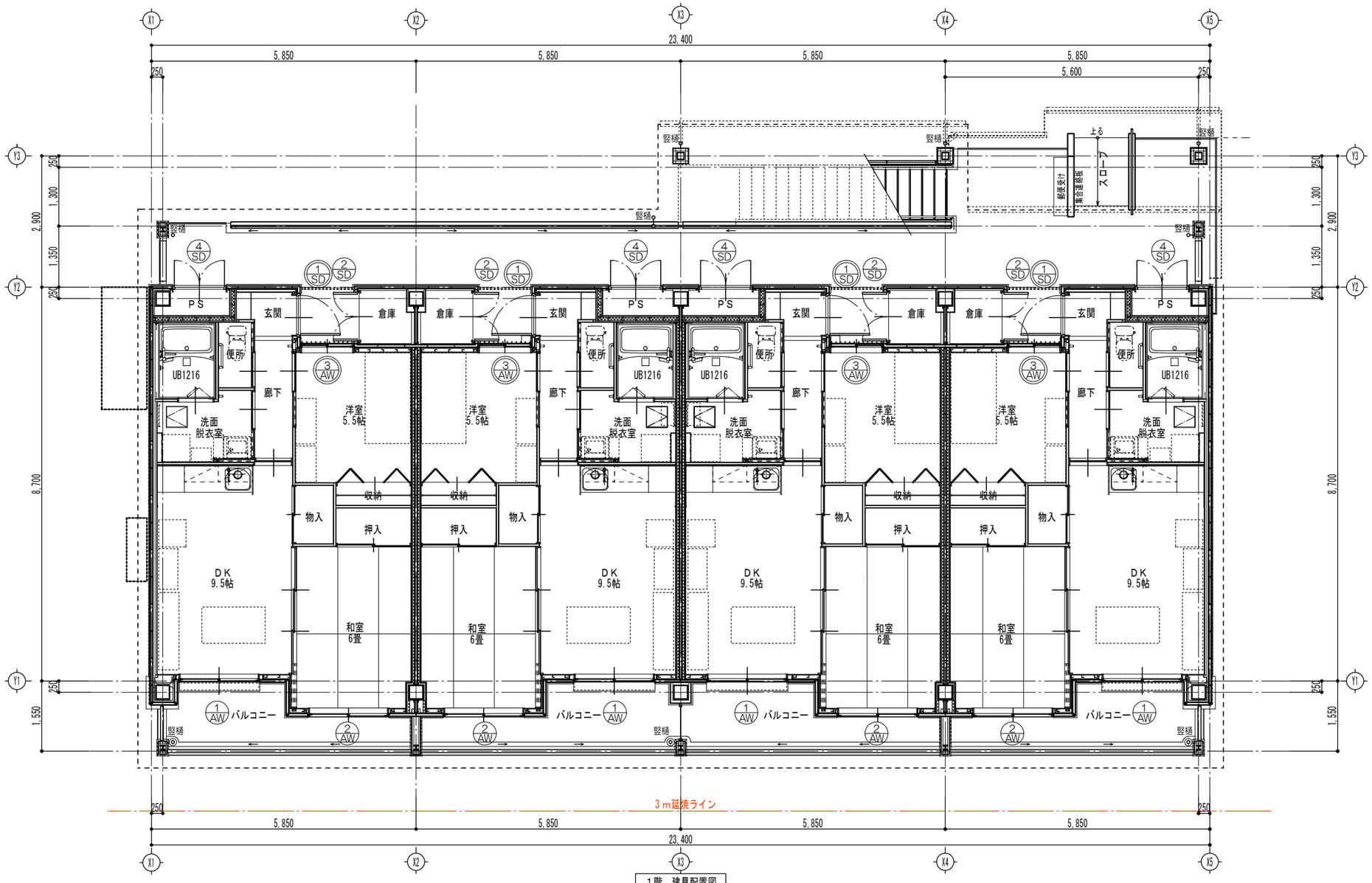
図面名称

共用部展開図

SCALE 1/50

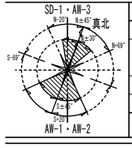
1A / 36

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



1階　建具配置図
1/100

住宅性能評価		
温熱環境仕様　5－1（3）イ		
・外皮平均熱貫流率による基準	等級4	
地域区分　6	外皮熱貫流率 0．76（W/㎡・K）	≧基準値 ≧0．87（W/㎡・K）
※断熱材は躯体面に全面接着とする。（天井を除く）		
温熱環境仕様　5－1（3）ロ		
・冷房期の平均日射熱取得率に関する基準	等級4	
地域区分　6	冷房期の平均日射熱取得率 1．50（ηAC）	≦基準値 ≦2．80（ηAC）
温熱環境仕様　5－1（3）ハ		
・結露の発生を防止する対策に関する基準	等級4	
外壁（内断熱） ※透湿抵抗は押出成形セメント板の抵抗値から求める。	ＪＩＳＡ9526に規定する建築物断熱用硬質ウレタンフォームを使用する。 透湿抵抗＝0．06（m）/30．5（ng/m・s・Pa）＝0．0196≧0．019	
屋根（内断熱）	ＪＩＳＡ9521に規定する建築用断熱材フェノールフォームを使用する。	
天井（内断熱）	室内側防湿層を設ける。	
※ 範囲（方位）・・・日射遮蔽対策の必要な範囲のうち、レースカーテン、庇が有効な範囲		



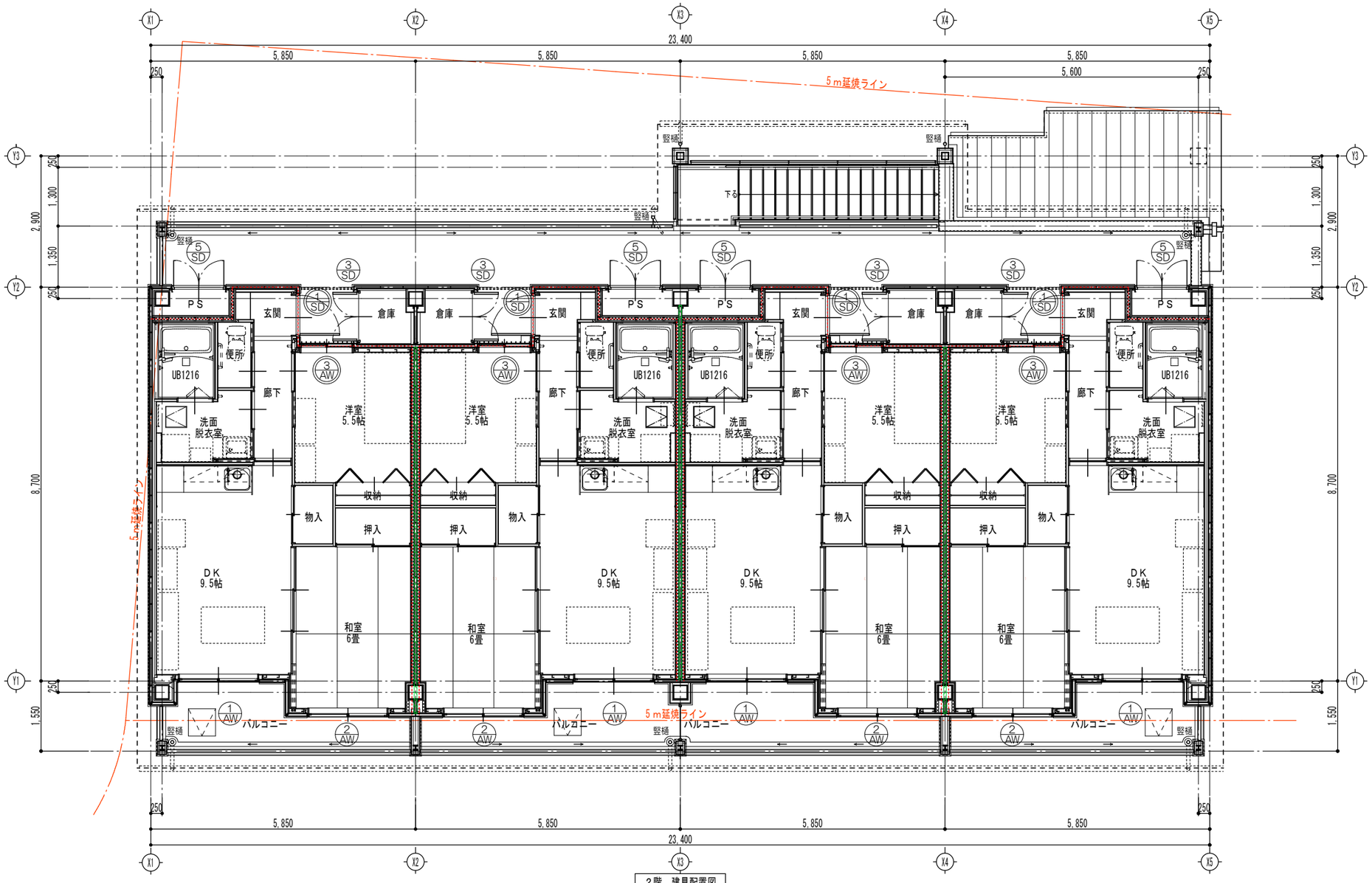
温熱環境仕様　5－2（2）　一次エネルギー消費量等級		
・一時エネルギー消費量に関する基準	等級4	
地域区分　6	評価住戸の一次エネルギー消費量 0．89（GJ/年）	≦基準一次エネルギー消費量 ≦1．00（GJ/年）

凡例

- ※SD　鋼製建具
- ※SD　鋼製建具（防火設備）
- ※AW　アルミ製建具（防火設備）
- ※AW　アルミ製建具

工事名称							
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（1期工事）	Ap－25514 令和8年　3月	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町2－15 TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所　22（1）第0689号 1級建築士　229916号　豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 1階建具配置図	SCALE 1/100	1A 37

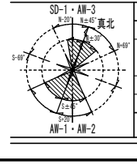
縮小率　A3版100%
A1版200%



2階　建具配置図
1/100

住宅性能評価

温熱環境仕様　5－1（3）イ		
・外皮平均熱貫流率による基準	等級4	
地域区分　6	外皮熱貫流率 0．76（W/㎡・K）	≧基準値 ≧0．87（W/㎡・K）
※断熱材は躯体面に全面接着とする。（天井を除く）		
温熱環境仕様　5－1（3）ロ		
・冷房期の平均日射熱取得率に関する基準	等級4	
地域区分　6	冷房期の平均日射熱取得率 1．50（ηAC）	≦基準値 ≦2．80（ηAC）



温熱環境仕様　5－1（3）ハ		
・結露の発生を防止する対策に関する基準	等級4	
外壁（内断熱） ※透湿抵抗は押出成形セメント板の抵抗値から求める。	ＪＩＳＡ９５２６に規定する建築物断熱用硬質ウレタンフォームを使用する。 透湿抵抗＝0．06（m）/30．5（ng/m・s・Pa）＝0．0196≧0．019	
屋根（内断熱）	ＪＩＳＡ９５２１に規定する建築用断熱材フェノールフォームを使用する。	
天井（内断熱）	室内側防湿層を設ける。	
※ 範囲（方位）・・・日射遮蔽対策の必要な範囲のうち、レースカーテン、庇が有効な範囲		

温熱環境仕様　5－2（2）　一次エネルギー消費量等級		
・一時エネルギー消費量に関する基準	等級4	
地域区分　6	評価住戸の一次エネルギー消費量 0．89（GJ/年）	≦基準一次エネルギー消費量 ≦1．00（GJ/年）

凡例

- ※SD　鋼製建具
- ※SD　鋼製建具（防火設備）
- ※AW　アルミ製建具（防火設備）
- ※AW　アルミ製建具

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514 令和8年　3月	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町2－15 TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所　22（1）第0689号 1級建築士　229916号　豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 2階建具配置図

SCALE 1/100　1A　38

縮小率　A3版100%
A1版200%

特記事項

共通事項　特記なき限り下記による。（仕様書と併用する）

一般事項　項目は番号に○印のついたものを適用する。特記事項は○印のついたものを適用する。○印のつかない場合は※のついたものを適用する。・○印と⊠印のついた場合は共に適用する。
本表は、設計図に示す建具を一括して表す。
戸棚等家具類の建具は詳細図に依るものとし本表には含まない。

① 製作に当たってはあらかじめ製作図を作製し監督員の承諾を受けること。
② 製品は社内検査に合格したものとし検査成績書を監督員に提出して承諾を受けること。
③ 寸法は建築標準詳細図による建具寸法を示し、製作に当たっては現場実測すること。
④ ガラリの材質及び仕上は建具と同じとし、有効開口面積は４０％とする。
５ 便所、手洗、湯沸等の水廻りのフラッシュ建具に使用する合板はタイプⅠ種その他はタイプⅡ種とし、合板厚は・Ａ種（５．５以上）・Ｂ種（４．０以上）とする。
６ ペンキ、色ラッカー仕上の合板はシナ合板とする。
７ ポリエステル化粧合板の厚さは４．０㎜とする。
⑧ 防虫網はＳＵＳ３０４、１６メッシュとする。
９ 網戸の網は　・ステンレス製　・合成樹脂製　・ガラス繊維入合成樹脂製とする。
１０ 建具リスト中◎は遮音Ｔｓ－３０防音サッシを示す。

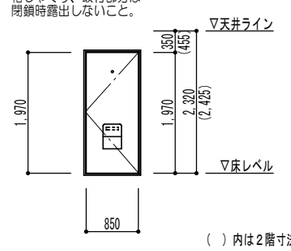
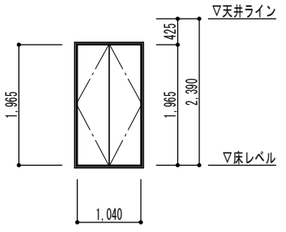
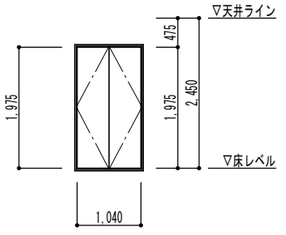
枠関係

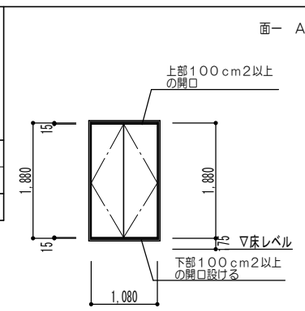
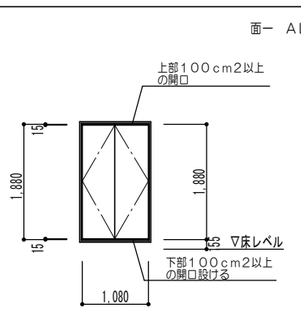
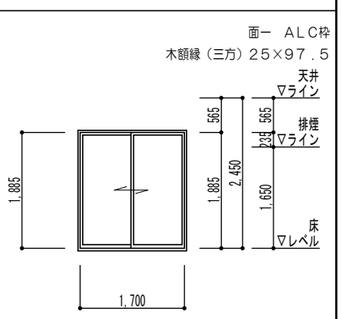
① 外部アルミサッシは合成ゴム又はモヘアウェザーストップ付とする。
② 外部用建具はガラス面結露水受け及び水受け（風避け付）を設ける。
③ 金属製建具の出入口下枠はステンレス（ＳＵＳ３０４）＜２．０＞ＨＬ仕上とし枠詰めモルタルを充填する。
④ 枠詰め防水（普通）モルタルはコンプレッサー等による圧力注入とする。

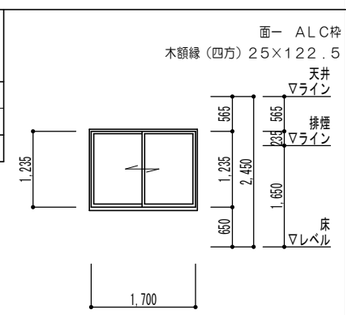
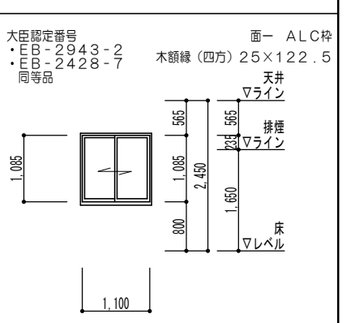
金物関係

① 一般金物部材種は　※ステンレス製　・黄銅製とする。
② 錠前でマスターキーを設ける場合、木製、金属製共通とする。
③ 丁番
ドア寸法７００×１８００以上　木製　１２７㎜＜２．５＞３枚
金属製１２７㎜＜３．０＞３枚
ドア寸法７００×１８００未満　木製　１００㎜＜２．５＞３枚
金属製１２７㎜＜３．０＞２枚
④ 握玉高さは　㎜バックセット６４㎜を原則とする。
⑤ オートヒンジはストップ付（防火扉を除く）　※シルバー色・ブロンズ色　・指定色　　ドアチェックはストップ付（防火扉を除く）見本品又はカタログを提出し監督員の承諾を得たものを使用する。
６ 排煙用オペレーター手動装置及び排煙上有効な窓のクレセント等の位置はＦＬ８００～１５００とする。

1．特記以外は、建築工事共通仕様書平成１９年版（建設大臣官房官庁営繕部監修）による。
2．アルミニウム製建具は、ＢＬ認定品（建設大臣認定優良住宅部品）及びＢＬ－Ｋ（公共住宅用に指定された住宅部品）を標準とする。
外部に面する建具　耐風圧強度：ＢＬ認定品　Ｓ－４（１～５階）
耐風圧強度：ＢＬ認定品　Ｓ－６（６～８階）
耐風圧強度：　ビル用　Ｓ－５（１～５階）
耐風圧強度：　ビル用　Ｓ－６（６～８階）
3．鋼製建具は、ＢＬ認定品及びＢＬ－Ｋ指定品を標準とする。
4．鋼板は全てボンデ鋼板とし、切断部分はボンデ処理を行う。表面処理は仕様書による。
5．建具金物は特記以外は、ＢＬ標準仕様とし、見本品提出の上監督員の承認を得る事。
6．木製建具の製作に当っては、全て現場実測の上製作のこと。
7．開き扉の戸当りはアオリ止め付とする。
8．各扉のリターンガラリは　型とし、ガラリの材質は扉と同材とする。
9．アルミ製建具は特記なき限り全てカラーとする。
10．出入口沓摺は特記なき限りステンレスＳＵＳ３０４　厚２．０とする。
11．開き扉スチール枠には戸当りゴム取付け。
12．外壁開口部の遮音性能は、T-1以上とする。（JIS遮音等級表示品）

符号	見込	1 SD 防火設備	2 SD	3 SD
		枠見込み 85 / 建具見込み 36	枠見込み 85 / 建具見込み 36	枠見込み 85 / 建具見込み 36
姿図		個数 2階4 1階4 合計8 告示1360 表面材＜1．6＞ 枠と接する部分 相じゃくり、取付部分は閉鎖時露出しないこと。 面一 ALC枠 木額縁（三方）25×107．5  （ ）内は2階寸法を示す。	個数 2階 1階4 合計4 外額縁 ALC枠 	個数 2階4 1階 合計4 外額縁 ALC枠 
場所		住戸玄関	倉庫（各住戸）	倉庫（各住戸）
仕様		スチール製片開きフラッシュ戸　額縁（三方）EP-G塗り	スチール製両開きフラッシュ戸 枠共ＤＰ塗り	スチール製両開きフラッシュ戸 枠共ＤＰ塗り
硝子				
金物		A（3方）,H,HL,CP,〔DC〕,郵便受箱,防犯メガネ,ドアチェーン,グラスウール充填,戸当たり	F（扉片側のみ）、H、HL、PD、DC、外額縁（25×80）	F（扉片側のみ）、H、HL、PD、DC、外額縁（25×80）
備考		BL -bs型、 ステンレス製沓摺　附属金物一式	ステンレス製沓摺　附属金物一式	ステンレス製沓摺　附属金物一式

符号	見込	4 SD	5 SD	1 AW
		枠見込み 85 / 建具見込み 36	枠見込み 85 / 建具見込み 36	枠見込み 70
姿図		個数 2階 1階4 合計4 面一 ALC枠 	個数 2階4 1階 合計4 面一 ALC枠 	個数 2階4 1階4 合計8 面一 ALC枠 木額縁（三方）25×97．5 
場所		PS（各住戸）	PS（各住戸）	DK（各住戸）
仕様		スチール製両開き片面フラッシュ戸 ※板厚　t＝0.8mm以上とすること。　枠共ＤＰ塗り	スチール製両開き片面フラッシュ戸 ※板厚　t＝0.8mm以上とすること。　枠共ＤＰ塗り	アルミ製引き違い窓　額縁（四方）WP塗り
硝子				FL<5>（外）+A<6>+LOW-E<5>（内）
金物		PH、ケースハンドル空錠、AS	PH、ケースハンドル空錠、AS	A(4方)、CU（ロック付き）、網戸、TH(2階)
備考		ステンレス製沓摺　※設備取合は充分打合せの上作成のこと　附属金物一式	ステンレス製沓摺　※設備取合は充分打合せの上作成のこと　附属金物一式	附属金物一式

符号	見込	2 AW	3 AW 防火設備
		枠見込み 70	枠見込み 70
姿図		個数 2階4 1階4 合計8 面一 ALC枠 木額縁（四方）25×122．5 	個数（防火戸）2階4 1階4 合計8 大臣認定番号 ・EB-2943-2 ・EB-2428-7 同等品 面一 ALC枠 木額縁（四方）25×122．5 
場所		和室（各住戸）	洋室（各住戸）
仕様		アルミ製引き違い窓　額縁（四方）WP塗り	アルミ製引違い窓　額縁（四方）EP-G塗り
硝子		FL<5>（外）+A<6>+LOW-E<5>（内）	PW<6.8>（外）+A<6>+LOW-E<5>（内）
金物		A(4方)、CU（ロック付き）、網戸、TH	A(4方)、CU（ロック付き）、網戸、TH、アルミ面格子
備考		附属金物一式	附属金物一式

建具開口補強一覧

1階 AW-1	縦材L-65×65×6 横材L-50×50×6	2階 AW-1	縦材L-65×65×6 横材L-65×65×6
AW-2	縦材L-75×75×6 横材L-65×65×6	AW-2	縦材L-75×75×6 横材L-65×65×6
AW-3	縦材L-65×65×6 横材L-50×50×6	AW-3	縦材L-90×90×7 横材L-50×50×6
SD-1	縦材L-65×65×6 横材L-50×50×6	SD-1	縦材L-75×75×9 横材L-50×50×6
SD-2	縦材L-65×65×6 横材L-50×50×6	SD-3	縦材L-75×75×6 横材L-50×50×6
SD-4	縦材L-65×65×6 横材L-50×50×6	SD-5	縦材L-65×65×6 横材L-50×50×6

建具の符号

WD	木製扉
WW	木製窓
SD	スチール製扉
SW	スチール製窓
SS	シャッター
AD	アルミ製扉
	（◎カラー　・シルバー）
AW	アルミ製窓
	（◎カラー　・シルバー）
STD	ステンレス製扉
STW	ステンレス製窓
LD	軽量スチール製扉
LW	軽量スチール製窓
AT	エアータイト

金物の符号

A	額縁取付用アングル
CP	シリンダー箱錠
CL	棒鍵箱鍵
PD	シリンダー本締り錠
LD	棒鍵本締まり錠
KLD	棒鍵錻錠
NL	ナイトラッチ
C	空錠
M	モノロック錠
EL	非常用錠
DC	ドアチェック（ストップ付）
FH	フロアヒンジ（ストップ付）
PH	ピボットヒンジ
LH	ラバトリヒンジ
OH	オートヒンジ（ストップ付）
AS	アームストッパー
GH	グレモンハンドル
F	フランス落し
CU	クレセント
HL	レバーハンドル
L	引手
H	丁番
TH	水切
[ ]	ヒンジ類ストップ無

硝子の符号

HTFL	熱線吸収強化ガラス
HFW	熱線吸収網入り型板ガラス
FL	フロート板ガラス
F	型板ガラス
PW	網入り磨き板ガラス
FW	網入り型板ガラス
HFL	熱線吸収フロート板ガラス
HPW	熱線吸収網入り磨き板ガラス
SC	熱線反射板ガラス
TFL	強化ガラス
TF	強化型板ガラス
Low-E	Low-Eガラス

工事名称　大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ａｐ－２５５１４
令和　８年　３月　日

株式会社Ｋ構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄
担当　1級建築士 第363328号 今田 雄貴

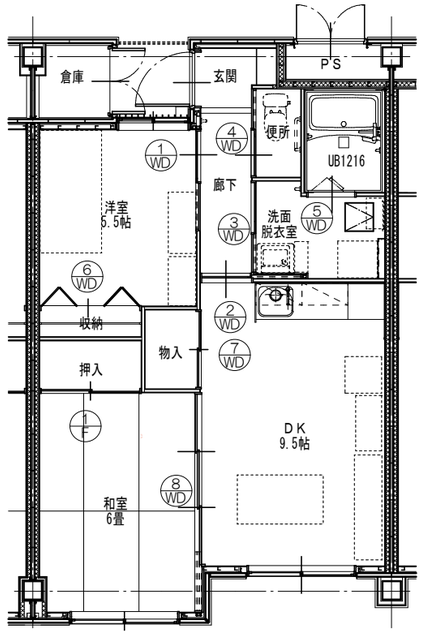
図面名称　建具リスト

SCALE 1/100

1A / 39

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

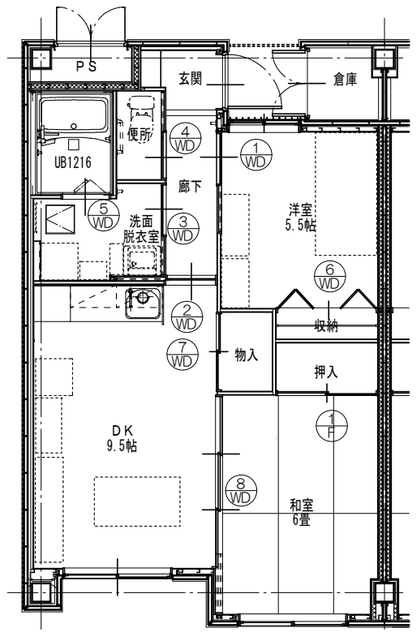
4戸



凡例
※WD 木製建具
※F 襖

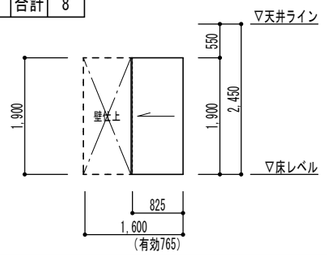
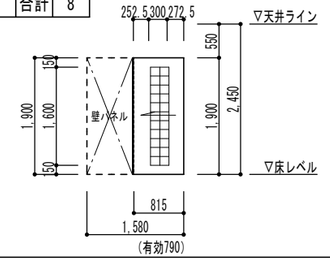
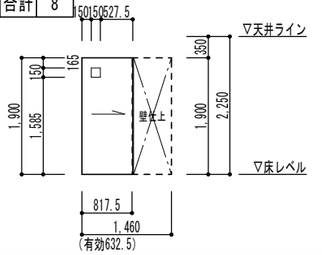
住戸内建具配置図（中央部）
1/100

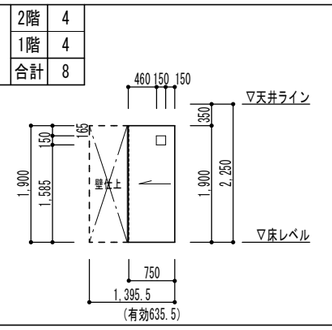
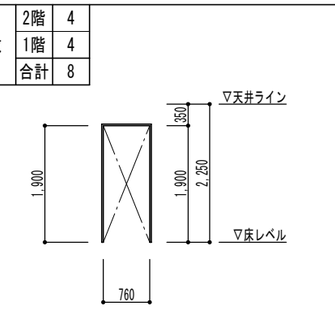
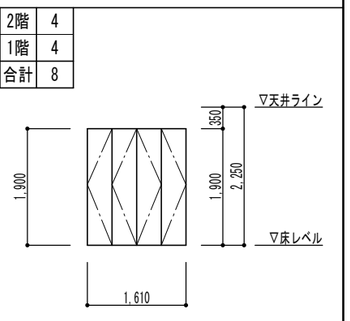
4戸

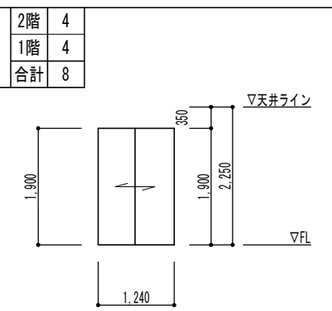
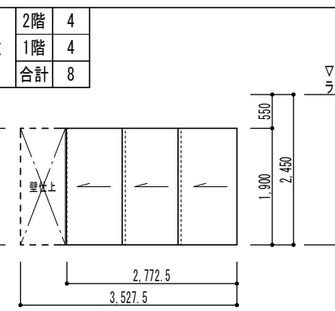
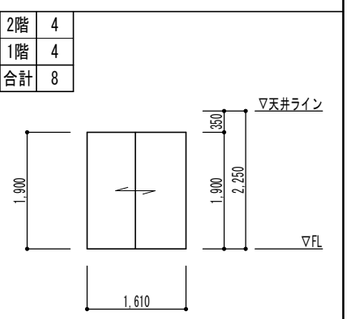


凡例
※WD 木製建具
※F 襖

住戸内建具配置図（妻面）
1/100

符号	見込	1WD	2WD	3WD
		建具見込み 30	建具見込み 30	建具見込み 30
姿図		個数 2階4 1階4 合計8 	個数 2階4 1階4 合計8 	個数 2階4 1階4 合計8 
場所		洋室	DK	洗面脱衣室
仕様		木製片引きフラッシュ戸	木製片引きフラッシュ戸	木製片引きフラッシュ戸（小窓付）
		ポリ合板 小口（4方）スプルスEP-G塗り	ポリ合板 小口（4方）スプルスEP-G塗り	ポリ合板 小口（4方）スプルスEP-G塗り
硝子			F<4>	F<4>
金物		掘込引手（ステンレス製）	掘込引手（ステンレス製）	掘込引手（ステンレス製）
備考		フラッターレール、フラッターレール用戸車 附属金物一式	フラッターレール、フラッターレール用戸車 附属金物一式	フラッターレール、フラッターレール用戸車 附属金物一式

符号	見込	4WD	5WD	6WD
		建具見込み 30	建具見込み 33	建具見込み 30
姿図		個数 2階4 1階4 合計8 	個数 2階4 1階4 合計8 	個数 2階4 1階4 合計8 
場所		トイレ	UB1216	クローゼット（洋室）
仕様		木製片引きフラッシュ戸（小窓付）	樹脂製三方枠	木製片引き分け折れ戸
		ポリ合板 小口（4方）スプルスEP-G塗り	既製品素地	ポリ合板 小口（4方）スプルスEP-G塗り
硝子		F<4>		
金物		掘込引手（ステンレス製）		H、ガイドレール、ガイドローラー、取手、塩ビ製エアー抜き
備考		フラッターレール、フラッターレール用戸車 附属金物一式		附属金物一式

符号	見込	7WD	8WD	1F
		建具見込み 30	建具見込み 30	建具見込み 21
姿図		個数 2階4 1階4 合計8 	個数 2階4 1階4 合計8 	個数 2階4 1階4 合計8 
場所		物入（DK）	和室	押入（和室）
仕様		木製引き違い戸襖	木製3連片引き戸襖	木製引違い襖
		DK側：ポリ合板、物入側：ラワン合板<4>素地 小口（4方）スプルスEP-G塗り	和室側：襖紙貼、DK側：壁紙張り 小口（4方）スプルスWP塗り	和室側：襖紙貼、押入側：雲花紙張り程度
硝子				
金物		掘込引手（ステンレス製）	掘込引手（ステンレス製）	襖引手、ナイロン平戸車
備考		フラッターレール、フラッターレール用戸車 附属金物一式	フラッターレール、フラッターレール用戸車 附属金物一式	戸当りクッション

建具の符号

WD	木製扉
WW	木製窓
SD	スチール製扉
SW	スチール製窓
SS	シャッター
AD	アルミ製扉
	（⊙カラー ・シルバー）
AW	アルミ製窓
	（⊙カラー ・シルバー）
STD	ステンレス製扉
STW	ステンレス製窓
LD	軽量スチール製扉
LW	軽量スチール製窓
AT	エアータイト

金物の符号

A	額縁取付用アングル
CP	シリンダー箱錠
CL	棒鍵箱鍵
PD	シリンダー本締り錠
LD	棒鍵本締まり錠
KLD	棒鍵鎌錠
NL	ナイトラッチ
C	空錠
M	モノロック錠
EL	非常用錠
DC	ドアチェック（ストップ付）
FH	フロアヒンジ（ストップ付）
PH	ピボットヒンジ
LH	ラバトリヒンジ
OH	オートヒンジ（ストップ付）
AS	アームストッパー
GH	グレモンハンドル
F	フランス落し
CU	クレセント
HL	レバーハンドル
L	引手
H	丁番
TH	水切
[ ]	ヒンジ類ストップ無

硝子の符号

HTFL	熱線吸収強化ガラス
HFW	熱線吸収網入り型板ガラス
FL	フロート板ガラス
F	型板ガラス
PW	網入り磨き板ガラス
FW	網入り型板ガラス
HFL	熱線吸収フロート板ガラス
HPW	熱線吸収網入り磨き板ガラス
SC	熱線反射板ガラス
TFL	強化ガラス
TF	強化型板ガラス

工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap−25514
令和 8年 3月 日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２−１５
TEL (082) −569−8808 FAX (082) 569−8807
1級建築士事務所 22（1）第0689号
1級建築士 229916号 豊田隆雄

担当 1級建築士 第363328号 今田 雄貴

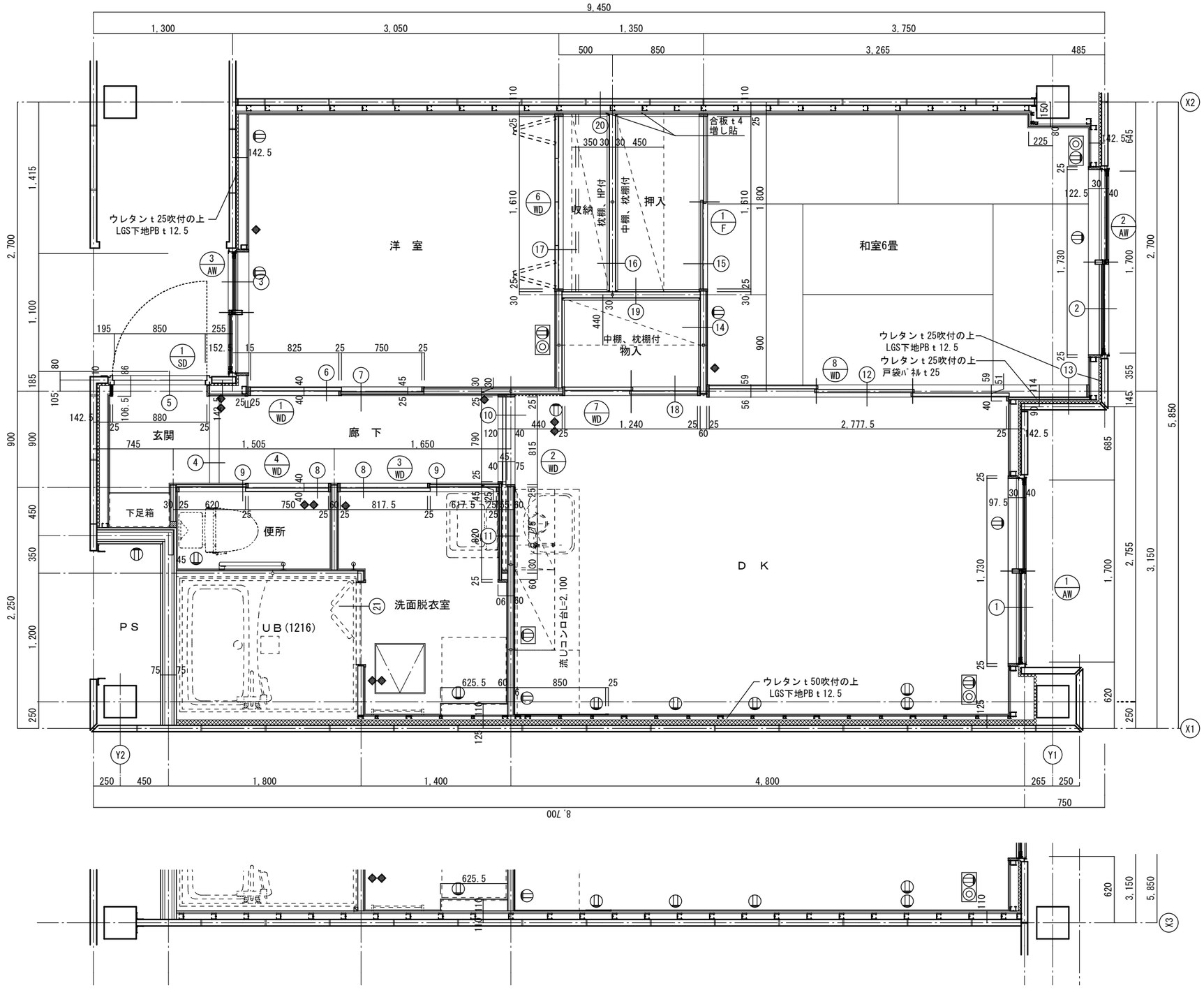
図面名称
住戸内建具配置図 建具リスト

SCALE 1/100

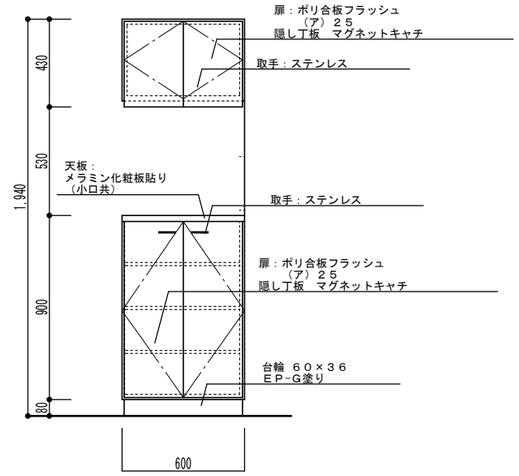
1A / 40

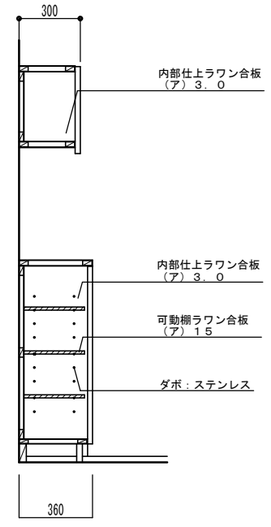
縮小率 A3版100%
A1版200%

内装パネル　平面詳細図　1/40



下足箱詳細図　1/30





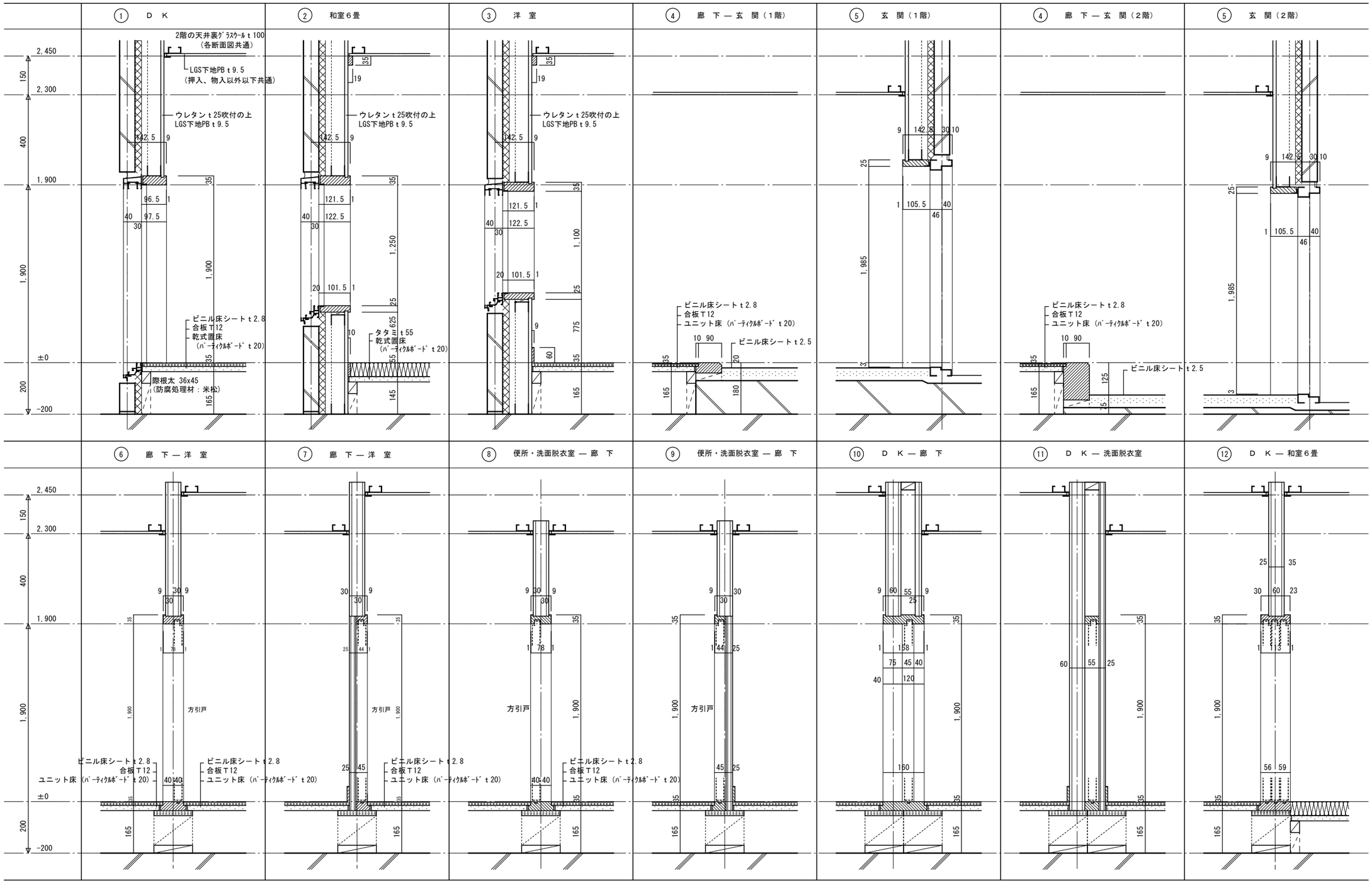
工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社Ｋ構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) −569−8808 FAX (082) 569−8807	1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号 1級建築士 ２２９９１６号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	図面名称 パネル平面詳細図

令和　8年　3月　日

SCALE 1/30　1/40

1A / 41

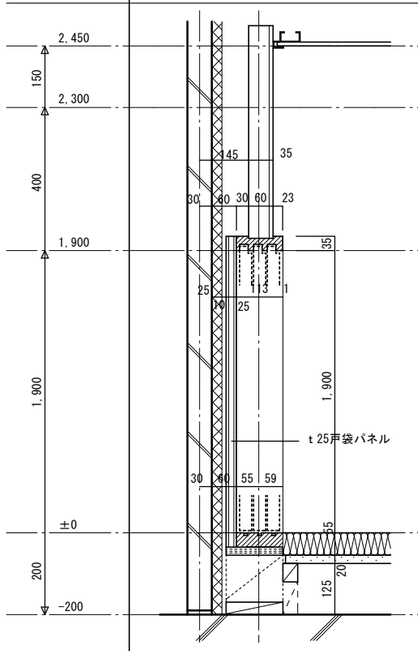
縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



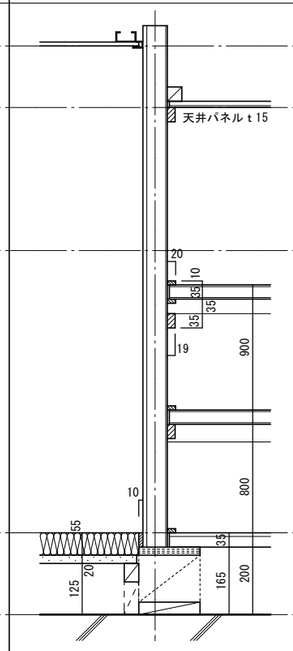
工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514	株式会社 K構造研究所	担当	図面名称	SCALE	1A
		令和　8年　3月　日	広島市南区金屋町２－１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号 1級建築士 ２２９９１６号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	パネル断面詳細図１	1/15	42

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

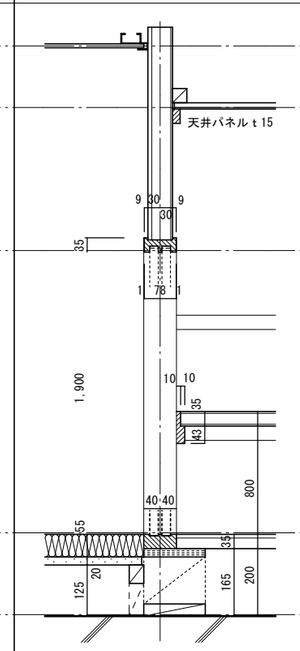
⑬ Ｄ Ｋ ― 和室６畳



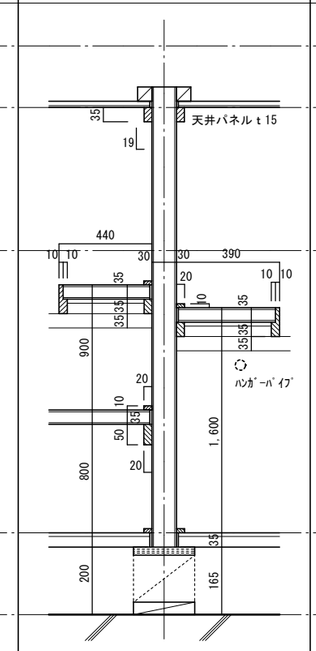
⑭ 和室6畳 ― 押 入



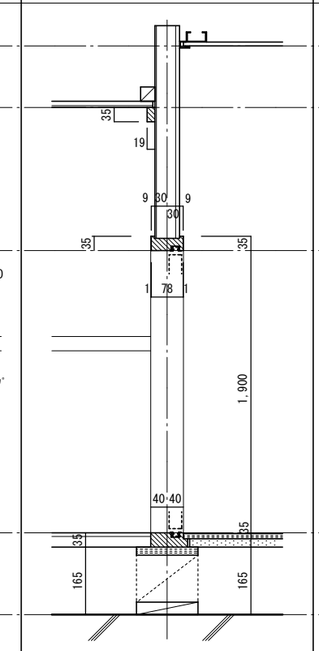
⑮ 和室6畳 ― 押 入



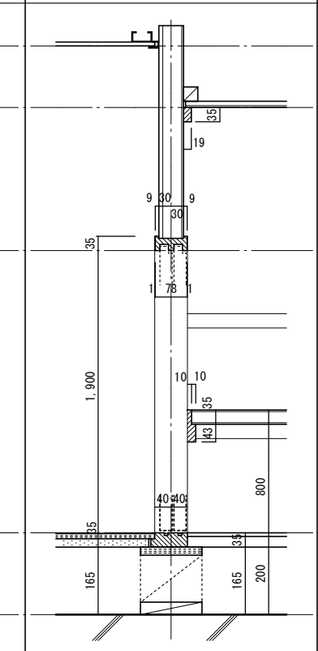
⑯ 押 入 ― 収 納



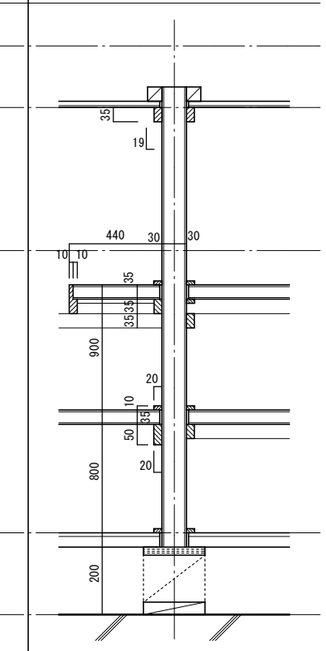
⑰ 収 納 ― 洋 室



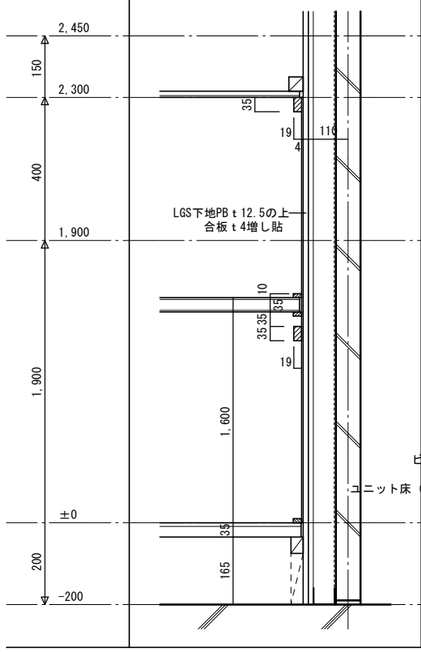
⑱ Ｄ Ｋ ― 物 入



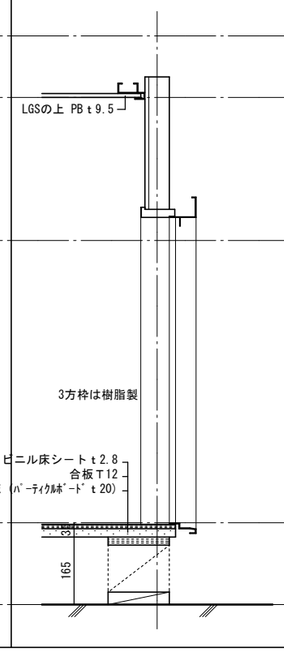
⑲ 物 入 ― 押 入



⑳ 収 納



㉑ 洗面脱衣室 ― Ｕ Ｂ



工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ａｐ－２５５１４
		令和　８年　３月　　日
株式会社Ｋ構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号 1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄	担当 1級建築士 第363328号 今田 雄貴
図面名称	パネル断面詳細図２	SCALE 1/15
		1A / 43

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

内装プレハブ工事仕様書

1．適用範囲

本仕様書は、内装プレハブ工事における工場製作する内装部品について適用する。

1）床・棚パネル
2）外周壁パネル
3）間仕切パネル
4）天井パネル
5）化粧貼造作用集成材
6）造作用製材
7）下地用製材

2．仕様書

内装プレハブ工事における仕様書は下記のとおりとする。

1）公共住宅建設工事共通仕様書【公共住宅事業者等連絡協議会編集】最新年度版
2）公共建築工事標準仕様書（建築工事編）【国土交通省大臣官房官庁営繕部監修】最新年度版
3）例外となる事項については、監督員と協議のうえ決定する。

3．材料規格

1）木材及び合板等

① 含水率
木材の含水率は、下地材については１５％以下、造作材については１５％以下とする。

② 下地用針葉樹製材
下地用針葉樹製材は「製材の日本農林規格」第７条「下地用製材の規格」により、乾燥処理を施した木材とし、等級は２級とする。

③ 造作用針葉樹製材
造作用針葉樹製材は「製材の日本農林規格」第４条「造作用製材の規格」により、乾燥処理を施した木材とし、板類における等級は、見え掛り面は上小節、それ以外は小節以上とする。

④ 造作用集成材
造作用集成材は「集成材の日本農林規格」第３条「造作用集成材の規格」により、見付け材面の品質は１等とする。
また、ホルムアルデヒド放散量は、「Ｆ☆☆☆☆」とする。

⑤ 化粧ばり造作用集成材
化粧ばり造作用集成材は「集成材の日本農林規格」第４条「化粧ばり造作用集成材の規格」により、見付け材面の品質は１等とする。
また、ホルムアルデヒド放散量は、「Ｆ☆☆☆☆」とする。

⑥ 造作用単板積層材
造作用単板積層材は「単板積層材の日本農林規格」第３条「造作用単板積層材の規格」により、見え隠れ部分に使用する場合の表面の品質の基準は３等とする。また、含水率については１４％以下とし、ホルムアルデヒド放散量は、「Ｆ☆☆☆☆」とする。

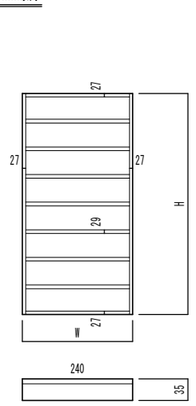
⑦ 普通合板
普通合板は「合板の日本農林規格」第４条「普通合板の規格」により、見え掛りの板面の品質は１等とする。また、屋内の湿潤状態となる場所に使用する場合は、接着の程度を１類とする。
ホルムアルデヒド放散量は、「Ｆ☆☆☆☆」とする。

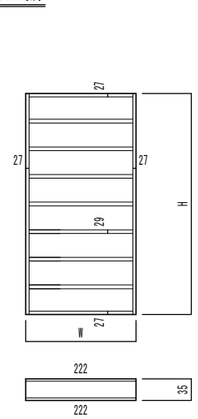
⑧ パーティクルボード
ベースパネルに使用するパーティクルボードは、ＪＩＳ Ａ ５９０８によるものとし、ホルムアルデヒド放散量は「Ｆ☆☆☆☆」とする。

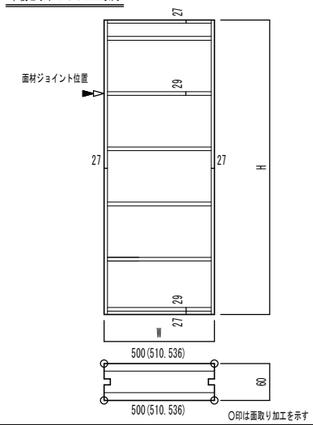
2）せっこうボード等
せっこうボード製品は、ＪＩＳ Ａ ６９０１によるものとし、建築基準法に基づく防火材料の指定または認定を受けたものとする。
また、水掛り範囲に使用するボード類は、耐水性のあるものとする。

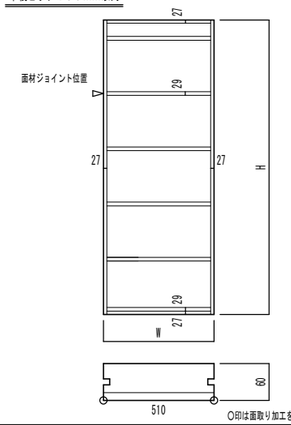
3）接着剤
工場において接着する場合の接着剤は、製造所の仕様によるものとし、ホルムアルデヒド放散量は「Ｆ☆☆☆☆」とする。

名称	床パネル		棚パネル		間仕切パネル（両面）		間仕切パネル（片面）	
記号	ＧＦ	厚み 35	ＴＦ	厚み 35	ＰＬ	厚み 60	ＰＬＫ	厚み 60
基本桟組図	中桟ピッチ２２５mm以内		中桟ピッチ２２５mm以内		中桟ピッチ４５０mm以内		中桟ピッチ４５０mm以内	

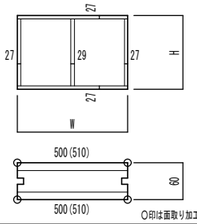


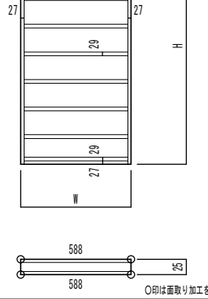


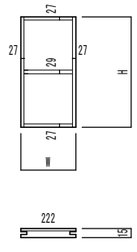


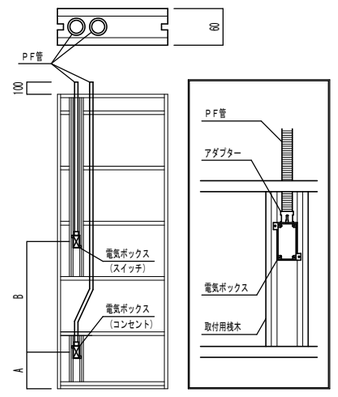


名称	間仕切小壁パネル		間仕切（戸袋）パネル		天井パネル		パネル内電気ボックス納まり詳細図
記号	ＰＬ	厚み 60	ＰＣ	厚み 25	ＣＡ	厚み 15	
基本桟組図	中桟ピッチ４５０mm以内		中桟ピッチ２２５mm以内		中桟ピッチ４５０mm以内		









※電気ボックス・ＰＦ管は塩ビ製品とし、パネル付属品とする。

内装パネルリスト			
記号	用途	厚み	仕上
ＧＦ	床パネル（押入・物入）	35	片面
ＴＦ	棚パネル（押入・物入）	35	両面
ＷＡ	外周壁パネル（押入・物入）	15	片面
ＰＬ	間仕切パネル	60	両面
ＰＬＫ	間仕切パネル	60	片面
ＰＣ	間仕切パネル（戸袋）	25	両面
ＣＡ	天井パネル（押入・物入）	15	片面

内装パネル表面材リスト				
記号	品名	規格	厚み	使用部位
240	普通合板	ＪＡＳ ２類	9．0	押入・物入　床
222	普通合板	ＪＡＳ ２類	4．0	押入・物入　壁・棚・天井
500	石膏ボード	準不燃	9．5	居室　壁
510	耐水石膏ボード	準不燃	9．5	洗面・便所　壁
536	不燃耐水石膏ボード	不燃	12．5	コンロ台・流し台廻り　壁
588	繊維混入石膏板	不燃	5．0	片引き戸戸袋壁部分

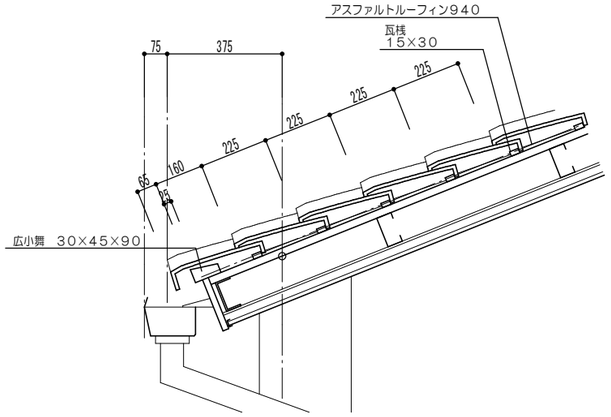
内装部品木材リスト		
材種	規格	使用部位
米栂化粧貼造作用集成材	ＪＡＳ 1等	縦枠・上枠・鴨居・サッシュ額縁・見切・畳寄せ・巾木・前框・後框・棚受
タモ化粧貼造作用集成材	ＪＡＳ 1等	敷居
タモ造作用集成材（積層材）	ＪＡＳ 1等	敷居・下枠（沓摺）
米栂造作用製材	ＪＡＳ 上小節	上記以外の造作材（隅柱・戸当り等）
杉単板積層材（ＬＶＬ）	ＪＡＳ 3等	パネルコア材・パネル受板
米栂下地用製材	ＪＡＳ 2級	各種ガイド材
杉下地用製材	ＪＡＳ 2級	野縁・野縁受・胴縁・パネル補助材
米松下地用製材	ＪＡＳ 2級	敷土台・際根太・束
※樹脂製品（既製品）		ユニットバス額縁

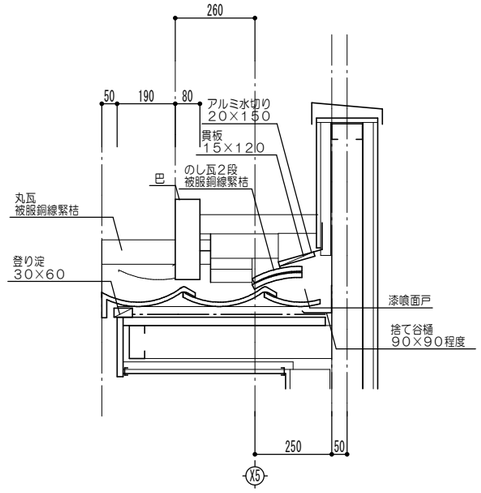
工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ａｐ－２５５１４ 令和　８年　３月　日	株式会社Ｋ構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807	1級建築士事務所　２２（1）第０６８９号 1級建築士　２２９９１６号　豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 内部パネル仕様書	SCALE 1/50	1A 44

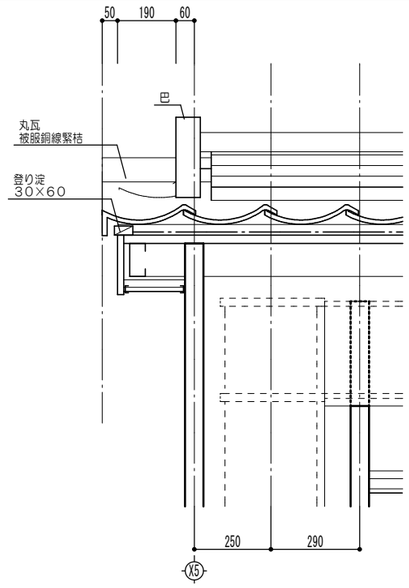
縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％

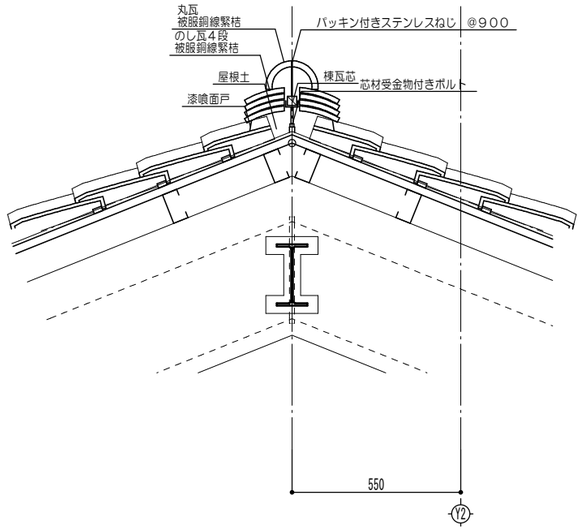
屋根瓦葺　詳細図

1/20



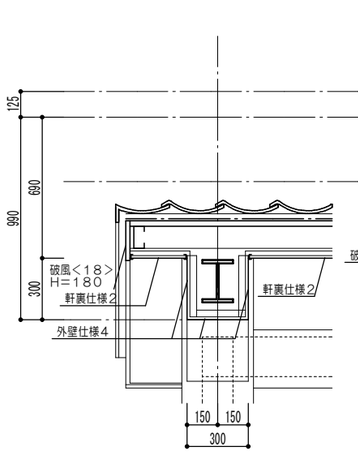


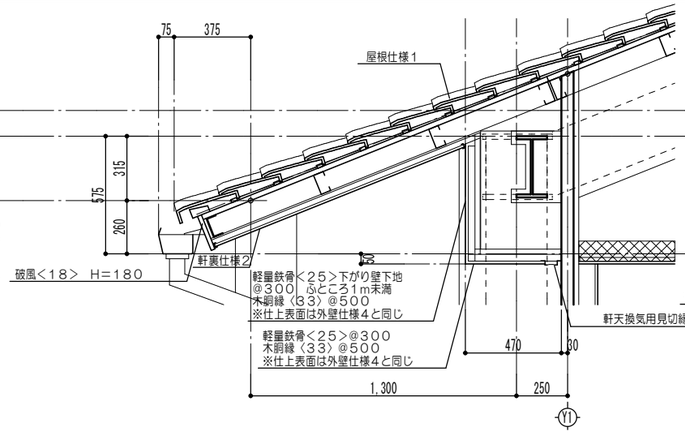


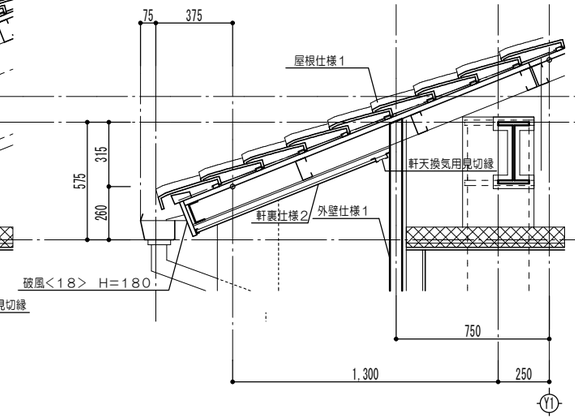


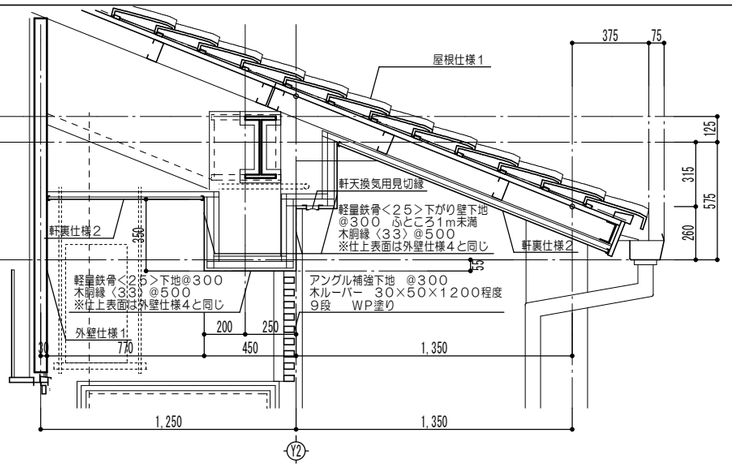
2階屋根・バルコニー・開放廊下　詳細図

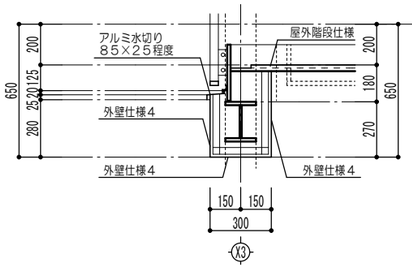
1/30

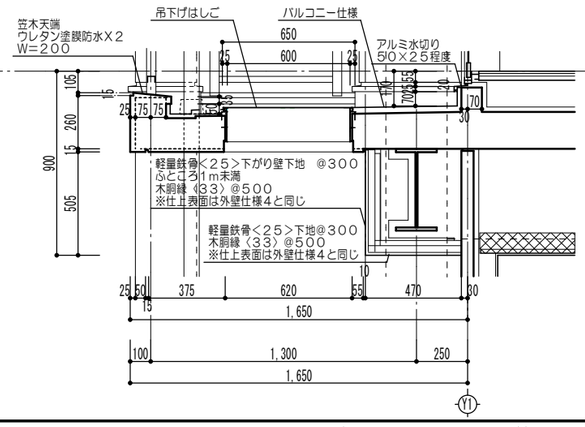


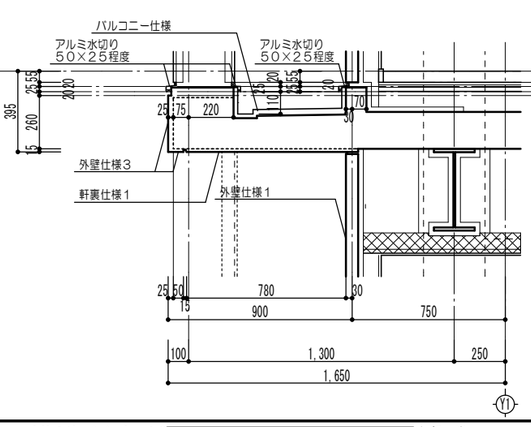


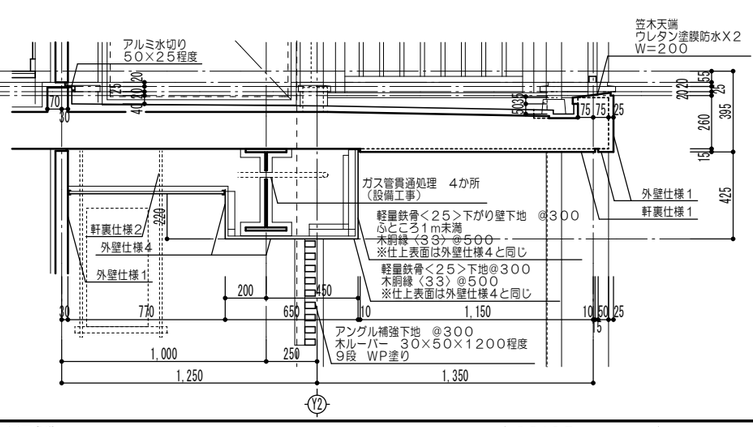










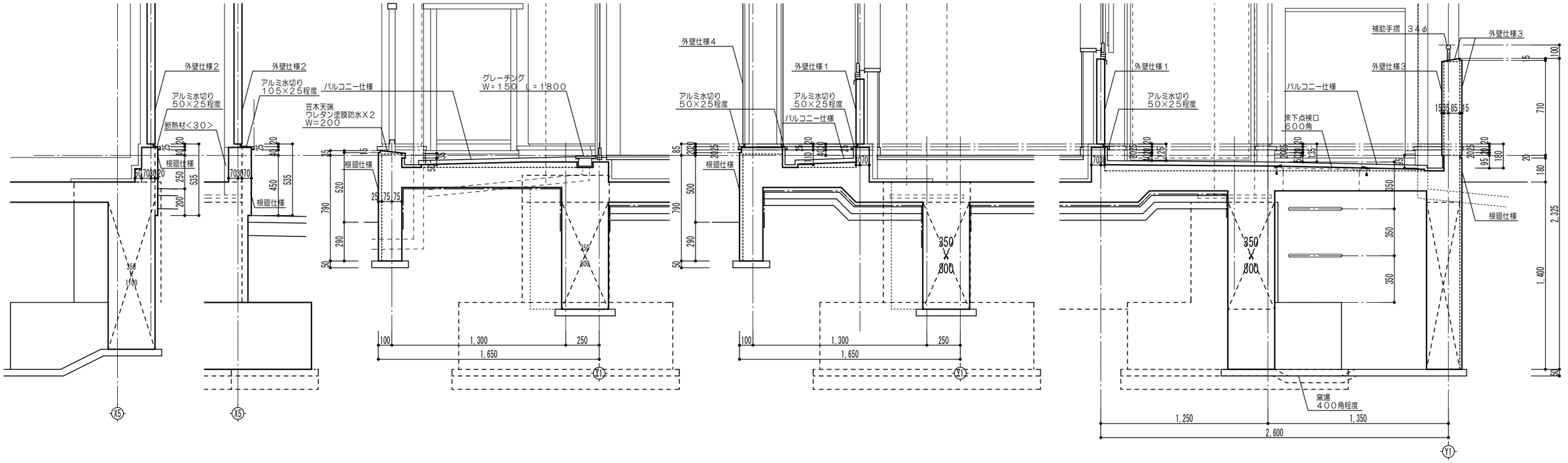


工事名称							
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 22 (1) 第0689号 1級建築士　229916号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 部分詳細図1	SCALE 1/20　1/30

縮小率　A3版100%
A1版200%

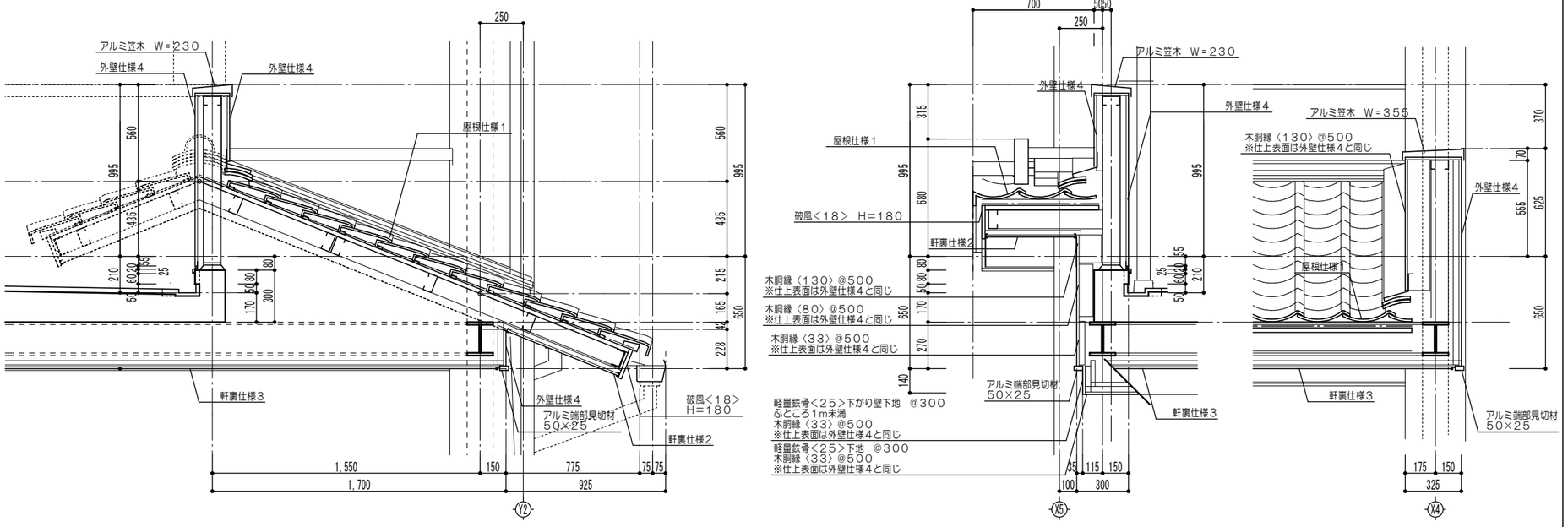
1階　根廻詳細図

1/30



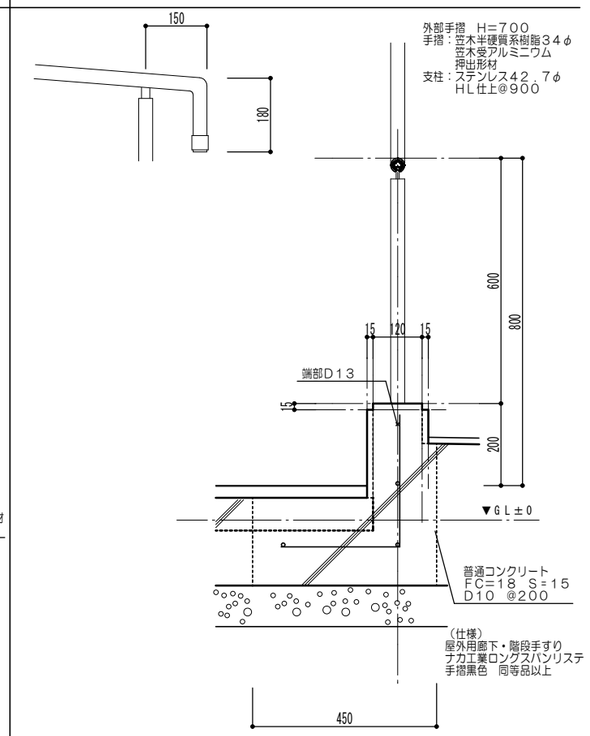
1階底　詳細図

1/30



玄関アプローチ手摺　詳細図

1/15



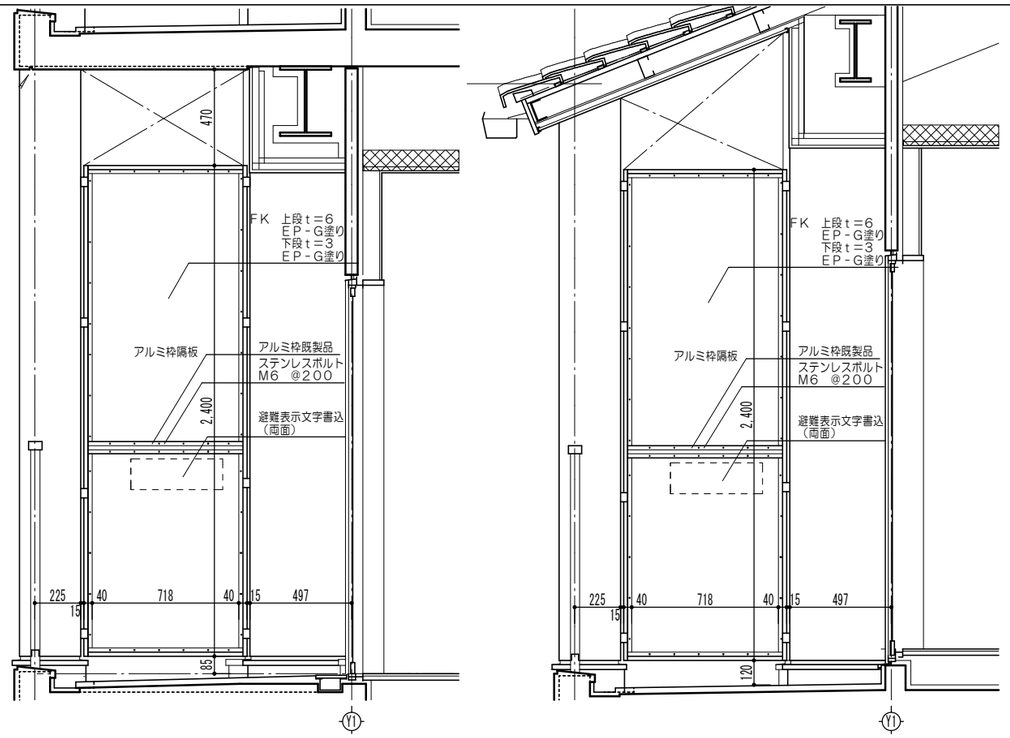
工事名称 大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) −569−8808 FAX (082) 569−8807	1級建築士事務所 22 (1) 第0689号 1級建築士　229916号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 部分詳細図２

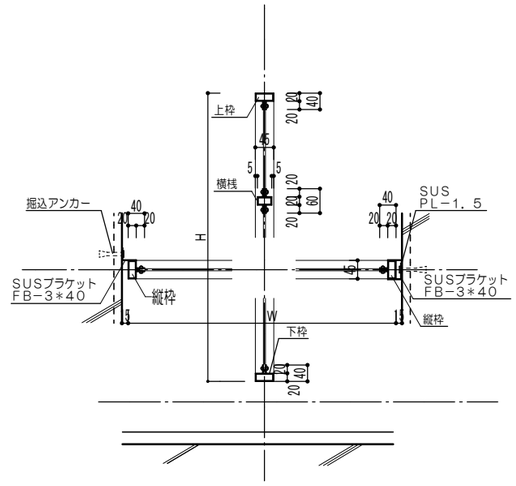
SCALE 1/30　　1A / 46

縮小率　A3版100%
A1版200%

隔て板詳細図

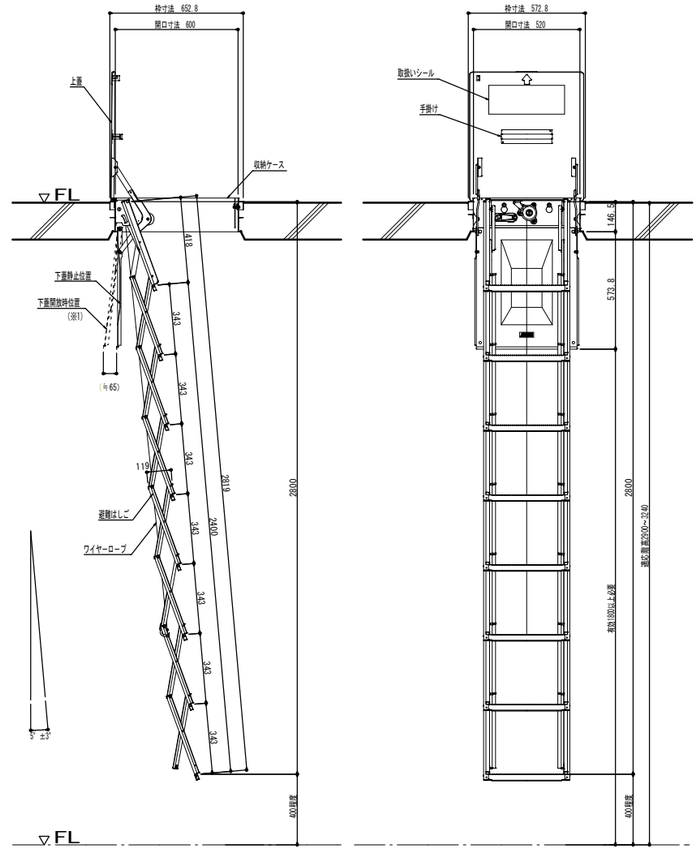
1/15 1/30





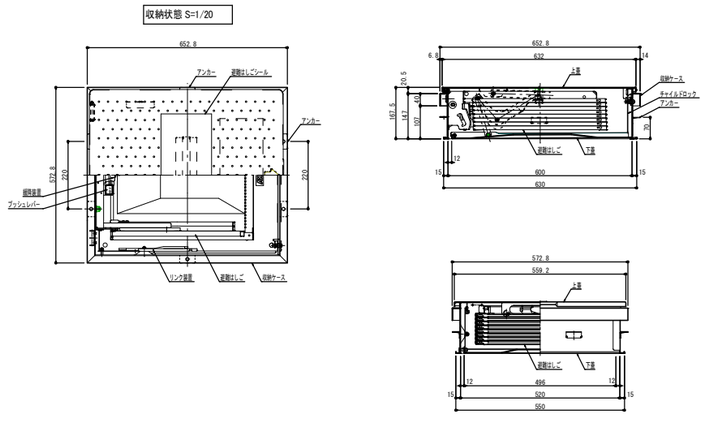
吊下げはしご

1/20 1/30



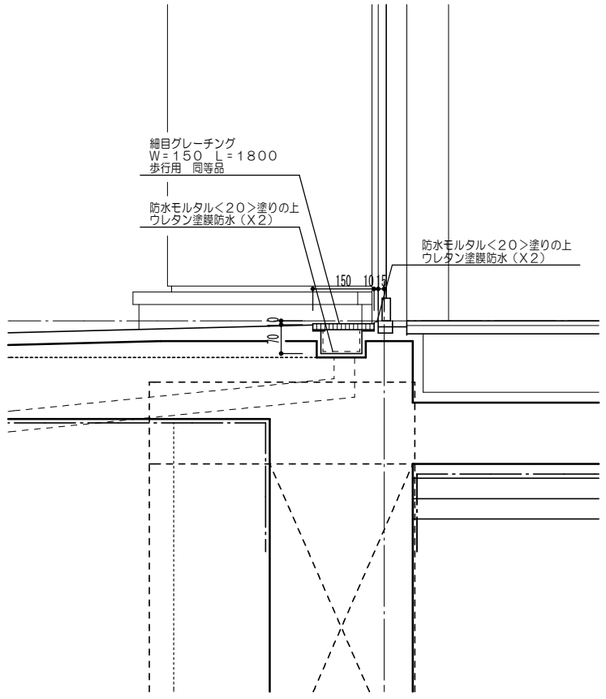
断面図 S=1/30

収納状態 S=1/20



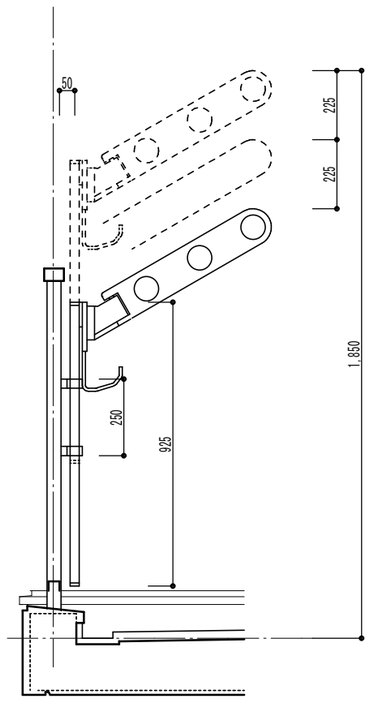
1階バルコニー排水溝　詳細図

1/15



物干金物　詳細図

1/20



工事名称

大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap−25514

令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２－１５
TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807

1級建築士事務所 22 (1) 第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄

担当

1級建築士
第363328号
今田 雄貴

図面名称

部分詳細図３

SCALE

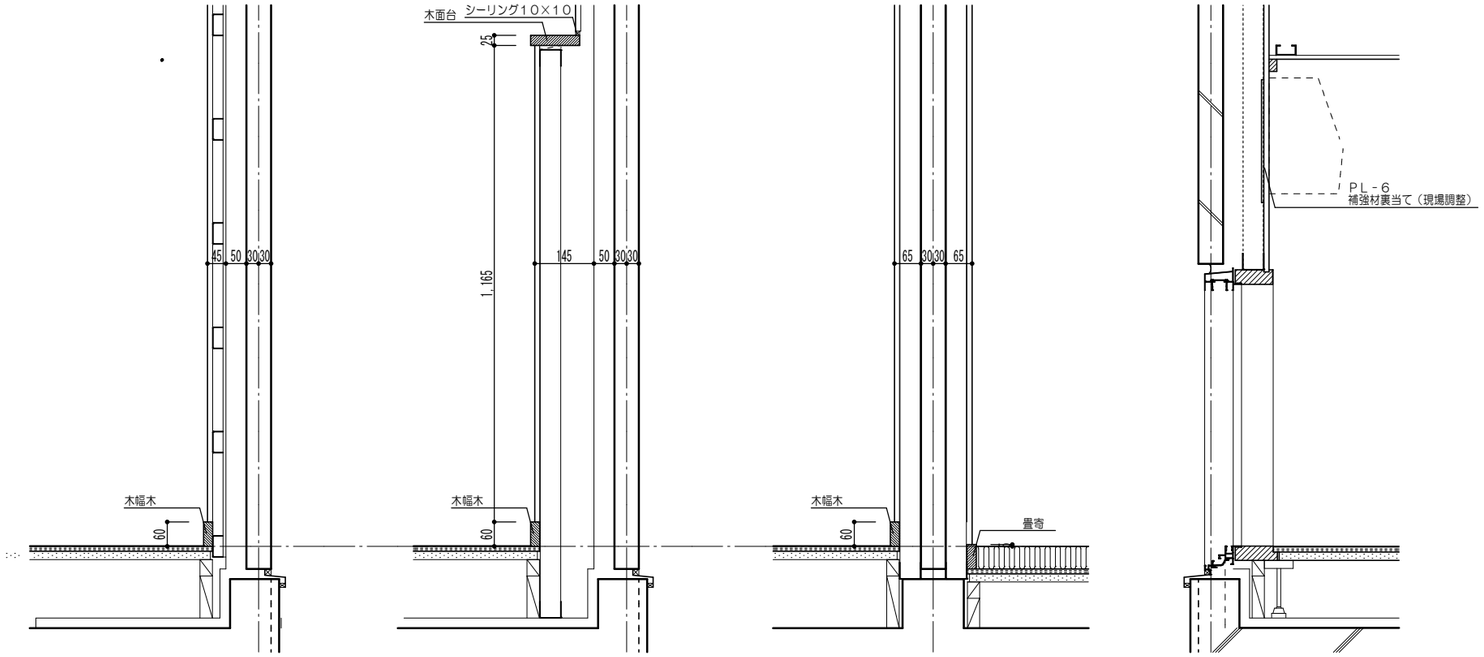
1/15 1/20 1/30

1A

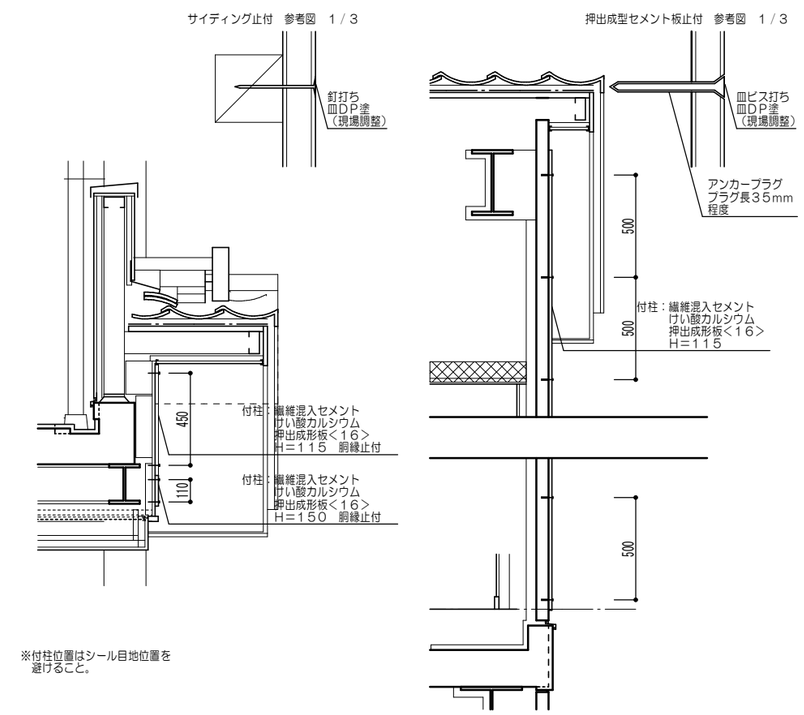
47

縮小率　A３版１００％
A１版２００％

内部壁納まり　詳細図　1/15

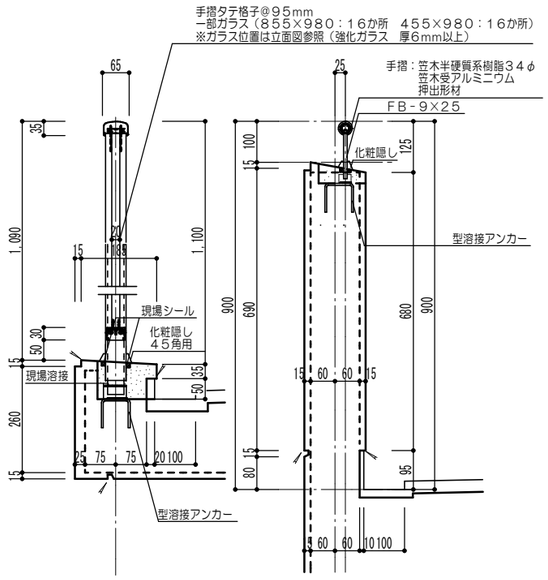


外壁付柱　詳細図　1/3　1/30

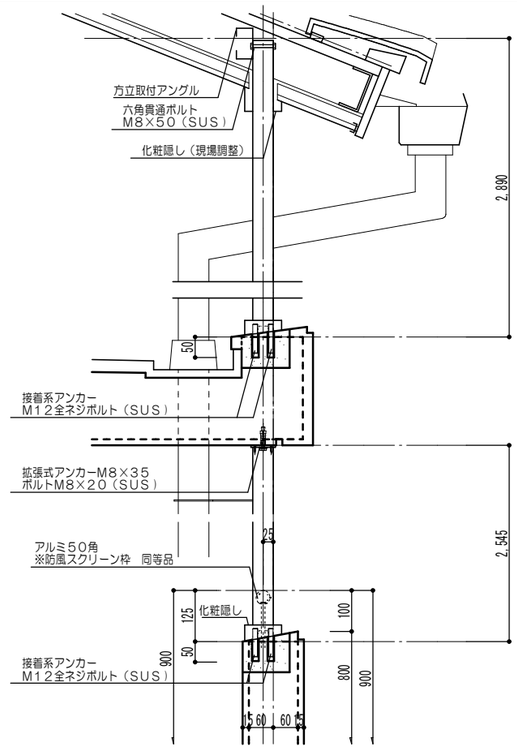


※付柱位置はシール目地位置を
避けること。

手摺詳細図　1/15

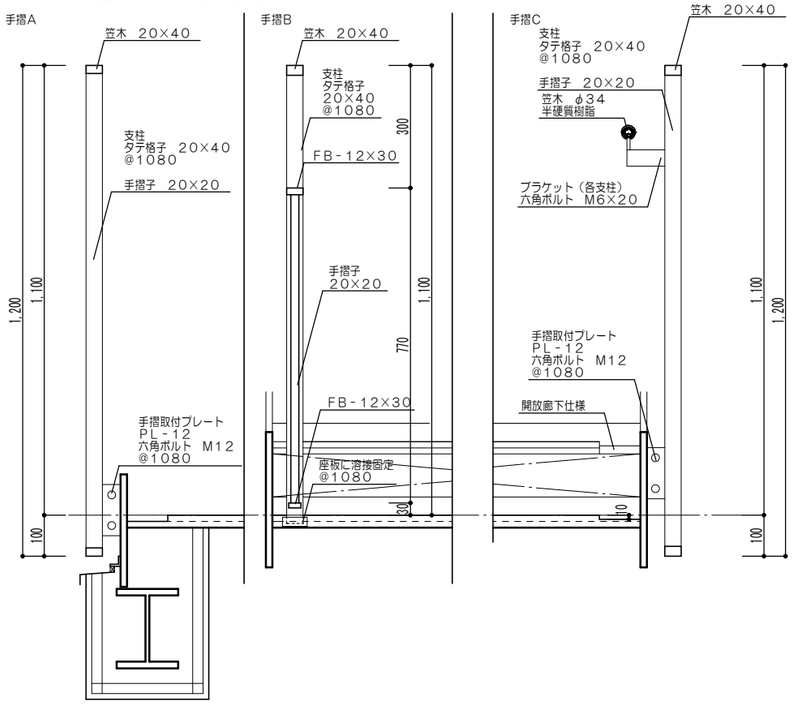


竪樋支持材　詳細図　1/15



屋外階段手摺　詳細図　1/15

※屋外階段手摺は亜鉛メッキ塗装及び錆止め塗装の上、DP塗とする。



工事名称
大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）

Ap−25514
令和　8年　3月　日

株式会社K構造研究所
広島市南区金屋町２−１５
TEL(082)−569−8808 FAX(082)569−8807
1級建築士事務所 22(1)第0689号
1級建築士　229916号 豊田隆雄
担当
1級建築士
第363328号
今田 雄貴

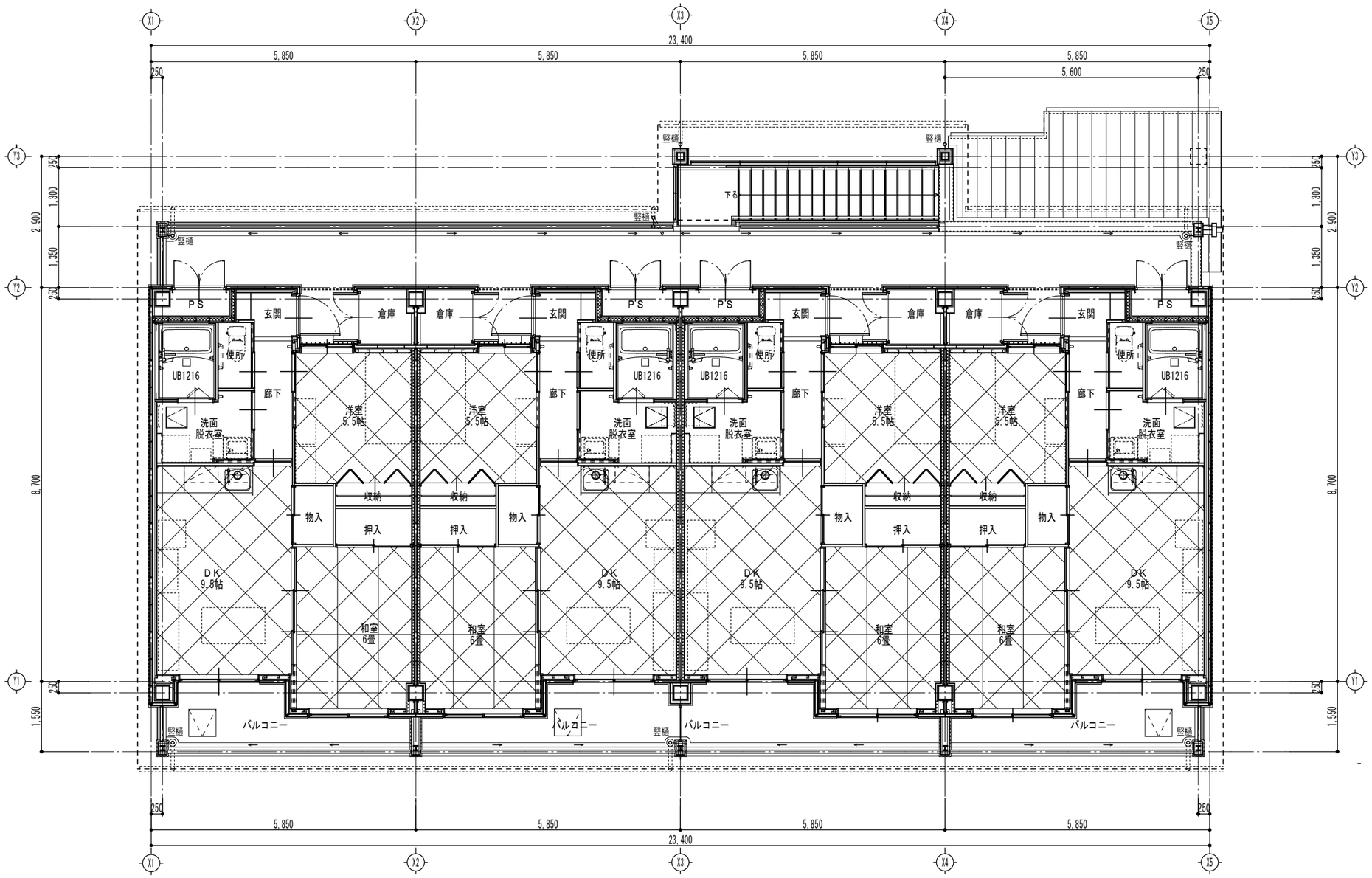
図面名称
部分詳細図４

SCALE 1/30

1A / 48

縮小率　A3版100%
A1版200%

2階床伏図 1/100

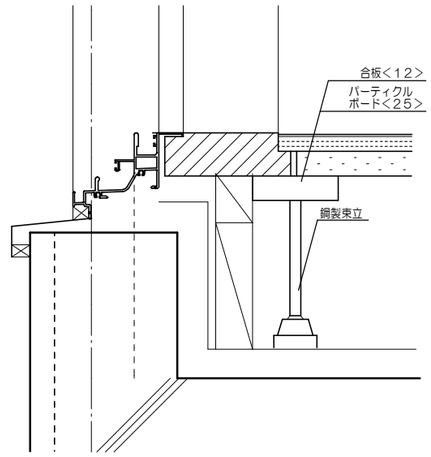


※1階　乾式二重床下地は
全てユニットA下地

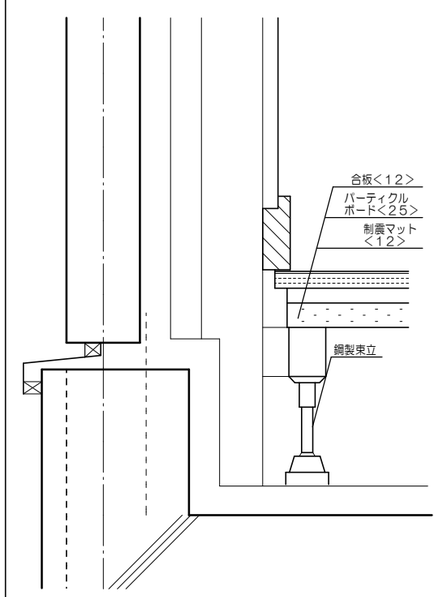
凡例

ユニットB下地範囲を示す。

ユニットA詳細図 1/5



ユニットB詳細図 1/5

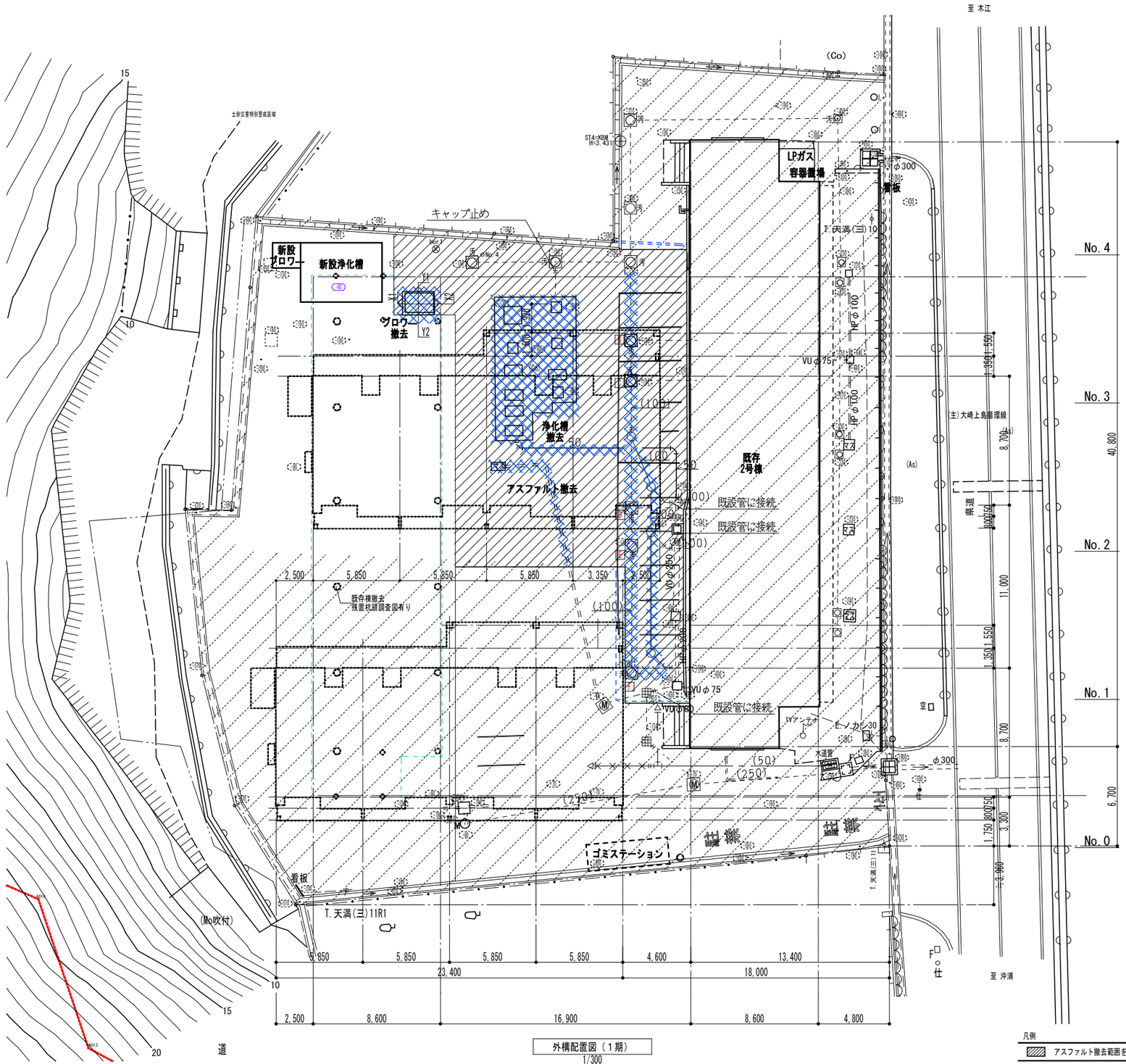


工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 22 (1) 第0689号 1級建築士　229916号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 部分詳細図５

SCALE 1/5 1/100

1A / 49

縮小率　A３版１００％
A１版２００％

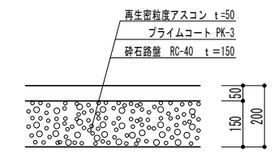


外構配置図（１期）
1/300

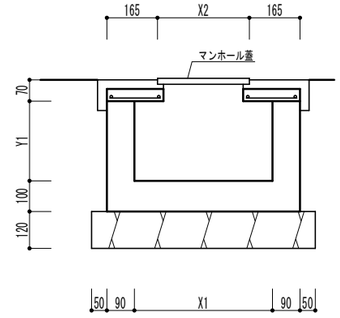
凡例
- アスファルト撤去範囲を示す。
- 今回工事　工事範囲外を示す。
- (土改) GLからの新設レベルを示す。
- (土改) GLからの既設レベルを示す。
- (消) 消火器(20型)設置位置を示す。

既存アスファルト舗装　1/20

アスファルト舗装
（一般舗装）

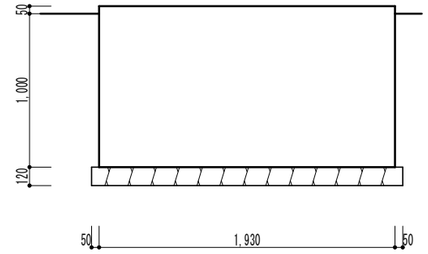


既存枡　1/20



記号	X1	X2	Y1
B	450×450	300φ	380
C	450×450	300φ	400
D	450×450	300φ	440
E	450×450	300φ	460
F	450×450	300φ	580

既存ブロワー基礎　1/40

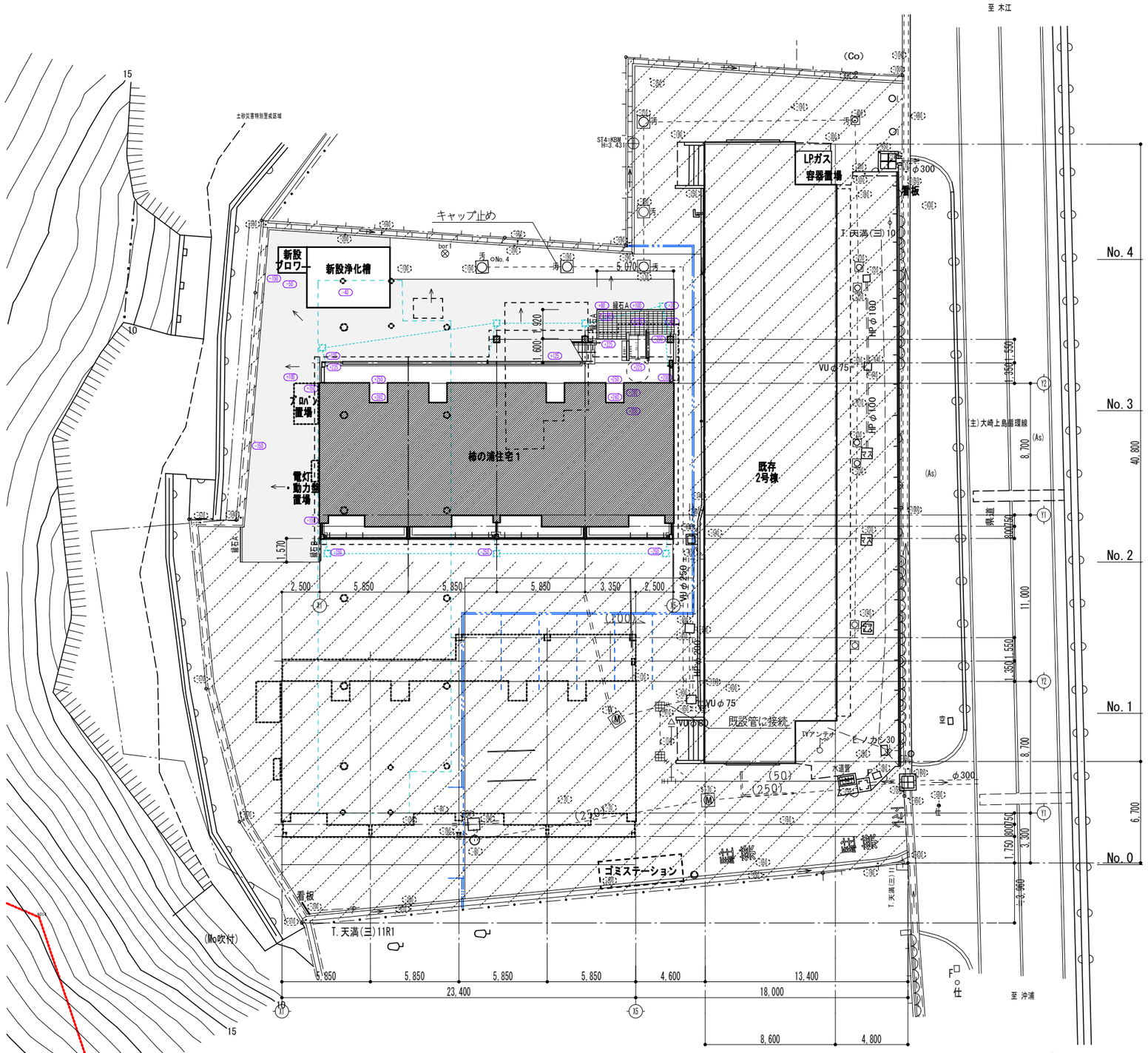


工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町2−15 TEL(082)−569−8808 FAX(082)569−8807	担当	図面名称
		令和　8年　3月　日	1級建築士事務所　22(1)第0689号 1級建築士　229916号　豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	解体前　外構図

SCALE 1/20　1/40　1/300

1A / 50

縮小率　A3版100%
A1版200%



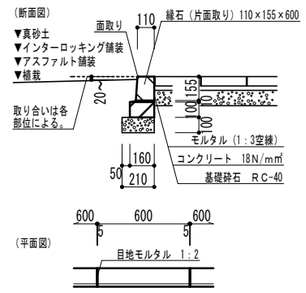
外構配置図（１期）
1/300

凡例

- 今回工事　建物を示す。
- 今回工事　工事範囲外を示す。
- (土改) GLからの新設レベルを示す。
- (土改) GLからの既設レベルを示す。
- (消) 消火器(20型)設置位置を示す。

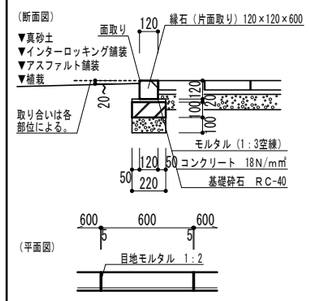
縁石A　1/40

※高さは別図参照。
（設置レベルは周囲の舗装による。）



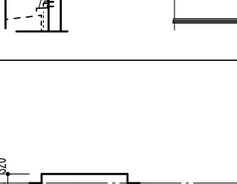
縁石B　1/40

※高さは別図参照。
（設置レベルは周囲の舗装による。）



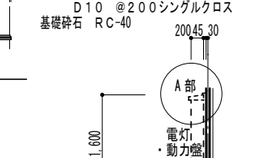
インターロッキングA　1/20

インターロッキングA



アスファルト舗装A　1/20

アスファルト舗装A
（一般舗装）



プロパン置場　1/50　1/100

捨コン：Ｆｃ＝１８、Ｓ＝１５
コンクリート：Ｆｃ＝２１、Ｓ＝１５
鉄筋：Ｄ１０　＠２００シングルクロス
基礎砕石　RC-40

番号　４（申請外）

プロパン置場	
延床面積（㎡）	1.000×2.500　2.500000
建築面積（㎡）	1.000×2.500　2.500000

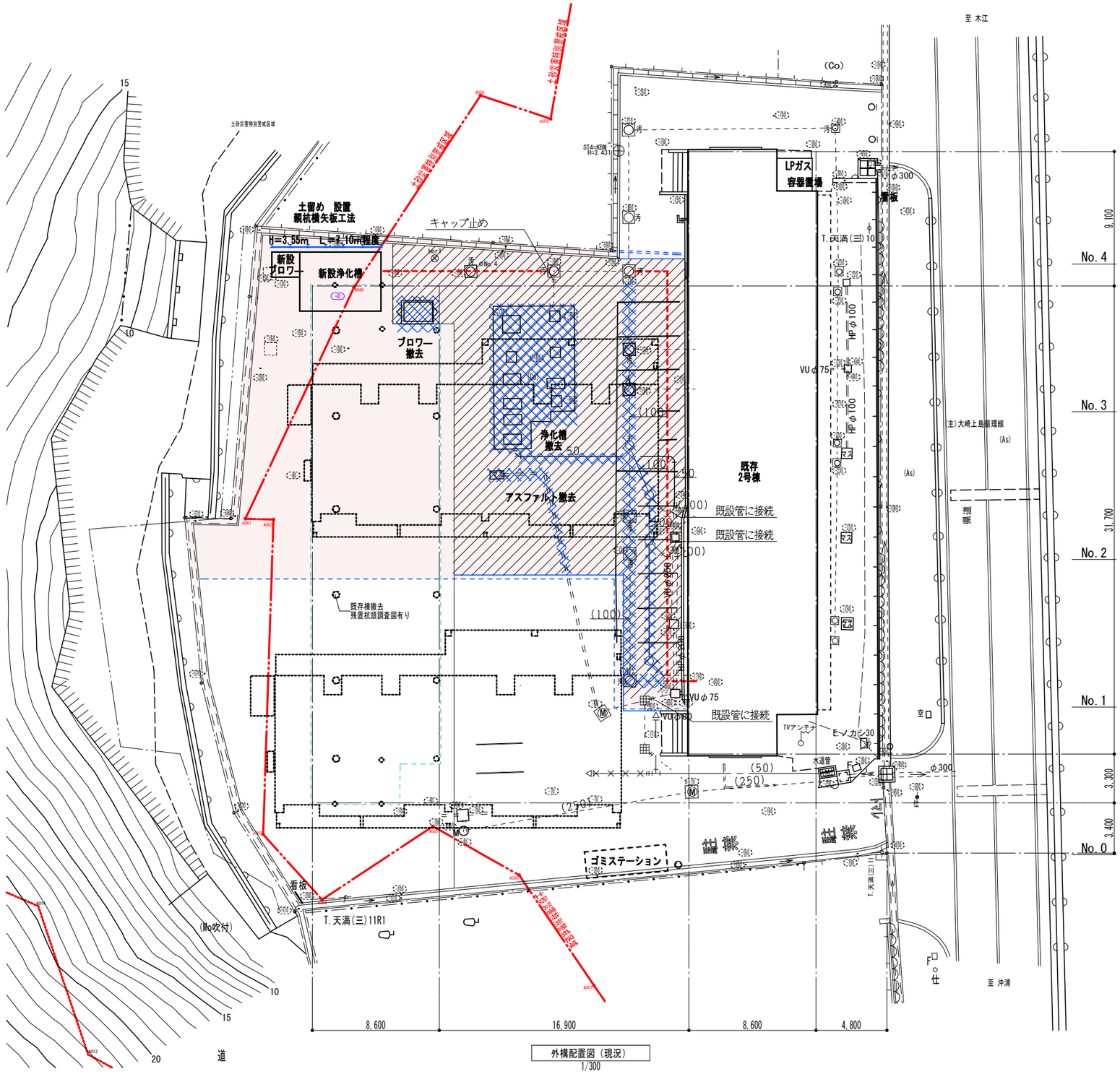
電灯・動力分電盤置場　1/50　1/100

捨コン：Ｆｃ＝１８、Ｓ＝１５
コンクリート：Ｆｃ＝２１、Ｓ＝１５
鉄筋：ベース筋　端部　Ｄ１３
Ｄ１０　＠２００シングルクロス
はかま筋　端部　Ｄ１３
Ｄ１０　＠２００シングルクロス
基礎砕石　RC-40

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ａｐ－２５５１４	株式会社Ｋ構造研究所	担当	図面名称	SCALE	1A
		令和　８年　３月　日	広島市南区金屋町２－１５ TEL(082)-569-8808 FAX(082)569-8807	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	解体後　外構図	1/20 1/40 1/50 1/100 1/300	51

1級建築士事務所 ２２（１）第０６８９号
1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



外構配置図（現況）
1/300

大崎上島町柿の浦住宅建替工事

建築確認申請

【１期工事】
浄化槽設置工事
（経路切り替え後、既存浄化槽解体）
柿の浦住宅１　新築工事
今回工事

仮使用申請

【２期工事】
柿の浦住宅２　新築工事
予定工事

既存２号棟→新築棟へ引っ越し

【３期工事】
既存棟解体工事
外構解体工事
予定工事

【３期工事】
外構整備工事
駐車場整備工事
自転車置場新築工事
ゴミ置場新設工事
予定工事

完了検査

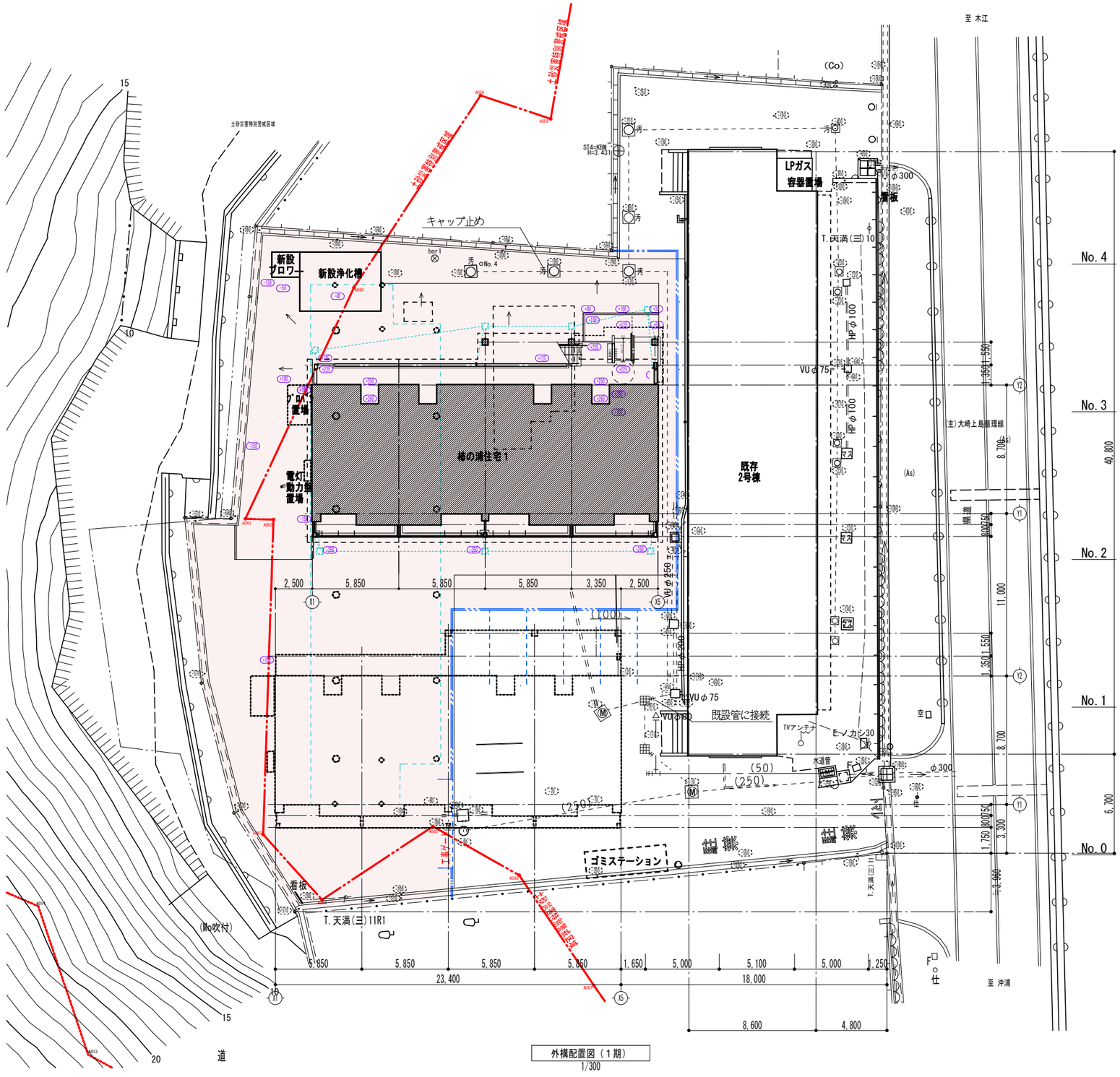
面積表

棟名	延床面積（㎡）
柿の浦住宅１	411.12
柿の浦住宅２	411.12
計（㎡）	822.24

その他　：自転車置場　ゴミ置場

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap－25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２－１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号 1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 外構配置図（１期先行工事）	SCALE 1/300	エ1A 01

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



大崎上島町柿の浦住宅建替工事

建築確認申請

【1期工事】
浄化槽設置工事
（経路切り替え後、既存浄化槽解体）
柿の浦住宅1　新築工事
— 今回工事

仮使用申請

【2期工事】
柿の浦住宅2　新築工事
— 予定工事

既存2号棟→新築棟へ引っ越し

【3期工事】
既存棟解体工事
外構解体工事
— 予定工事

【3期工事】
外構整備工事
駐車場整備工事
自転車置場新築工事
ゴミ置場新設工事
— 予定工事

完了検査

面積表

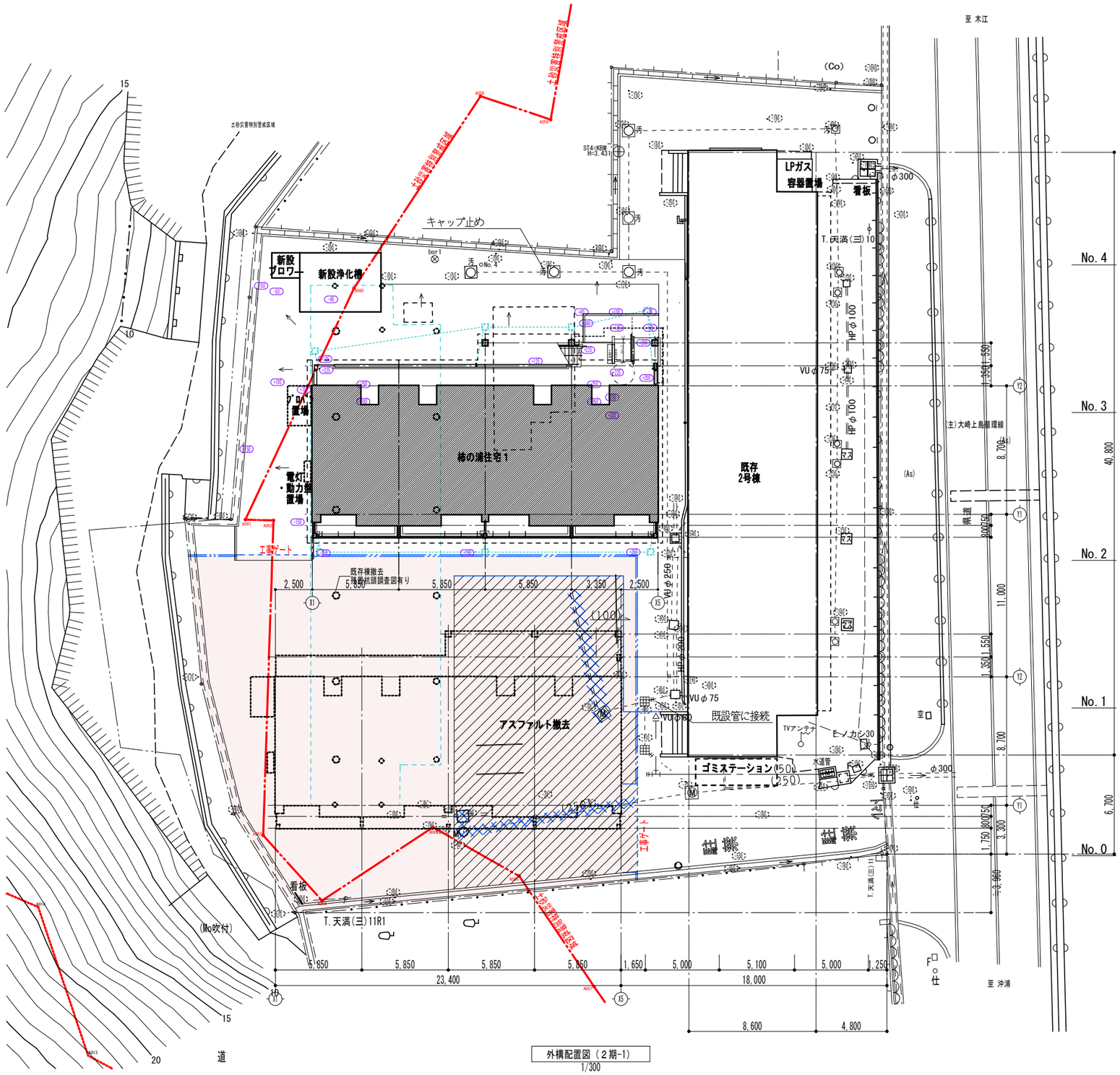
棟名	延床面積（㎡）
柿の浦住宅1	411.12
柿の浦住宅2	411.12
計（㎡）	822.24

その他　：自転車置場　ゴミ置場

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（1期工事）	Ap−25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町2−15 TEL (082) −569−8808 FAX (082) 569−8807	1級建築士事務所　22（1）第0689号 1級建築士　229916号　豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 外構配置図（1期新築工事）

SCALE 1/300　エ1A 02

縮小率　A3版100%
A1版200%



外構配置図（２期-1）
1/300

大崎上島町柿の浦住宅建替工事

建築確認申請

【１期工事】
浄化槽設置工事
（経路切り替え後、既存浄化槽解体）
柿の浦住宅１　新築工事
今回工事

仮使用申請

【２期工事】
外構解体　ｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝ移設工事
柿の浦住宅２　新築工事
予定工事

既存２号棟→新築棟へ引っ越し

【３期工事】
既存棟解体工事
外構解体工事
予定工事

【３期工事】
外構整備工事
駐車場整備工事
自転車置場新築工事
ゴミ置場新設工事
予定工事

完了検査

面積表

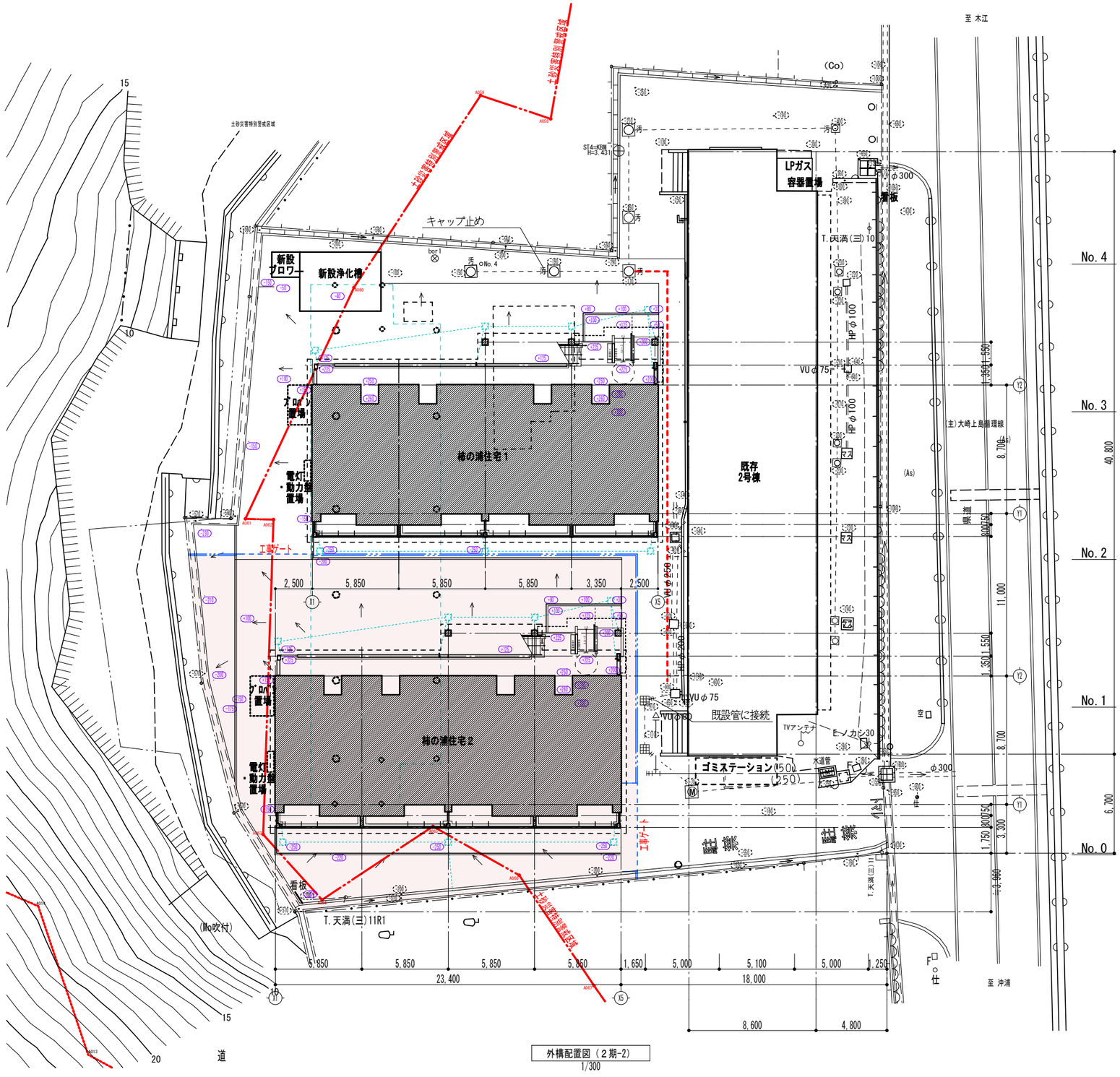
棟名	延床面積（㎡）
柿の浦住宅１	411.12
柿の浦住宅２	411.12
計（㎡）	822.24

その他　：自転車置場　ゴミ置場

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514 令和　8年　3月　日	株式会社K構造研究所 広島市南区金屋町２−１５ TEL (082) -569-8808 FAX (082) 569-8807	1級建築士事務所 ２２（1）第０６８９号 1級建築士　２２９９１６号 豊田隆雄	担当	1級建築士 第363328号 今田　雄貴	図面名称 外構配置図（２期解体工事）

SCALE 1/300　エ2A 03

縮小率　Ａ３版１００％
Ａ１版２００％



外構配置図（２期-2）
1/300

大崎上島町柿の浦住宅建替工事

建築確認申請

【１期工事】
浄化槽設置工事
（経路切り替え後、既存浄化槽解体）
柿の浦住宅１　新築工事
今回工事

仮使用申請

【２期工事】
外構解体　ｺﾞﾐｽﾃｰｼｮﾝ移設工事
柿の浦住宅２　新築工事
予定工事

既存２号棟→新築棟へ引っ越し

【３期工事】
既存棟解体工事
外構解体工事
予定工事

【３期工事】
外構整備工事
駐車場整備工事
自転車置場新築工事
ゴミ置場新設工事
予定工事

完了検査

面積表

棟名	延床面積（㎡）
柿の浦住宅１	411.12
柿の浦住宅２	411.12
計（㎡）	822.24

その他　：自転車置場　ゴミ置場

工事名称	大崎上島町柿の浦住宅建替工事（１期工事）	Ap−25514	株式会社 K構造研究所	1級建築士事務所 22（1）第0689号	担当	図面名称	SCALE 1/300
		令和 8年 3月 日	広島市南区金屋町2−15 TEL(082)−569−8808 FAX(082)569−8807	1級建築士 229916号 豊田隆雄	1級建築士 第363328号 今田 雄貴	外構配置図（２期新築工事）	エ2A 04

縮小率　A３版１００％
A１版２００％